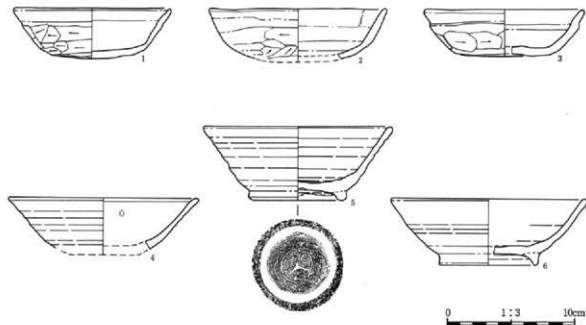


40・41号住居掘方 土層観察所見

- 1 10YR2/3 黒褐色土 As-C, Hr-FA を多く含む。炭化物粒含む。硬く締まっている。40号住居最終使用時の床面構成土。西壁はこの床面に伴う。
- 2 10YR4/4暗褐色土とロームブロックの混土。住居中央部はロームブロックが多くなる。硬く締まっている。旧床面で、東壁はこの床面に伴う。
- 3 10YR2/3 黒褐色土 ロームブロック10%。焼土粒、炭化物粒含む。やや粘質。締まりやや弱い。
- 4 10YR2/3 黒褐色土 ロームブロック5%。焼土ブロック少量含む。やや粘質。やや締まっている。
- 5 10YR2/3 黒褐色土 ロームブロック3%。ローム粒多く含む。焼土小ブロック含む。やや粘質。締まっている。41号住居掘方埋土。
- 6 10YR2/3 黒褐色土 やや大きめのロームブロック20%。ローム粒含む。As-C, Hr-FA 少量含む。やや粘質。やや締まっている。
- 7 ロームブロック主体。10YR2/3黒褐色土が塊状に混入。焼土粒少量含む。
- 8 10YR3/4 暗褐色土 ロームブロック10%。やや粘質。締まっている。41号住居掘方埋土。
- 9 ロームブロック主体。10YR2/3黒褐色土が塊状に混入。焼土粒少量含む。やや粘質。締まっている。41号住居掘方埋土。この層下端が41号住居掘方の立ち上がり線と考えられる。
- 10 10YR2/3 黒褐色土 As-C, Hr-FA、ローム粒含む。焼土ブロック少量含む。灰白色粘土の崩れたブロックを含む。やや粘質。締まっている。
 - a 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒含む。やや粘質。締まり弱い。
 - b 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒、ロームブロック多く含む。やや粘質。やや締まっている。
 - c 崩れたロームブロック。
 - d 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒多く含む。焼土粒少量含む。やや粘質。締まり弱い。
 - e 10YR3/4 暗褐色土 ロームブロック10%。やや粘質。締まり弱い。
 - f 10YR2/3 黒褐色土 As-C, Hr-FA、ローム粒含む。やや粘質。締まっている。
 - g 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒多く含む。焼土粒含む。やや粘質。締まっている。
 - h 床下土坑1の1.2層
 - i 床下土坑1の3.4.5層
 - j 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒含む。やや粘質。締まり弱い。
 - k 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒、ロームブロック多く含む。やや粘質。やや締まっている。

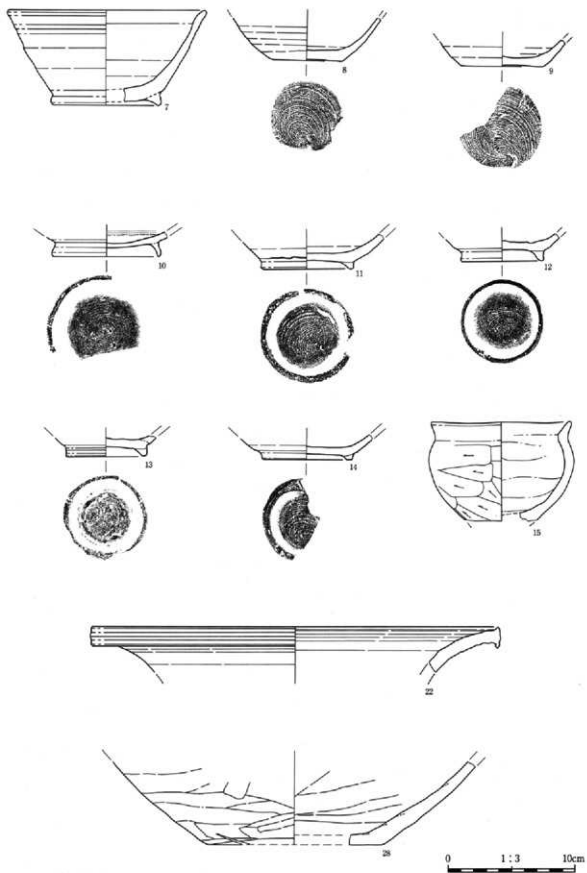
40号住居床下土坑1 土層観察所見

- 1 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒、ローム小ブロックを多量に含む。焼土粒、炭化物粒を少量含む。やや粘質。やや締まる。
- 2 10YR2/3 黒褐色土 焼土ブロック10%。ローム粒、ローム塊含む。やや粘質。締まり弱い。
- 3 10YR3/4 暗褐色土 ロームブロック、ローム塊15%。焼土粒少量含む。やや粘質。やや締まっている。
- 4 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒多量に含む。焼土粒、炭化物粒少量含む。やや粘質。締まり弱い。
- 5 3層中に炭化物を多く含む。
- 6 10YR3/4 暗褐色土 焼土粒、炭化物粒、ロームブロックを含む。やや粘質。やや締まる。旧床面を切る。
- 7 10YR4/4暗褐色土とロームブロックの混土。硬く締まる。旧床面構成土。
- 8 10YR2/3 黒褐色土 As-C, Hr-FAを含む。硬く締まっている。最終使用時の床面構成土。

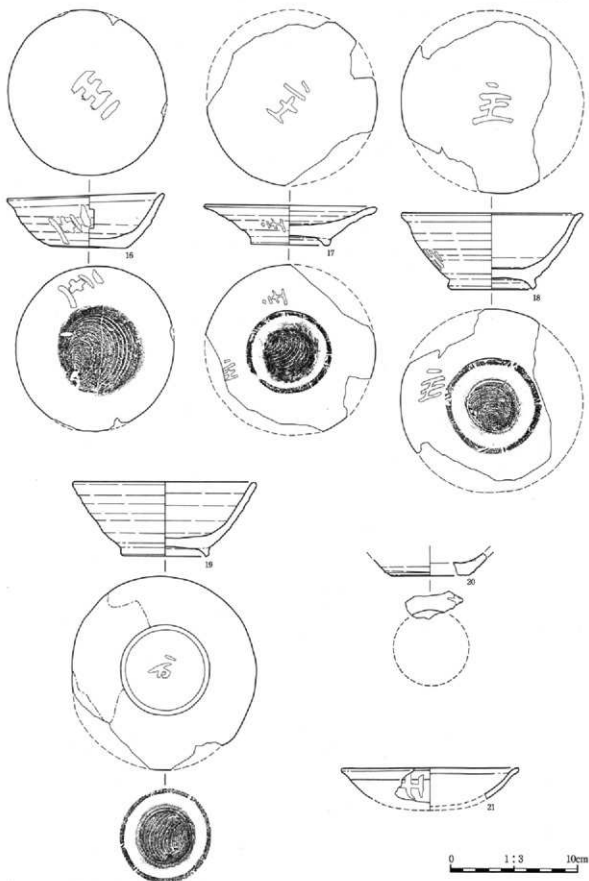


第269図 40号住居出土遺物 1

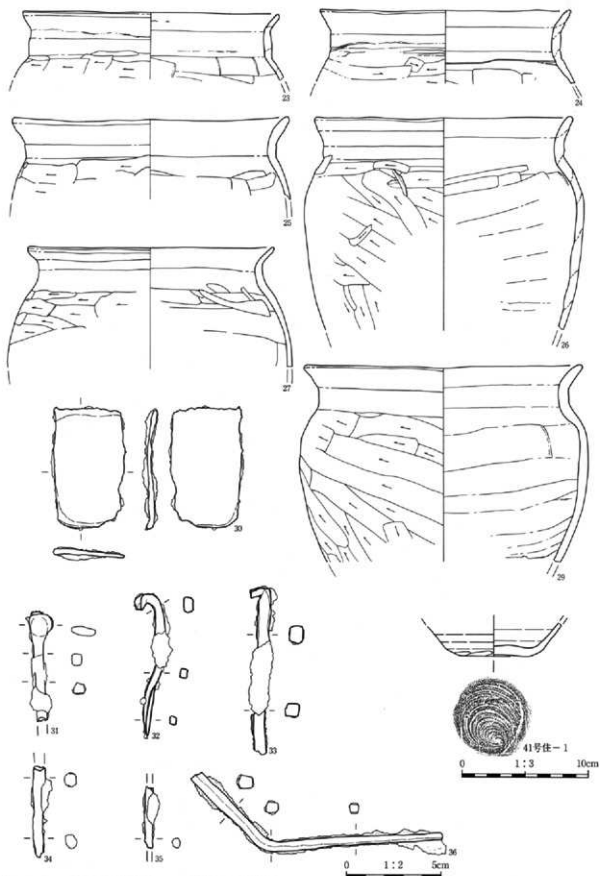
第5章 奈良時代・平安時代以後の遺構と遺物



第270図 40号住居出土遺物 2



第271图 40号住居出土遺物3



第272図 40号住居出土遺物 4 41号住居出土遺物

42・43号住居

位置 71-KL-6グリッド 標高112.7mから113.1mの傾斜部に立地する。住居密度の高い部分で、北側に38、39、45号住居があり、本住居の南半を切る水路を挟んで南に7、28・29、8号住居などがある。42号住居の床面下に43号住居がある。98号土坑に切られ、97、95号土坑を切る。遺構の集中する部分ではあるが、遺跡全体では重複住居は少なく、この部分に限って4棟が密着するように重複するのはやや不自然な感がある。28号住居と42号住居は出土時から見た時期もごく近い。29号住居も含め、埋没状況の変化が中央部の水路によって隠され、住居の建て替えや拡張を読み取れていないために同一住居を複数の住居として認識している可能性もなしとしない。

形態・規模 42、43号住居ともに南半が水路に切られるため、全容は把握できない。42号住居は、水路の反対側には東壁が同一線上に載るかのようには28号住居があり、当初は同一住居かと思われたが、床面の状況および覆土が異なること、西壁の延長線が食い違うことなどから別住居と判断している。本住居が水路下で完結するものであれば、東西に主軸を持つ縦長長方形の平面形が想定される。28号住居が本住居を切るものとすれば、他の形状をとる可能性もあるが、同時期の住居で竪位置が東壁の中央より北寄りには作られる例はないため、いずれにせよ縦長長方形が妥当な想定であろう。東西方向の長軸5.14m、南北確認長2.5m。43号住居は42号住居掘方の調査時に、他の部分と異なる覆土を有する方形掘り込みとして確認されたもので、42号住居に壊された住居の残痕としたものである。東西3.0m、南北確認長0.72m。28号住居掘方の一部がこの住居に属するものである可能性が考えられるが、それぞれを分離することができなかった。強いて推定すれば28号住居内の東西方向に伸びる幅広の溝状掘方が42号住居の南壁にあたるものかもしれない。これを当てると、東西3m、南北3.3mほどの方形ないし横長長方形の平面形状が推定される。

床 42号住居は、黒色から黒褐色土に、踏み固められたロームが縮状に混入する非常に堅く締まった床面である。北壁の一部と北西隅部に壁周溝が見られる。掘方では竪部を除く壁際には幅広の溝状掘り込みが巡っている。43号住居の床は部分的にしか残っていないが、掘方をロームブロックおよび黒褐色土で埋め、焼土ブロックや炭化物、ロームブロックなどを含む暗褐色土を踏み固めて床としていたものと思われる。

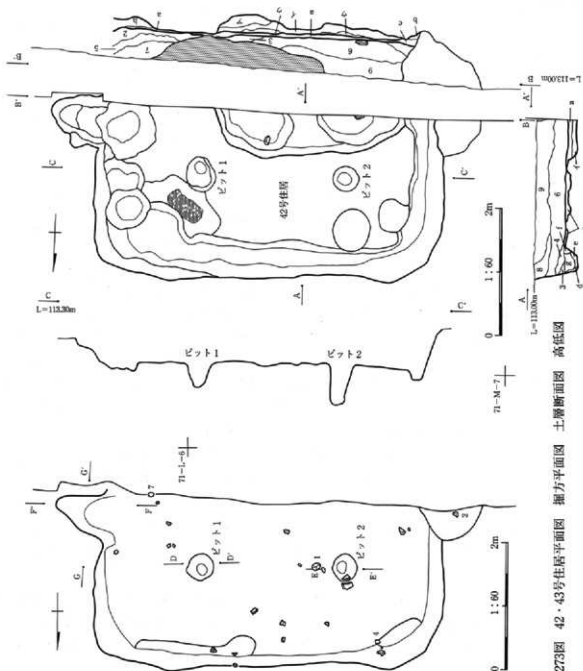
壁 42号住居では、東側が30cmから40cm、西側では60cmを越える残存壁高がある。ほぼ垂直に立ち上がる。43号住居の壁は把握できない。

柱穴 ビットが2基ある。ビット1は東壁から1.5m、北壁から1.35m離れた位置にあり、径40cm強のややゆがんだ円形の平面形を呈する。土層断面がビットの中心を外しているため図化表現ができていないが、深さは38cmある。ビット2は西壁から1.5m、北壁から1.35mの位置にあり、径40cmほどの円形の平面形である。深さは64cmある。いずれも支柱穴と見て良いと思われるが、水路下で完結する住居平面を考えると内側に寄りすぎる難点がある。

貯蔵穴 調査範囲内には認められない

竪 42号住居のみ確認された。東壁を掘り込み、灰色の粘土を貼って構築している。燃焼部は半分ほどが壁外にあり、傾斜を持って煙道に連続する。焚き口部は土坑状に掘り込まれる。燃焼部から煙道につながる傾斜部に角礫があるが、構造との関係はよくわからない。他に構築材や支脚などは見られない。主軸方向は住居とやや斜行し、N-99°Eを示す。

遺物 42号住居では、竪周辺とビット2周辺に遺物が多い。床面直上の遺物には9世紀中葉の土師器環が見られ、住居の年代も9世紀中葉と思われる。43号住居では北東隅部の土坑状掘り込みから8世紀後葉と思われる土師器環1点が出土している。



第273図 42・43号住居平面図 掘方平面図 土層断面図 高低図

第274図 42号住居ピット土層断面図

42・43号住居 土層観察所見 (1-9:42号住居層土 a-h; 42号住居床面構成土等 ア-ウ; 43号住居層方覆土)

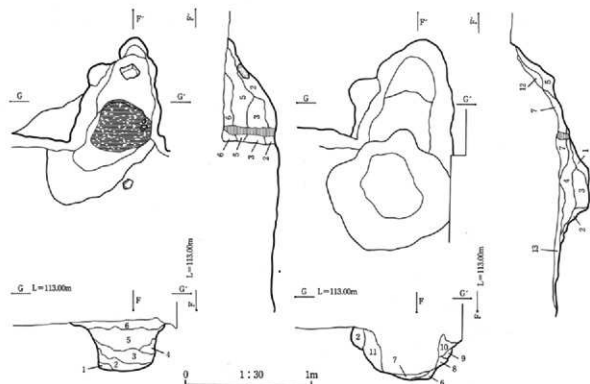
- 1 10YR3/3 暗褐色土 As-C, Hr-FAを多量に含む。ローム粒、ロームブロックわずかに含む。粘性ない。締まりやや弱い。
- 2 10YR4/4 褐色土 As-C, Hr-FAを多量に含む。焼土粒、ロームブロック少量含む。粘性なし。締まりやや弱い。
- 3 10YR4/6 褐色土 崩れた壁面ロームの再堆積。やや締まっている。
- 4 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒多く含む。やや粘質。やや締まっている。
- 5 10YR3/4 暗褐色土 焼土粒、焼土ブロック、As-C, Hr-FAを含む。粘性ない。締まりやや弱い。
- 6 10YR3/4 暗褐色土 焼土粒、炭化物粒、As-C, Hr-FA, ローム粒を含む。やや粘質。やや締まっている。
- 7 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒、ローム塊、焼土粒、炭化物粒、As-C, Hr-FAを含む。粘性なし。やや締まっている。
- 8 10YR3/4 暗褐色土 ローム塊、ローム粒をやや多く含む。焼土粒、炭化物粒、As-C, Hr-FAを含む。やや粘質。やや締まっている。
- 9 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒、ローム塊、焼土粒、炭化物粒、As-C, Hr-FAを含む。粘性なし。やや締まっている。
- a 10YR2/1黒色土~10YR2/3黒褐色土 黒色から黒褐色土を主体とする。ロームブロックが踏み固められて線状に伸びている。縦断面では焼土、炭化物が挟まる。粘り床上面。粘性弱い。硬く締まっている。
- b a層と似る。ロームブロック比率が高い。
- c a層と似る。粘土ブロックを含む。
- d 10YR3/4 暗褐色土 ローム漸移層を主体とする。ローム粒を少量含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
- e 10YR4/4 褐色土 ローム漸移層を主体とする。ロームブロックを多く含む。粘性なし。締まりやや弱い。
- f 10YR3/4 暗褐色土 As-C, Hr-FA, ロームブロック少量含む。粘性なし。締まりやや弱い。
- g 10YR4/4 褐色土 ローム漸移層を主体とする。ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性なし。締まり強くやや硬い。
- h 覆層方覆土。
- ア 10YR5/8 黄褐色土 ブロック化、粒状化したローム 締まり弱くボソボソ。
- イ 黒褐色土を主体とする。As-C, Hr-FAを多く含む。ロームブロックを不均質に含む。粘性弱い。締まり弱い。
- ウ 7.5YR3/4 暗褐色土 焼土ブロックを多量に含む。炭化物、ロームブロックを不均質に少量含む。粘性弱い。締まっている。

ビット1 土層観察所見

- 1 10YR4/4 褐色土 ロームブロックを多量に含む。粘性弱い。やや硬く締まる。
- 2 10YR3/3 暗褐色土 As-C, Hr-FA, 焼土粒を少量含む。粘性弱い。やや硬く締まる。

ビット2 土層観察所見

- 1 10YR4/6 褐色土 ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性なし。締まりやや弱い。
- 2 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒を多く含む。粘性なし。締まりやや弱い。
- 3 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性弱い。やや硬く締まる。
- 4 10YR5/6 黄褐色土 ロームブロックを主体とする。床面構成土の続き。粘性やや強い。硬く締まっている。
- 5 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒少量含む。粘性なし。締まりやや弱い。



第275図 42号住居平面図 土層断面図

第276図 43号住居平面図 土層断面図

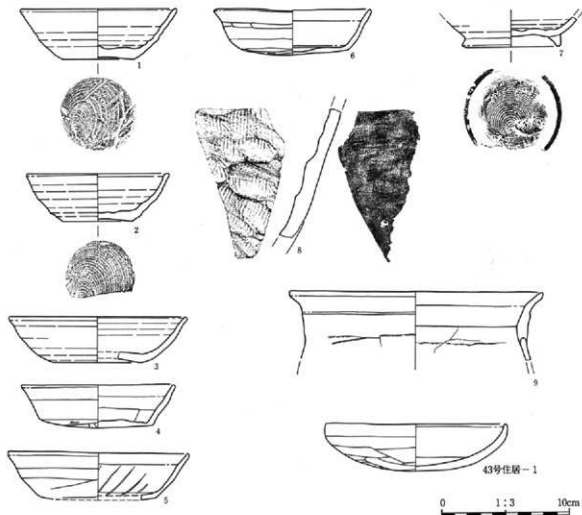
第5章 奈良時代・平安時代以後の遺構と遺物

42号住居竈 土層観察所見

- 1 10YR4/4 褐色土 ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性なし。締まり弱い。
- 2 7.5YR4/6 褐色土 灰分が多い。焼土粒を多量に含む。粘性なし。締まり強い。
- 3 5YR4/4 にぶい赤褐色土 焼土ブロック、暗褐色粘土ブロックを多量に含む。
- 4 7.5YR4/4 褐色土 暗褐色粘土ブロックが赤化したもの。焼土ブロック、焼土粒を多量に含む。粘性弱い。締まりやや強い。
- 5 7.5YR4/4 褐色土 暗褐色粘土ブロックを主体とし、焼土ブロック、焼土粒を多く含む。粘性弱い。やや硬く締まる。
- 6 10YR3/3 暗褐色土 Hr-FA, As-Cを多量に含む。焼土粒をごくわずかに含む。粘性なし。締まりなし。

42号住居竈掘方 土層観察所見

- 1 10YR3/4 暗褐色土 焼土粒、ローム粒を含む。灰褐色粘土ブロックを少量含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
- 2 7.5YR3/3 暗褐色土 As-C, Hr-FA, 焼土ブロックを多量に含む。灰褐色粘土ブロックを多く含む。ローム粒、ロームブロックを含む。炭化物粒わずかに含む。粘性弱い。締まり弱い。
- 3 2層に似るが、焼土ブロックはやや少ない。
- 4 2層に似る。色調がやや明るい。
- 5 10YR4/4 褐色土 ローム粒、焼土粒を少量含む。粘性なし。締まり強い。
- 6 10YR4/6 褐色土 ロームブロック少量含む。粘性なくばさばさ。締まり弱い。
- 7 10YR6/2 灰褐色粘質土 焼土ブロック少量含む。粘性やや強い。締まりやや弱い。
- 8 10YR3/3 暗褐色土 灰褐色粘土を多く含む。焼土ブロック、炭化物を少量含む。粘性弱い。締まり弱い。
- 9 10YR6/2 灰褐色粘質土のブロック 焼土粒を少量含む。粘性やや強い。締まりやや弱い。
- 10 10YR6/2 灰褐色粘質土 焼土粒を少量含む。粘性やや弱い。締まりやや強い。
- 11 10YR6/2 灰褐色粘質土 焼土粒を少量含む。粘性やや強い。締まりやや強い。
- 12 10YR6/2 灰褐色粘質土 焼土ブロック少量含む。粘性やや弱い。締まりやや弱い。
- 13 7.5YR4/4 褐色土 焼土ブロック、炭化物を多く含む。ロームブロックが踏み固められて線状に伸びている。貼り床上面。粘性弱い。硬く締まっている。



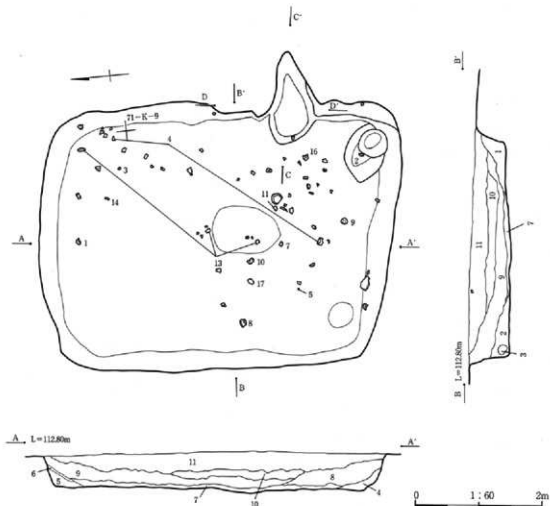
第277図 42-43号住居出土遺物

44号住居

位置 71-J,K-8.9グリッド 標高112.5mから112.8mのややゆるい傾斜部に立地する。北側の45号住居に切られる。南に46号住居、南西に39号住居がある。

形態 南北に長軸を持つ横長長方形の平面形を呈する。東南隅はわずかに張り出すが、西壁がやや短いために強く屈曲している。他の三角はやや丸みを持って屈曲する。規模 長軸5.2-4.7m 短軸3.6m

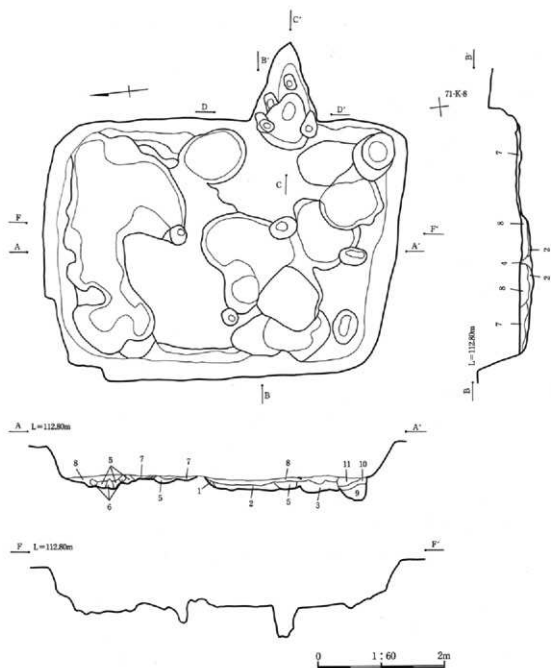
床 竈前を除いて円形土坑が連なったような形あるいは不定形に広がる掘方があり、これをロームブロック、ローム斑を含む黒褐色土で埋める。表面は焼土粒や炭化物を含む黒褐色土で、堅く締まっており、壁際がや



第278図 44号住居平面図 土層断面図

44号住居 土層観察所見

- 1 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒多く含む。ローム小ブロック、ローム混含む。As-C、焼土粒少量含む。やや粘質。締まり弱い。
- 2 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒、ローム小ブロック、焼土粒含む。10YR3/4暗褐色土の円形斑が多い。やや粘質。締まり強い。
- 3 10YR2/2 黒褐色土 As-C含む。ローム粒少量含む。締まっている。
- 4 10YR2/3 黒褐色土 2層に近い。ローム粒少量含む。暗褐色土円形斑は含まない。
- 5 10YR2/3 黒褐色土 1層に近い。ロームブロックはごく少量しか含まない。
- 6 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒、As-Cを含む。YPのバミスが目立つ。粘性粘性弱い。層状に強く締まっている。
- 7 7.5YR2/3 黒褐色土 ローム粒含む。焼土粒少量含む。やや粘質。締まり弱い。
- 8 7.5YR2/3 黒褐色土 ローム粒多く含む。焼土粒、As-C、Hr-FA含む。やや粘質。締まりやや弱い。
- 9 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒、ローム小ブロック、焼土粒、炭化物粒、As-C、Hr-FA含む。やや粘質。やや締まっている。
- 10 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒、As-C、Hr-FA含む。10YR4/4褐色土の円形斑を多く含む。炭化物粒、焼土粒を少量含む。やや粘質。やや締まっており、9層より締まり強い。
- 11 10YR2/3 黒褐色土 As-C、Hr-FAを多く含む。ローム粒、炭化物粒、焼土粒わずかに含む。締まっている。

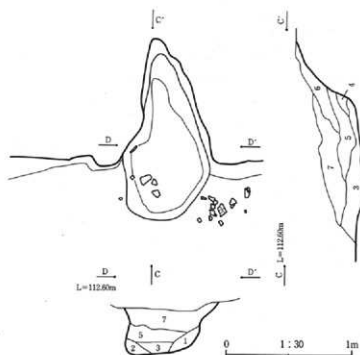


第279図 44号住居掘方平面図 土層断面図 高低図

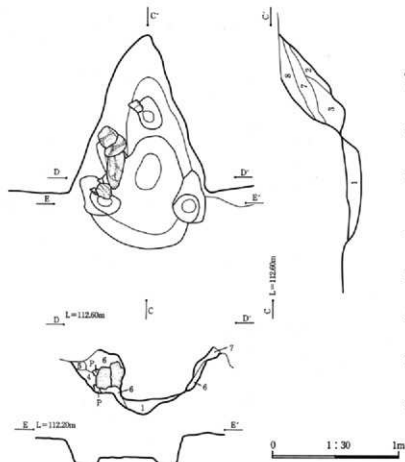
44号住居掘方 土層観察所見

- 1 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒多く含む。粘性弱い。締まり弱い。
- 2 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒、ローム小ブロック含む。やや粘質。やや締まっている。
- 3 ロームブロックを主体とする。10YR2/3黒褐色土を少量含む。
- 4 地山ロームの崩れたブロック。
- 5 10YR4/4 褐色土 ローム粒、ロームブロックを多く含む。焼土粒を含む。やや粘質。やや締まっている。
- 6 ロームブロック。
- 7 10YR2/3 黒褐色土 ローム混含む。堅く締まっている。
- 8 10YR2/3 黒褐色土 ロームブロック、炭化物粒、焼土粒を含む。締まっている。
- 9 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒、ローム小ブロックを多く含む。やや粘質。締まり弱い。
- 10 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒、ローム小ブロックを多く含む。やや粘質。締まり弱い。
- 11 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒、ローム小ブロックを多く含む。焼土粒少量含む。やや締まっている。

2 竪穴住居



第280図 44号住居竈平面図 土層断面図



第281図 44号住居竈掘方平面図 土層断面図

44号住居竈 土層観察所見

- 1 10YR2/3 黒褐色土 焼土粒、炭化物を含む。粘性やや強い。締まっている。袖部の崩落土。
- 2 7.5YR3/3 暗褐色土 焼土ブロック、ローム小ブロック含む。やや粘質。締まり弱い。袖部の崩落土。
- 3 7.5YR2/3 黒褐色土 焼土粒含む。炭化物粒少量含む。粘性弱い。締まり弱い。
- 4 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒含む。やや粘質。締まり弱い。焼土、炭化物はほとんど含まない。
- 5 10YR3/3 暗褐色土 焼土小ブロック、炭化物比較的多く含む。やや粘質。締まっている。
- 6 7.5YR3/3 暗褐色土 大きめの焼土ブロック、ローム小ブロック含む。やや粘質。締まり弱い。
- 7 10YR3/3 暗褐色土 焼土小ブロック、炭化物を比較的多く含む。As-C、Hr-FA 含む。やや粘質。締まっている。

44号住居竈掘方 土層観察所見

- 1 10YR3/4 暗褐色土 As-C、Hr-FA 少量含む。ローム小ブロック含む。粘性弱い。締まり弱く軟らかい。
- 2 10YR3/4 暗褐色土 焼土粒少量含む。As-C、Hr-FA ごくわずかに含む。締まっている。
- 3 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒多く含む。ローム小ブロック含む。焼土小ブロック少量含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
- 4 10YR4/4 褐色土 ローム粒多く含む。As-C、Hr-FA 少量含む。粘性弱い。締まり弱い。
- 5 10YR4/6 褐色土 ローム主体。焼土粒少量含む。As-C、Hr-FA、焼土粒少量含む。
- 6 10YR3/4 暗褐色土 焼土、粘土混含む。As-C、Hr-FA 含む。粘性強い。強く締まっている。
- 7 7.5YR4/6 褐色土 焼土ブロック多く含む。10YR4/6褐色粘質土ブロック多く含む。崩れた壁。
- 8 7.5YR4/4 褐色土 焼土小ブロック多く含む。As-C、Hr-FA 含む。締まっている。

や低くなるが、ほぼ均平な床である。

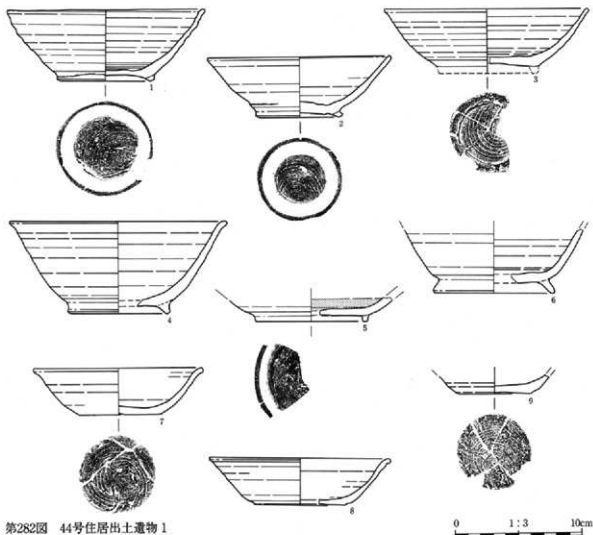
壁 東壁中央で30cmほど、南西角では62cmほどの残存壁高がある。ほぼ垂直に立ち上がっている。

柱穴 明確な柱穴は認められない。住居中央近くで南北に並ぶ2基のピットがある。北側は北壁から2m、西壁から2.1m離れた位置にあり東西30cm、南北24cmのゆがんだ円形で、床面から40cmほどの深さに掘り込まれる。南側のもは南壁から1.6m、西壁から2m離れ、東西34cm、南北45cmの長円形で床面下60cmまで掘り込まれている。ピット間は1.6mしかない。

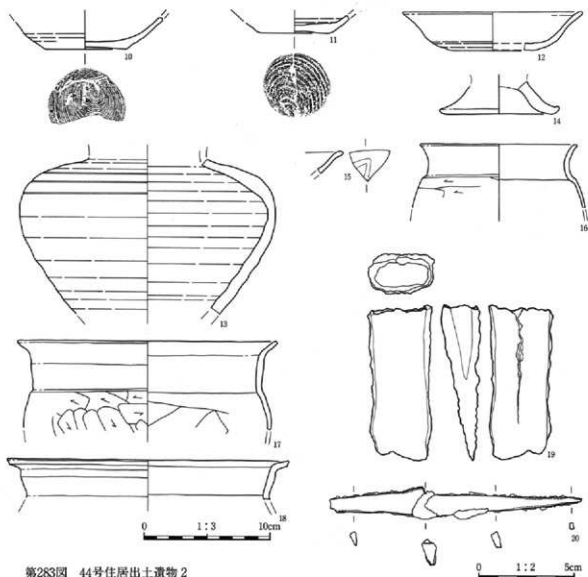
貯蔵穴 東南隅にある。径50cmから55cmのゆがんだ円形の平面形で、底部は丸底である。床面下45cmほどまで掘り込まれている。

竈 東壁南よりを壁外に掘り込んで構築している。燃焼部は過半が壁外に当たり、一段深い土坑状に掘り窪められ、小さな段を持って煙道に続く。焚き口部には袖石の据え方が残っている。燃焼部奥の煙道との接続部にも小ピットがあって、支脚の据え方と思われる。左壁には川原石が並べられており、これを構造材として褐色から暗褐色の粘土を貼って築いたものであるが、右壁部には石材は認められない。主軸方向はN-100°-Eを示す。

遺物 土師器、須恵器の坏、甕が主体を占める。8世紀代と思われる須恵器の短頸壺があるが、掘り方の埋没土からの出土であり、住居に伴う遺物は9世紀中葉のものと思われる。



第282図 44号住居出土遺物 1



第283図 44号住居出土遺物 2

45号住居

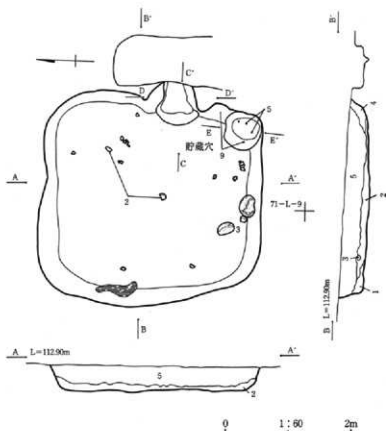
位置 71-K.L.9グリッド 標高112.7mから112.9mのやや緩やかな傾斜部に立地する。東南隅で44号住居の北西隅を切る。85号土坑に切られる。西に23号・24号掘立柱建物、北西に40・41号住居、北に21号掘立柱建物などがある。

形態 南壁が北壁より短く、北壁を下底とする隅丸方形に近い台形の平面形となる。東南隅の壁を切り込んで貯蔵穴が作られる。他の三隅は丸みを持つ。規模 南北2.9m-3.1m 東西2.6m-2.9m

床 南壁際に長径1m、短径70cm、床面からの深さ20cmほどの土坑状掘り込みがあり、竈右手前に径30cm、深さ10cmのピットがあるが、これら以外には床面下を深く掘り込むことはなく、基本的には掘削底面を床面とする。掘り込み部分にはロームブロックを含む褐色土、暗褐色土を埋めている。よく締まった均平な床面である。

壁 北東隅で30cm強、最も深い南西隅付近で40cmの残存壁高がある。北西隅は上部の崩れが激しい。南北壁は比較的急角度で、東西壁はやや上方に開きながら立ち上がる。

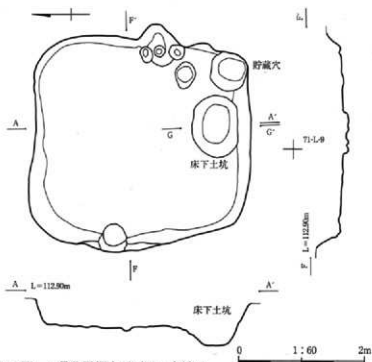
柱穴 認められない。南壁中央に長34cm、幅20cmほどの礎がある。床面に接して置かれており、住居構造



45号住居 土層観察所見

- 1 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒、ローム塊、焼土粒、炭化物粒含む。As-C、Hr-FA少量含む。粘性弱い。締まり弱い。
- 2 10YR2/3 黒褐色土 炭化物粒、焼土粒含む。ローム粒、ローム塊、As-C、Hr-FA少量含む。やや粘質。
- 3 7.5YR4/2 灰褐色土 粘質土の締まったブロック。西壁北部で本住居を切るピットから流入したものらしい。
- 4 10YR3/4 暗褐色土 ローム塊多く含む。焼土粒含む。炭化物粒少量含む。As-Cを含む。やや粘質。やや締まっている。
- 5 10YR2/3 黒褐色土 As-C、Hr-FAをやや多く含む。ローム塊を含む。炭化物粒、焼土粒少量含む。粘性弱い。やや締まっている。

第284図 45号住居平面図 土層断面図



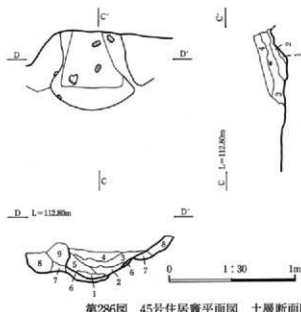
第285図 45号住居掘方平面図 高低図

に関わるものかと思われる。

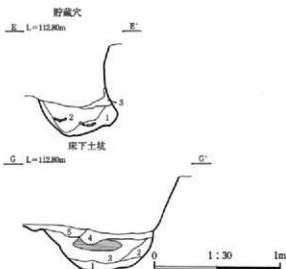
貯蔵穴 南東隅にある。径55cmほどのゆがんだ円形の平面形で、床面から30cmほどの深さがある。壁の隅部をえぐり込むように掘られている。覆土中に土器片、炭化物片を含む。

竈 東壁中央よりやや南よりを掘り込んで作られている。袖煙道部を85号土坑に切られる。燃焼部は一段深く掘り込まれ、小さな段を持って煙道に接続する。暗褐色からいぶい黄褐色の粘土で袖および天井を作るが、燃焼部底面は地山のままである。焚き口部には袖石の据え方が、燃焼部中央には支脚の据え方と思われるピットがあるが、石などは残っていない。主軸方向はN-88°-Eを示す。

遺物 出土遺物は住居東半に多いが、竈、貯蔵穴周辺以外は特定の集中傾向を示さない。須恵器の坏、高台付境が多い。竈からは土師器甕破片が、貯蔵穴からは土師器甕破片と須恵器高台付境が出土している。別天文字風の墨書を持つ坏が住居中央付近と貯蔵穴内から出土している。9世紀後葉と思われる。



第286図 45号住居電平面図 土層断面図



第287図 45号住居貯蔵穴 床下土坑 土層断面図

45号住居竈 土層観察所見

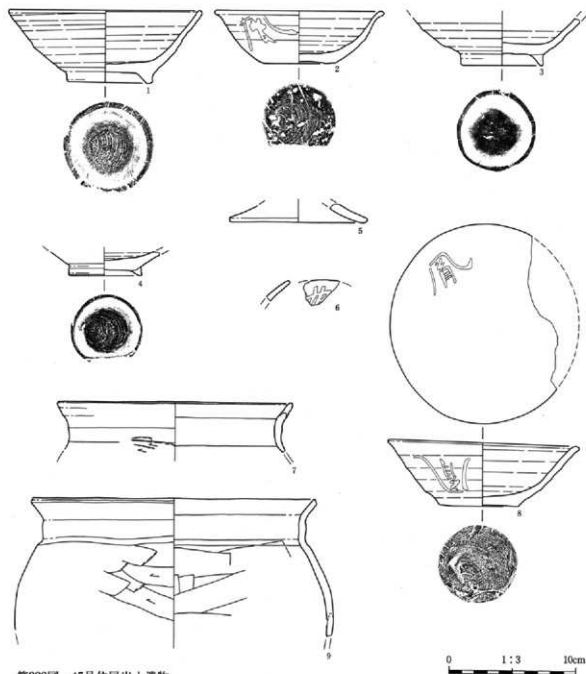
- 1 10YR3/3 暗褐色土 汚れたローム粒を主体とする。焼土粒含む。粘性ない。締まり弱い。
- 2 7.5YR3/4 暗褐色土 ローム小ブロック、焼土小ブロック含む。やや焼けて赤みがかかる。やや粘質。やや締まっている。
- 3 5YR3/3 暗赤褐色土 焼土小ブロック多く含む。焼けて赤みがかかる。粘性やや強い。やや締まっている。
- 4 7.5YR3/3 暗褐色土 焼土ブロック、3層の珪、暗褐色土、黒褐色土の斑を含む。As-C、Hr-FA含む。
- 5 7.5YR4/6 褐色土 焼土小ブロック多く含む。やや粘質。やや締まっている。
- 6 焼土化した地山ローム。
- 7 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒、As-C、Hr-FA含む。焼土粒少量含む。やや粘質。やや締まる。
- 8 10YR4/3 いぶい黄褐色土 ローム粒多く含む。As-C、Hr-FA含む。粘性弱い。やや締まっている。
- 9 10YR3/4 暗褐色土 焼土ブロックを多量に含む。As-C、Hr-FA含む。

45号住居貯蔵穴 土層観察所見

- 1 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒含む。粘性弱い。締まり弱い。
- 2 10YR2/3 黒褐色土 焼土粒、炭化物粒多く含む。ローム粒含む。やや粘質。やや締まっている。
- 3 10YR3/4 暗褐色土 ロームブロック含む。壁からの崩落土。

45号住居床下土坑 土層観察所見

- 1 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒、ローム更多く含む。粘性弱い。締まり弱い。
- 2 10YR3/4 暗褐色土 ローム小ブロック多く含む。粘性弱い。締まり弱い。
- 3 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒、ローム更を上層より多く含む。やや粘質。締まり弱い。
- 4 10YR3/4 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。堅く締まっている。床面。
- 5 10YR4/4 褐色土 ロームブロックの締まったもの。床面。



第288図 45号住居出土遺物

46号住居

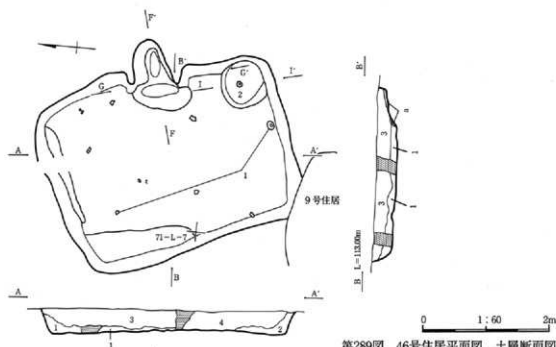
位置 71-K.L-6.7グリッド 標高112.7mから112.9mの比較的緩い傾斜部に立地する。北に44号、西に39号住居がある。南西隅部を42号住居に切られる。

形態 南北に長軸を持つ横長長方形の平面形を呈する。東南隅は貯蔵穴が壁に食い込むように掘られている。他の三隅はやや丸みを持ちながら強く屈曲する。規模 長軸3.48m 短軸2.35-2.6m

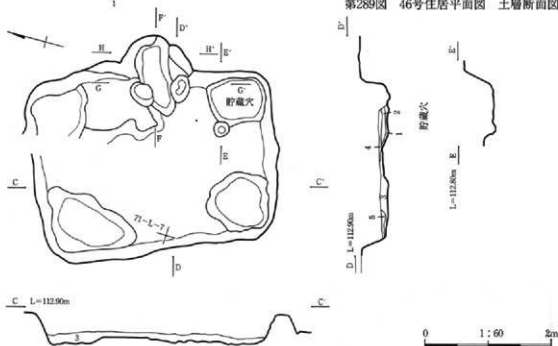
床 ロームブロック、ローム粒を含む暗褐色土を固めて床面としている。

壁 40cmから50cmの残存壁高がある。わずかに上方に開きながら急角度で立ち上がる。

柱穴 住居南東部の貯蔵穴際にピットが1基ある。径25cmの円形で、床面下10cmほどに掘り込まれている。



第289図 46号住居平面図 土層断面図



第290図 46号住居掘方平面図 土層断面図 高低図

46号住居 土層観察所見

- 1 10YR2/3 黒褐色土 As-C, Hr-FA 含む。焼土粒、炭化物粒少量含む。粘性なし。締まりやや弱い。
- 2 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒多く含む。焼土粒、炭化物粒少量含む。やや粘質。やや締まっている。
- 3 10YR2/3 黒褐色土 As-C, Hr-FA やや多く含む。焼土粒、炭化物粒含む。粘性なし。やや締まっている。
- 4 10YR3/4 暗褐色土 炭化物粒含む。As-C, Hr-FA 含む。焼土粒少量含む。やや粘質。やや締まっている。
- a 10YR5/4 にくい黄褐色粘質土 礫層底土。

46号住居掘方 土層観察所見

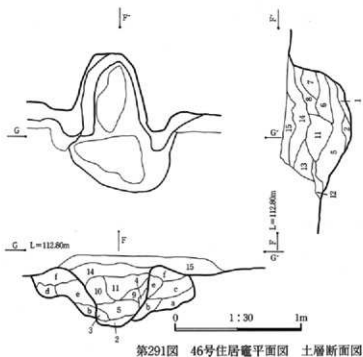
- 1 7.5YR3/4 暗褐色土 粘性強い。堅く締まる。貼ったような堆積状況。部分的に、この上面に炭化材が乗っている。
- 2 10YR4/4 褐色土 ローム粒、ローム小ブロック多く含む。やや締まっている。
- 3 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒、ロームブロック多く含む。As-C, Hr-FA 少量含む。焼土粒少量含む。締まっている。
- 4 10YR3/4 暗褐色土 ロームブロック主体。ローム粒多く含む。As-C, Hr-FA 少量含む。焼土粒少量含む。ごく堅く締まっている。
- 5 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒、ロームブロック含む。As-C, Hr-FA 少量含む。焼土粒少量含む。締まっている。

四隅にはそれぞれ土坑状の深い掘り込みがあるが、柱穴等と確認できるものではない。

貯蔵穴 東南隅にある。径75cm、深さ20cmほどの円形の平面形を持つが、掘方では南北90cm、東西75cmほどの方形を呈した。

竈 東壁ほぼ中央を壁外に掘り込んで構築している。褐色からいぶ黄褐色の粘土で壁および天井を作る。燃焼部は半分が壁外にあり、焚き口部には軸石の据え方が残る。住居壁外の燃焼部両側壁には、飯・甕が埋め込まれていた。主軸方向はN-60°Eを示す。

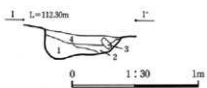
遺物 竈内の飯、甕の他は遺物が少ない。住居全体に土器片が点在する。8世紀後葉と思われる。



第291図 46号住居竈平面図 土層断面図

46号住居竈 土層観察所見

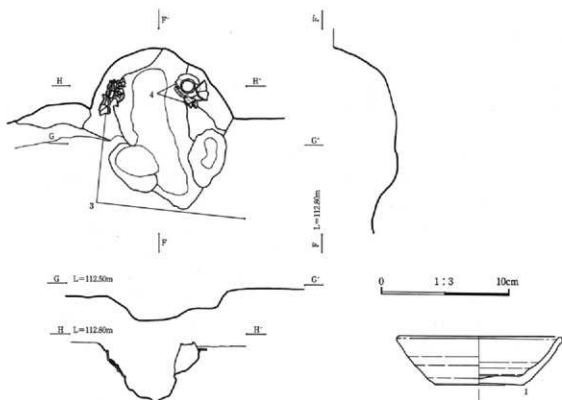
- 1 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒多く含む。焼土小ブロック含む。やや粘質。締まりやや弱い。
- 2 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒多く含む。ローム小ブロック含む。粘性弱い。締まり弱い。
- 3 10YR3/4 暗褐色土 細かい焼土粒を含む。ローム粒、焼土小ブロック少量含む。粘性弱い。締まり弱い。
- 4 7.5YR3/4 暗褐色土 As-C、Hr-FA 多く含む。焼土粒やや多く含む。やや粘質。締まっている。
- 5 7.5YR2/2 黒褐色土 焼土小ブロック含む。As-C、Hr-FA 少量含む。やや粘質。締まっている。
- 6 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒、焼土小ブロック含む。やや粘質。やや締まっている。
- 7 10YR3/3 暗褐色土 焼土粒、ローム粒、As-C、Hr-FA 含む。やや粘質。締まっている。
- 8 10YR4/4 褐色土 焼土小ブロック、暗褐色粘質土の汚れたブロックを多く含む。As-C、Hr-FA 含む。やや粘質。締まっている。
- 9 7.5YR3/4 暗褐色土 As-C、Hr-FA 多く含む。焼土粒含む。やや粘質。締まっている。
- 10 7.5YR3/4 暗褐色土 暗褐色粘質土層、As-C、Hr-FA 多く含む。焼土粒やや多く含む。やや粘質。締まっている。
- 11 10YR2/3 黒褐色土 焼土小ブロックを多く含む。いぶ黄褐色粘質土層、As-C、Hr-FA を含む。やや粘質。
- 12 10YR2/3 黒褐色土 焼土小ブロック、As-C、Hr-FA 含む。粘性弱い。やや締まっている。
- 13 7.5YR3/4 暗褐色土 As-C、Hr-FA 多く含む。焼土粒含む。やや粘質。締まっている。
- 14 10YR3/3 暗褐色土 炭化物、As-C、Hr-FA 多く含む。いぶ黄褐色粘質土層やや多く含む。焼土粒含む。やや粘質。締まっている。
- 15 10YR3/2 黒褐色土 As-C、Hr-FA 多く含む。焼土小ブロック少量含む。締まっている。
- a 10YR2/3 黒褐色土 As-C、Hr-FA、ローム粒、ローム小ブロック含む。粘性弱い。やや締まっている。
- b 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒、ローム小ブロック多く含む。焼土粒少量含む。粘性弱い。締まり弱い。
- c 10YR4/4 褐色土 ローム粒、ローム小ブロック多く含む。As-C、Hr-FA 少量含む。やや粘質。やや締まっている。
- d 10YR4/4 褐色土 ローム粒、ローム小ブロック多く含む。As-C、Hr-FA 少量含む。粘性弱い。やや締まっている。
- e 10YR3/4 暗褐色土-7.5YR4/4褐色土 As-C、Hr-FA 少量含む。粘性強い。硬く締まっている。表面は焼土化している。
- f 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒、As-C、Hr-FA 含む。やや粘質。締まっている。



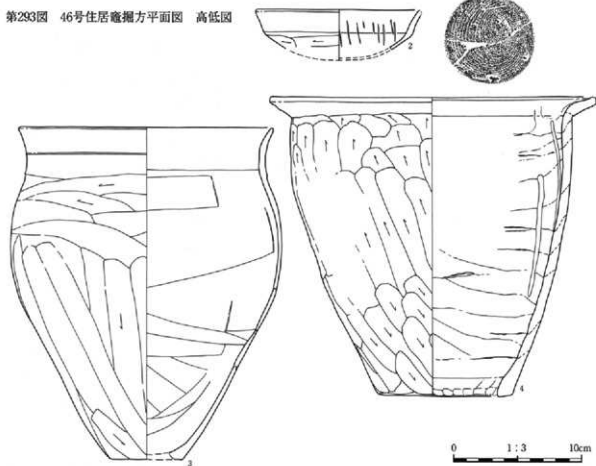
第292図 46号住居 貯蔵穴土層断面図

46号住居貯蔵穴 土層観察所見

- 1 10YR3/4 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。As-C、Hr-FA 少量含む。やや粘質。締まり弱い。
- 2 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒、炭化物粒含む。やや粘質。やや締まっている。
- 3 ロームブロック。
- 4 10YR2/3 黒褐色土 焼土粒、炭化物粒含む。As-C、Hr-FA 少量含む。やや粘質。やや締まっている。



第293图 46号住居发掘平面图 高低图



第294图 46号住居出土遗物

47号住居

位置 71-F-7グリッド 標高111.9mから112.0mの低地部に立地する。南に48号、49号住居がある。調査区東端に当たり、北東部は調査区外になる。

形態・規模 南西部を確認したのみであり、全体の形状はとらえられない。東西、南北ともに確認長は2mほどであり、竈が確認できていないため主軸方向も決定できない。南西角はゆがんだ弧状を呈して緩く屈曲している。

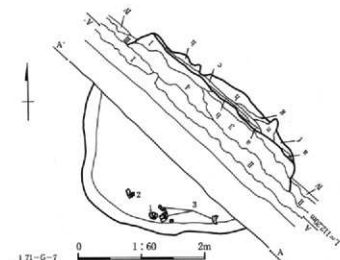
床 西壁部際に小さな段を持って、以東が一段深く掘り込まれている。黒褐色土を埋め、表層はロームブロックを含む土を固めている。谷に近い低地部に当たるためか、地山ロームは締まりが弱く、床表面は締まっているものの、やや波打つような凹凸がある。

壁 遺構確認面からの深さは26cmから30cm弱であるが、調査区界の壁面における土層断面では40cm以上の残存壁高があったものと思われる。南壁側は立ち上がりが緩いが、西壁側では強い立ち上がりを示す。

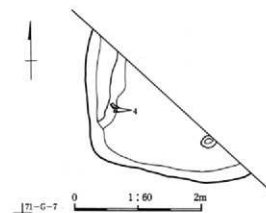
柱穴 南壁東よりに床面下のピットが1基ある。径30cm、床面からの深さ15cmほどである。

貯蔵穴・竈 調査範囲内では認められない。

遺物 掘り方の埋没土からは墨書された土師器片が出土している。住居に伴う遺物として9世紀後葉の須恵器片、高台付皿、土師器壺が出土している。



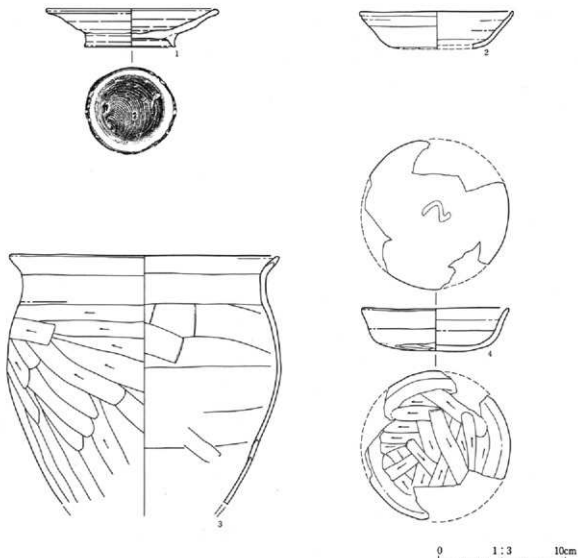
第295図 47号住居平面図 土層断面図



第296図 47号住居掘方平面図

47号住居 土層観察所見

- I 表土 10YR3/3 暗褐色土 As-A・As-B粒を含む。
 - II 10YR2/3 黒褐色土 As-C、Hr-FAを多量に含む。As-B含む。
 - III 10YR2/3 黒褐色土 As-C、Hr-FAを多く含む。
 - IV 10YR4/4 褐色土 水漬きの再堆積ロームとの混状混土。
- 1 10YR2/2 黒褐色土 As-C、Hr-FAを含む。炭化物粒、焼土粒わずかに含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
 - 2 10YR2/2 黒褐色土 As-C、Hr-FAを多量に含む。炭化物粒やや多く含む。焼土粒少量含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
 - 3 10YR3/3 暗褐色土 焼土粒、焼土ブロック、As-C、Hr-FAを多量に含む。炭化物粒含む。ローム粒少量含む。粘性ない。締まりやや弱い。
 - 4 10YR3/3 暗褐色土 As-C、Hr-FAを多量に含む。ローム粒少量含む。炭化物粒、焼土粒わずかに含む。粘性ない。締まりやや弱い。
- a 7.5YR2/3 黒褐色土 焼土粒、炭化物粒を多く含む。粘性弱い。締まっている。
 - b 10YR3/1 黒褐色土 ロームブロックを多量に含む。粘性弱い。強く締まっている。
 - c 10YR3/1 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。粘性弱い。強く締まっている。
 - d 10YR3/2 黒褐色土 灰色粘土ブロックを少量含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
 - e 10YR2/1 黒褐色土 As-C、Hr-FAを少量含む。焼土粒、白色粘土粒をわずかに含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
 - f 10YR2/2 黒褐色土 As-C、Hr-FA含む。ローム粒、ロームブロック少量含む。焼土粒わずかに含む。粘性ない。締まりやや弱い。
 - g 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒、焼土粒やや多く含む。As-C、Hr-FA含む。ロームブロック少量含む。粘性ない。締まりやや弱い。
 - h 10YR2/2 黒褐色土 As-C、Hr-FA含む。ローム粒、ロームブロック少量含む。焼土粒わずかに含む。粘性ない。締まりやや弱い。



第297図 47号住居出土遺物

48号住居

位置 71-H-5.6グリッド 標高112.1mから112.2mの低地部に立地する。東に49号住居、北東に47号住居、水路を挟んで南に27号住居がある。

形態 南半が用水路下にかかるため、北壁から東西両壁の一部を調査したのみであり、全容は把握できない。北壁東西の角はやや丸みをもつ。東壁の南調査限界近くに竈の残痕かと思われる土坑状掘り込みがあり、水路の反対側には本住居の痕跡が認められないことから、東西に長軸を持つやや縦長の長方形の平面形かと思われる。規模 東西3.04m 南北確認長1.78m。

床 掘方を暗褐色から黒褐色の比較的粘性の強い土で埋めている。表層の硬化は比較的弱く、波打つような凹凸がある。

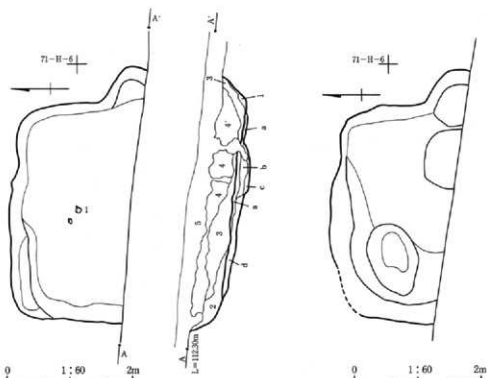
壁 30cmほどの残存壁高がある。西壁は崩れていて、丸みを持って上方に開く。北壁東部から東壁にかけて

は比較的強い立ち上がりを示す。

柱穴・貯蔵穴 調査範囲内では認められない。

竈 東壁の南調査限界近くに壁外に張り出す土坑状の掘り込みがある。この周辺覆土には炭化物、焼土粒が含まれるため、竈の残痕と思われる。

遺物 出土遺物は須恵器の甕破片のみで、年代を推し量れるものは出土していない。

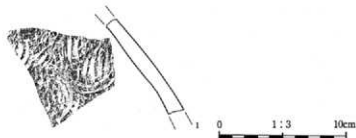


第298図 48号住居平面図 土層断面図

第299図 48号住居掘方平面図

48号住居 土層観察所見

- 1 10YR2/2 黒褐色土 炭化物粒含む。As-B、As-C、Hr-FA少量含む。やや粘質。やや締まっている。
- 2 10YR3/3 暗褐色土 As-B、As-C、Hr-FA、ローム粒、ローム腔、炭化物含む。やや粘質。やや締まっている。
- 3 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒、炭化物粒含む。As-B、As-C、Hr-FA少量含む。やや粘質。やや締まっている。
- 4 10YR2/3 黒褐色土 As-B、As-C、Hr-FA含む。ローム粒、ローム小ブロック少量含む。やや砂質。締まりやや弱い。 4' 焼土小ブロックを含む。
- 5 10YR2/2 黒褐色土 As-B、As-C、Hr-FA多く含む。部分的にAs-Aも含む。
- a 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒少量含む。粘質。締まっている。
- b 10YR2/3 黒褐色土 As-C、Hr-FA含む。やや粘質。締まっている。
- c 10YR2/3 黒褐色土 As-C、Hr-FA、炭化物含む。ローム粒、ローム小ブロック含む。堅く締まっている。
- d 7.5YR3/4 暗褐色土 ハードロームブロックを主体とする。炭化物少量含む。締まっている。



第300図 48号住居出土遺物

49号住居

位置 71-FG-5グリッド 標高111.90mの低地部に立地する。北に47号、西に48号、水路を挟んで南に24号住居がある。

形態 南半が用水路下にかかるため、北壁から東西両壁の一部を調査したのみであり、全容は把握できない。北壁東西の角はやや丸をもつ。東壁の南調査限界近くに竈の残痕かと思われる褐灰色粘土の堆積があり、水路の反対側には本住居の痕跡が認められないことから、東西に長軸を持つやや縦長の隅丸長方形あるいは隅丸方形の平面形かと思われる。規模 東西2.5m 南北確認長0.92m。

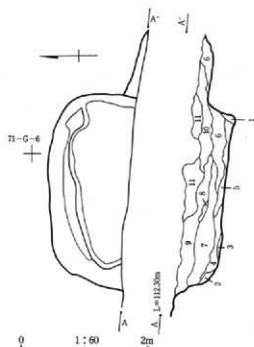
床 ロームブロックを含む暗褐色土で床面を貼る。周辺の47号、48号住居に比して堅く平らな床面である。

壁 東側で40cm強、西側では50cmほどの残存壁高があるが、東壁を除いて崩れが激しい。北壁西部から西壁にかけては緩やかな傾斜で上方に開く。東壁部は比較的強く立ち上がる。

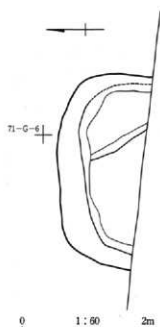
柱穴・貯蔵穴 調査範囲内では認められない。

竈 東壁の調査区界に褐灰色粘土が張り出すように残っており、土層断面においても同質の粘土が住居床面に接して残されている。おそらくこれが竈左袖の縁辺に当たるものと思われる。

遺物 覆土中から土師器片が出土しているが、住居に伴う遺物はない。



第301図 49号住居平面図 土層断面図



第302図 49号住居掘方平面図

49号住居 土層観察所見

- 1 5YR5/1-6/1 褐灰色粘土 竈袖の一部と思われる。
- 2 10YR2/1 黒色土 ローム粒、ロームブロックを少量含む。白色軽石をわずかに含む。粘性なし。締まり弱い。
- 3 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。粘性弱い。堅く締まっている。床面。
- 4 10YR2/3 黒褐色土 As-C、Hr-FAを少量含む。ローム粒、ロームブロック、焼土粒、炭化物粒をわずかに含む。
- 5 10YR2/3 黒褐色土 As-C、Hr-FAを少量含む。ローム粒、ロームブロック、褐灰色粘土ブロック、焼土粒、炭化物をわずかに含む。
- 6 10YR2/3 黒褐色土 As-C、Hr-FAを多く含む。褐灰色粘土、焼土粒をわずかに含む。粘性弱い。やや締まっている。
- 7 10YR2/3 黒褐色土 As-C、Hr-FAを多く含む。焼土粒少量含む。粘性弱い。やや締まっている。
- 8 10YR3/4 暗褐色土 焼土粒、褐灰色粘土ブロックを多量に含む。As-C、Hr-FAを多く含む。粘性ない。締まりやや弱い。
- 9 10YR3/4 暗褐色土 As-C、Hr-FAを多く含む。焼土粒を含む。暗褐色土斑を含む。粘性ない。締まりやや弱い。
- 10 10YR3/4 暗褐色土 焼土粒、褐灰色粘土ブロックを多量に含む。As-C、Hr-FAを多く含む。粘性ない。締まりやや弱い。
- 11 10YR3/4 暗褐色土 As-C、Hr-FAを多く含む。焼土粒を含む。暗褐色土斑を含む。粘性ない。締まりやや弱い。

50号住居

位置 71-HI-8.9グリッド 標高112.3mの低地部に近い緩斜面に立地する。西に44号、南に14号住居があるが、ともに10mほどの距離を置く。

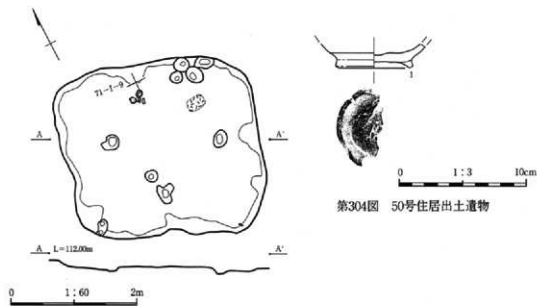
形態 掘方底面近くを確認したのみであるため詳細はわからない。北壁東よりの小ピット群を竈の痕跡と見れば北東-南西に主軸を持つ横長長方形の平面形が想定される。規模 長軸3.0m 短軸2.5m

床・壁 濡ったソフトローム面に暗褐色土が落ち込んだ方形のシミとして確認された。床面下まで削平されており、床、壁の状況はわからない。

柱穴・貯蔵穴 掘方底面には小さな凹凸があり、ピット状の掘り込みが数カ所ある。住居中央に並ぶピットは柱穴としても良い位置ではあるがごく浅い。貯蔵穴は認められない。

竈 北壁東部に壁面に食い込むように掘られた小ピット群があり、その手前に薄い焼土の堆積が認められた。本遺跡では北壁に竈を敷設する例は他になく、竈として確定する根拠にも乏しいが、他の場所に可能性は求めがたい。

遺物 竈想定位置の左手に当たる北壁やや西よりの掘方底面近くに円環、角鏝がまとめて出土している他は、埋没土中から須恵器高台付塊の破片が出土しているのみである。



第303図 50号住居平面図 高低図

第304図 50号住居出土遺物

51号住居

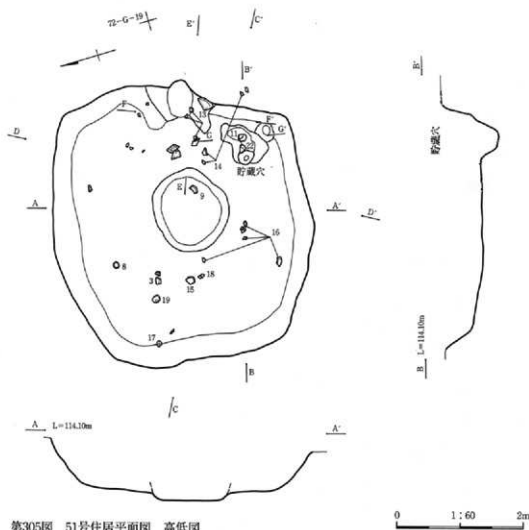
位置 72-G.H-18.19グリッド 標高113.8mから113.9mの西傾斜部に立地する。埋没途上で中央を99号土坑に切られる。台地頂部を越えた西向き斜面では、東向き斜面に比して遺構量、遺構密度が極端に低下する。東に53号住居、南に20mほど離れて54号住居があるが、西側、北側には同時期の遺構がない。

形態 東西に長軸を持つやや縦長のゆがんだ隅丸長方形の平面形を呈する。竈左手に当たる東壁北寄り張り出ししており、西壁と南壁がそれぞれ東壁と北壁より短い。貯蔵穴のある東南角は比較的強く屈曲するが、他の三隅は緩やかに曲がる。覆土上位にAs-Bが最大25cmほどの厚さで堆積している。住居中央部では軽石の上にはぶい赤褐色火山灰が堆積しており、降下時の堆積がほぼそのまま保存されているものと考えられる。規模 長軸3.3-3.9m 短軸2.5-3.4m

床 北壁の東側に不正楕円形の、西壁の北側にも長方形の土坑状掘り込みが壁に沿って長軸を持って掘られている。これに地山のロームを中心とする褐色土を充填して床を形成しているが、とくに南西部では床自体の締まりが弱く、最下層覆土のほうがやや硬化が強いほどである。埋没途上で住居中央に土坑が掘り込まれていることとあわせ、住居廃棄時およびそれ以後になんらかの人為が加えられているのかもしれない。

壁 北壁と西壁は比較的強く屈曲した立ち上りを示すが、南壁は上部が崩れているためか、ただらとしたゆるい立ち上がり方で、壁自体がはっきりしない。南壁側で41cm-45cm、北壁側では45cm-60cmの残存壁高がある。壁外の地山もAs-Bに覆われる部分があるため、これが当初の掘削深にほぼ等しいものと思われる。南壁の土層断面B'側ではAs-B下がやや盛り上がるような傾向を見せ、確実に把握することはできなかったものの、周堤があった可能性も感じられた。

柱穴 南壁やや西よりに径20cm、深さ20cmほどのピット2基が並んでいる。東南角の壁と貯蔵穴との間に長径35cm、短径20cm、深さ20cmのピットがあり、貯蔵穴西端にも径25cm、深さ30cmほどのピットがある。東南隅部のピットはいずれかが住居構造に関連を持つものかもしれないが、主柱穴と認められるものではない。

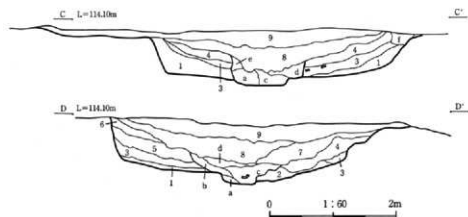


第305図 51号住居平面図 高低図

貯蔵穴 東南隅にピット2基を囲むように、長径95cm、短径40cm、深さ10cmほどの範囲が不定形に掘り込まれている。西端部のものは柱穴の可能性もあるものと考えられる。竈右袖に接するように掘られたものは、径55cmほどの円形の平面形で、深さ30cmほどある。土層断面図採取位置が中央からずれているため底部形状を反映していないのだが、40cmほどの平坦な底部であり、こちらは貯蔵穴として良いものと考えられる。覆土中位に炭化物を多く含む。

竈 東壁のほぼ中央を壁外に掘り込んで構築する。焚き口部はピット状掘り込みを縦に2基連ねて一段深く掘り込まれ、燃焼部から煙道へも段を持って接続する。褐灰色から灰黄褐色の粘土を構築材とする。右壁の構築材には河原石を用いているが、左袖部には構築材は用いられず、地山を小さく削り残して袖の芯を作っている。焚き口部には袖石の据え方は認められないが、竈手前で出土した平坦な角礫は焚き口天井部に架けられていたものであろう。竈主軸方向はN-100°Eを示す。燃焼部奥から竈が正位で出土している。

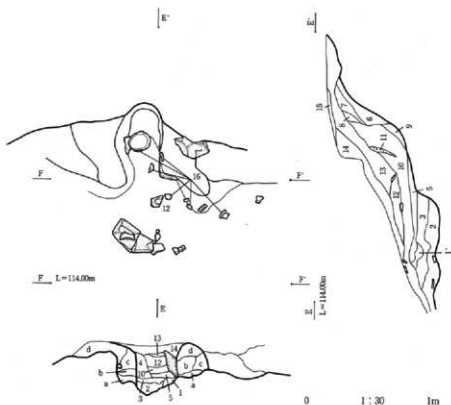
遺物 中央部土坑の掘り込み部が分布上の空白となるが、壁からやや離れた位置の覆土中位から下位を中心に遺物が散在する状況を示す。須恵器の坏、高台付埴が主体で、土師器の坏、甕がある。9世紀後葉を中心とするものと思われる。



51号住居 土層観察所見

- 1 10YR4/6 褐色土 堅く締まっている。
- 2 10YR3/4 暗褐色土 炭化物を多く含む。黄褐色ロームブロック含む。
- 3 10YR3/4 暗褐色土 As-C、Hr-FAを少量含む。締まり弱い。
- 4 10YR3/4 暗褐色土 As-C、Hr-FAを多く含む。締まりやや強い。
- 5 10YR3/3 暗褐色土 As-C、Hr-FAを含む。締まりやや弱い。
- 6 10YR3/3 暗褐色土 As-C、Hr-FAを少量含む。締まっている。
- 7 10YR2/3 黒褐色土のブロックを含む。暗褐色土 As-C、Hr-FAを少量含む。締まりやや弱い。
- 8 10YR2/3 黒褐色土 As-C、Hr-FA少量含む。やや砂質。締まっている。
- 9 As-Bの埋積層。フェールユニットの識別が可能。最上部にはぶい赤褐色火山灰。
- a 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色ロームブロック含む。締まり弱い。
- b 10YR3/4 暗褐色土 細粒の白色軽石をわずかに含む。
- c 10YR3/2 黒褐色土 As-C、Hr-FAを含む。暗褐色土ブロックを含む。締まりやや強い。
- d 10YR3/3 暗褐色土 As-C、Hr-FAを含む。黒褐色土ブロックを含む。やや締まっている。
- e 10YR3/4 暗褐色土 褐色ロームブロックを含む。やや締まっている。

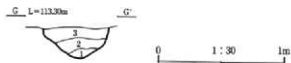
第306図 51号住居土層断面図



51号住居竪 土層観察所見

- 1 10YR3/4暗褐色土と10YR4/6褐色ロームの塊状混土。1' 10YR3/4暗褐色土と10YR4/6褐色ロームの斑状混土。
- 2 7.5YR3/4 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。焼土粒、焼土小ブロック含む。
- 3 7.5YR3/4 暗褐色土 焼土ブロック、ローム粒を多く含む。
- 4 7.5YR4/2 灰褐色粘土 焼土粒を含む。袖の崩落土。
- 5 7.5YR3/4 暗褐色土 炭化物、焼土ブロックを多く含む。ローム粒含む。
- 6 7.5YR4/2灰褐色粘土とローム粒の混土。7層に比べてローム粒が多い。
- 7 7.5YR4/2灰褐色粘土 ローム粒を含む。
- 8 7.5YR4/2 灰褐色粘土。
- 9 7.5YR4/2 灰褐色粘土 表面が焼けて焼土化している。
- 10 10YR3/3 暗褐色土 炭化物を多く含む。焼土粒、As-C、Hr-FAを含む。
焼土ブロック。
- 11 10YR3/3 暗褐色土 炭化物、灰褐色粘土粒を多く含む。焼土粒、As-C、Hr-FAを含む。
- 12 10YR4/2 灰黄褐色粘土 焼土、炭化物を含む。天井崩落土。
- 13 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒、炭化物を多く含む。焼土粒、As-C、Hr-FAを含む。締まり弱い。
- 14 10YR3/2 黒褐色土 As-Bを多く含む。締まっている。
- 15 10YR3/4暗褐色土と10YR4/6褐色ロームの斑状混土。
a 10YR3/4暗褐色土
b 7.5YR4/2 灰褐色粘土。
c 10YR4/2 灰黄褐色粘土 ローム粒を含む。
d 10YR4/2灰黄褐色粘土と10YR3/3暗褐色土の混土。

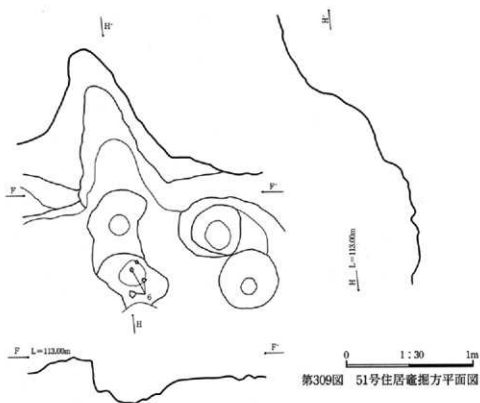
第307図 51号住居竪平面図 土層断面図



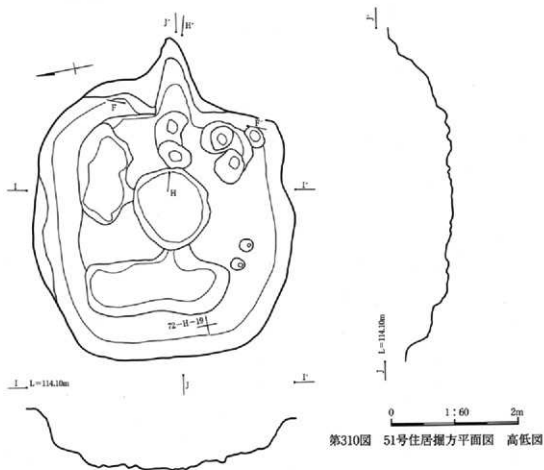
51号住居貯蔵穴 土層観察所見

- 1 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒を多く含む。締まり弱い。
- 2 10YR1.7/1 黒色土 炭化物粒を多く含む。As-Cと思われる白色軽石を多く含む。
- 3 10YR5/4 に近い黄褐色土 ローム粒を主体とする。やや焼土化して赤っぽく見える。

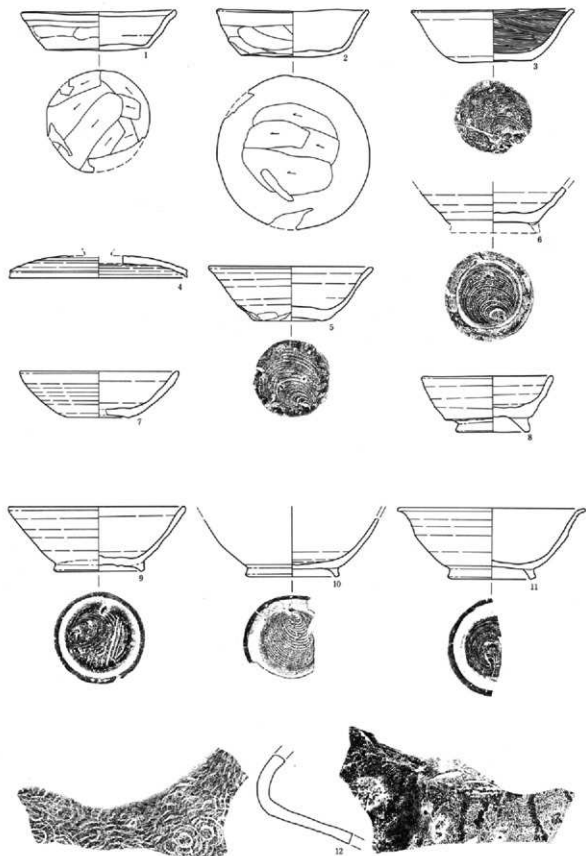
第308図 51号住居貯蔵穴土層断面図



第309図 51号住居竈掘方平面図 高低図

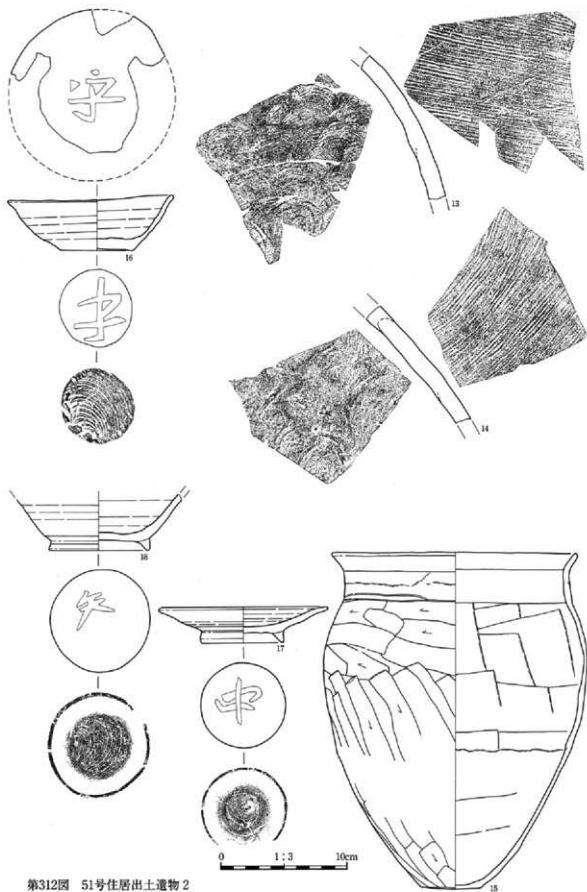


第310図 51号住居掘方平面図 高低図



第311图 51号住居出土遺物 1

0 1:3 10cm



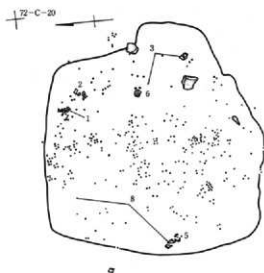
第312図 51号住居出土遺物 2

52号住居

位置 72-C-19グリッド 標高114.3mから114.5mの台地頂部に近い西向き緩斜面に立地する。古代の住居としては北端のものである。南東に10mほど離れて53号住居がある。

形態 土師器細片の集中としてとらえられた。床面下まで削平される。詳細な形状は把握できない。方形あるいはわずかに南北に長い横長方形の平面形を基本とするものと思われる。が、東南隅部は浅く、隅を切り欠いたような形状となり、旧形がとらえがたい。規模 長軸3.2m 短軸2.75m

床・壁 床面下まで削平されている。掘方をローム斑を混じた黒褐色土、暗褐色土で埋めたものと思われる。最深部までは確認面から15cmほどあるが、下層に炭化物や焼土が含まれ、上層にはこれが少ない。掘方下層まで攪乱を受けているかもしれない。

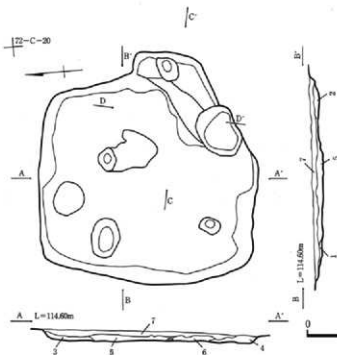


柱穴 南壁西部と住居中央よりやや北東よりにピットがあるが、ともに長径40cm、短径20cm、深さ10cmほどの浅いもので柱穴としては考えにくい。

貯蔵穴 東南隅部に長径75cm、短径53cm、深さ16cmほどの土坑があり、これが貯蔵穴に当たるものかと思われる。この部分は壁が失われており、方形の平面形を考えるとすれば住居の内側にやや入り込んだ位置に貯蔵穴があることになる。

0 1:60 2m

第313図 52号住居遺物分布図



52号住居 土層観察所見

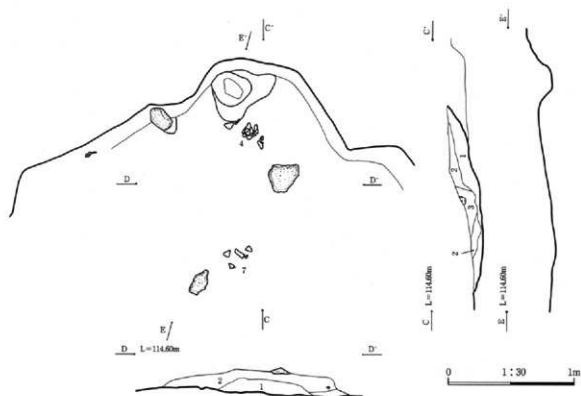
- 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒、ローム斑を多く含む。
- 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒、ローム斑を多く含む。As-C少量含む。
- 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒、ローム斑を多く含む。As-C少量含む。
- 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒、ローム斑を多く含む。
- 10YR3/2 黒褐色土 炭化物粒、焼土粒含む。ローム斑、As-C、Hr-FA含む。
- 10YR3/3 暗褐色土 ローム斑を多く含む。炭化物粒、焼土粒含む。As-C、Hr-FA含む。層まっている。
- 10YR2/3 黒褐色土 As-C、Hr-FAを多く含む。

第314図 52号住居平面図 土層断面図

第5章 奈良時代・平安時代以後の遺構と遺物

竈 東壁中央よりやや南よりに、にぶい黄褐色粘質土の集中が見られ、焼土や炭化物も混じていたため、竈がここに作られていたものと想定した。周りには構造物として用いられていたものであろう川原石がいくつか見られるが、原位置を保っているものはない。

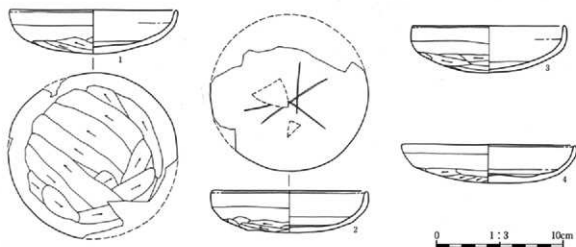
遺物 多数の土器細片が住居全面に散在しているが、図化可能なものは多くない。土師器環、須恵器碗、甍片があるが圧倒的に土師器環が多い。8世紀後葉の年代と考えられる。



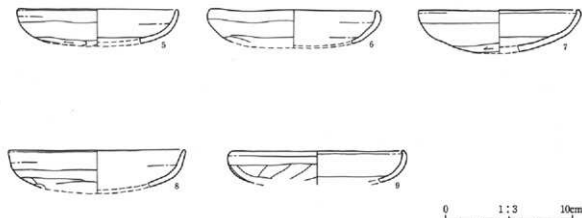
第315図 52号住居竈平面図 土層断面図

52号住居竈 土層観察所見

- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土 焼土ブロック、炭化物、Hr-FAを含む。締まっている。
- 2 10YR3/2 黒褐色土 1層のブロックを含む。ローム粒、焼土粒含む。締まっている。
- 3 7.5YR4/4 褐色土 焼土粒、焼土小ブロック多く含む。炭化物含む。締まり弱い。



第316図 52号住居出土遺物 1



第317図 52号住居出土遺物 2

53号住居

位置 72-D-18・E-17.18グリッド 標高113.9mから114.0mの台地頂部に近い西向き緩傾斜部に立地する。北東に52号、北西に51号住居が、それぞれ10mほどの距離を置いてある。

形態 東西に長軸を持つ縦長長方形の平面形であるが、南壁が北壁より短く、さらに住居内側に大きく湾入するようにゆがんでいる。51号住居と同じく、降下堆積時の状態を大きく乱されていない As-B が覆土上位に堆積している。土層断面では覆土の下位に地山ロームのブロックや珪、粒子を多く含む土が堆積しており、周堤のような構造があって、これに含まれたローム土が壁の崩壊とともに住居内に流入したものとと思われる。

規模 長軸4.08m 短軸2.47m-2.8m

床 ロームブロックを多く含む暗褐色土で床を貼っている。ほぼ均平で堅く締まった床面である。

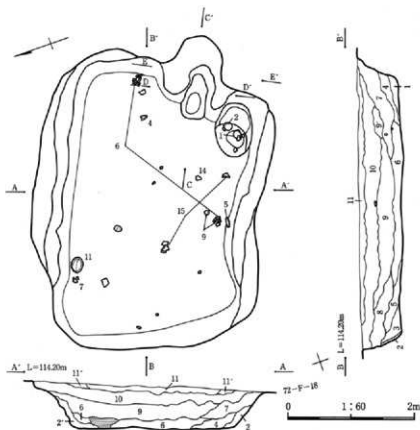
壁 特に南北両壁は上位が大きく崩れ、上方に大きく開いているが、東西壁は強く立ち上がる。As-Bの堆積は壁外まで及ばず住居中央部に限られるため、上位は削平されているものと見られるが、最も深い北東隅では80cm、南西側でも60cmを越える残存壁高がある。

柱穴 掘方調査時に数基のビット状掘り込みを確認しているが、比較的浅いものが多く、柱穴としては認められない。

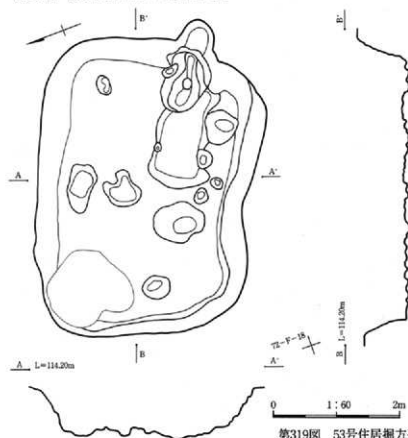
貯蔵穴 東南隅の壁をわずかに掘り込むように浅い土坑が掘られ、その東部に長径58cm、短径47cmの卵形の平面形を呈する土坑が作られている。深さは20cmほどで径25cmから30cmの小さな平底の底部に至る。完形の土師器坏2点などが出土しており、貯蔵穴として良いものと思われる。

竈 東壁中央よりやや南よりに作られている。褐色の粘土を構築材としており、住居内に短く袖を張り出すのが、袖石などは見られない。燃焼部は半分ほどが壁内にあって、一段深く掘り込まれ、壁との境界から強く立ち上がって煙道に連続する。燃焼部中央近くに支脚据え方かと思われる小さなビットがある。主軸方向はN-123°Eを示す。

遺物 出土遺物は壁際に多く、比較的残存状態が良い。床面から近い位置からは8世紀中葉の土師器、須恵器の坏が出土している。埋没土中からは9世紀前葉の土師器、須恵器の坏などが出土している。「寺」字の墨書が目目される。住居の年代は8世紀中葉～9世紀前葉と考えられる。



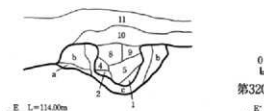
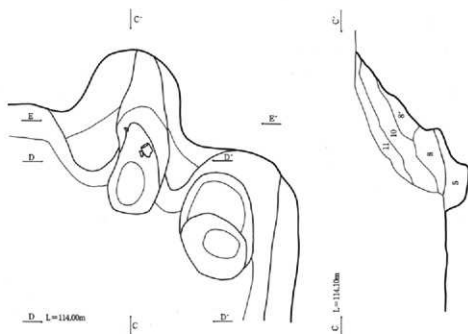
第318図 53号住居平面図 土層断面図



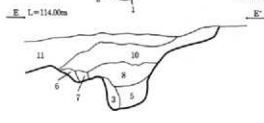
第319図 53号住居掘方平面図 高低図

53号住居 土層観察所見

- 1 10YR3/4 暗褐色壤土 ロームブロックを多く含む。炭化物少量含む。
- 2 10YR3/4 暗褐色壤土 崩れた地山ロームの再堆積土主体。結まり固い。2' ロームブロックを多く含む。
- 3 10YR3/2 黒褐色壤土 As-C、ローム粒、ローム小ブロック含む。やや締まっている。
- 4 10YR3/4 暗褐色壤土 As-C、Hr-FA を少量含む。
- 5 10YR2/2 黒褐色壤土 ローム粒、ローム小斑を多く含む。As-C を含む。炭化物粒を少量含む。やや締まっている。
- 6 10YR2/3 黒褐色壤土 ローム粒を多く含む。ローム小ブロック、小斑を含む。As-C をごくわずかに含む。やや締まっている。
- 7 10YR2/3 黒褐色壤土 ローム粒、ローム斑を多く含む。やや締まっている。
- 8 10YR3/4 暗褐色壤土 ローム粒を多く含む。As-C をやや多く含む。やや締まっている。
- 9 10YR2/3 黒褐色砂壤土 As-C を含む。ローム粒、ローム小斑を少量含む。9' 壤土。As-C の混入量少ない。
- 10 10YR2/2 黒褐色砂壤土 As-C、Hr-FA を含む。
- 11 As-B 層 As-B の埋藏層。フォールニットの識別が可能。最上部にはふいふい赤褐色火山灰。11' 擾乱されて黒色の砂土化した部分。

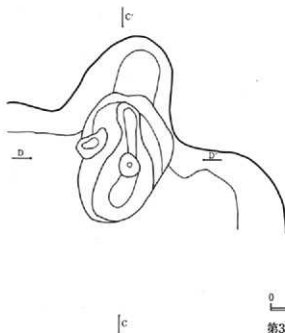


第320図 53号住居竪断面図 土層断面図

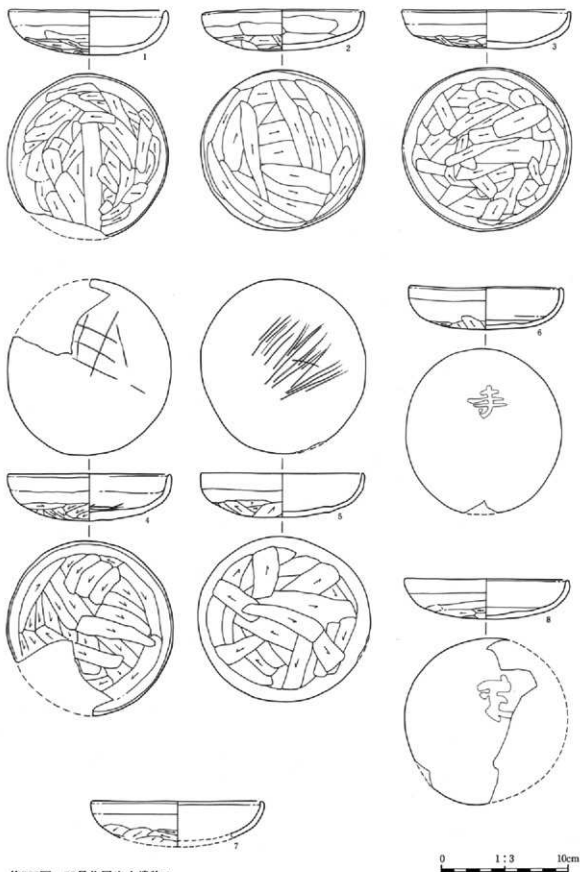


53号住居竪 土層観察所見

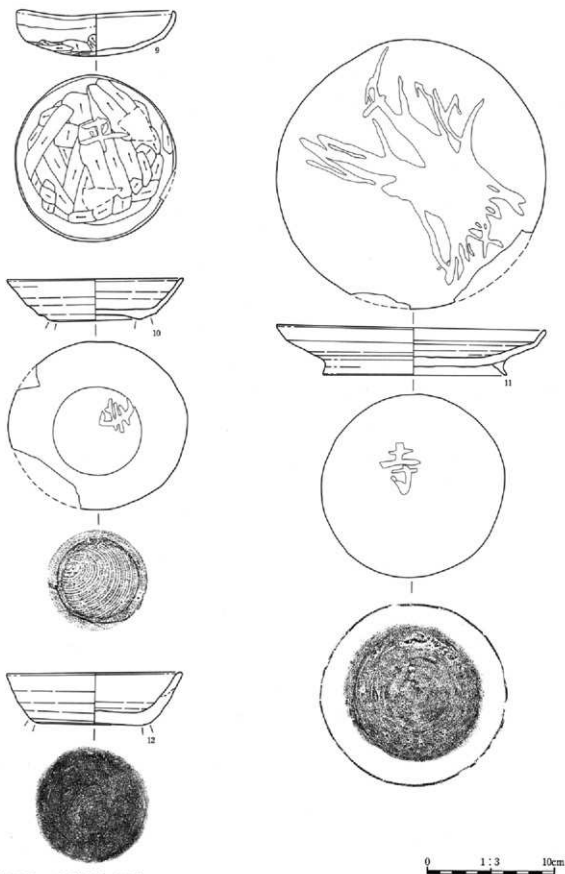
- 1 10YR3/2 黒褐色埴壤土 10YR4/4褐色埴土 (袖の構築土) 灰10%含む。褐色粘土粒多く含む。焼土粒含む。
 - 2 10YR3/2 黒褐色埴壤土 10YR4/4褐色埴土灰10%含む。ローム粒、ローム斑を含む。焼土粒含む。
 - 3 10YR3/2 黒褐色埴壤土 10YR4/4褐色埴土灰15%含む。焼土粒含む。
 - 4 10YR3/2 黒褐色埴壤土 10YR4/4褐色埴土灰10%含む。褐色粘土粒多く含む。焼土粒含む。
 - 5 10YR3/2 黒褐色埴壤土 10YR4/4褐色埴土灰10%含む。焼土粒含む。棒まじりない。
 - 6 10YR4/6 褐色埴土 崩れたロームブロックを主体とする。
 - 7 10YR3/2 黒褐色埴壤土 10YR4/4褐色埴土灰10%含む。ローム粒、ローム斑を含む。焼土粒含む。
 - 8 10YR2/3 黒褐色埴土 10YR4/4褐色埴土灰7%含む。焼土粒含む。やや締まっている。8' 褐色埴土灰20%含む。
 - 9 10YR2/3 黒褐色埴土 7.5YR4/4褐色埴土ブロック7%含む。焼土粒含む。やや締まっている。
 - 10 10YR3/4 暗褐色埴土 10YR4/4褐色埴土灰30%含む。締まっている。
 - 11 10YR3/4 暗褐色埴土 As-C、Hr-FAを含む。(住居覆土)
- a b層にローム小ブロックを混する。
 b 10YR4/3に多い黄褐色埴土~10YR5/6黄褐色埴土 竈構築土。
 c 2層がやや焼土化したもの。さほど硬化していない。



第321図 53号住居竈掘方平面図



第322図 53号住居出土遺物 1

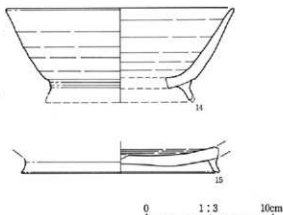


第323图 53号住居出土遺物 2

0 1:3 10cm



第324図 53号住居出土遺物 3



54号住居

位置 72-F.G-14.15グリッド 標高113.1mから113.3mの西向き緩傾斜部に立地する。南側には小さな谷が入り、西に向かう傾斜もこれ以西からは急に強くなる。北および北東の51号、53号住居との間はそれぞれ20mほどある。古墳時代の56号住居の中央東よりを掘り込んで作られている。上位の堆積層については56号住居記載中に併せて述べたが、覆土上位には、汚れてはいるものの上位の赤褐色火山灰をブロック状に含むAs-Bが堆積する。

形態 東壁と北壁を試掘トレンチにより切られて、上部を大きく削りとられているが、ややゆがんだ方形から隅丸方形の平面形であったことが確認できる。南壁は直線のだが北壁、西壁はややゆがみ、北西角は緩い円弧をなす。中央には台石を伴う鍛冶炉が作られている。小型の竈穴でありながら、下記の通り深く掘られており、さらに炉があることから剰余空間はごく狭い。竈を有する竈穴住居の形態をとるものの、通常の居住に用いられたものではなく、鍛冶専用の工房として使用されたものであろうと思われる。規模 長軸2.0m 短軸2.0m

床 ハードルーム面まで掘り込んでおり、その面が固められてそのまま床となっている。汚れが少ない、堅く締まった床面である。

壁 確実に把握できるのは56号住居床面以下の壁のみで、30cmほどの残存壁高である。しかし56号住居自体がルーム上面の確認面から最大70cmの深さまで掘り込まれており、合わせると1m以上の深さを持った建物であったことになる。

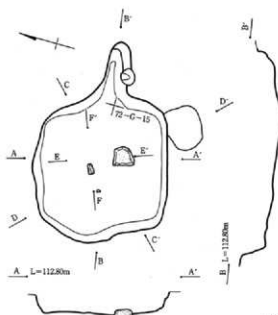
柱穴・貯蔵穴 認められない。

竈 東壁中央部を壁外に細長く掘り込んで築いているが、試掘トレンチにかかって削り取られており、痕跡的にしか把握できない。主軸方向はN-85°-E前後と思われる。掘方の先端は56号住居東壁を切る。

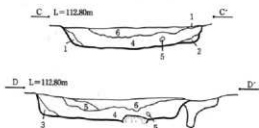
鍛冶炉 住居のほぼ中央に鍛冶炉が作られている。台石とその脇にある炭化物による円形斑としてとらえられた。竈羽口が住居中央よりやや北の位置に東西に軸をおいて据えられており、先端に弦の長さ34cm、弧の奥行き11cm、深さ5cmほどの半月形のくぼみが見られる。羽口の周囲には焼けて硬化したロームブロックが見られ、羽口の下には木質炭化物がある。羽口は外径10cm、孔径2cmから2.4cmで先端部の方が孔径がやや大きくなる。15cmほどの長さが残っていた。全体にごくもろくなっており、両端は失われている。

炉の右手には台石が据えられている。下底30cm、上底20cm、高さ30cmの台形の平面形で、厚さが14cmほどあり、下部7cmほどが石より一回り大きく掘られたくぼみの中に、上面が水平になるように据えられ、ソフトロームとハードロームブロックの混土により固定されている。台石下面の地山は非常に堅く締まっている。石の下面には凹凸があるが上面は平坦で、赤化した部分や敲打により窪んだ部分、摩耗して平滑化した部分が見られる。輪と台石のあり方から見て鍛錬鍛冶に用いられたものであろう。両者の位置関係から見れば、炉の西側に東を向いた状態で作業を行っていたものと想定される。

遺物 遺物はごく少ない。羽口は劣化が著しく、取り上げ時に崩壊してしまった。8世紀後葉の須恵器蓋があり、これがこの住居の年代を示す可能性があるだろう。

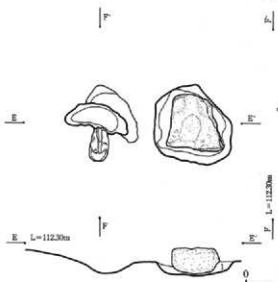


第325図 54号住居平面図 高低図 土層断面図



54号住居 土層観察所見

- 1 7.5YR4/6 褐色土 ローム粒多く含む。締まり強い。
- 2 10YR4/6 褐色土 ローム粒、ローム小ブロックを主体とする。締まり強い。
- 3 10YR4/6 褐色土 ローム粒を主体とする。ローム小ブロックを多く含む。
- 4 10YR2/2 黒褐色土 As-C、Hr-FAを含む。
- 5 ロームブロック。



第326図 54号住居鍛冶炉平面図 土層断面図 高低図

54号住居鍛冶炉 土層観察所見

- 1 10YR5/8 黄褐色土 わずかに汚れたソフトロームとハードロームブロックの混土。
- ※ 1層の下面はBP相当のロームで、非常に堅く締まっている。
- 2 10YR4/6 褐色土 汚れたソフトローム。締まりやや弱い。
- 3 焼土化したソフトローム。堅く焼け締まっている。
- 4 炭化物の集中層。
- 5 10YR3/4 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。炭化物を少量含む。締まっている。
- 6 10YR3/2 黒褐色土 炭化物多く含む。ローム粒を含む。やや締まっている。



第327図 54号住居出土遺物

3 掘立柱建物・柱穴列

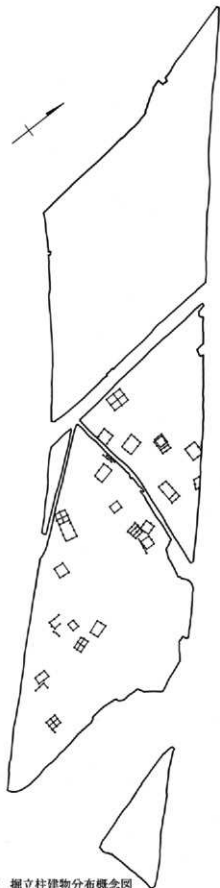
24棟の掘立柱建物と柱穴列4条を調査した。柱穴としての認定が困難なものや、建物として組み合わせないものについては、強いて建物を想定せずに、単独の土坑として扱った。ただし、39号住居周辺の土坑のうちいくつかのものについては、柱穴と断ずることもできず、建物としても組み合わせるものを見だし得なかったものの、掘立柱建物柱穴掘方とよく似た形態のものがある。このため、さらに数棟があった可能性も無しとしない。

掘立柱建物、柱穴列ともに、調査区内では東向き傾斜部の南半に限って作られている。他の遺構と同様、隣接地に遺構が広がる様子は見られない。

柱穴掘方が小さく、比較的浅く、柱通りの比較的不揃いなものが南部に、掘方が大きく、比較的深く、柱通りの整ったものが北部に多い傾向がある。前者は出土遺物もなく、堅穴住居との切り合い関係も明確ではないため年代を決定するに足る資料は得られていない。しかし、柱穴覆土にはAs-Bを含まないところから、1108年以前のものであるものと判断されている。

後者についても、覆土にはAs-Bを含まない。加えて、6号掘立柱建物から8世紀後葉の土師器坏が出土している。また、4棟が重複する2、4、6、7号掘立柱建物は9世紀後半の23号住居に切られ、8号掘立柱建物が8世紀中葉の22号住居を、19号掘立柱建物が8世紀前葉の38号住居を切っている。6号掘立柱建物出土遺物とも併せて、この形態の建物は8世紀後半から9世紀前半にかけての所産と考えられるだろう。この時期の遺構を見ると、北に掘立柱建物、南に堅穴住居という配置がなされているかのような立地傾向を示すことになる。「寺」字墨書出土した53号住居は掘立柱建物群とは離れた西向き傾斜部にあるが、何らかの関係を考えたいところではある。

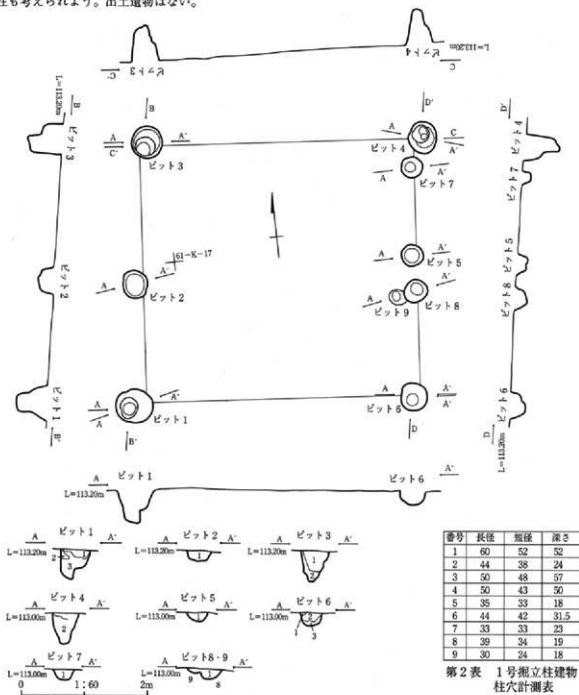
建物の構造は、1間×2間、2間×2間の偏柱建物为主であるが、総柱建物も6棟あり、庇の付く建物もある。3号掘立柱建物は2間四方の総柱建物と3間×2間の偏柱建物が接続する形態である。20号、24号掘立柱建物はともに東側に庇を持つ。



第328図 掘立柱建物分布概念図

1号掘立柱建物

61-J.K-16.17グリッド 標高112.9mから113.2mの東向き緩傾斜部に立地する。直接切り合う遺構はない。西から北にかけて、3・4号掘立柱建物、4号から6号住居などがある。桁行1間、梁間2間の側柱建物である。東西4.5m、南北4mほどの規模を有する。四隅の柱穴は柱痕などは認められないが、比較的大きく、深く掘られている。中央のピットは比較小型で浅いものである。東中央の柱はピット5を採っているが、隣り合うピット8も同規模で類似した覆土を有する。ピット7および9は建物と関係を持つものではないだろう。やや幅の広い南北棟と見るが、ピット2およびピット5あるいはピット8が棟持柱となる東西棟である可能性も考えられよう。出土遺物はない。



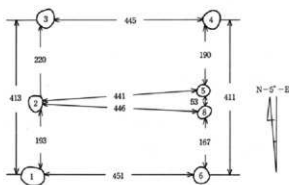
第329図 1号掘立柱建物平面図 高低図 柱穴土層断面図

第2表 1号掘立柱建物
柱穴計測表

第5章 奈良時代・平安時代以後の遺構と遺物

1号獨立柱建物 土層観察所見

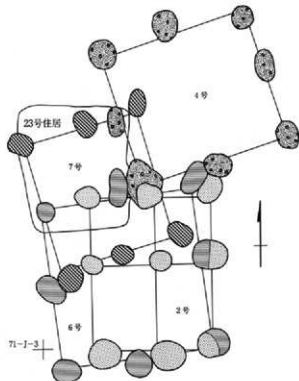
- ピット 1 1 10YR2/2 黒褐色砂質土 As-C を含む黒色土にロームブロックと漸移層を混ざる。
 2 10YR4/4 褐色砂質土。
 3 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土 ロームブロックを少量含む。
- ピット 2 1 10YR2/2 黒褐色砂質土 As-C を含む黒色土にロームブロックと漸移層を混ざる。
- ピット 3 1 10YR3/4 暗褐色砂質土 As-C を含む黒色土と漸移層の混土。径3cm程度のロームブロックを含む。
 2 10YR2/2 黒褐色砂質土 径2-3cmのロームブロックを20%含む。
- ピット 4 1 10YR3/3 暗褐色砂質土 As-C を含む黒色土と漸移層の混土。
 2 10YR4/4 褐色砂質土 漸移層中に径1-2cmのロームブロックを20%含む。
- ピット 5 1 10YR2/3 黒褐色砂質土 As-C を含む黒色土と漸移層の混土。
- ピット 6 1 耕作による擾乱土。
 2 10YR3/3 暗褐色砂質土 As-C を含む黒色土に漸移層を混状に含む。
 3 10YR4/4 褐色砂質土 漸移層主体。
- ピット 7 1 10YR2/3 黒褐色土 As-C を含む黒色土主体。漸移層を含む。
- ピット 8・9 1 10YR3/4 暗褐色砂質土 As-C を含む黒色土主体。漸移層を含む。



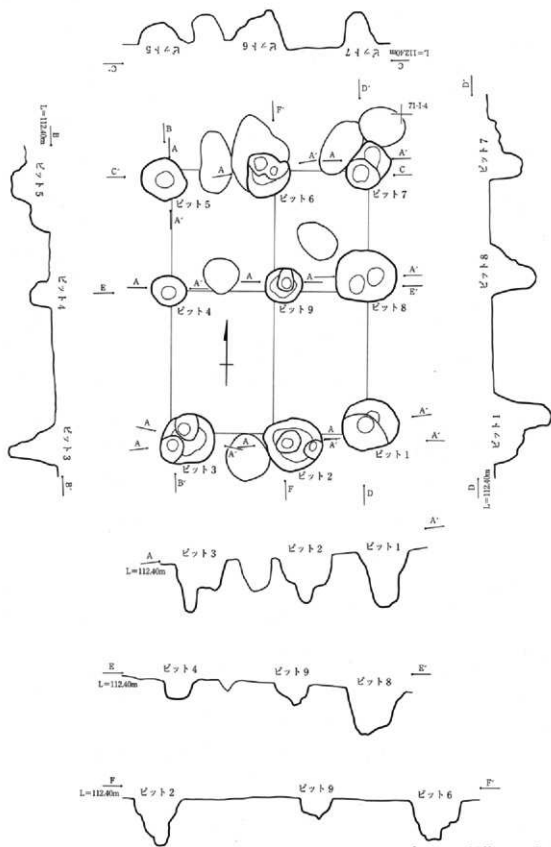
第330図 1号獨立柱建物計測模式図

2号獨立柱建物

71-I-2グリッド 標高112.2mから112.4mの東向き傾斜地に立地する。堅穴住居、掘立柱建物ともに集中度が高い地点であり、4号、6号、7号掘立柱建物柱と重複する。4棟ともに9世紀後半の23号住居に切られており、かつそれぞれが重なり合う部分を持つために同時存在しない。桁行2間、梁間2間の南北に長い総柱建物である。東西3.1m、南北4mほどの規模を有する。棟方向はN-0°と正南北を示す。ピット1が確認面から90cmを越える深さを有するなど、全体に深く大きな掘方を持つが、ピット4、5、9は深さ30cmほどしかない。明確な柱痕が認められたのはピット6のみである。出土遺物はない。

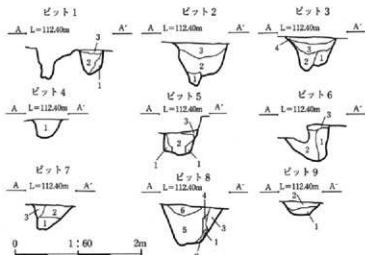


第331図 2・4・6・7号掘立柱建物重複概念図

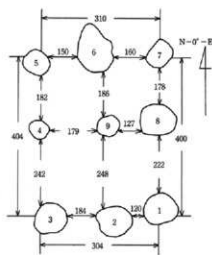


第332図 2号掘立柱建物平面図 高低図

第5章 奈良時代・平安時代以後の遺構と遺物



第333図 2号掘立柱建物柱穴土層断面図



第334図 2号掘立柱建物計測模式図

2号掘立柱建物 土層観察所見

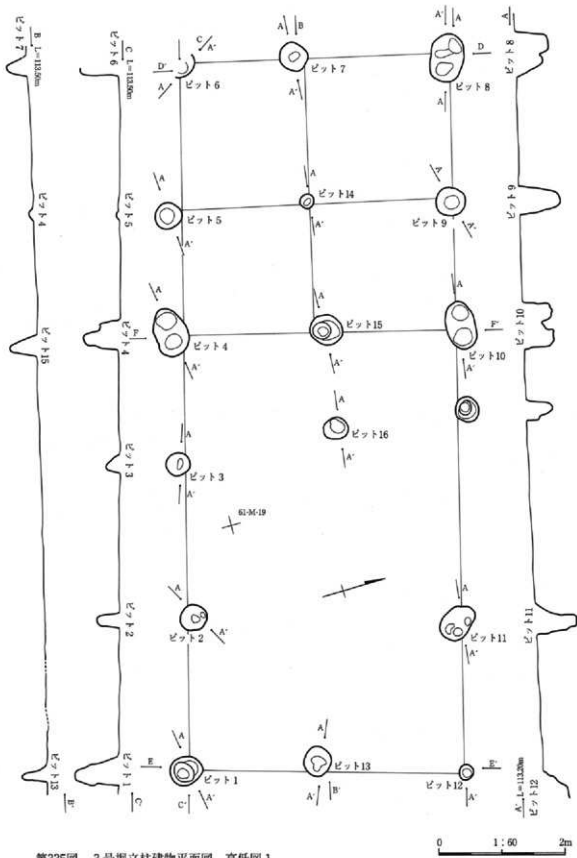
- ピット1
- 1 10YR2/2 黒褐色土 ローム漸移層土とAs-Cを含む黒色土の混土。砂質。
 - 2 10YR3/3 暗褐色土 ローム漸移層を主体とする。
 - 3 10YR3/3 暗褐色土 As-C粒少量含む。砂質。
- ピット2
- 1 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック20%含む。堅く締まった砂質土。
 - 2 10YR2/2 黒褐色土 ローム漸移層土とAs-Cを含む黒色土の混土。砂質。
 - 3 10YR3/4 暗褐色土 ローム漸移層土とAs-Cを含む黒色土の混土。砂質。
- ピット3
- 1 10YR3/4 暗褐色土 暗褐色土との塊状混土。
 - 2 10YR2/2 黒褐色土 暗褐色土との塊状混土。
 - 3 10YR2/2 黒褐色土 ローム漸移層土とAs-Cを含む黒色土の混土。砂質。
 - 4 10YR2/3 黒褐色土 ローム漸移層土とAs-Cを含む黒色土の混土。砂質。
- ピット4
- 1 10YR3/3 暗褐色土 黒褐色土中に暗褐色土を塊状に含む。
- ピット5
- 1 10YR3/4 暗褐色土 ローム土に黒褐色土を混ざる。砂質。
 - 2 10YR2/2 黒褐色土 As-C粒を含む黒褐色土と径2cmから3cmのロームブロックの等量混土。
 - 3 10YR4/4 褐色土 黒褐色土を含む。
- ピット6
- 1 10YR2/2 黒褐色土 As-C粒を含む黒褐色土を主体とし、ロームブロックを含む。
 - 2 10YR3/4 暗褐色土 径3cm程度のYP相当層付近の堅く締まったロームブロックを20%含む。
 - 3 10YR4/3 におい黄褐色土 As-C粒を含む黒褐色土を含む。
- ピット7
- 1 10YR2/2 黒褐色土 ロームを含む。
 - 2 10YR2/2 黒褐色土 As-C粒を含む。ロームを少量含む。
 - 3 10YR3/3 暗褐色土 As-C粒を含む。
- ピット8
- 1 10YR4/3 におい黄褐色土 崩れた地山ローム。
 - 2 10YR2/3 黒褐色土 As-C粒を含む。褐色土を含む。
 - 3 10YR4/4 褐色土 As-C粒を含む黒褐色土を含む。砂質。
 - 4 10YR4/4 褐色土 As-C粒を含む黒褐色土を含む。砂質。
 - 5 10YR2/2 黒褐色土 上位にAs-C粒を含む黒褐色土。下位には径2cmから3cmのロームブロックを20%含む。
 - 6 10YR4/4 褐色土 As-C粒を含む黒褐色土、ロームブロックを含む。
- ピット9
- 1 10YR4/4 褐色土 地山ロームの崩れたもの。
 - 2 10YR2/3 黒褐色土 As-C粒を含む黒褐色土。褐色土を混ざる。

番号	長さ	短径	深さ
1	90	78	82
2	94	82	75
3	94	83	77
4	58	45	32
5	72	64	34
6	94	66	68
7	76	56	56
8	96	80	76
9	60	54	30

第3表 2号掘立柱建物 柱穴計測表

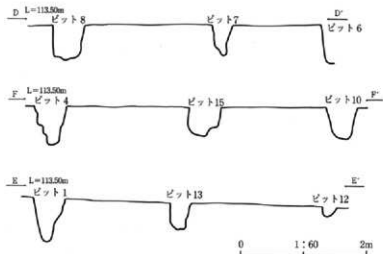
3号掘立柱建物

61-L-M-18.19/N-19.20グリッド 標高112.2mから112.4mの台地頂部に近い東向き緩傾斜部に立地する。ピット12が5号住居と重複するが、前後関係は捉えられていない。桁行2間、梁間2間の総柱建物に桁行3間、梁間2間の施設が付属する細長い形態である。主屋部は東西4.2-4.3m、南北4.4m前後の規模を有し、全体では11mを越える長さがある。棟方向はN-105°Eを示し、他の掘立柱建物とはかなり異なっている。主屋の欄柱は50cm内外から60cmほどの深さがある。東柱にあたるピット14は他に比べてごく小さく浅い。付属施設の隅柱のうちピット1とピット11はともに70cm近い深さがある柱痕が残る。

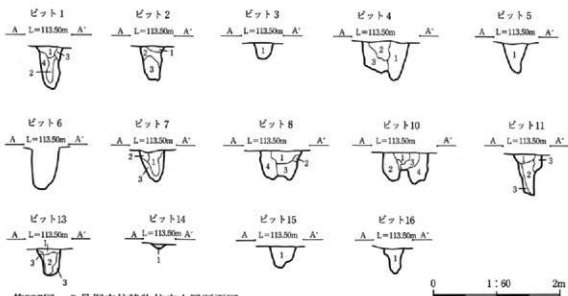


第335図 3号掘立柱建物平面図 高低図 1

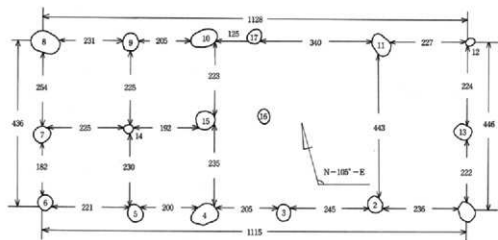
第5章 奈良時代・平安時代以後の遺構と遺物



第336図 3号掘立柱建物平面図 高低図2



第337図 3号掘立柱建物柱穴土層断面図



第338図 3号掘立柱建物計画模式図

3 掘立柱建物・柱穴列

3号掘立柱建物 土層観察所見

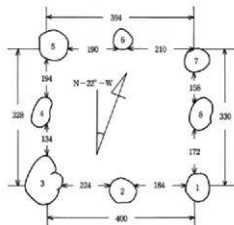
- ピット1 1 10YR4/3 におい黄褐色砂質土 径1mmから5mm大のローム粒を混ざる。
 2 10YR3/4 暗褐色砂質土 ローム粒を少量含む。
 3 10YR4/3 におい黄褐色砂質土 ローム粒をほとんど含まない。
 4 10YR3/4 暗褐色砂質土 1mmから10mm大のローム粒をやや多く含む。
- ピット2 1 As-C 粒を含む黒褐色砂質土。におい黄褐色土を含む。
 2 1層とローム層移層暗褐色砂質土との様拌土。
 3 10YR2/3 黒褐色砂質土 1mmから10mm大のソフトローム粒をやや多く含む。
- ピット3 1 ピット2の3層と同相。
- ピット4 1 ピット2の3層と同相。全体によく攪拌されている。
 2 径1mmから10mm大のローム粒と黒色砂質土の混土。ローム主体で互層状。
 3 10YR5/4 におい黄褐色砂質土に、径10mm以下のローム粒がまばらに混入。
- ピット5 1 ピット4の2層と同相。
- ピット7 1 As-C 粒を主に含む黒褐色砂質土。
 2 1層の攪乱部分。
 3 1層とロームブロックが互層状に堆積する。
- ピット8 1 ピット4の2層と同相。
 2 黒褐色砂質土のブロック
 3 1層と同相。ローム粒がやや大粒。
 4 1層と同相。ローム粒がやや少ない。
- ピット10 1 におい黄褐色土中に径1mmから10mm大のローム粒を含む。
 2 1層と同相。ローム粒多い。
- ピット11 1 黒褐色砂質土におい黄褐色土の攪拌土。
 2 黒褐色砂質土におい黄褐色土の斑状混土。
 3 1層と同相。ローム粒を多く含む。
- ピット13 1 におい黄褐色砂質土。
 2 におい黄褐色土と黒褐色砂質土の斑状混土。
- ピット14 1 におい黄褐色砂質土。
- ピット15 1 ピット2の3層と同相。
- ピット16 1 ピット2の3層と同相。

番号	長さ	幅径	深さ
1	53	44	70
2	42	39	59.8
3	39	35	29.5
4	76	52	62
5	45	41	50.3
6	42	18	61
7	45	42	49.5
8	77	53	55.7
9	48	46	66
10	74	47	48.5
11	60	44	66.5
12	22	18	20.6
13	48	42	42.2
14	23	20	8.5
15	52	48	47.2
16	40	33	38.9
17	37.5	35	40

第4表 3号掘立柱建物
柱穴計測表

4号掘立柱建物

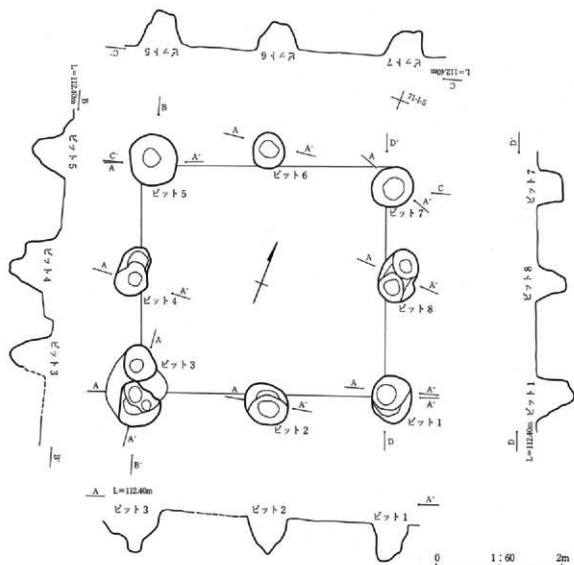
71-HI-4グリッド 標高112.2mから112.4mの東向き傾斜地に立地する。竪穴住居、掘立柱建物ともに集中度が高い地点であり、2号、6号、7号掘立柱建物柱と重複する。4棟ともに9世紀後半代の23号住居に切られており、かつそれぞれが重なり合う部分を持つために同時存在しない。桁行2間、梁間2間の東西に長い側柱建物で、東西4m、南北3.3mほどの規模を有する。東西棟とも見えるが、ピット2およびピット6は、それぞれ両側の隅柱を結ぶ線より外側に張り出している。この2基を棟持柱の柱穴と見て、南北棟と考えることができるだろう。この場合の棟方向はN-22°-Wを示し、7号掘立柱建物とはほぼ同方向となる。各柱穴は40cmから60cm強の深さがあり、ピット4では径10cmほどの柱痕が認められた。出土遺物はない。



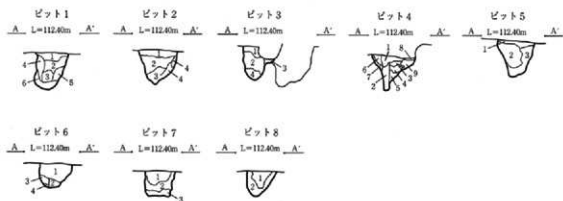
第339図 4号掘立柱建物計測模式図

番号	長さ	幅径	深さ
1	78	65	60
2	74	66	53
3	56	52	62
4	80	48	58
5	80	76	56
6	58	50	45
7	70	62	41
8	85	54	48

第5表 4号掘立柱建物
柱穴計測表



第340図 4号掘立柱建物平面図 高低図



第341図 4号掘立柱建物柱穴土層断面図

4号掘立柱建物 土層観察所見

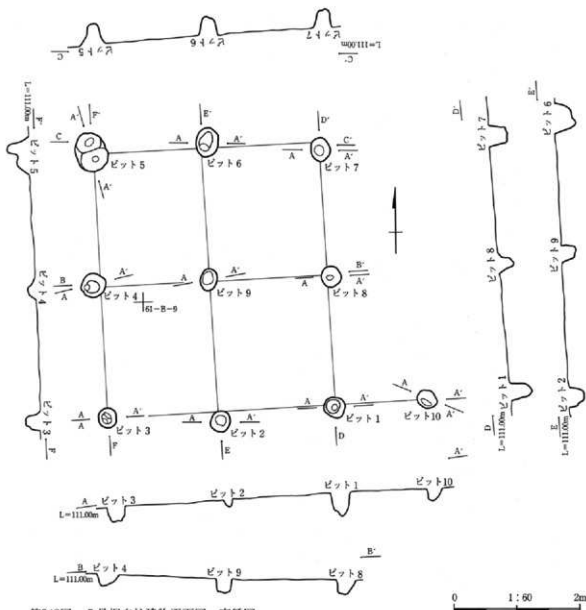
ビット1	1	10YR3/4	暗褐色砂質土	褐色土面含む。As-C粒5%含む。径1cm大のロームブロックを少量含む。
	2	10YR3/3	暗褐色砂質土	褐色土を斑点状に含む。As-C粒10%含む。径1cm大のロームブロックを少量含む。
	3	10YR2/2	黒褐色砂質土	径1cmから2cmのロームブロックを特に下部に多く含む。As-C粒を少量含む。
	4	10YR2/2	黒褐色砂質土	As-C粒を含む黒褐色土主体。ロームブロックを少量含む。褐色土を斑点状に含む。
	5	10YR2/3	黒褐色砂質土	As-C粒を含む黒褐色土主体。褐色土を斑点状に含む。
	6	10YR3/3	暗褐色砂質土	褐色土を斑点状に含む。下部は地山ロームが混入する。柔らかい。
ビット2	1	10YR1/3	黒褐色砂質土	As-C粒を含む黒褐色土主体。褐色土が斑点状に入る。焼土粒少量含む。
	2	10YR2/2	黒褐色砂質土	As-C粒を含む黒褐色土主体。As-C粒は上層に多い。褐色土が斑点状に入る。ロームブロックを少量含む。
ビット3	3	10YR2/2	黒褐色砂質土	As-C粒を少量含む。やわらかい。
	4	10YR3/3	暗褐色砂質土	やわらかい。
	1	10YR2/2	黒褐色砂質土	ロームブロックを少量含む。焼土粒わずかに含む。
	2	10YR3/3	暗褐色砂質土	径3cmから5cmのYP相当層のハードロームブロックを30%含む。As-C、炭化物粒を少量含む。
	3	10YR3/3	暗褐色砂質土	YP相当層のハードロームブロックが崩れたものを斑点状に含む。
	4	10YR2/3	黒褐色砂質土	As-C粒を含む。褐色土を斑点状に含む。
ビット4	5	10YR2/3	黒褐色砂質土	As-C粒を少量含む。褐色土を斑点状に含む。
	6	10YR5/6	黄褐色砂質土	ロームブロックを主体とし、As-C粒、褐色土を含む。
	7	10YR2/3	黒褐色土	ローム、褐色土を斑点状に含む。
	1	10YR2/1	黒褐色砂質土	As-C粒を含む。径1cm大のロームブロックを少量含む。焼土粒わずかに含む。
	2	10YR2/1	黒褐色砂質土	As-C粒少量含む。やわらかい。
	3	10YR2/3	黒褐色砂質土	径0.5cmから2cmのロームブロックを40%含む。
	4	10YR2/3	黒褐色砂質土	ロームを少量含む。
ビット5	5	10YR2/3	黒褐色砂質土	褐色土のロームが斑点状に入る。
	6	10YR3/4	暗褐色土	褐色土が斑点状に入る。焼土粒あり。
	7	10YR4/4	褐色土	黒褐色土がブロック状に入る。
	8	10YR5/4	にぶい黄褐色土	黒褐色土がブロック状に入る。焼土粒あり。
	9	10YR5/4	にぶい黄褐色土	ソフトロームが多く入っている。
	1	10YR3/4	暗褐色砂質土	As-C粒を含む黒褐色土をベースにロームブロックを少量含む。褐色土が斑点状に入る。
	2	10YR2/3	黒褐色砂質土	As-C粒を含む黒褐色土をベースに褐色土が斑点状に入る。
	3	10YR2/3	黒褐色砂質土	上位はAs-C粒を含む黒褐色土。下部は黒色土をベースに径3cmのロームブロックと褐色土が斑点状に入る。
	ビット6	1	10YR3/1	黒褐色砂質土
2		10YR3/3	暗褐色砂質土	As-C粒を含む。黒褐色土を含む。
3		10YR2/2	黒褐色砂質土	暗褐色土がブロック状に入る。As-C粒少量含む。
4		10YR3/4	暗褐色砂質土	ソフトロームがベース。
ビット7	1	10YR2/2	黒褐色砂質土	As-C粒を含む黒褐色土をベースに径1cmのロームブロックを含む。暗褐色土が斑点状に入る。
	2	10YR2/3	黒褐色砂質土	As-C粒を少量含む。暗褐色土を部分的に含む。
	3	10YR2/3	黒褐色砂質土	下部は地山ロームの崩れたものが多く入る。
ビット8	1	10YR3/3	暗褐色砂質土	As-C粒を含む黒褐色土をベースに褐色土が斑点状に入る。
	2	10YR2/3	黒褐色土	上位にAs-C粒を含む。褐色土が斑点状に入る。

5号掘立柱建物

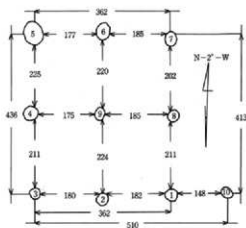
61-A-8.9グリッド 標高110.6mから111.0mの東向き傾斜部の谷地近くに立地する。東に1号住居があるが、他の遺構は乏しい。桁行2間、梁間2間の総柱建物で、南北棟と思われ、棟方向はN-2°-Wとほぼ正南北を示す。主屋部は東西3.62m、南北4.1-4.3mほどの規模を有す。東側に庇あるいは屏状の施設が付属したもので、南辺の東延長上に1.48m離れて柱穴が見つっている。比較的傾斜のきつい部分に当たり、東西方向では確認面で40cmほどの高低差があり、柱穴底面もこの傾斜に従っている。柱穴は総じて小振りで浅く、径30cm内外、深さも30cmに満たないものが多い。柱根をとどめたものはない。覆土にはAs-Cが含まれるがAs-Bは含まない。出土遺物はない。

番号	長さ	幅	深さ
1	33	31	40
2	32	30	25
3	30	30	23
4	40	37	21
5	62	50	37
6	47	35	28
7	38	29	31
8	32	30	26
9	34	28	27
10	35	25	21

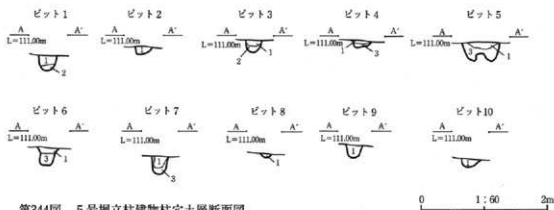
第6表 5号掘立柱建物 柱穴計測表



第342図 5号掘立柱建物平面図 高低図



第343図 5号掘立柱建物計測模式図



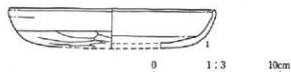
第344図 5号掘立柱建物柱穴土層断面図

5号掘立柱建物 土層観察所見

- 1 黒褐色砂質土 As-C粒を含む。均質でやや堅く締まる。
- 2 黒褐色砂質土 軽石をほとんど含まない。やや密。やや軟らかい。
- 3 ローム腐移層に1層が塊状に混入。地葉のようでもあるが、軟らかい。

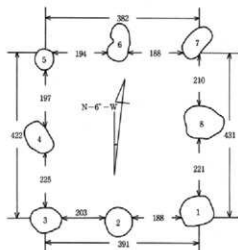
6号掘立柱建物

71-I-2.3グリッド 標高112.2mから112.4mの東向き傾斜地に立地する。竪穴住居、掘立柱建物ともに集中度が高い地点であり、2号、4号、7号掘立柱建物柱と重複する。4棟ともに9世紀後半代の23号住居に切られており、かつそれぞれが重なり合う部分を持つために同時存在しない。桁行2間、梁間2間のわずかに南北に長い南北棟の個性建物で、棟方向はN-6°-Wを示す。東西3.8-3.9m、南北4.2-4.3mほどの規模を有する。柱穴掘方は総じて大きめで深く、ピット1、ピット4は90cmほどの深さがある。ピット2、3、4、5では柱痕に対応する、締まりのごく弱い黒色土がピット中央にある。ピット8は2号掘立柱建物のピット8と重複するが、前後関係は捉えられない。8世紀後葉の土師器環が出土している。

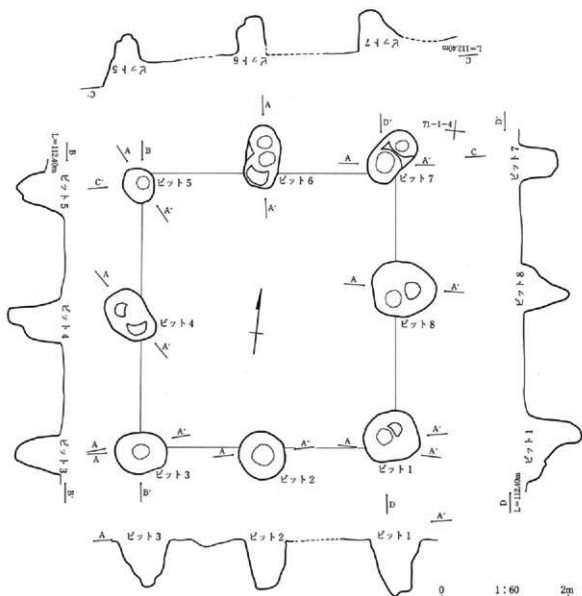


第345図 6号掘立柱建物出土遺物

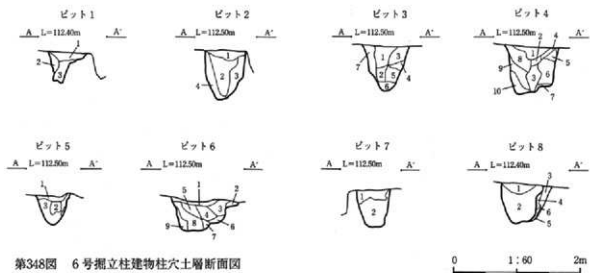
番号	長径	短径	深さ
1	87	73	92
2	77	72	79
3	85	65	70
4	85	62	91
5	56	49	46
6	101	54	59
7	94	56	64
8	100	87	76

第7表 6号掘立柱建物
柱穴計測表

第346図 6号掘立柱建物計測模式図



第347図 6号掘立柱建物平面図 高低図



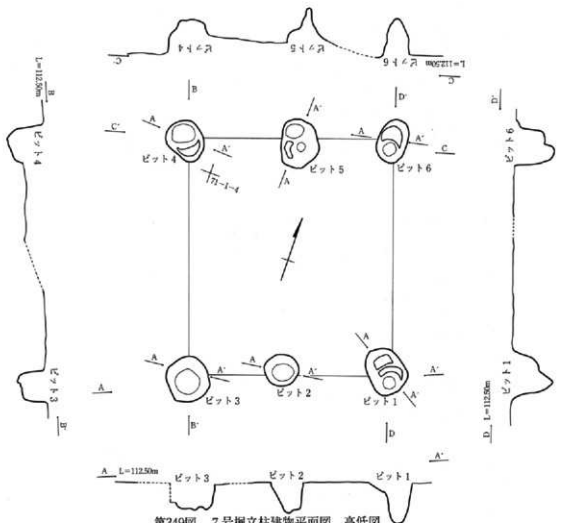
第348図 6号掘立柱建物柱穴土層断面図

6号掘立柱建物 土層観察所見

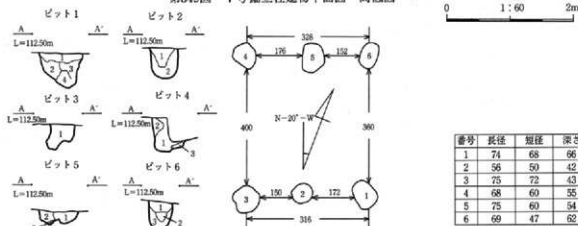
- ピット1
- 1 10YR3/3 暗褐色砂質土 As-C粒少量含む。
 - 2 10YR4/2 灰黄褐色砂質土 ロームとの塊状混土。
 - 3 10YR2/2 黒褐色砂質土 As-C粒少量含む。
- ピット2
- 1 10YR3/3 暗褐色土 As-C粒を含む。As-Cを含む10YR2/2黒褐色土の混10%含む。径5mm次のローム小ブロック5%含む。
 - 2 1層より10YR2/2黒褐色土が多く50%を占める。非常に軟らかい。
 - 3 2層よりロームブロックが多く30%を占める。
 - 4 3層よりロームブロック少なく20%程度。
- ピット3
- 1 10YR3/3 暗褐色砂質土 As-C粒を含む。ローム粒5%含む。非常に軟らかい。
 - 2 10YR2/2 黒褐色砂質土 As-C粒を含む。1層とロームを7%含む。軟らかい。
 - 3 As-C粒を含む10YR3/4暗褐色土とAs-C粒を含む10YR2/2黒褐色土、10YR4/4褐色土の塊状混土。
 - 4 3層に似るが、褐色土の量が多い。砂質。
 - 5 3層に似るが、黒褐色土の量が多い。砂質。
 - 6 黒色土 ロームブロック30%含む。堅く締まっている。
 - 7 10YR3/4 暗褐色砂質土 ローム粒、炭化物粒15%含む。
- ピット4
- 1 As-C粒を含む10YR2/1黒色土とAs-C粒を含む10YR2/2黒褐色土の塊状混土。ロームブロックを少量含む。砂質。
 - 2 1層に似るが暗褐色土が多い。ローム粒5%含む。
 - 3 1層に似るが黒色土が多い。ローム粒15%含む。下層ほど多い。
 - 4 10YR3/4 暗褐色土 As-C粒を含む。As-C粒を含む10YR2/2黒褐色土が塊状に入る。径0.3cmから1cmのローム粒、ローム小ブロックを20%含む。
 - 5 4層に似るが、ローム粒15%程度。
 - 6 4層に似るが、ロームの粒径が1cmから3cm大となる。
 - 7 ロームを主体とし、黒褐色土を含む。
 - 8 10YR3/4 暗褐色土 As-C粒を含む。ロームブロックや褐色土を40%含む。
 - 9 8層のロームブロックが崩れ、粒状化している。
 - 10 ローム粒と黒褐色土の混土。
- ピット5
- 1 10YR3/2 黒褐色砂質土 As-C粒を含む。10YR4/4褐色ロームがブロック状に入る。
 - 2 1層に似るが、ローム少ない。
 - 3 1層に似るがロームが多い。炭化物粒を含む。
- ピット6
- 1 10YR2/2 黒褐色土 As-C粒を含む。糞土粒、炭化物粒を30%含む。
 - 2 ソフトローム As-C粒を含む10YR3/3暗褐色土を含む。
 - 3 10YR2/3 黒褐色土 As-C粒を含む。径0.5cmから1cmのローム粒、ローム小ブロックを10%含む。
 - 4 10YR2/3 黒褐色土 As-C粒を含む。ローム粒、ロームブロック15%含む。
 - 5 10YR2/3 黒褐色土 As-C粒を含む。ローム粒、ロームブロック7%含む。10YR4/4褐色土15%含む。
 - 6 10YR2/3 As-C粒を含む黒褐色土と10YR4/4褐色土の50%混土。
 - 7 10YR2/3 As-C粒を含む黒褐色土とロームブロックの50%混土。
 - 8 10YR2/3 黒褐色土 As-C粒を含む。10YR3/3暗褐色土を20%含む。下位にロームブロックを少量含む。
 - 9 10YR2/3 黒褐色土 As-C粒を含む。10YR3/3暗褐色土を30%含む。径1cm次のロームブロックが点在する。
- ピット7
- 1 10YR2/1 黒色土 As-C粒を含む。As-C粒を含む10YR3/3暗褐色土が塊状状に混入。糞土粒を少量含む。
 - 2 10YR2/1 黒色土 As-C粒をほとんど含まない。10YR3/3暗褐色土が塊状状に混入。径1cm次のロームブロックを5%含む。
- ピット8
- 1 10YR4/3 におい黄褐色土 崩れた地山ローム。
 - 2 10YR2/3 黒褐色土 As-C粒を含む。褐色土を含む。
 - 3 10YR4/4 褐色土 As-C粒を含む黒褐色土を含む。砂質。
 - 4 10YR4/4 褐色土 As-C粒を含む黒褐色土を含む。砂質。
 - 5 10YR2/2 黒褐色土 上位にAs-C粒を含む黒褐色土、下位には径2cmから3cmのロームブロックを20%含む。
 - 6 10YR4/4 褐色土 As-C粒を含む黒褐色土、ロームブロックを含む。

7号掘立柱建物

7I-I-3.4グリッド 標高112.2mから112.4mの東向き傾斜地に立地する。堅穴住居、掘立柱建物ともに集中度が高い地点であり、2号、4号、6号掘立柱建物柱と重複する。4棟ともに9世紀後半の23号住居に切られており、かつそれぞれが重なり合う部分を持つために同時存在しない。桁行1間、梁間2間の南北に長い南北棟の棟持ち柱のある掘立柱建物である。棟方向はN-20°-Wを示し、4号掘立柱建物と近い。東西3.2m、南北3.6-4.0mほどの規模を有する。柱穴掘方は比較的大きく深めであるが、柱痕を明確に残すものはない。出土遺物はない。



第349図 7号掘立柱建物平面図 高低図



第351図 7号掘立柱建物計測模式図

番号	長径	短径	深さ
1	74	68	96
2	56	50	42
3	75	72	43
4	68	60	35
5	75	60	54
6	69	47	62

第8表 7号掘立柱建物
柱穴計測表

第350図 7号掘立柱建物柱穴土層断面図

7号掘立柱建物 土層観察所見

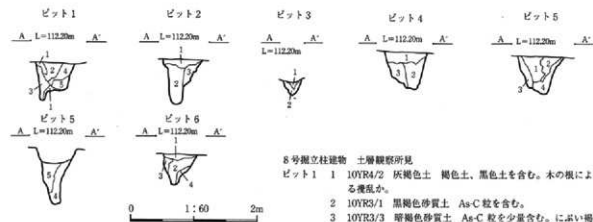
- ピット1 1 10YR3/3 暗褐色土 As-C 粒を含む。少量の10YR2/2As-C 混黒褐色土を斑点状に含む。径1cmから1.5cmのロームブロックを10%含む。
 2 10YR3/3As-C 混暗褐色土と10YR2/2As-C 混黒褐色土の混土。径1cmから1.5cmのロームブロック5%含む。
 3 10YR3/3As-C 混暗褐色土と10YR2/2As-C 混黒褐色土の混土。ロームブロックを含まない。
 4 10YR3/3As-C 混暗褐色土と10YR2/2As-C 混黒褐色土の混土。

3 掘立柱建物・柱穴列

- ピット2 1 10YR3/3 暗褐色土 As-C 粒を含む。少量の10YR2/2As-C 混黒褐色土を斑点状に含む。径1cmから1.5cmのロームブロックをごくわずかに含む。
 2 10YR3/3 暗褐色土 As-C 粒を含む。少量の10YR2/2As-C 混黒褐色土を斑点状に含む。ロームブロックを含まない。
 ピット3 1 10YR3/3 暗褐色土 As-C 粒を含む。少量の10YR2/2As-C 混黒褐色土を少量含む。
 ピット4 1 10YR3/3As-C 混暗褐色土と10YR2/2As-C 混黒褐色土の斑状混土。径1cmのロームブロックを10%含む。
 2 10YR/4 褐色土 ソフトローム主体。10YR3/3As-C粒混暗褐色土を含む。径1cmのロームブロックが点在する。
 3 ソフトロームと1層の混土。
 ピット5 1 10YR3/3As-C 混暗褐色土と10YR2/2As-C 混黒褐色土の斑状混土。径0.5cmから3cmのロームブロックを10%含む。
 2 10YR3/3As-C 混暗褐色土と10YR2/2As-C 混黒褐色土の斑状混土。径0.5cmから3cmのロームブロックを40%含む。
 3 10YR3/3As-C 混暗褐色土と10YR2/2As-C 混黒褐色土の斑状混土にロームブロックを50%含む。
 ピット6 1 10YR2/1As-C 混黒褐色土と10YR3/3As-C 混暗褐色土の斑状混土。
 2 10YR2/1As-C 混黒褐色土と10YR4/4褐色土の斑状混土。ロームブロックを含む。
 3 10YR3/3 暗褐色土 As-C 粒を含む。10YR2/1As-C 混黒褐色土を斑状に10%含む。径0.5cmから2cmのロームブロックを5%から10%含む。

8号掘立柱建物

71-G.H-3.4グリッド 標高111.9mから112.1mの東向き緩傾斜部に立地する。2・4・6・7号掘立柱建物の東にあり、直接切り合わないが4号掘立柱建物ピット1と本掘立柱建物のピット4はごく近接する。1号柱穴列が南にあり、このピット2と本掘立柱建物のピット2が接するが、新旧関係は捉えられていない。8世紀中葉と考えられる22号住居を切る。桁行1間、梁間2間の南北にやや長い南北棟の棟持ち柱のある側柱建物である。棟方向はN-2°-Eを示し、隣接する中では2号掘立柱建物と近い。東西3.5-3.7m、南北3.9-4.1mほどの規模を有する。柱穴掘方は比較的大きく深めであるが、柱痕を明確に残すものはない。出土遺物はない。



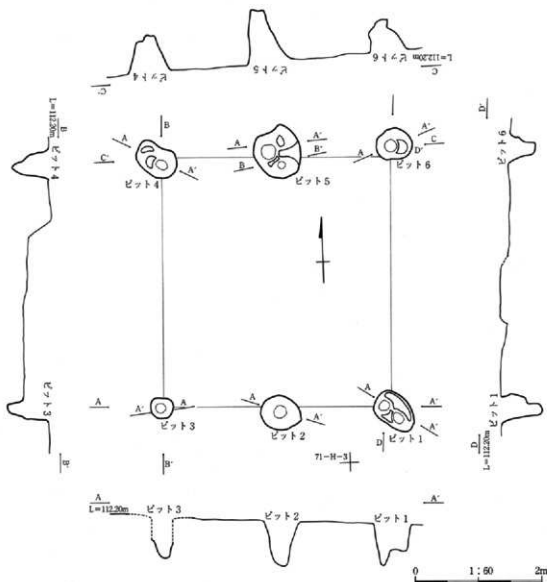
- 8号掘立柱建物 土層観察所見
 ピット1 1 10YR4/2 灰褐色土 褐色土、黒色土を含む。木の根による擾乱か。
 2 10YR3/1 黒褐色砂質土 As-C 粒を含む。
 3 10YR3/3 暗褐色砂質土 As-C 粒を少量含む。にぶい褐色土を斑点状に含む。
 4 10YR2/2 黒褐色砂質土 As-C 粒を含む。締まっている。
 5 10YR3/3 暗褐色砂質土 As-C 粒を少量含む。にぶい褐色土を斑点状に含む。締まっている。
 6 10YR4/4 褐色土 地山ロームを多く含む。

第352図 8号掘立柱建物柱穴土層断面図

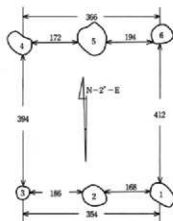
- ピット2 1 10YR3/3 暗褐色砂質土 As-C 粒を含む。褐色土が斑点状に入る。
 2 10YR2/2 黒褐色砂質土 As-C 粒を含む。下位ににぶい褐色土が斑点状に混じる。
 3 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土 やわらかい。
 ピット3 1 10YR2/1 黒色砂質土 As-C 粒を含む。やわらかい。
 2 10YR2/2 黒褐色土と径2cmから4cmの褐色ロームブロックの混土。
 ピット4 1 10YR2/2 黒褐色砂質土 As-C 粒を含む。10YR3/3As-C 混暗褐色土を斑点状に含む。
 2 10YR2/1 黒色砂質土 As-C 粒を含む。径2cm大のロームブロックを含む。
 3 10YR2/1 As-C 混黒褐色砂質土と10YR3/4暗褐色土の混土。
 ピット5 1 10YR3/4 暗褐色砂質土 As-C 粒を含む。10YR2/2As-C 混黒褐色土20%、径1cmから2cmのロームブロック30%含む。
 2 10YR2/2 As-C 粒混黒褐色砂質土と10YR3/4As-C 混暗褐色砂質土の混土。径1cm大のロームブロックを少量含む。
 3 10YR3/4 暗褐色砂質土 As-C 粒を含む。10YR2/2As-C 混黒褐色土20%、径0.5cm大のロームブロックを少量含む。
 4 10YR2/1 黒色砂質土 As-C 粒少量含む。
 5 10YR2/1 黒色砂質土 As-C 粒を含む。径1cmから3cmのロームブロック10%含む。10YR3/4暗褐色土混含む。

第5章 奈良時代・平安時代以後の遺構と遺物

- ピット6 1 10YR2/1 黒色土 As-C粒を含む。10YR2/3暗褐色土が斑状に入る。
 2 1層に似るがAs-C粒少ない。
 3・4 10YR2/1 黒色砂質土 As-C粒を含む。



第353図 8号掘立柱建物平面図 高低図



第354図 8号掘立柱建物計測模式図

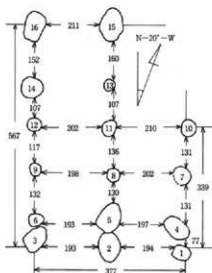
番号	長径	短径	深さ
1	72	48	64
2	66	55	73
3	37	36	25
4	68	54	61
5	86	76	92
6	58	50	52

第9表 8号掘立柱建物
柱穴計測表

9号掘立柱建物

61-D-E-15.16グリッド 標高111.2mから111.5mの東向き緩傾斜部に立地する。北東部で9号住居と重複し、柱穴2本分が確認できていない。前後関係は把握されていないが、9号住居のほうが新しいものと思われる。南に11号掘立柱建物、3号住居、南西に13号・14号掘立柱建物がある。ピットが集中する部分であるが、覆土にAs-Bを含まないものを抽出している。桁行4間、梁間2間の総柱建物で、南東側に庇がつく。東西3.77m、南北5.65mほどの規模を

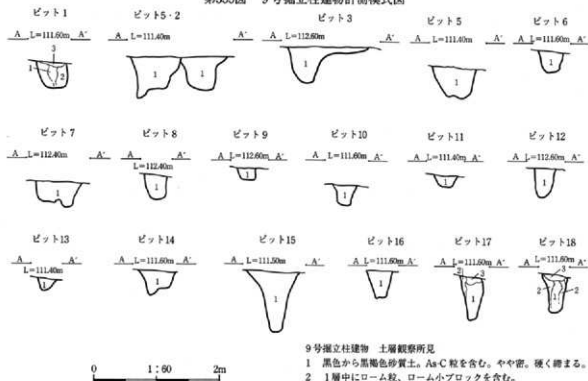
有するものと判断した。棟方向はN-21°-Wを示す。側柱の掘方は比較的大きく深く、東柱は細い傾向があるが、ピット7、9は浅く、中間のピット8が深い。ピット17、18は柱痕を留めるしつかりした柱穴であるが、組み合う柱穴がなく、この建物を構成するものではないようだ。他の柱穴には柱痕は残されていない。出土遺物はない。



第355図 9号掘立柱建物計画模式図

番号	長径	短径	深さ
1	51	38	44
2	78	55	56
3	74	58	51
4	75	50	55
5	83	62	60
6	40	33	58
7	50	37	29
8	39	39	42
9	34	31	18
10	44	40	34
11	43	37	21
12	37	32	47
13	32	30	21
14	59	53	25
15	85	62	95
16	78	57	69
17	46	45	75
18	43	38	44

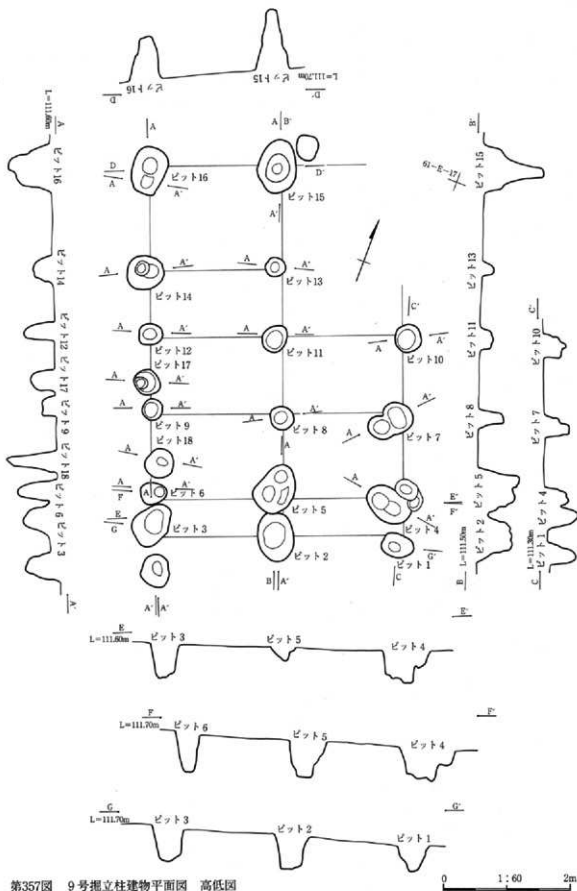
第10表 9号掘立柱建物柱穴計測表



第356図 9号掘立柱建物柱穴土層断面図

9号掘立柱建物 土層観察所見

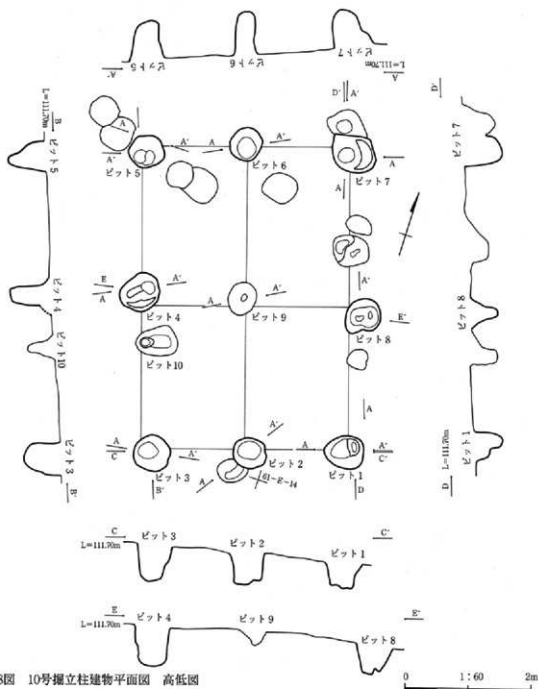
- 1 黒色から黒褐色砂質土。As-C粒を含む。やや密。硬く締まる。
- 2 1層中にローム粒、ローム小ブロックを含む。
- 3 黒褐色砂質土。軽石を含む。



第357図 9号掘立柱建物平面図 高低図

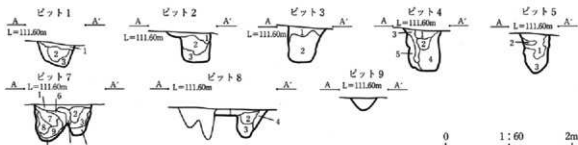
10号掘立柱建物

61-D-14.15/E-13.14.15グリッド 標高111.3mから111.6mの東向き緩傾斜部に立地する。9号掘立柱建物の南西3mにあたり、西には12号、13号掘立柱建物がある。東は3号住居と接するが切り合わない。9号掘立柱建物周辺から南北方向に広がるピット集中部に当たり、覆土に含まないものを抽出している。桁行2間、梁間2間の側柱建物と考えるが、中央の浅いピット9を東柱として総柱建物と考えることもできる。東西3.3m、南北4.7mほどの規模を有する。棟方向はN-18°-Wを示し、9号掘立柱建物と近い。柱穴掘方は比較的大きめで深い筒状を呈す。ソフトロームを10cmから15cmほど掘り込んでいる。出土遺物はない。

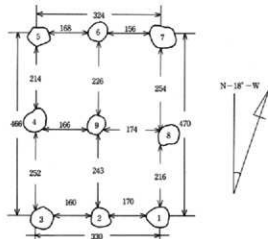


第358図 10号掘立柱建物平面図 高低図

第5章 奈良時代・平安時代以後の遺構と遺物



第359図 10号掘立柱建物柱穴土層断面図



第360図 10号掘立柱建物計測模式図

番号	長径	短径	深さ
1	62	54	48
2	56	50	57
3	59	59	61
4	66	56	73
5	58	52	61
6	54	50	71
7	78	58	61
8	63	55	50
9	54	44	27
10	67	47	43

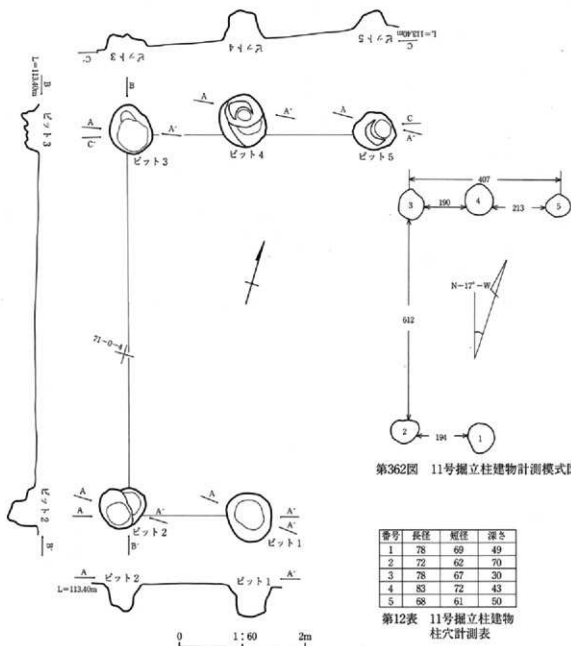
第11表 10号掘立柱建物
柱穴計測表

10号掘立柱建物 土層観察所見

- ピット1 1 暗褐色砂質土 軽石を少量含む。やや密。
2 黒褐色砂質土 軽石を含む。黄、橙色の微砂粒を含む。やや密。
3 2層中にふい黄褐色砂質土（ローム漸移土）を斑状に含む。
- ピット2 1 暗褐色砂質土 軽石を少量含む。やや密。
2 黒褐色砂質土 軽石を含む。径1cmのローム小ブロックをやや多く含む。黄、橙色の微砂粒を含む。やや密。
3 2層のロームブロックが径5cmほど大きい。地裏土か。
- ピット3 1 黒褐色砂質土 軽石を含む。黄、橙色の微砂粒を含む。やや密。
2 1層中に径1cmのローム小ブロックをやや多く含む。
- ピット4 1 暗褐色砂質土 軽石を含む。黄、橙色の微砂粒を含む。やや密。
2 1層中に径1cmのローム小ブロックをやや多く含む。
3 暗褐色砂質土 ローム粒を少量含む。やや密。
4 暗褐色砂質土 ローム粒を含む。やや粗。
5 1層中にふい黄褐色砂質土（ローム漸移土）を斑状に多く含む。
- ピット5 1 暗褐色から黒褐色砂質土 As-C粒を含む。やや密。As-C粒は中位以下に多い。
2 暗褐色砂質土（ローム漸移層）のブロック。
3 暗褐色から黒褐色砂質土 As-C粒を含む。径1cmから3cmのロームブロックを、特に層間や下位にやや多く含む。
- ピット7 1 暗褐色砂質土 軽石を少量含む。やや密。硬く磨まる。
2 暗褐色砂質土 As-C粒を含む。径0.1cmから1cmのローム粒、ローム小ブロックを少量含む。やや密。やや硬い。
3 暗褐色砂質土 As-C粒を含む。径0.1cmから1cmのローム粒、ローム小ブロックを多く含む。やや密。やや硬い。
4 暗褐色砂質土 As-C粒を含む。径0.1cmから1cmのローム粒、ローム小ブロックをやや多く含む。やや密。やや硬い。
5 暗褐色砂質土 径1cmから3cmのローム小ブロックを斑状に多く含む。
6 暗褐色土 As-C粒、ローム粒を少量含む。木根による擾乱か。
7 暗褐色砂質土 As-C粒を多く含む。密で硬い。ブロック状。
8 暗褐色砂質土 軽石を少量含む。やや密。柱痕相当部か。
9 暗褐色砂質土 軽石を少量含む。径0.1cmから1cmのローム粒、ローム小ブロックをまばらに含む。やや密。
10 暗褐色砂質土 径1cmから3cmのローム小ブロックを斑状に多く含む。
- ピット8 1 暗褐色砂質土 軽石を少量含む。やや密。
2 黒褐色砂質土 軽石を含む。黄、橙色の微砂粒を含む。やや密。
3 2層中にふい黄褐色砂質土（ローム漸移土）を斑状に含む。
4 2層中にふい黄褐色砂質土（ローム漸移土）を斑状に多く含む。

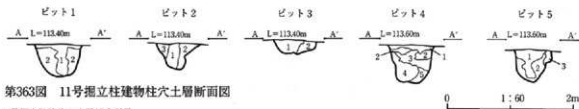
11号掘立柱建物

71-N-3.4/O-4グリッド 標高113.4mから113.6mの台地頂部の平坦面に近いごく緩い東向き傾斜部に立地する。南東部は8世紀後葉の26号住居と重複して、隅柱が確認できていない。本掘立柱建物のほうが新しいとの所見が得られている。桁行1間、梁間2間の側柱建物である。東西4.1m、南北6.1mほどの規模を有する南北棟で、棟方向はN-17°-Wを示す。柱穴掘方は大きめでやや深い。As-Cを混ざる暗褐色から黒褐色土とロームの混土が覆土であり、ピット1、2、5ではローム粒を含む黒褐色砂質土による柱痕線の土層断面が記載される。26号住居覆土からは9世紀前葉~中葉の遺物が出土しており、これらがこの掘立柱建物に伴うものである可能性も考えられる。



第361図 11号掘立柱建物平面図 高低図

第5章 奈良時代・平安時代以後の遺構と遺物



第363図 11号掘立柱建物柱穴土層断面図

11号掘立柱建物 土層観察所見

- ビット1 1 黒褐色砂質土 ローム粒をやや多く含む。緻密で硬く締まる。
 2 As-Cを含む黒褐色砂質土、ローム粒を含む黒褐色砂質土、ロームブロック、にぶい黄褐色砂質土の硬状混土。ロームが特に西側底面に多い。
- ビット2 1 黒褐色砂質土、にぶい黄褐色砂質土、ロームの混土。全体によく攪拌されており、最大径1cm以下。緻密で硬く締まる。
 2 黒褐色砂質土、にぶい黄褐色砂質土、ロームブロックの硬状混土。2cmから3cm大の硬さをなす。ロームがやや多い。
 3 As-Cを含む黒褐色砂質土のブロック。
- ビット3 1 黒褐色砂質土 ローム粒を多く含む。壁際はロームがやや大粒の小ブロック状をなす。緻密でやや硬く締まる。
 2 As-Cを含む黒褐色砂質土、ローム粒を含む黒褐色砂質土、ロームブロック、にぶい黄褐色砂質土の硬状混土。
- ビット4 1 暗褐色砂質土 軽石粒を多く含む。ローム粒を少量含む。
 2 As-Cを多く含む黒褐色砂質土。ローム粒を含む。
 3 にぶい黄褐色砂質土 ローム粒をやや多く含む。
 4 にぶい黄褐色砂質土 ローム硬さを下部に多く含む。
 5 にぶい黄褐色砂質土と径3cm前後のロームブロックの混土。
- ビット5 1 暗褐色砂質土 As-Cを多く含む。にぶい黄褐色砂質土の硬を含む。
 2 As-Cを主体とする軽石を多く含む黒褐色砂質土 ローム粒をやや多く含む。
 3 ソフトロームを主体とし、黒褐色砂質土が混入。掘りすぎか。

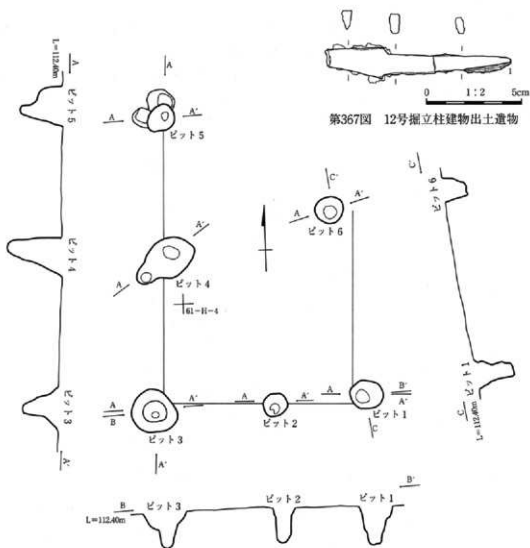
12号掘立柱建物

61-G.H-13.14グリッド 標高112.2mから112.5mの東向き傾斜部に立地する。東に13号掘立柱建物が接し、さらに東には9号・10号掘立柱建物がある。北東の隅柱と北側の棟持柱に相当する柱穴が確認されていない。ビット1・2・5は底部に向かってやや細くなる円筒形の掘方で、柱底部も含めて覆土もよく似ている。ビット3は小さな中段を持って上部が広がり、ビット4は他に比して大きく深い。東辺のビット6は柱通りからはずれ、掘方もやや小さく浅い。建物としての認定がためらわれる部分もあるが、それぞれの柱穴掘方はしっかりしている。一応桁行2間、梁間2間の側柱建物と見ておきたい。東西3.4m、南北4.7mほどの規模を有する南北棟で棟方向はN-3°Eを示す。刀子片が出土している。

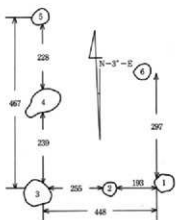
12号掘立柱建物 土層観察所見

- ビット1 1 10YR3/1 黒褐色砂質土 As-Cを含む。
 ローム粒を少量含む。
 2 ロームに1層が張ずる。特に下部はロームが多い。
- ビット2 1 10YR3/1 黒褐色砂質土 As-Cを含む。
 径1cmから2cmローム小ブロックを含む。
 2 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土 径1cm大のローム小ブロックを含む。
- ビット3 1 10YR3/1 黒褐色砂質土 2層を含む。
 軽石を少量含む。やや密。硬く締まる。
 2 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土 径1cm大のローム小ブロックを含む。
- ビット4 1 10YR3/1 黒褐色砂質土。
 2 10YR5/4 にぶい黄褐色土。
 3 崩れたロームの再堆積。
 4 10YR3/1 黒褐色砂質土 As-Cを含む。
 5 1層と2層の混土。
 6 1層とロームブロックの混土。
- ビット5 1 10YR3/1 黒褐色砂質土 2層を含む。軽石を少量含む。やや密。硬く締まる。
 2 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土 径1cm大のローム小ブロックを含む。
- ビット6 1 10YR3/1 黒褐色砂質土 As-Cを含む。緻密でやや硬く締まる。
 2 1層とロームの混土。

第364図 12号掘立柱建物柱穴土層断面図



第365図 12号掘立柱建物平面図 高低図



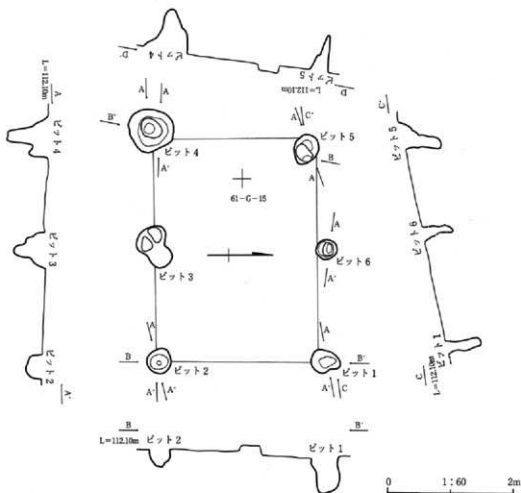
第366図 12号掘立柱建物計測模式図

番号	長径	短径	深さ
1	53	44	67
2	40	35	54
3	77	68	56
4	74	61	90
5	48	40	70
6	45	45	37

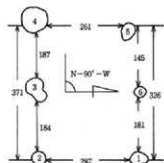
第13表 12号掘立柱建物
柱穴計測表

13号掘立柱建物

61-F.G-14.15グリッド 標高111.9mから112.2mの東向き傾斜部に立地する。西に12号掘立柱建物が接し、東には9号・10号掘立柱建物などがある。桁行2間、梁間1間の側柱建物である。東西3.5m、南北4.2mほどの規模を有する東西棟で、棟方向はN-90°-Wを示す。北辺は柱通りがそろわず、北西隅柱がやや内側による。柱穴掘方は比較的小さく、浅い。ビット1・6は細い筒型の掘方で、他は上方に開く。覆土はAs-Cを混ざる黒褐色砂質土であり、As-Bは含まない。出土遺物はない。



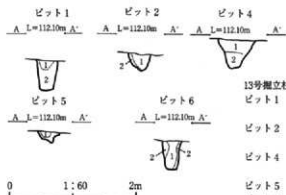
第368図 13号掘立柱建物平面図 高低図



第369図 13号掘立柱建物計測模式図

番号	長さ	幅径	深さ
1	48	36	59
2	40	38	31
3	68	50	43
4	69	66	69
5	50	38	17
6	31	31	46

第14表 13号掘立柱建物
柱穴計測表



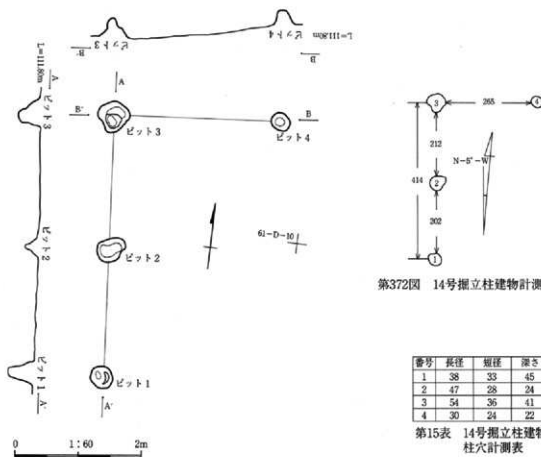
第370図 13号掘立柱建物柱穴土層断面図

13号掘立柱建物 土層観察所見

- ピット1 1 10YR3/1 黒褐色砂質土 As-Cを含む。
 2 1層と径1cm大のローム小ブロックの混土。
- ピット2 1 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒を斑状に多く含む。やや密。
 2 ローム灘が主体。
- ピット4 1 10YR3/1 黒褐色砂質土。
 2 1層とロームの混土。やや密。
- ピット5 1 10YR3/1 黒褐色砂質土 As-Cを含む。
- ピット6 1 10YR3/1 黒褐色砂質土 ローム粒を含む。やや密。硬く締まる。
 2 1層と径1cm大のローム小ブロックの混土。

14号掘立柱建物

61-D-9.10グリッド 標高111.6mから112.0mの東向き傾斜部に立地する。西側に、北に一間ずれる形で15号掘立柱建物がある。南東部の柱穴が確認されていないが、桁行2間、梁間1間の側柱建物の痕跡と判断された。東西2.65m、南北4.14mほどの規模を有する南北棟で、棟方向はN-5°-Wを示す。柱穴掘方は小さく、比較的浅い。ピット1は細く深い筒状の掘方を持ち、ピット3も深い。ピット2とピット4は浅く、U字形のふい掘り込みである。土層観察記録を欠く。出土遺物はない。



第371図 14号掘立柱建物平面図 高低図

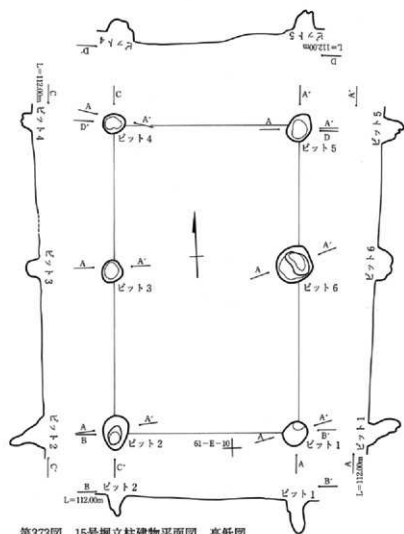
第372図 14号掘立柱建物計測模式図

番号	長径	短径	深さ
1	38	33	45
2	47	28	24
3	54	36	41
4	30	24	22

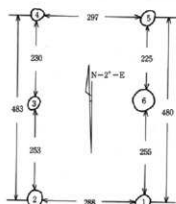
第15表 14号掘立柱建物
柱穴計測表

15号掘立柱建物

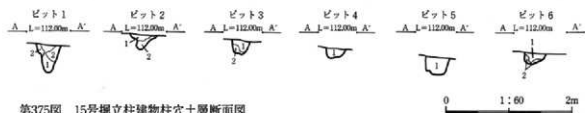
61-D.E-10.11グリッド 標高111.8mから112.2mの東向き傾斜部に立地する。東側に、南に一間ずれる形で14号掘立柱建物がある。桁行2間、梁間1間の側柱建物である。東西2.95m、南北4.9mほどの規模を有する南北棟で、棟方向はN-2°-Eを示す。柱穴掘方は小さく浅めである。ピット1は筒状の掘方を持ち、他はU字型の掘方である。土層観察の所見によると覆土の主体は地山ロームの再堆積土およびブロックであり、最下部の堆積土のみが残ったものと思われる。比較的深いピット1やピット3では黒色土、黒褐色土が残されているが、As-Bは含まない。出土遺物はない。



第373図 15号掘立柱建物平面図 高低図



第374図 15号掘立柱建物
計測模式図



第375図 15号掘立柱建物柱穴土層断面図

3 掘立柱建物・柱穴列

15号掘立柱建物 土層観察所見

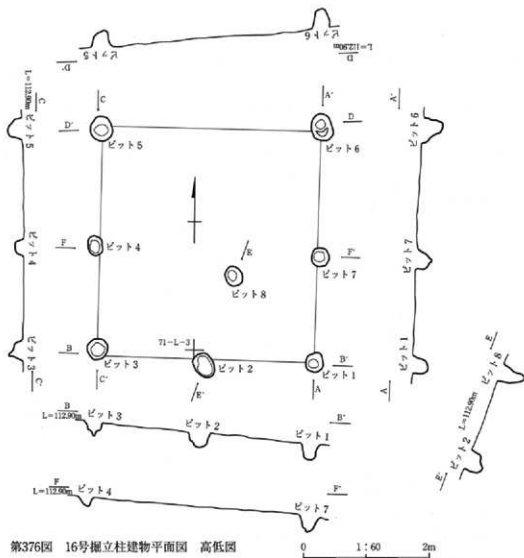
- ピット1 1 10YR3/1 黒褐色砂質土 ローム粒少量含む。やや粗。締まりない。
 2 1層より明るい。大粒のローム粒を多量に含む。
- ピット2 1 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土 As-BPと思われる微砂をやや多く含む。
 2 10YR5/6 黄褐色砂質土 害。やや粘性あり。
- ピット3 1 10YR2/1 黒色砂質土 As-Cを含む。ローム粒少量含む。
 2 にぶい黄褐色砂質土と暗褐色砂質土の混土。下位に径1cm大のローム小ブロックを含む。
- ピット4・5 1 10YR5/4 にぶい黄褐色土と黄褐色ロームの混土。
- ピット6 1 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土 As-BPと思われる微砂をやや多く含む。
 2 ロームブロック。

番号	長径	短径	深さ
1	41	35	55
2	65	39	38
3	35	32	23
4	36	31	16
5	45	35	26
6	56	56	26

第16表 15号掘立柱建物
柱穴計測表

16号掘立柱建物

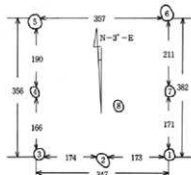
71-KL-2.3グリッド 標高112.9mから113.1mの東向き緩傾斜部に立地する。東に2・4・6・7号掘立柱建物があり、北西に11号掘立柱建物がある。堅穴住居も多い部分だが、この掘立柱建物の周りは遺構の空白域になり、直接切り合う遺構はない。南辺が2間であるが、北辺のピット5と6の間にはピット2に対応する柱が確認できない。桁行2間、梁間2間の南北棟の側柱建物と見るが、東西3.5m、南北3.6mほどと、ほぼ方形に近いが、棟方向は確定しがたい。南北棟と見れば棟方向はN-3°-Eを示す。柱穴はいずれも小さく



第376図 16号掘立柱建物平面図 高低図

第5章 奈良時代・平安時代以後の遺構と遺物

浅い。断面形はにぶいU字型を呈する。As-C 混黒褐色土にローム粒を含む覆土であり、ビット1とビット6には焼土粒が含まれる。As-B は含まれない。ビット8はこの掘立柱建物を構成するものではない可能性があるが、同一の覆土である。出土遺物はない。



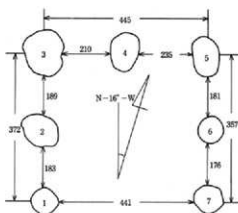
第377図 16号掘立柱建物計測模式図

番号	長さ	短径	深さ
1	33	31	27
2	40	28	27
3	34	32	24
4	30	22	16
5	38	36	27
6	43	33	33
7	30	30	27
8	32	26	38

第17表 16号掘立柱建物
柱穴計測表

17号掘立柱建物

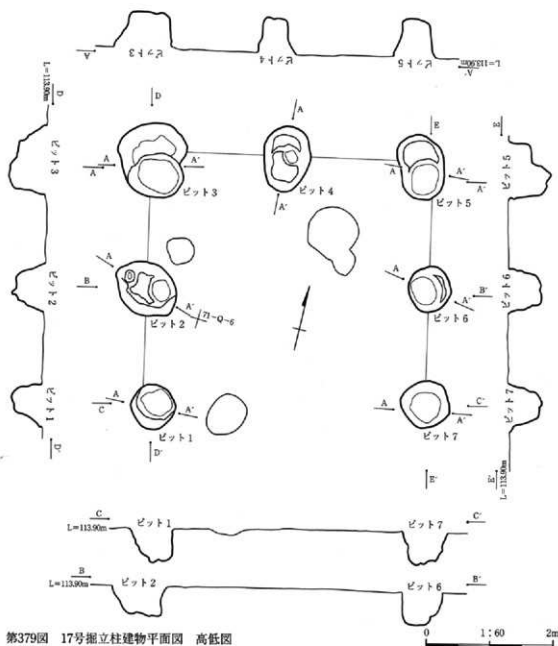
71-P,Q-5.6グリッド 標高113.7mから111.38mの台地頂部に近い東向き緩傾斜部に立地する。東に19号掘立柱建物、38号住居、南東に11号掘立柱建物、26号住居、北西には18号掘立柱建物などがある。南を現水路に切られているため、全容を確認することができない。水路を越えた部分には、ごく痕跡的なビットがいくつかあり、東西辺の延長に当たるかとも思われるが、柱間の距離から見ると南辺柱穴はいずれも水路下にあるものと考えられる。これからすると、桁行3間、梁間2間の南北棟の掘立柱建物で、棟方向はN-16°-Wを示す。東西4.5m、南北は5.5m程度の規模を有するものと思われる。柱穴は総じて大きく深めで、ハードルーム中に掘り込んでいる。北側の3本は長円形、他はほぼ円形の平面形である。ビット6・ビット7では掘方の西壁際に柱痕と思われる締まりの弱い部分があり、掘方の一方に寄せて柱を置き、ソフトルームやロームブロックを含むやや粘性の高い土で充填した状態が観察されている。出土遺物はない。



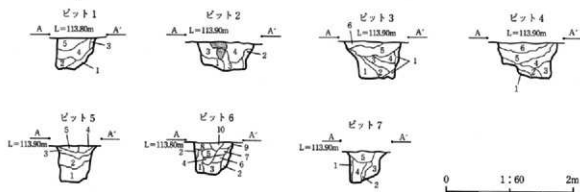
第378図 17号掘立柱建物計測模式図

番号	長さ	短径	深さ
1	68	68	51
2	107	83	46
3	114	109	59
4	104	79	60
5	101	73	63
6	70	66	52
7	80	75	53

第18表 17号掘立柱建物
柱穴計測表



第379図 17号掘立柱建物平面図 高低図



第380図 17号掘立柱建物柱穴土層断面図

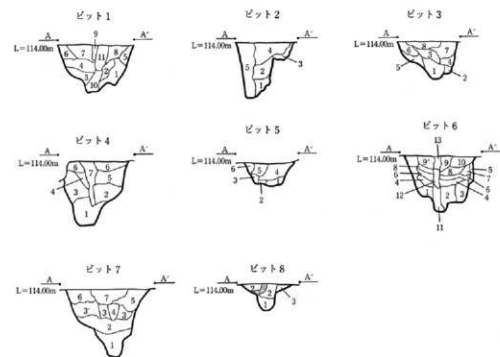
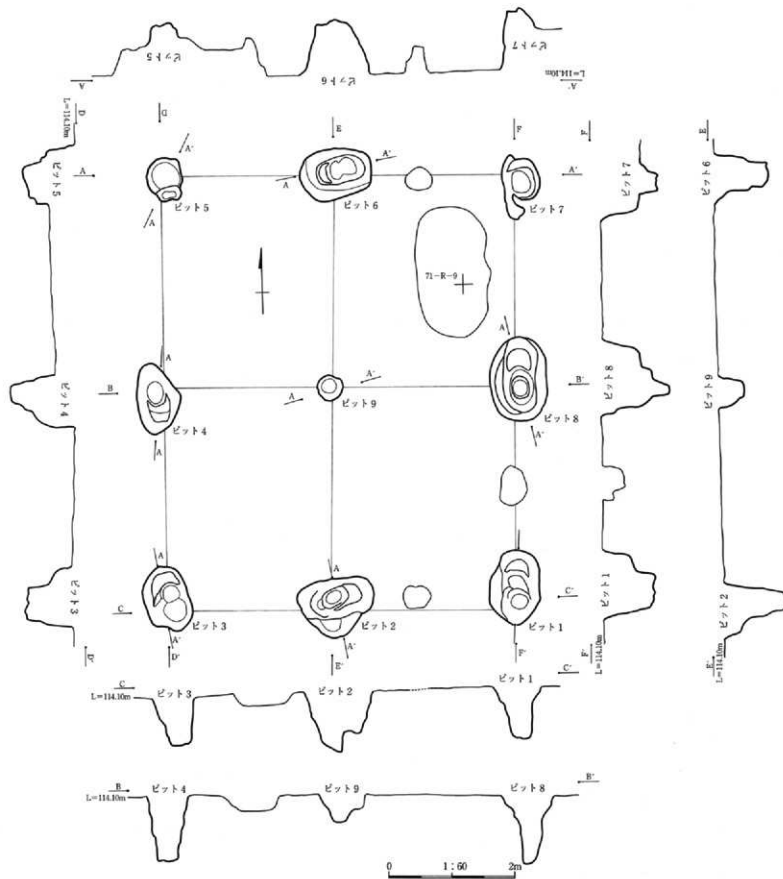
第5章 奈良時代・平安時代以後の遺構と遺物

17号掘立柱建物 土層観察所見

ビット1	1	10YR3/3 暗褐色土	ローム粒、崩れたロームブロックを含む。やや粘質。締まり弱い。
	2	10YR3/2 黒褐色土	ローム粒、ローム小ブロック、As-C、Hr-FAを含む。粘性弱い。やや締まっている。
	3	10YR4/6 褐色土	汚れたロームの再堆積。
	4	10YR2/3 黒褐色土	ローム粒、As-C、Hr-FAを含む。やや砂質。やや締まっている。
	5	10YR2/3 黒褐色土	10YR3/暗褐色土層を多く含む。ローム粒、As-C、Hr-FAを含む。4層より砂質。やや締まっている。
ビット2	1	10YR3/4 暗褐色土	ローム粒、ローム塊を多く含む。
	2	10YR3/4 暗褐色土	汚れたロームの再堆積。
	3	10YR2/3 黒褐色土	ローム粒多く含む。ローム小ブロックを含む。As-C、Hr-FAは含まない。
ビット3	1	10YR2/3 黒褐色土	ローム粒多く含む。As-C、Hr-FAは含まない。
	1	10YR4/3 におい黄褐色土	汚れの少ないソフトロームの再堆積土。壁がハードロームであるため覆土と判断した。1'ハードロームのブロックを含む。
ビット4	2	10YR2/3 黒褐色土	ローム粒、ロームブロックを含む。粘性強い。締まり弱い。
	3	10YR3/2 黒褐色土	ローム粒を多く含む。粘性弱い。締まり弱い。
	4	2層に近いがロームブロックの形が崩れている。	
	5	10YR2/2 黒褐色土	As-C、Hr-FA、焼土粒を含む。やや砂質。やや締まっている。
	6	10YR2/3 黒褐色土	As-C、Hr-FA、ローム小ブロックを含む。やや砂質。やや締まっている。
	1	10YR2/3 黒褐色土	ロームブロックを含む。やや粘質。やや締まっている。
ビット5	2	10YR2/3 黒褐色土	ローム粒、ロームブロックを含む。やや粘質。締まりふつう。
	3	10YR3/4 暗褐色土	ローム粒多く含む。Hr-FAを少量含む。やや粘質。やや締まっている。
	4	10YR2/3 黒褐色土	ローム小ブロック多く含む。As-C、Hr-FAを少量含む。やや粘質。やや締まっている。
	5	10YR3/3 暗褐色土	ローム粒、ローム小ブロックを多く含む。As-C、Hr-FAを少量含む。やや粘質。やや締まっている。
	6	10YR2/2 黒褐色土	ローム粒、ローム小ブロック、As-C、Hr-FAを含む。やや粘質。締まりやや強い。
	ビット6	1	10YR2/3 黒褐色土
2		10YR3/4 暗褐色土	ローム粒、ローム小塊含む。As-C少量含む。
3		10YR2/3 黒褐色土	ローム粒、As-C、Hr-FAを含む。
4		10YR3/4 暗褐色土	ローム粒、As-C含む。砂質。
5		10YR3/3 暗褐色土	ロームブロックを多く含む。
1		10YR2/3 黒褐色土	As-C、Hr-FAを含む。粘性弱い。締まり弱い。
ビット7	2	10YR4/3 におい黄褐色土	汚れの少ないソフトロームの再堆積土。壁がハードロームであるため覆土と判断した。
	3	10YR2/2 黒褐色土	ローム粒、ローム塊含む。やや粘質。締まり弱い。
	4	10YR3/4 暗褐色土	ローム粒多く含む。As-C、Hr-FAを少量含む。やや粘質。やや締まっている。
	5	10YR3/4 暗褐色土	ローム粒多く含む。As-C、Hr-FA、炭化物粒を含む。やや粘質。締まりやや弱い。
	6	10YR2/3 黒褐色土	ローム塊含む。As-C、Hr-FAを少量含む。粘性強い。締まり弱い。
	7	10YR3/4 暗褐色土	ローム粒多く含む。As-C、Hr-FAを少量含む。やや粘質。やや締まっている。
	8	10YR3/3 暗褐色土	ローム粒多く含む。ローム小ブロックを含む。As-C、Hr-FAを少量含む。粘性弱い。やや締まっている。
	9	10YR2/2 黒褐色土	As-C、Hr-FAを含む。焼土粒少量含む。やや砂質。やや締まっている。
	10	10YR4/3 におい黄褐色土	ローム粒、ロームブロックを多く含む。As-C、Hr-FAを少量含む。やや粘質。特に上層は締まり強い。
	ビット7	1	10YR3/4 暗褐色土
2		10YR3/4 暗褐色土	ローム粒、ロームブロック多く含む。
3		10YR2/3 黒褐色土	ローム粒多く含む。As-C、Hr-FAを含む。
4		10YR2/3 黒褐色土	ローム粒少量含む。締まり弱い。柱頭小。
5		10YR2/3 黒褐色土	As-C、Hr-FAを含む。

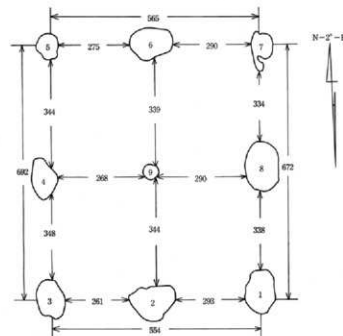
18号掘立柱建物

71-Q.R.S-7.8.9グリッド 標高113.9mから114.0mの台地頂部の平坦面に近い東向き緩傾斜部に立地する。36号住居（6世紀後半）を切り、35号住居（9世紀後半）に切られる。南東に17号掘立柱建物がある。桁行2間、梁間2間の総柱建物で、棟方向はN-2°-Eを示す南北棟である。東西5.6m、南北6.8mほどの規模を有する。側柱の柱穴掘方は総じて大きく深い。ハードローム中に掘り込んでいる。北西のビット5は35号住居床面下にあるため明確でないが、東西両辺の柱穴は長軸を南北に置く長円形で、中段を持って一段深く掘り込まれる。南北辺の中柱に当たるビット2およびビット6は長軸を東西に置く長円形で、やはり中段を持つ。長円形の一端に寄せて柱が据えられている。ビット1・2・4・6では柱痕が残り、ソフトロームやロームブロックを含むやや粘性の高い土で充填する。東柱のビット9は小さく浅い。出土遺物はない。



第382図 18号掘立柱建物柱穴土層断面図

0 1:60 2m



第383図 18号掘立柱建物計測模式図

番号	長径	短径	深さ
1	119	80	82
2	122	94	88
3	107	70	79
4	108	68	103
5	72	54	39
6	113	85	90
7	103	60	53
8	130	91	109
9	42	40	44

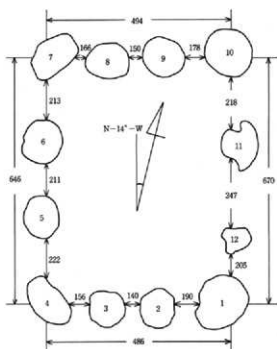
第19表 18号掘立柱建物柱穴計測表

18号掘立柱建物 土層観察所見

- ピット1
- 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒を多く含む。ロームブロックを含む。
 - 10YR4/6 褐色土 やや汚れたロームの再堆積土。
 - 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒を多く含む。やや大粒のロームブロックを含む。
 - 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒、ローム小ブロックを含む。AsCを少量含む。
 - 10YR4/6 褐色土 やや汚れたロームの再堆積土。
 - 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒、ロームブロック、AsC、Hr-FAを含む。
 - 10YR3/4 暗褐色土 汚れたロームの底を多く含む。
 - 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒、ロームブロック、AsC、Hr-FAを含む。
 - 10YR2/3 黒褐色土 ハードロームが砕けたような小ブロックを含む。
 - 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒を含む。締まりなくふかふか。
 - 10YR3/4 暗褐色土 汚れたロームの底を多く含む。締まりない。
- ピット2
- 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒を多く含む。ロームブロックを含む。
 - 10YR4/4 褐色土 ローム粒を多く含む。ロームブロックを含む。
 - 10YR4/6 褐色土 やや汚れたロームの再堆積土。
 - 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒、ロームブロック、AsC、Hr-FAを含む。
 - 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒を含む。締まりなくふかふか。
- ピット3
- 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒を含む。締まり弱い。
 - 10YR4/4 褐色土 やや汚れたロームの再堆積土。
 - 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒、ローム小ブロックを多く含む。
 - 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒、ローム小ブロックを含む。AsCを少量含む。
 - 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒を含む。ロームブロックを少量含む。
 - 10YR4/4 褐色土 ローム粒、ロームブロック主体。
 - 7.5YR2/3 極黒褐色土 ローム粒、ローム小ブロックを含む。AsCを少量含む。
 - 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒、ローム小ブロックを含む。AsCを少量含む。
- ピット4
- 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒、ローム小ブロック多く含む。ローム底含む。やや粘質。締まり強い。
 - 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒、ローム底を多く含む。やや粘質。やや締まる。
 - 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。やや粘質。締まりやや強い。
 - 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒、ローム小ブロックを含む。AsC、Hr-FAを少量含む。やや粘質。やや締まる。
 - 10YR3/4 暗褐色土 4層よりロームブロックを多く含む。
 - 汚れたロームブロック80%、10YR2/3黒褐色土40%の混土。AsC、Hr-FAを多く含む。粘性あり。やや締まる。
 - 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒、ローム小ブロック、AsC、Hr-FAを含む。粘性なし。締まり弱い。
- ピット5
- 10YR2/2黒褐色土と崩れたロームブロックの混土。締まり弱くがさがさ。
 - ロームブロック。
 - 10YR4/4 褐色土 汚れたローム粒、ロームブロックが主体。締まり弱い。
 - 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒、ローム小ブロック10%含む。AsC、Hr-FAを少量含む。やや粘質。やや締まる。
 - 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒多く含む。Hr-FAを少量含む。やや粘質。締まり弱い。
 - 10YR4/6 褐色土 崩れたロームブロック主体。10YR5/4に多い黄褐色粘土ブロックを含む。やや締まる。
- ピット6
- 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒を多く含む。ロームブロックを含む。
 - 10YR4/4 褐色土 ローム粒を多く含む。ロームブロックを含む。
 - 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒を多く含む。やや大粒のロームブロックを含む。
 - 10YR4/4 褐色土 ローム粒主体。
 - 10YR4/6 褐色土 やや汚れたロームの再堆積土。
 - 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒、ローム小ブロックを含む。AsCを少量含む。
 - 10YR4/4 褐色土 汚れたローム粒、ロームブロックの混土。
 - 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒、ローム小ブロックを含む。
 - 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒、ロームブロック、AsC粒、Hr-FAを含む。9' やや大粒のロームブロックを含む。
 - 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒、ロームブロック、AsC粒、Hr-FAを含む。
 - 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒を含む。締まりなくふかふか。
 - 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒を含む。
 - 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒を含む。締まり弱い。
- ピット8
- 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒を含む。ロームブロックを30%含む。やや粘質。締まり弱くがさがさ。
 - 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒を含む。ロームブロックを10%含む。やや粘質。締まり弱い。
 - 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒を含む。ロームブロックを7%含む。AsC、Hr-FAを少量含む。やや粘質。やや締まる。3' ロームブロック3%含む。
 - 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒を含む。ロームブロックを3%含む。AsC、Hr-FAを少量含む。やや粘質。締まり弱い。
 - 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒を含む。ロームブロックを10%含む。AsC、Hr-FAを少量含む。やや粘質。やや締まる。
 - 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒を含む。ロームブロックを3%含む。AsC、Hr-FAを少量含む。やや粘質。やや締まる。
 - 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒を含む。ロームブロックを7%含む。AsC、Hr-FAを少量含む。やや粘質。やや締まる。
- ピット9
- 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒多く含む。ロームブロックを少量含む。粘性弱い。締まり弱い。
 - 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒多く含む。ローム小ブロックを含む。AsC、Hr-FAを少量含む。やや粘質。やや締まる。
 - 10YR4/4 褐色土 ローム底を含む。やや粘質。やや締まる。

19号掘立柱建物

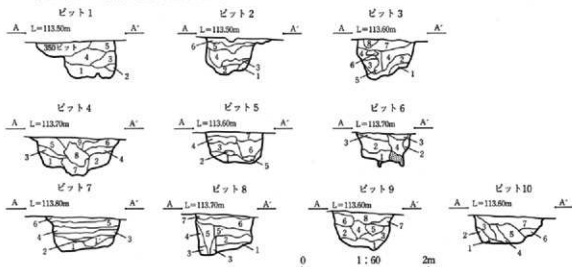
71-N.O-6.7.8グリッド 標高113.4mから113.7mの東向き傾斜部に立地する。38号住居（8世紀前葉）に切られる。南西に17号、北西にやや離れて18号、北東に23号、24号掘立柱建物がある。桁行3間、梁間3間の南北棟の側柱建物である。棟方向はN-14°-Eを示す。東西4.9m、南北6.6mほどの規模を有し、桁行の柱間は2.1m前後で、東辺のピット11-12間がやや広く2.5m弱ある。梁方向の柱間は1.5mから2m弱とやや短い。掘方は総じて大きく、深めである。四隅の柱は長軸を対角線と直交するような方向に傾けた長円形の平面形であるが、他の柱穴掘方はほぼ円形を呈する。土層断面採取位置が適正さを欠くため、柱痕や抜き取り痕を確実に捉えられていないが、ピット3・8には柱痕らしき痕跡が見られる。ピット4・10で見られる土層の傾きや乱れは抜き取りに伴うものかもしれない。出土遺物はないが、ピット4、5周辺には土師器の細片が多数分布する状態が見られた。



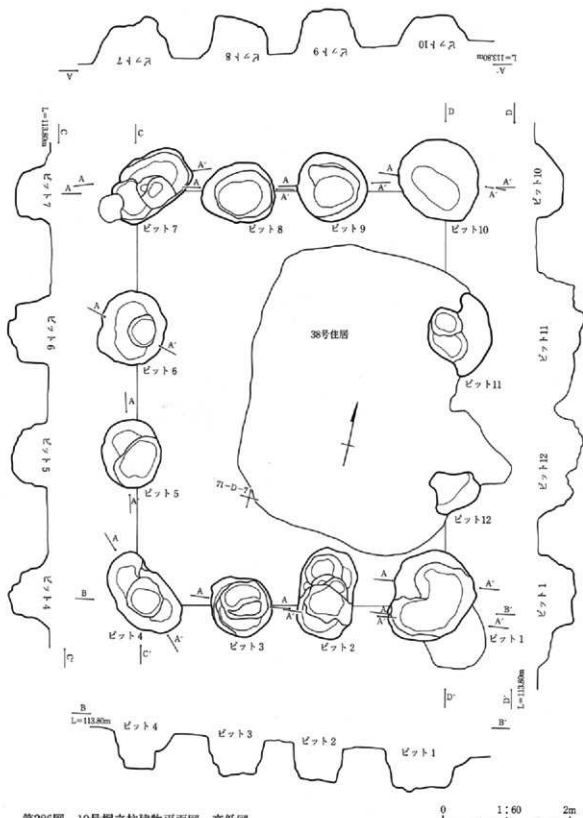
第384図 19号掘立柱建物計測模式図

番号	長径	短径	深さ
1	155	125	65
2	144	86	64
3	103	97	62
4	143	85	65
5	108	94	59
6	115	99	67
7	137	86	69
8	115	96	65
9	112	106	67
10	138	119	48
11	132	99	73
12	80	71	55

第20表 19号掘立柱建物柱穴計測表



第385図 19号掘立柱建物柱穴土層断面図



第386図 19号掘立柱建物平面図 高低図

第5章 奈良時代・平安時代以後の遺構と遺物

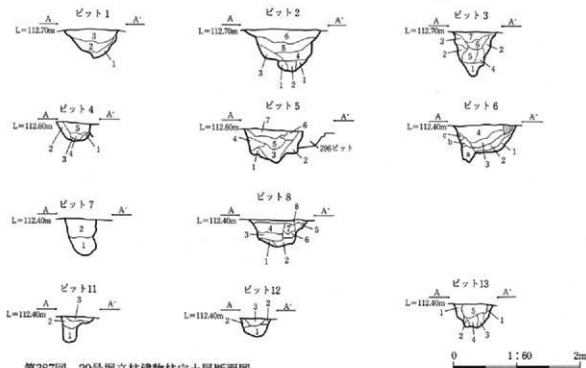
19号独立柱建物 土層観察所見

ビット1	1	10YR4/6 褐色土	ローム粒、ロームブロックを多量に含む。
	2	10YR2/3 黒褐色土	ローム粒を含む。
	3	10YR2/2 黒褐色土	ローム粒、ロームブロックを含む。
	4	10YR4/6 褐色土	ローム粒、ロームブロックを多量に含む。
ビット2	1	10YR3/3 暗褐色土	ローム粒、Hr-FA、As-Cを多量に含む。粘性なし。締まりやや弱い。
	5	10YR5/8 黄褐色土	ロームの再堆積土。粘性弱い。締まりなくばさばさしている。
	2	10YR4/6 褐色土	ローム粒を多量に含む。粘性なし。締まりやや弱い。
	3	10YR4/6 褐色土	ローム粒を多量に含む。ロームブロックを含む。粘性なし。締まりやや弱い。
ビット3	4	10YR3/4 暗褐色土	ローム粒を多量に含む。黒色土を含む。ロームブロックを少量含む。粘性なし。締まりやや弱い。
	5	10YR4/6 褐色土	ローム粒、ロームブロックを多量に含む。
	6	10YR3/3 暗褐色土	ローム粒、Hr-FA、As-Cを多量に含む。粘性なし。締まりやや弱い。
	1	10YR3/4 暗褐色土	ローム粒を含む。ロームブロックを含む。
ビット3	2	10YR2/1黒色土と10YR5/6黄褐色ローム混の混土。	やや締まっている。
	3	10YR3/2 黒褐色土	ローム粒、As-Cを含む。
	4	10YR3/4 暗褐色土	ローム粒を多く含む。ロームブロックを含む。
	5	10YR3/3 暗褐色土	ローム粒を多く含む。炭化物粒を含む。締まりごく弱い。
	6	10YR2/2 黒褐色土	As-C、炭化物粒を含む。
	7	10YR3/3 暗褐色土	ローム粒、ローム小ブロックを多く含む。As-C含む。締まり弱い。
	8	10YR2/2 黒褐色土	As-C、炭化物粒を含む。
ビット4	1	10YR2/1黒色土と10YR5/6黄褐色ローム混の混土。	やや締まっている。
	2	10YR3/3 暗褐色土	ローム粒を多く含む。締まり弱い。
	3	10YR3/2 黒褐色土	ローム粒、As-Cを含む。
	4	10YR3/2 黒褐色土	軽石を多く含むローム粒、As-Cを含む。
	5	10YR3/4 暗褐色土	ローム粒を多く含む。ロームブロックを含む。
	6	10YR3/4 暗褐色土	ローム粒、ロームブロックを多く含む。
	7	2層に似る。炭化物粒を含む。締まりごく弱い。	
	8	10YR3/3 暗褐色土	ローム粒、ローム小ブロックを多く含む。As-Cを含む。締まり弱い。
ビット5	9	10YR2/2 黒褐色土	As-C、炭化物粒を含む。
	1	10YR4/6 褐色土	ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性なし。締まりやや弱い。
	2	Hr-FA、As-Cを含む黒色土のブロック。	
	3	10YR4/6 褐色土	ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性なし。締まりやや弱い。
	4	10YR4/6 褐色土	ローム粒を多量に含む。ロームブロックを少量含む。粘性なし。締まりやや弱い。
	5	10YR5/8 黄褐色土	ロームブロック。
	6	10YR4/4 褐色土	ローム粒、ロームブロックを均質に多量に含む。粘性なし。締まりやや弱い。
ビット6	7	10YR3/3 暗褐色土	ローム粒、Hr-FA、As-Cを多量に含む。粘性なし。締まりやや弱い。
	1	10YR2/1黒色土と10YR5/6黄褐色ローム混の混土。	やや締まっている。
	2	10YR3/4 暗褐色土	ローム粒、ロームブロックを多く含む。
	3	10YR2/2 黒褐色土	As-C、炭化物粒を含む。
ビット7	4	10YR3/3 暗褐色土	ローム粒、ローム小ブロックを多く含む。As-Cを含む。締まり弱い。
	1	10YR2/2黒褐色土40%、ローム粒・ロームブロック60%の混土。	1' 黒褐色土60%、ローム40%の混土。
	2	崩れたロームブロック。	
	3	10YR2/2 黒褐色土	ローム混、ロームブロックを7%含む。As-Cを含む。
ビット8	4	10YR4/4 褐色土	やや汚れたロームの再堆積土が主体。地山上位の汚れたソフトロームとごく近い。
	5	10YR3/4 暗褐色土	ローム粒、ロームブロックを多く含む。
	6	10YR2/3 黒褐色土	As-C、焼土粒、炭化物粒を少量含む。
	1	10YR2/1黒色土と10YR5/6黄褐色ローム混の混土。	ローム混がやや多い。やや締まっている。
	2	10YR3/4 暗褐色土	ローム粒、ロームブロックを多量に含む。
	3	10YR3/3 暗褐色土	ローム粒を多く含む。
ビット9	4	10YR3/4 暗褐色土	ローム粒、ローム小ブロックを多く含む。
	5	10YR2/3 黒褐色土	As-C、ローム粒を含む。5' ローム粒は少ない。ローム混、ローム小ブロックを含む。
	6	10YR3/4 暗褐色土	ローム粒、ローム混を含む。As-C、Hr-FAを含む。締まっている。
	7	10YR2/2 黒褐色土	As-C、炭化物粒を含む。
	1	10YR2/2黒褐色土60%、ローム粒・ロームブロック40%の混土。	
	2	10YR2/2 黒褐色土	ローム混、ロームブロックを7%含む。As-Cを含む。
	3	10YR2/2黒褐色土40%、ローム粒・ロームブロック60%の混土。	
ビット9	4	10YR3/4 暗褐色土	ローム粒を多く含む。締まり弱い。
	5	10YR2/2 黒褐色土	ローム混、ロームブロックを7%含む。As-Cを含む。
	6	10YR2/2黒褐色土40%、ローム粒・ロームブロック60%の混土。	
	7	10YR2/3 黒褐色土	ローム小ブロック、As-Cを含む。
8	10YR2/3 黒褐色土	As-C、焼土粒、炭化物粒を少量含む。	

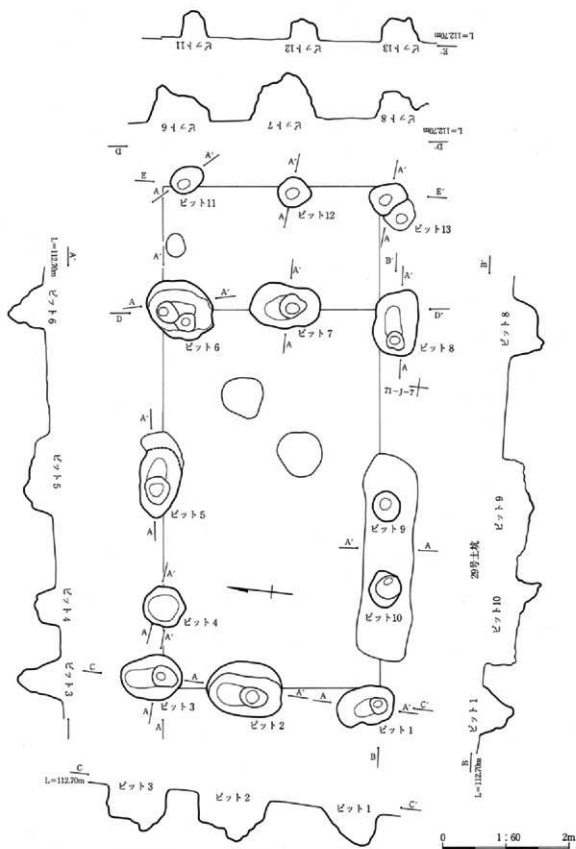
- ピット10 1 10YR2/3 黒褐色土 ロームブロックを多く含む。
 2 10YR4/6 褐色土 崩れたロームの再堆積土。
 3 10YR2/2 黒褐色土 ローム堆、ロームブロックを7%含む。As-Cを含む。
 4 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒、ローム塊を多く含む。As-Cを含む。
 5 10YR3/4 暗褐色土 ローム小ブロック、As-Cを含む。
 6 10YR2/3 黒褐色土 ローム小ブロックを少量含む。As-Cを含む。
 7 10YR2/3 黒褐色土 ローム小ブロックを含む。As-C、焼土粒、炭化物粒を含む。

20号掘立柱建物

71-IJ.K-6.7グリッド 標高112.3mから112.6mの東向き緩傾斜部に立地する。ピット9・10が53号土坑に切られる。2号井戸と重複するが、新旧関係は把握できていない。西に44号住居、北西に46号住居がある。北には22号掘立柱建物がある。桁行3間、梁間2間の側柱建物を母屋とし、東側に庇が付属するものと考え、ピット4および10の位置が変則である。ピット3-4間が1.18mに対しピット4-5間が1.93m、ピット1-10間が1.82mに対しピット9-10間が1.33mと不揃いである。ピット3-5間では3.11mで、ピット1-9間の3.15mとはほとんど変わらない計測値である。ピット1-3、6、7は南北方向に長軸を持つ長円形から隅丸長方形の平面形状を持つ掘方であり、ピット5、8は東西方向に長軸を持つ。比較的大きく深い掘方である。ピット9、10は新しい土坑の底面で確認したものであるために、掘方の平面形が不明であるが、ピット4は円形の平面形であり、この点でも他の柱穴とは異質である。ピット4と10は建物構造に関わらないものとして桁行、梁間ともに2間とすべきであろうか。庇部のピット11-13は円形の平面形で、母屋部分の柱穴に比して小さく、やや浅い。棟方向はN-86°-Eの東西棟で、母屋の東西6.3m、南北3.5m、庇を入れた全体幅では東西8mほどの規模である。この遺構に伴う出土遺物はない。



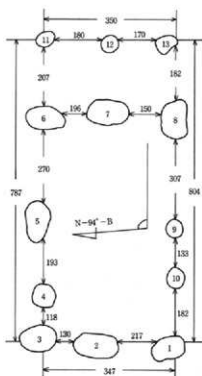
第387図 20号掘立柱建物柱穴土層断面図



第388図 20号掘立柱建物平面図 高低図

20号掘立柱建物 土層観察所見

ビット1	1	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒を含む。粘性ない。締まりやや弱い。
	2	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒、ロームブロックを含む。Hr-FA、As-Cを少量含む。粘性ない。締まりやや強い。
	3	10YR3/4	暗褐色土	Hr-FA、As-Cを多量に含む。焼土粒、ローム粒をわずかに含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
ビット2	1	10YR5/6	黄褐色土	ローム粒、ロームブロックを非常に多く含む。粘性弱い。締まりない。
	2	10YR5/6	黄褐色土	ローム粒、ロームブロックを多く含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
	3	10YR4/6	褐色土	ロームを多く含む。ロームブロックをやや多く含む。粘性弱い。締まりやや強い。
	4	10YR4/6	褐色土	ロームを多く含む。ロームブロックを少量含む。粘性ない。締まりやや弱い。
	5	10YR4/4	褐色土	ローム粒、ロームブロックを少量含む。粘性ない。締まりやや弱い。
ビット3	1	10YR3/4	暗褐色土	Hr-FA、As-Cを多量に含む。焼土粒、ローム粒をわずかに含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
	2	10YR4/3	にぶい黄褐色土	ローム再堆積土。粒子細かい。締まっている。
	3	10YR4/3	にぶい黄褐色土	ローム再堆積土主体。暗褐色土斑を含む。粒子細かい。締まり弱い。
	4	10YR3/3	暗褐色土	ローム小ブロックを含む。As-Cをごく少量含む。やや粘質。やや締まっている。
	5	10YR3/3	暗褐色土	ローム粒を多く含む。As-Cを少量含む。やや粘質。やや締まっている。
	6	10YR2/2	黒褐色土	10YR3/3暗褐色土の円形斑を含む。ローム粒を含む。特にAs-YP粒が目立つ。As-C、Hr-FAを含む。やや粘質。やや締まっている。
ビット4	7	10YR2/3	黒褐色土	As-C、Hr-FAを多く含む。ローム粒を少量含む。粘性ない。やや締まっている。
	1	10YR4/3	にぶい黄褐色土	ローム再堆積土主体。暗褐色土斑を含む。粒子細かい。締まり弱い。
	2	10YR3/4	暗褐色土	ローム斑、As-YP粒を含む。やや粘質。やや締まっている。
	3	10YR2/3	黒褐色土	ローム斑を含む。As-C、Hr-FAを少量含む。やや粘質。やや締まっている。
	4	10YR3/4	暗褐色土	ローム粒を多く含む。焼土粒を含む。As-C、Hr-FAを少量含む。やや粘質。締まりふつう。
ビット5	5	10YR2/3	黒褐色土	As-C、Hr-FAを多く含む。焼土粒を含む。ローム粒を少量含む。粘性ない。やや締まっている。
	1	10YR4/4	褐色土	ローム粒、ロームブロックを少量含む。粘性なし。締まりやや弱い。
	2	10YR3/4	暗褐色土	ローム粒、ロームブロックを少量含む。粘性なし。締まりやや弱い。
	3	10YR3/4	暗褐色土	ローム粒、ロームブロックをやや多く含む。粘性なし。締まりやや弱い。
	4	10YR3/4	暗褐色土	ローム粒を少量含む。粘性なし。締まりやや弱い。
ビット6	5	10YR3/3	暗褐色土	Hr-FA、As-Cを多く含む。ローム粒、ロームブロックを少量含む。炭化物粒、焼土粒をわずかに含む。粘性なし。締まりやや弱い。
	6	10YR3/3	暗褐色土	Hr-FA、As-Cを多く含む。ローム粒、ロームブロックを多く含む。粘性なし。締まりやや強い。
	7	10YR3/3	暗褐色土	Hr-FA、As-Cを多く含む。粘性なし。締まりやや弱い。
	1	10YR3/4	暗褐色土	ローム粒、ローム小ブロックを多く含む。やや粘質。やや締まっている。
	2	10YR3/4	暗褐色土	ローム粒、ローム斑を含む。As-C、Hr-FAを少量含む。やや粘質。締まりふつう。
	3	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒、ローム小ブロックを含む。As-C、Hr-FAを含む。やや粘質。締まりふつう。
	4	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒、As-C、Hr-FAを含む。やや粘質。やや締まっている。
ビット7	a	10YR3/3	暗褐色土	ロームの再堆積土主体。やや粘質。締まり弱い。
	b	10YR3/4	暗褐色土	ローム粒を多く含む。As-C、Hr-FAを少量含む。やや粘質。やや締まっている。
	c	10YR3/3	暗褐色土	ローム粒を多く含む。やや粘質。やや締まっている。
ビット7	1	10YR4/4	褐色土	ローム粒、As-Cを少量含む。
	2	7.5YR3/3	暗褐色土	ローム粒、As-C、Hr-FAを含む。焼土粒をごくわずかに含む。
ビット8	1	10YR4/4	褐色土	ローム再堆積土を主体とする。やや粘質。やや締まっている。
	2	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒を多く含む。ローム斑を含む。やや粘質。締まり弱い。
	3	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒、As-C、Hr-Fを含む。炭化物粒を少量含む。粘性弱い。やや締まっている。
	4	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒、As-C、Hr-FA、焼土粒、炭化物粒を含む。やや粘質。やや締まっている。
	5	10YR3/3	暗褐色土	ローム粒、焼土粒を含む。As-C、Hr-FAを少量含む。粘性なし。やや締まっている。
	6	10YR3/4	暗褐色土	ローム粒、ローム小ブロック、As-C、Hr-FAを含む。炭化物を少量含む。粘性なし。やや締まっている。
ビット11	7	10YR3/4	暗褐色土	ローム粒、ローム斑、As-C、Hr-FA、炭化物粒を含む。粘性なし。締まりやや強い。
	1	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒、ローム小ブロック、As-C、Hr-FAを含む。やや粘質。締まりやや強い。
	2	10YR2/3	黒褐色土	As-C、Hr-FAを少量含む。粘性なし。締まりやや強い。
	3	10YR2/3	黒褐色土	As-C、Hr-FAを多量に含む。粘性なし。やや締まっている。
ビット12	1	10YR3/3	暗褐色土	As-C、Hr-FAを多量に含む。粘性なし。やや締まっている。
	2	2.5YR3/2	黒褐色土	As-C、Hr-FAを少量含む。粘性なし。締まりやや弱い。
ビット13	1	10YR2/3	黒褐色土	ロームブロック、As-C、Hr-FAを含む。粘性なし。締まりやや弱い。
	2	2.5YR3/2	As-C、Hr-FAを少量含む。粘性なし。締まりやや弱い。	
	1	10YR3/3	暗褐色土	炭化物粒少量含む。均質で締まっている。
	2	10YR4/3	にぶい黄褐色土	ローム斑を含む。粘性弱い。締まり弱い。
	3	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒を含む。As-C、Hr-FAを少量含む。やや粘質。締まっている。
	4	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒、ローム斑を含む。焼土粒を少量含む。やや粘質。締まっている。
	5	10YR2/3	黒褐色土	As-C粒、Hr-FA、ロームブロックを含む。やや粘質。締まっている。



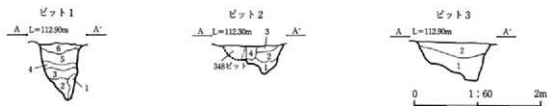
番号	長径	短径	深さ
1	90	61	55
2	121	87	69
3	99	72	72
4	65	63	35
5	111	62	49
6	115	93	58
7	110	81	74
8	103	69	43
9	47	42	57
10	57	52	80
11	55	42	43
12	50	45	36
13	59	45	59

第21表 20号掘立柱建物
柱穴計測表

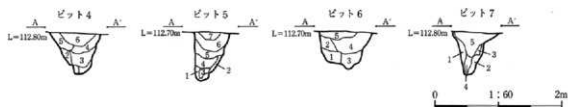
第389図 20号掘立柱建物計測模式図

21号掘立柱建物

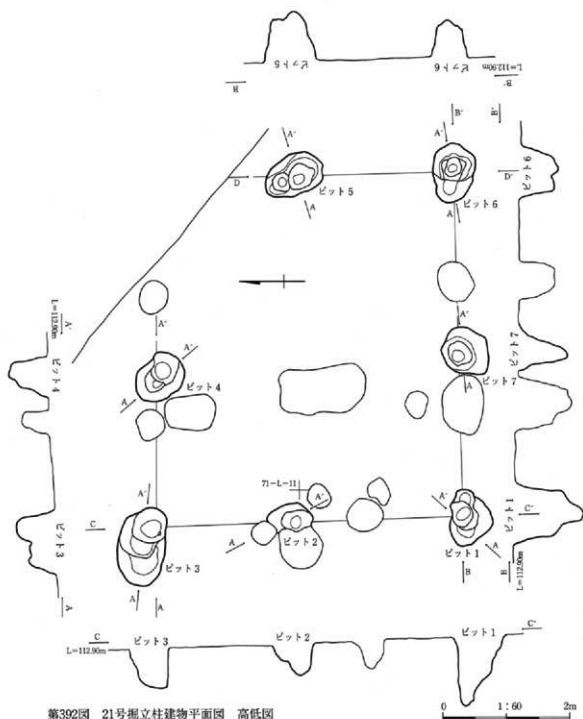
71-J.K.L-10.11グリッド 標高112.6mから112.8mの東向き緩傾斜部に立地する。調査区界にあり、北東隅の柱穴は調査区外になる。西に40・41号住居、南に44号、45号住居があり、南西に23・24号掘立柱建物がある。桁行2間、梁間2間の側柱建物である。東西5.5m、南北5m弱の規模を有する東西棟で、棟方向はN-0°-Eを示す。各柱穴の掘方は比較的大きく深めである。ピット4、7は上面が円形に近い平面形であるが、他はゆがんだ長円形を呈し、その一部をさらに深く掘り下げている。ピット1、5、7では締まりの弱い黒褐色土、暗褐色土が垂直方向に伸びており、柱痕に相当すると思われるが、土層断面が柱中心から外れているため、十分な情報が得られない。ピット1、5の覆土中位から上位部分では、ローム粒、ロームブロックを含む土が水平に充填されたような状態で観察されている。ただ、両ピットともに覆土全体の締まりはさほど強くなく、下位の覆土の締まりはさらに弱い傾向にあり、柱の抜き取りによって乱されたものかとも思われる。8世紀中葉と思われる土師器片が出土している。



第390図 21号掘立柱建物柱穴土層断面図1



第391図 21号掘立柱建物柱穴土層断面図2

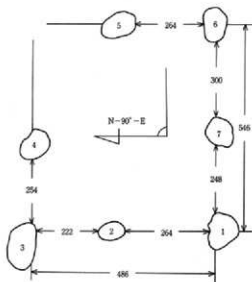


第392図 21号掘立柱建物平面図 高低図

第5章 奈良時代・平安時代以後の遺構と遺物

21号掘立柱建物 土層観察所見

- ビット 1
- 1 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒を含む。粘性なし。締まり弱い。
 - 2 10YR2/3 黒褐色土 ロームブロックを不均質に少量含む。粘性なし。締まりやや弱い。
 - 3 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを不均質に多量に含む。As-C、Hr-FA含む。粘性なし。締まりやや弱い。
 - 4 10YR3/3 暗褐色土 Hr-FA、As-Cを含む。ローム粒を全体に多量に含む。粘性なし。締まりやや強い。
 - 5 10YR2/3 黒褐色土 Hr-FA、As-Cを多量に含む。ローム粒、ロームブロックを不均質に含む。粘性なし。締まりやや強い。
 - 6 10YR4/4 褐色土 Hr-FA、As-Cを含む。ローム粒、ロームブロックを不均質に多量に含む。粘性なし。締まりやや強い。
- ビット 2
- 1 10YR2/1 黒色土 As-C、Hr-FAを多量に含む。ローム粒を少量含む。粘性なし。締まりやや弱い。
 - 2 10YR3/3 暗褐色土 As-C、Hr-FAを多量に含む。ローム粒、ロームブロックを少量含む。粘性なし。締まり弱い。
 - 3 10YR3/2 黒褐色土 As-C、Hr-FAを多量に含む。ローム粒を少量含む。粘性なし。締まりやや弱い。
 - 4 10YR2/1 黒色土 As-C、Hr-FAを多量に含む。粘性なし。締まりやや弱い。
- ビット 3
- 1 10YR2/3 黒褐色土 As-C、Hr-FAを多く含む。ローム粒、ロームブロックを含む。粘性なし。硬く締まっている。
 - 2 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒、ロームブロックを多量に含む。As-C、Hr-FAを含む。粘性弱い。締まっている。
- ビット 4
- 1 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒を多量に含む。粘性なし。締まりやや弱い。
 - 2 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性なし。締まり弱い。
 - 3 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒を少量含む。粘性なし。締まり弱い。
 - 4 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒をやや多く含む。粘性なし。締まりやや弱い。
 - 5 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性なし。締まり弱い。2層が崩れたもの。
 - 6 10YR1.7/1 黒色土 As-C、Hr-FAを多量に含む。ロームブロックを少量含む。粘性なし。締まりやや弱い。
- ビット 5
- 1 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。粘性やや弱い。締まり弱い。
 - 2 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。粘性やや弱い。締まり弱い。
 - 3 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒をわずかに含む。粘性ない。締まりなくボソボソ。
 - 4 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒、ロームブロックを少量含む。粘性ない。締まりやや弱い。
 - 5 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒、ロームブロックを少量含む。粘性やや弱い。締まりやや弱い。
 - 6 10YR3/3 暗褐色土 As-C、Hr-FAを多量に含む。ローム粒、ロームブロックを少量含む。粘性ない。締まりやや弱い。
 - 7 10YR2/3 黒褐色土 As-C、Hr-FAを多量に含む。ローム粒を少量含む。粘性ない。締まりやや弱い。
- ビット 6
- 1 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒、ローム塊を含む。やや粘質。締まり弱い。
 - 2 10YR3/4 暗褐色土 As-C、Hr-FA、ローム粒、ローム小ブロックを含む。やや粘質。やや締まっている。
 - 3 10YR2/3 黒褐色土 ローム塊を7%含む。ローム粒を含む。やや粘質。締まり弱い。
 - 4 10YR2/3 黒褐色土 As-C、Hr-FA、ローム粒を含む。As-Bを含む暗褐色土面を含む。粘性弱い。やや締まっている。
 - 5 10YR2/3 黒褐色土 As-C、Hr-FA、As-Bを含む。ローム粒を少量含む。粘性弱い。やや締まっている。
- ビット 7
- 1 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒を多く含む。やや粘質。やや締まっている。
 - 2 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒を多く含む。ローム小ブロック含む。やや粘質。やや締まっている。
 - 3 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒を多く含む。
 - 4 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒を多く含む。粘性弱い。締まり弱い。
 - 5 10YR3/2 黒褐色土 As-C、Hr-FAを多く含む。ローム粒、ロームブロックを含む。やや粘質。やや締まっている。



第393図 21号掘立柱建物計測模式図



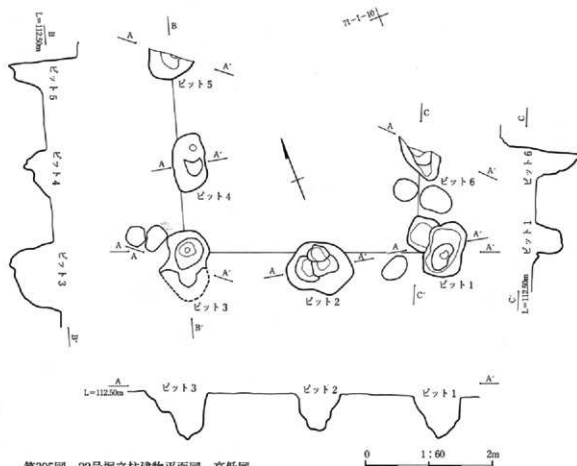
第394図 21号掘立柱建物出土遺物

番号	長径	短径	深さ
1	72	40	49
2	124	76	67
3	86	63	65
4	100	62	82
5	92	66	61
6	85	74	76
7	78	60	112

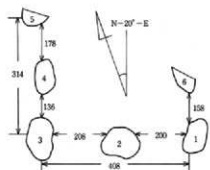
第22表 21号掘立柱建物
柱穴計測表

22号掘立柱建物

71-I-9.10グリッド 標高112.3mから112.4mの東向き緩傾斜部に立地する。西に44号、45号住居、南に20号掘立柱建物がある。調査区界にあり、北辺は調査区外にあたる。南辺は確認された2間以上にはのびないものと思われるが、東辺は1間、西辺は2間分を確認しているものの、全体規模は確定できない。南辺長は4.08m、西辺の確認長は3.14mである。棟方向も確定できないが、東西辺の柱穴間距離が1.36mから1.78mであるのに対し、南辺の柱穴間距離は2mを越える。おそらく南北棟であったものと思われる。西辺の方向はN-20°-Eを示す。本遺跡の掘立柱建物の軸方向としては、他に類似の建物がない。各柱穴の掘方は比較的大きめで、やや深いが、柱痕およびその存在をうかがわせる堆積層は認められていない。西辺壁際のピット5



第395図 22号掘立柱建物平面図 高低図



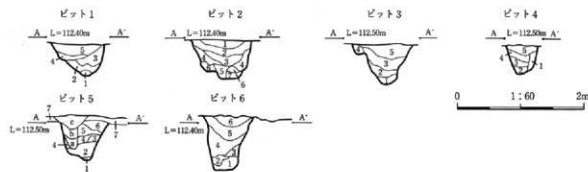
第396図 22号掘立柱建物計測模式図

番号	長さ	幅径	深さ
1	90	56	68
2	106	79	64
3	60	57	75
4	90	51	59
5	76	42	45
6	72	50	63

第23表 22号掘立柱建物
柱穴計測表

第5章 奈良時代・平安時代以後の遺構と遺物

は南部のみの調査であり、最深部を掘り当てていない可能性がある。ビット6も北半が調査区外にあって全形は分からない。南辺中央のビット2はゆがんだ円形の平面形を呈するが、他は長円形に近い平面形である。各柱穴とも下位にロームブロックを主体とする堆積土があり、上位にはAs-C、Hr-FAを含む黒褐色土ないし暗褐色土とローム粒、ロームブロックの混土が堆積する。下位は締まりが弱く、上位は比較的締まった土質である。この遺構に伴う出土遺物は無い。



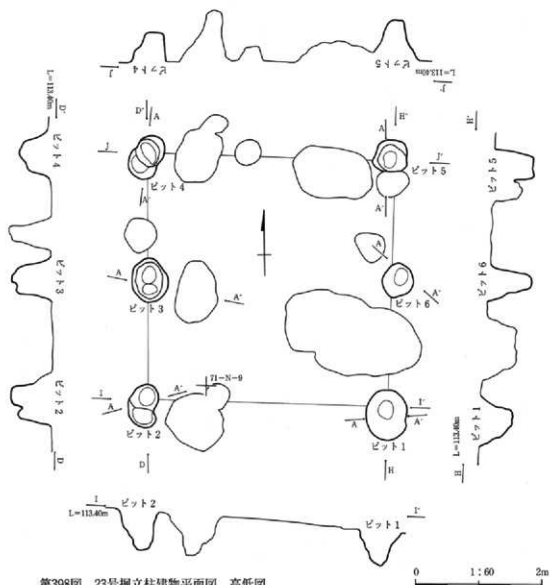
第397図 22号掘立柱建物柱穴土層断面図

22号掘立柱建物 土層観察所見

- | | | | | |
|------|---|---------|---------|--|
| ビット1 | 1 | 10YR5/6 | 黄褐色土 | ローム粒、径3cm以下のロームブロックを密に含む。粘性弱い。締まり弱い。 |
| | 2 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | ローム粒、径3.5cm以下のロームブロックを含む。粘性弱い。締まり弱い。 |
| | 3 | 10YR4/6 | 褐色土 | ローム粒、径1cm以下のローム小ブロックを含む。黒色土ブロックを含む。粘性弱い。締まり弱い。 |
| | 4 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | ローム粒、径3cm以下のロームブロックを含む。As-C、Hr-FAを少量含む。粘性ない。締まりやや強い。 |
| | 5 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | As-C、Hr-FAを多量に含む。ローム粒を含む。粘性ない。締まりやや弱い。 |
| ビット2 | 1 | 2.5Y4/4 | 褐色土 | Hr-FA、As-C、ローム粒を含む。粘性ない。締まりやや強い。 |
| | 2 | 2.5Y3/2 | 黒褐色土 | Hr-FA、As-C粒少量含む。ローム粒、ロームブロック含む。粘性ない。締まりやや強い。 |
| | 3 | 2.5Y3/2 | 黒褐色土 | ローム粒、ローム小ブロック少量含む。テフラを含まない。粘性ない。締まりやや強い。 |
| | 4 | 2.5Y3/3 | 黒褐色土 | ローム粒、ロームブロック含む。テフラを含まない。粘性ない。締まりやや強い。 |
| | 5 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色土 | ローム粒をわずかに含む。粘性弱い。締まりやや強い。 |
| | 6 | 2.5Y4/3 | にぶい黄褐色土 | ローム粒、ロームブロック含む。粘性弱い。締まりやや強い。 |
| | 7 | 2.5Y4/3 | にぶい黄褐色土 | ローム粒、大きめのロームブロック含む。粘性弱い。締まりやや強い。 |
| ビット3 | 1 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | ローム粒、径2cm以下のロームブロックを含む。粘性ない。締まりやや強い。 |
| | 2 | 2.5Y5/6 | 黄褐色土 | ローム粒、ロームブロックを密に多量に含む。粘性弱い。締まりやや強い。 |
| | 3 | 2.5Y4/3 | オリブ褐色土 | ローム粒、ロームブロックを含む。As-C、Hr-FAを少量含む。粘性ない。締まりやや強い。 |
| | 4 | 2.5Y3/2 | 黒褐色土 | ローム粒、焼土粒、炭化物粒を少量含む。粘性ない。締まりやや強い。 |
| | 5 | 2.5Y4/4 | オリブ褐色土 | As-C、Hr-FAを含む。ローム粒、ローム小ブロックを少量含む。粘性ない。締まりやや強い。 |
| ビット4 | 1 | 2.5Y4/3 | オリブ褐色土 | ローム粒、径1cm以下のローム小ブロックを含む。粘性弱い。締まりやや弱い。 |
| | 2 | 2.5Y4/1 | 灰黄色土 | ローム粒を含む。粘性なし。締まりやや弱い。 |
| | 3 | 2.5Y4/3 | オリブ褐色土 | ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性ない。締まりやや強い。 |
| | 4 | 2.5Y4/3 | オリブ褐色土 | ローム粒、ロームブロックを含む。粘性ない。締まりやや強い。 |
| ビット5 | 1 | 10YR3/2 | 黒褐色土 | As-C、Hr-FAを含む。ローム粒を少量含む。粘性ない。締まりやや強い。 |
| | 2 | 10YR4/6 | 褐色土 | ローム粒、ロームブロックを密に多量に含む。粘性弱い。締まりやや弱い。 |
| | 3 | 10YR3/2 | 黒褐色土 | ローム粒、径5mm程度のローム小ブロックを含む。粘性ない。締まりやや弱い。 |
| | 4 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | ローム粒を含む。As-C、Hr-FAを少量含む。粘性ない。硬く締まっている。 |
| | 5 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | ローム粒、径5mm程度のローム小ブロック含む。As-C、Hr-FA少量含む。粘性ない。締まりやや強い。 |
| | 6 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | As-C、Hr-FA、ローム粒、径5mm程度のローム小ブロック含む。粘性ない。締まりやや強い。 |
| | 7 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | As-C、Hr-FA多量、ローム粒、ローム小ブロック中量、焼土粒少量含む。粘性ない。締まりやや強い。 |
| | a | 10YR2/3 | 黒褐色土 | As-C粒、Hr-FAを多量に含む。 |
| | b | 10YR2/3 | 黒褐色土 | ローム粒を少量含む。As-C、Hr-FAをわずかに含む。 |
| | c | 10YR2/2 | 黒褐色土 | ローム粒、As-C、Hr-FAを少量含む。焼土粒をごくわずかに含む。 |
| | c | 10YR2/3 | 黒褐色土 | As-C、Hr-FAを多量に含む。 |
| ビット6 | 1 | 10YR5/8 | 黄褐色土 | ローム粒、ロームブロックを密に多量に含む。粘性ない。締まり弱い。 |
| | 2 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | ローム粒、径3cm以下のロームブロックを含む。粘性ない。締まり弱い。 |
| | 3 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | ローム粒、径0.5cm以下のローム小ブロックを含む。粘性ない。締まり弱い。 |
| | 4 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | As-C、Hr-FAを少量含む。ローム粒、ローム小ブロックを少量含む。粘性ない。締まり弱い。 |
| | 5 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | As-C、Hr-FAを少量含む。ローム粒、ローム小ブロックを少量含む。粘性ない。締まり弱い。 |
| | 6 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | As-C、Hr-FAを多量に含む。ローム粒、ローム小ブロックを含む。粘性ない。締まりやや強い。 |

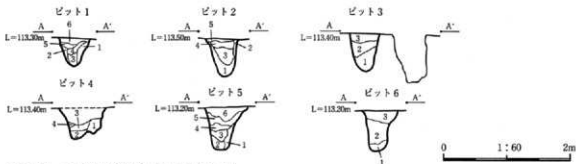
23号掘立柱建物

71-M.N-8.9グリッド 標高112.1mから112.3mの東向き傾斜部に立地する。北に40・41号住居、東に45号住居がある。24号掘立柱建物と重複するが、柱穴の直接的な切り合いはなく、新旧関係は把握できていない。北東に21号、南西に19号掘立柱建物がある。ピットや小土坑が密集する部分にあり、確認面としたローム漸移層上面の土壌はローム小ブロックやローム粒を含んだ乱れた状態で、焼土粒、炭化物粒なども含んでいる。東西、南北ともに3.8mから3.9mほどの規模で、ほぼ方形の平面形を有する南北棟と考える。桁行2間、梁間1間の側柱建物である。棟方向はN3°Eを示す。各柱穴の掘方はゆがんだ円形から楕円形の平面形を呈し、比較的小さめであるが、50cmから70cmほどの深さを持っている。覆土の下位にはローム粒、ロームブロックを混じ、上位はAs-C、Hr-FAを混ざる黒褐色から暗褐色土を主体とし、As-Bは含まない。覆土上位にも炭化物粒、焼土粒を含む柱穴がある。柱痕は認められない。この遺構に伴う出土遺物はない。



第398図 23号掘立柱建物平面図 高低図

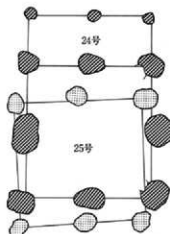
第5章 奈良時代・平安時代以後の遺構と遺物



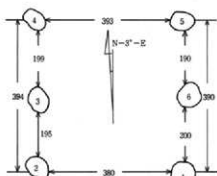
第399図 23号掘立柱建物柱穴土層断面図

23号掘立柱建物 土層観察所見

- ピット1
- 25Y4/3 オリーブ褐色土 As-C, Hr-FAを含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
 - 25Y4/4 オリーブ褐色土 ローム粒を含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
 - 25Y4/3 オリーブ褐色土 ローム粒を含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
 - 25Y4/3 オリーブ褐色土 As-C, Hr-FAを含む。径1cm程度のローム小ブロックを少量含む。粘性ない。締まりやや強い。
 - 25Y3/3 暗オリーブ褐色土 As-C, Hr-FAを含む。粘性ない。締まりやや強い。
 - 25Y3/3 暗オリーブ褐色土 As-C, Hr-FAを多量に含む。炭化物粒、焼土粒をわずかに含む。粘性ない。締まりやや強い。
- ピット2
- 10YR3/4 暗褐色土 ロームの再堆積土。やや粘質。締まりやや強い。
 - 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒、ローム小塊を含む。焼土粒、As-C, Hr-FAを少量含む。やや粘質。締まりやや強い。
 - 10YR2/3 黒褐色土 焼土粒、As-C, Hr-FAを含む。炭化物粒を少量含む。粘性弱い。締まりやや強い。
 - 10YR2/3 黒褐色土 As-C, Hr-FA, 焼土粒、炭化物粒を含む。やや粘質。締まりやや強い。
- ピット3
- 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒を多く含む。やや粘質。締まり弱い。
 - 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒を含む。焼土粒、As-C, Hr-FAを少量含む。粘性弱い。締まりやや強い。
 - 10YR2/3 黒褐色土 As-C, Hr-FAを含む。ローム粒、ローム小ブロックを少量含む。粘性弱い。締まりやや強い。
- ピット4
- 10YK2/3 黒褐色土 ローム粒を少量含む。As-C, Hr-FAをごくわずかに含む。粘性ない。締まり弱い。
 - 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性弱い。締まりやや強い。
 - 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。As-C, Hr-FAをごくわずかに含む。粘性ない。締まりやや弱い。
 - 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒を含む。As-C, Hr-FAを少量含む。粘性ない。締まりやや弱い。
- ピット5
- 10YR5/6 黄褐色土 ロームの再堆積土。粘性弱い。締まり弱い。
 - 10YR4/6 褐色土 ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性ない。締まり弱い。
 - 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。粘性ない。締まり弱い。
 - 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒、ロームブロックを少量含む。粘性ない。締まりやや弱い。
 - 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒を多量に含む。As-C, Hr-FAを少量含む。炭化物をわずかに含む。粘性ない。締まりやや弱い。
 - 10YR2/3 黒褐色土 As-C, Hr-FAを多量に含む。ローム粒、ロームブロックを含む。粘性ない。締まりやや弱い。
- ピット6
- 10YR4/4 褐色土 ローム再堆積土主体。As-C, Hr-FAを少量含む。やや粘質。やや締まっている。
 - 10YR4/4 褐色土 ロームブロックを含む。炭化物粒を含む。As-C, Hr-FAを少量含む。やや粘質。やや締まっている。
 - 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒を多く含む。ロームブロック、As-C, Hr-FAを含む。やや粘質。やや締まっている。



第400図 23-24号掘立柱建物重複概念図



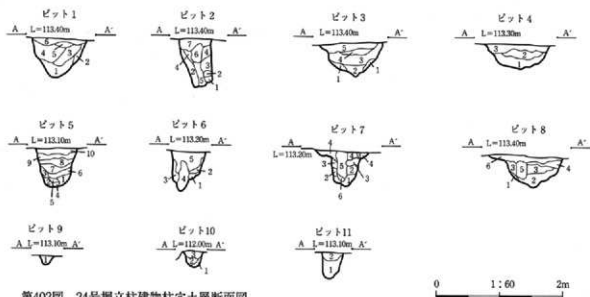
第401図 23号掘立柱建物計測模式図

番号	長径	短径	深さ
1	87	65	58
2	66	43	62
3	70	57	64
4	70	44	48
5	51	49	67
6	55	49	70

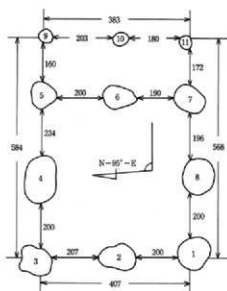
第24表 23号掘立柱建物柱穴計測表

24号掘立柱建物

71-L.M.N-8.9グリッド 標高112.1mから112.3mの東向き傾斜部に立地する。23号掘立柱建物と重複するが、柱穴の直接的な切り合いはなく、新旧関係は把握できていない。周辺遺構および確認面土壌の状況は23号掘立柱建物と等しい。桁行2間、梁間2間の側柱建物で、東に庇が付属する。母屋は東西、南北ともに4m前後の規模で、ほぼ方形の平面形を有する東西棟である。庇を含めた東西長は5.7mほどとなる。棟方向はN-95°-Eを示す。母屋の柱穴は比較的大きく深い。各隅の柱はこれを結ぶ両辺を隅切りするような方向に長軸を持つ長円形の掘方平面を持ち、中間の柱はそれぞれの辺の方向に長軸を持つ長円形の平面形である。ピット2・5・6・7・8では柱痕が認められ、特にピット5・7では柱痕の外側に、ローム混じり土が充填された縞状の堆積が見られる。底部の柱穴は円形の平面形を呈し、小さく、浅い。この遺構に伴う出土遺物はない。



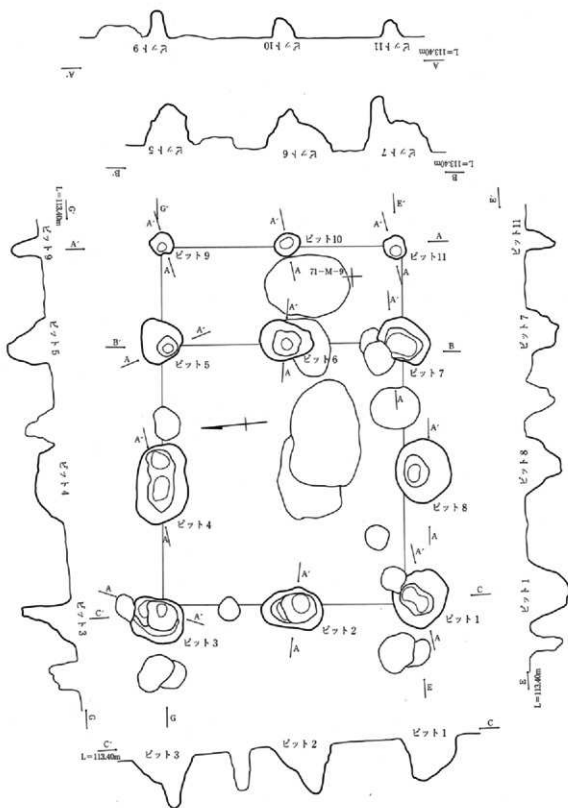
第402図 24号掘立柱建物柱穴土層断面図



第403図 24号掘立柱建物計測模式図

番号	長さ	短径	深さ
1	93	78	66
2	100	64	79
3	92	74	82
4	130	81	43
5	71	66	67
6	86	60	63
7	84	66	43
8	100	90	59
9	39	36	44
10	42	34	31
11	36	36	35

第25表 24号掘立柱建物
柱穴計測表



第404図 24号掘立柱建物平面図 高低図

24号掘立柱建物 土層観察所見

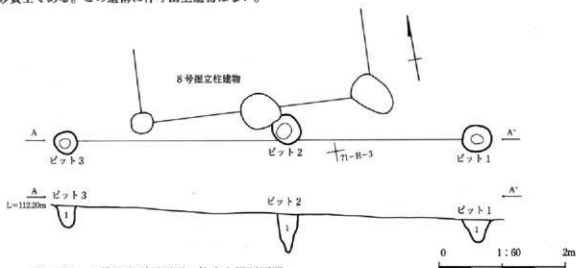
ビット1	1	10YR2/3	黒褐色土	ロームブロックを20%含む。やや粘質。やや締まっている。
	2	10YR4/3	にぶい黄褐色土	ロームの再堆積土。
	3	10YR2/3	黒褐色土	ロームブロックを15%含む。As-C、Hr-FAを少量含む。やや粘質。やや締まっている。
	4	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒、ロームブロックを多く含む。As-C、Hr-FAを少量含む。やや粘質。やや締まっている。
	5	10YR3/3	暗褐色土	ローム粒、ロームブロックを多く含む。As-C、Hr-FAを少量含む。やや粘質。やや締まっている。
	6	10YR3/4	暗褐色土	ローム粒を多く含む。ローム小ブロック、As-C、Hr-FAを含む。やや粘質。やや締まっている。
ビット2	1	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒を少量含む。やや粘質。締まり弱い。
	2	10YR3/4	暗褐色土	ローム小ブロック7%含む。やや粘質。やや締まっている。
	3	10YR2/3	黒褐色土	ローム小ブロック少量含む。やや粘質。やや締まっている。
	4	10YR3/4	暗褐色土	ローム小ブロック5%含む。やや粘質。締まっている。
	5	10YR3/4	暗褐色土	ローム小ブロック7%含む。やや粘質。2層に似た土質だが、締まり弱い。
ビット3	6	10YR3/4	暗褐色土	ローム小ブロック5%含む。やや粘質。4層に似た土質だが、硬く締まっている。
	7	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒、ローム小ブロックを少量含む。As-C、Hr-FAを含む。やや締まっている。
	1	10YR3/4	暗褐色土	ローム灰を含む。やや粘質。やや締まっている。
	2	10YR3/2	黒褐色土	ローム粒、ローム塊を少量含む。やや粘質。締まり弱い。
	3	10YR3/3	暗褐色土	ローム灰を20%含む。やや粘質。やや締まっている。
	4	10YR2/3	黒褐色土	ローム小ブロック3%含む。As-C、Hr-FAを含む。やや粘質。やや締まっている。
	5	10YR2/3	黒褐色土	As-C、Hr-FAを多く含む。ローム粒を少量含む。やや粘質。やや締まっている。
ビット4	1	10YR3/3	暗褐色土	ローム粒、ローム小ブロックを多量に含む。粘性ない。締まりやや弱い。
	2	10YR3/4	暗褐色土	As-C、Hr-FAを多く含む。ローム小ブロック、ローム粒を少量含む。粘性ない。締まりやや弱い。
	3	10YR3/4	暗褐色土	As-C、Hr-FAを多量に含む。As-B、ローム粒を多量に含む。粘性ない。締まりやや弱い。
	4	10YR3/4	暗褐色土	ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性ない。締まり弱い。
ビット5	2	10YR4/6	褐色土	ローム再堆積土。ばさばさしている。粘性弱い。締まり弱い。
	3	10YR4/4	褐色土	ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性ない。締まり弱い。
	4	10YR2/3	黒褐色土	As-C、Hr-FAを多量に含む。ローム粒を含む。粘性弱い。やや締まっている。
	5	10YR3/4	暗褐色土	ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性ない。締まり弱い。
	6	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒、ローム小ブロックを少量含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
	7	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒、ロームブロックを多量に含む。As-C、Hr-FAを少量含む。粘性ない。締まりやや弱い。
	8	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒を含む。As-C、Hr-FAを少量含む。粘性ない。締まりやや弱い。
	9	10YR3/2	暗褐色土	ローム粒、ローム小ブロックを多量に含む。As-C、Hr-FAを少量含む。粘性ない。締まりやや弱い。
	10	10YR2/3	黒褐色土	As-C、Hr-FAを多量に含む。ローム粒を少量含む。粘性ない。やや締まっている。
	ビット6	1	10YR4/6	褐色土
2		10YR4/6	褐色土	ローム粒、ロームブロックを含む。粘性ない。締まりやや弱い。
3		10YR3/3	暗褐色土	ローム粒、ロームブロックを含む。粘性ない。締まっている。
4		10YR3/4	暗褐色土	As-C、Hr-FAを含む。径1cm以下のローム小ブロックを少量含む。粘性ない。締まりやや弱い。
5		10YR3/3	暗褐色土	As-C、Hr-FAを多量に含む。径3cm以下のロームブロック、ローム粒を少量含む。粘性ない。締まっている。
ビット7	1	10YR4/6	褐色土	やや汚れたロームの再堆積土。粘性弱い。粒状化し、締まり弱い。
	2	10YR2/3	黒褐色土	ロームブロック5%含む。ローム粒、焼土粒を含む。締まっている。
	3	10YR2/3	黒褐色土	ロームブロック5%含む。ローム粒、As-Cを含む。
	4	10YR2/2	黒褐色土	As-C、Hr-FA、焼土ブロック、炭化物を含む。
	5	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒、As-C、焼土小塊、炭化物を含む。特に下部は焼土、炭化物が多い。締まり弱い。
	6	10YR3/4	暗褐色土	ローム粒を多く含む。
ビット8	1	10YR4/6	褐色土	やや汚れたロームの再堆積土。粘性弱い。粒状化し、締まり弱い。
	2	10YR3/4	暗褐色土	ローム粒を多く含む。
	3	10YR2/3	黒褐色土	ロームブロック5%含む。ローム粒、As-Cを含む。
	4	10YR2/3	黒褐色土	ロームブロック5%含む。ローム粒、As-Cを含む。締まっている。
	5	10YR2/3	黒褐色土	As-C、炭化物粒、ローム小ブロックを含む。やや締まっている。
	6	10YR2/2	黒褐色土	As-C、Hr-FAを含む。
ビット9	1	10YR2/3	黒褐色土	As-C、Hr-FAを多量に含む。ローム粒をわずかに含む。
ビット10	1	10YR4/6	褐色土	やや汚れたロームの再堆積土。粘性弱い。粒状化し、締まり弱い。
	2	10YR3/3	暗褐色土	ローム粒、ロームブロックを含む。粘性ない。締まりやや弱い。
	3	10YR3/3	暗褐色土	As-C、Hr-FAを多量に含む。ローム粒を少量含む。粘性ない。やや締まっている。
ビット11	1	10YR3/3	暗褐色土	ローム粒、ロームブロックを含む。締まりやや弱い。
	2	10YR3/3	暗褐色土	As-C、Hr-FAを含む。ローム粒を少量含む。粘性ない。締まりやや弱い。

1号柱穴

71-G.H-2.3グリッド 標高111.8mから112.1mの東向き傾斜部に立地する。直線上に並んだ3本のビットで、調査時点では掘と判断されている。中央のビット2が8号掘立柱建物に切られる。等高線に直交するようにのび、方向はN-110°-Eを示す。周辺の掘立柱建物の方向とは一致しない。掘方の平面形はいずれも小さな

第5章 奈良時代・平安時代以後の遺構と遺物

円形を呈す。ビット2が60cmほどと深いが、ビット1・3は35cmほどの深さである。覆土はAs-Cを含む砂質土である。この遺構に伴う出土遺物はない。



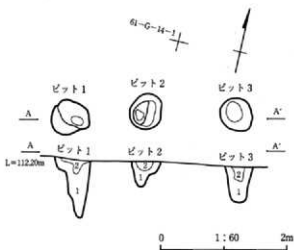
第405図 1号柱穴列平面図 柱穴土層断面図

1号柱穴列 土層観察所見

ビット1・2・3 1 10YR2/3 黒褐色土 10YR3/3暗褐色土を斑状に含む。As-Cを含む。砂質。

2号柱穴列

71-F.G-13グリッド 標高112.1mから112.3mの東向き傾斜部に立地する。北西に12号掘立柱建物、北に13号掘立柱建物がある。等高線に直交する、ほぼ東西方向の直線上に並んだ3本のビットで、方向はN-76°-Eを示す。12号、13号掘立柱建物からこの遺構周辺にかけては、径30cmから50cm大のビットが群在し、この中から東にある9号、10号掘立柱建物に平行または直交し、覆土および掘方が類似するものを抽出して12号、13号掘立柱建物および2号柱穴列を構成するものとしている。この柱穴列が北へ延びて掘立柱建物となる可能性も考えられている。ビット1が最も深く90cmを越え、ビット3も60cm近い深さがある。中間のビット2は40cm弱の深さである。ビット1-2間は95cm、ビット2-3間は160cmある。この遺構に伴う出土遺物はない。



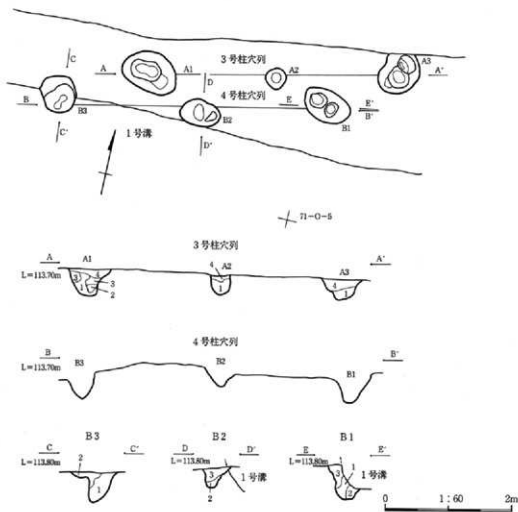
第406図 2号柱穴列平面図 柱穴土層断面図

2号柱穴列 土層観察所見

- ビット1 1 10YR3/1 黒褐色砂質土 やや密。硬く締まっている。
 2 10YR3/4 暗褐色砂質土 径1cm以下のローム粒を多く含む。
 ビット2 1 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土 ローム粒を含む。やや密。
 2 10YR3/1 黒褐色砂質土 As-Cを少量含む。
 ビット3 1 10YR5/3にぶい黄褐色砂質土と2層土の混土。
 2 10YR3/1 黒褐色砂質土 As-Cを少量含む。

3号・4号柱穴列

71-N.O-5 グリッド 標高113.5mから113.6mの台地頂部に近い東向き緩傾斜部に立地する。ごく近接し対置にある2条の柱穴列で、ともに掘立柱建物の一部である可能性がある。北側を3号、南側を4号柱穴列とする。4号柱穴列のピット1が1号溝に切られる。北に17号掘立柱建物、南に11号掘立柱建物があり、ともに両柱穴列と近い方向を持つ。ともに3本のピットからなる。3号柱穴列は中央のピット2が小さな円形の平面形でやや浅いが、ピット1、3は長円形の平面形を有し、比較的深い。ピット1-2間は2.02m、2-3間は1.94mで、N-78°-Eを示す。4号柱穴列は3つのピットともに長円形気味の平面形を持つ。両側のピットは60cm近い深さがあるが、中央のピット2はやや浅く、30cm強しかない。ピット1-2間は2.2m、2-3間は2.08mで、N-79°-Eを示す。この遺構に伴う出土遺物はない。



第407図 3号・4号柱穴列平面図 高低図 柱穴土層断面図

3号・4号柱穴列 土層観察所見

- 3号柱穴列 1 10YR3/1 黒褐色砂質土 径1cm以下のローム粒を少量含む。やや密、硬く締まっている。
 2 10YR3/1 黒褐色砂質土 径1cm大の硬く締まったローム小ブロックを含む。やや密、硬く締まっている。
 3 10YR3/1 黒褐色砂質土 径1cm以下のローム粒を多く含む。やや密、締まりやや弱い。
 4 10YR3/1 黒褐色砂質土 径1cm以下のローム粒を少量含む。やや密、硬く締まっている。
 4号柱穴列 1 10YR3/1 黒褐色砂質土 As-Cを多く含む。にぶい黄褐色砂質土の斑点を少量含む。
 2 10YR3/1 黒褐色砂質土 As-Cを多く含む。径1cm-3cmのローム小ブロックを含む。
 3 10YR3/1 黒褐色砂質土 As-Cを多く含む。にぶい黄褐色砂質土の斑点を含む。

4 井戸・土坑・ピット

井戸

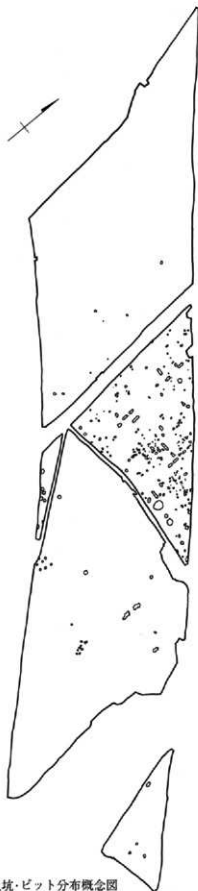
井戸は4基ある。東傾斜部の、堅穴住居や掘立柱建物の集中する部分よりやや東、すなわちやや低い場所で作られている。4基ともに地山井筒である。1号井戸では確認できていないが、2号-4号井戸の湧水点は Hr-FP 層にある。2号井戸が8世紀から9世紀、3号井戸が9世紀後葉、4号井戸は8世紀中葉の遺物を出土している。いずれも覆土からの出土遺物であるが、堅穴住居の造られた年代とは整合する。2号井戸は堅穴状の掘り込みを伴う。3号井戸は覆土最上位や須恵器甕片が集中し、底部からはヒョウタンが出土している。

土坑

土坑は85基を調査した。ほとんどが東向き傾斜部にあり、特に調査区中央北よりに多く認められている。時期を特定しうる遺物を出土したものは少ない。9号土坑と45号土坑から9世紀後葉の、94号土坑から9世紀中葉から後葉の土器が出土し、39号土坑からは石製紡錘車出土している。方形、長方形、円形、楕円形と様々な形態があるが、機能・用途を推し量れるものは少ない。深く、整った長方形の土坑は、いわゆる「芋穴」の類で、ごく新しいものまでもが含まれる。地境に掘られることが多く、地割りに沿った列状の配置をなすかに見える。円形、楕円形土坑の中には掘立柱建物柱穴と類似したものがある。94号土坑は覆土上層から比較的多くの土器を出土している。焼土や炭化物が周囲に広がり、土坑・ピットが集中する位置にある。

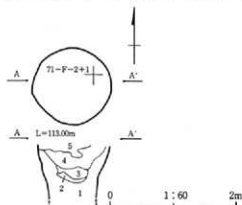
ピット

ピットは221基ある。土坑と同様に、東向き斜面の調査区中央北よりに多く認められている。ただし、南部では黒色土の堆積が厚く、掘削がローム面まで達しない浅いピットは確認できないため、これが本来の分布状況を示すものであるか否かは即断できない。10号ピットから土師器甕片が出土しているのみで、覆土に含まれる As-C、Hr-FA および As-B の状況による推定は可能であるが、他は年代を決するに足る資料がない。



第408図 井戸・土坑・ピット分布概念図

1号井戸 71-E-2グリッド 標高111.5mの東向き緩傾斜部にある。北に21号住居、南東に18号住居がある。円形の平面形を呈し、確認面での上端径1.25m。確認面下0.5mでローム層上面に連するが、その部分まではやや上方に開き、ローム面以下は円筒状を呈し、口径70cm前後となる。ローム下10cm付近がウロ状にはみや、北中央には軸先状の食い込みもある。底部まで掘りきっていないため、全体の深さは捉えられていないが、ボーリングスティックによる探査では確認面下1.8m程度で底部に至るものと見られた。下位の覆土は黒褐色の砂質土で、As-Bを含まない。上位の覆土はAs-Bを含み、ぶい黄褐色土や粗砂のブロックを含む。



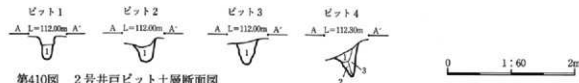
第409図 1号井戸平面図 土層断面図

井戸枠等の設備はなく、素掘りの井戸と見られる。出土遺物はない。

1号井戸 土層観察所見

- 1 10YR3/2 黒褐色砂質土。
- 2 10YR2/2 黒褐色砂質土 ローム粒をまばらに含む。As-Bを含む。
- 3 10YR2/2 黒褐色砂質土 As-Bを含む。
- 4 10YR3/2 黒褐色砂質土 As-Bを全体に含む。径1cm大のぶい黄褐色砂質土(5層)ブロックを層状に含む。粗砂のブロックを層状に含む。
- 5 10YR4/3 ぶい黄褐色砂質土。

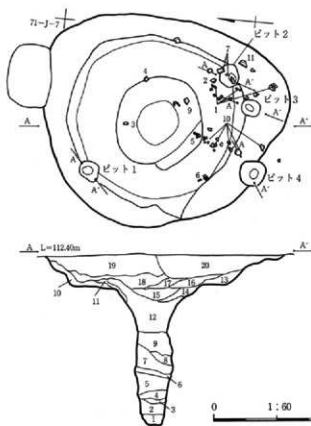
2号井戸 71-IJ-6/1-7グリッド 標高112.3mの東向き緩傾斜部にある。20号掘立柱建物が北に、西に3号、4号井戸がある。東西3.42m、南北3.9m、深さ0.5mほどのゆがんだ円形の平面形を有する堅穴状掘り込みの中央に井戸が掘られている。この掘り込みは、径2.7mほどの円形の底面から、比較的近やかな傾斜を持った壁で上方に開き、底面と井戸本体間は幅50cmほどの狭い平坦面をなす。壁と底面の傾斜変換点近くに井戸本体を挟んで向かい合うようにビット1・2がある。ビット2に隣接するビット3、北辺のビット4ともにローム粒やロームブロックを多量に含んだ褐色土を覆土とし、As-CやHr-FAを含む黒褐色土を含まない。住居の柱穴のようにローム面から掘り込まれたものの覆土と類似するため、この井戸の堅穴状掘り込みに伴うものと判断する。井戸本体は上端径1.38mほどの円形の平面形で、堅穴状掘り込みの底面から50cmほど下に当たるAs-BP相当層まで徐々に狭まって、径49cmほどとなる。この層以下はやや中彫らみになりながらも、円筒状を呈する井筒となる。確認面下2.75m(標高109.67m)まで掘られており、現状での湧水点は確認面下2.3m付近のHr-HP層である。堅穴状掘り込みの覆土から土師器、須恵器の坏、須恵器の壺などが出土している。9世紀中葉まで若干幅を持つが、8世紀中葉を中心とする。



第410図 2号井戸ビット土層断面図

2号井戸 ビット土層観察所見

- ビット1 1 10YR4/6 褐色土 ロームブロックを多量に含む。粘性なし。締まりやや強い。
- ビット2 1 10YR4/4 褐色土 ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性なし。締まり弱い。
- ビット3 1 10YR4/6 褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。粘性なし。締まり弱い。
- ビット4 1 10YR4/4 褐色土 ローム粒を少量含む。粘性なし。締まり弱い。
- 2 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを少量含む。粘性なし。締まり弱い。
- 3 10YR4/6 褐色土 ローム粒を含む。粘性なし。締まり弱い。

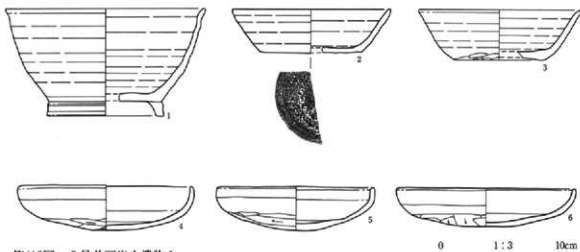


第411図 2号井戸平面図 土層断面図

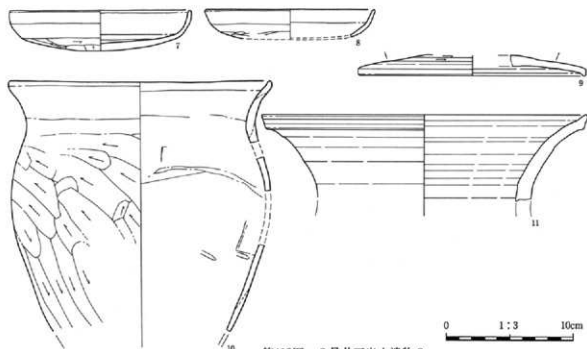
- 12 10YR2/2 黒褐色土 As-C, Hr-FAを少量含む。やや粘質。締まり弱い。
 13 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒を多く含む。As-C, Hr-FAを少量含む。締まり弱い。
 14 10YR2/2 黒褐色土 As-C, Hr-FAを含む。締まり弱い。
 15 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒を含む。As-C, Hr-FAを少量含む。締まり弱い。
 16 10YR2/2 黒褐色土 As-C, Hr-FA, 炭化物粒, 焼土粒を含む。やや粘質。
 17 10YR2/2 黒褐色土 As-C, Hr-FAを含む。やや粘質。締まっている。
 18 10YR2/2 黒褐色土 As-C, Hr-FAをやや多く含む。やや粘質。
 19 10YR2/2 黒褐色土 As-C, Hr-FAを含む。ローム粒を少量含む。As-Bを含む黒褐色土の円形斑を含む。
 20 10YR2/3 黒褐色土 As-Bを含む黒褐色土の円形斑, ローム斑, ローム粒を含む。As-C, Hr-FAを少量含む。

2号井戸 土層観察所見

- 1 ラミナ状に堆積する砂を主体とする。Hr-HP 粒を含む。10YR5/4にぶい黄褐色粘土の小ブロックを含む。硬く締まっている。
 2 10YR2/2 黒褐色土 As-BP から暗色帯への漸移層にかけての地山ロームのブロックを30%含む。粘性強い。締まり弱い。
 3 10YR2/2 黒褐色土 As-BP から暗色帯への漸移層にかけての地山ロームのブロックを40%含む。粘性強い。締まり弱い。
 4 ロームブロック, ローム小ブロックを主体とする。10YR2/2黒褐色土粒を含む。粘性強い。締まり弱い。
 5 ローム小ブロック, ローム斑と10YR2/1黒色土の混土。上位ではロームと黒色土が不明瞭な互層をなす。粘性強い。締まり弱い。
 6 2.5Y2/1 黒色粘質土 ローム小ブロックを少量含む。軽石と思われる白色粒を含む砂層を挟む。粘性強い。締まりやや弱い。
 7 As-BPから暗色帯にかけての地山ロームの小ブロックを主体とし, 10YR2/3黒褐色土の薄層が円の右上から左下にかけて不規則に挟まる。炭化物を含む。締まりやや弱い。
 8 10YR2/3 黒褐色土 ロームブロック, ローム粒を含む。締まりやや弱い。
 9 10YR1.7/1 黒色土 ロームブロックを少量含む。やや粘質。締まりやや弱い。
 10 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒, ローム斑を含む。As-C, Hr-FAをごくわずかに含む。やや粘質。やや締まっている。
 11 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒, ローム小ブロックを含む。As-C, Hr-FAを少量含む。締まり弱い。



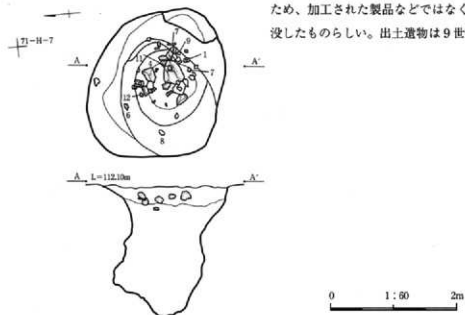
第412図 2号井戸出土遺物 1



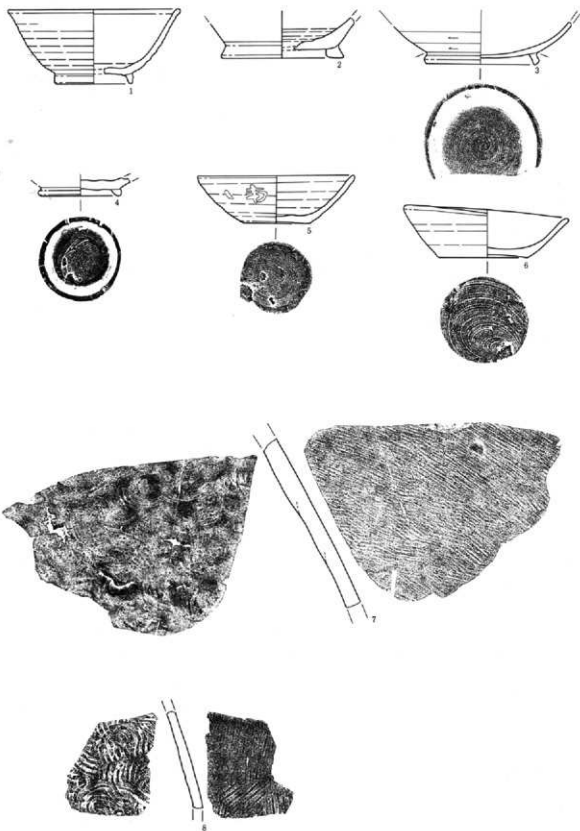
第413図 2号井戸出土遺物 2

3号井戸 71-G.H-6グリッド 標高112.1mの、谷地に近い東向き緩傾斜部にある。西に4号、2号井戸、南に48号住居がある。確認面での平面形は東西2.3m、南北2.2mほどのゆがんだ円形ないし隅丸形状を呈する。確認面からの深さは2.1m（標高109.94m地点）ほどあるが、掘削途中で埋没土および壁が崩落したため、覆土の状況や断面形状を十分に捉えることができなかった。おおよその断面形状は、確認面から70cmほどの位置まで徐々に狭まって、径1mほどの円形となり、以下は挟れて膨らみを持った円筒形であったものと思われる。覆土層にはAs-C、Hr-FAを多く含む黒褐色土中に鏝や須恵器の甕を中心とする土器片が集中している。また、井戸底部には砂と、きめの細かい黒色の泥が堆積し、この中に灰軸片などとともに、ヒョウタンらしき果実、アサ、サンショウ、イネ、ナスなどの種実が認められた。ヒョウタンは種子を伴う

ため、加工された製品などではなく、果実がそのまま埋没したものらしい。出土遺物は9世紀後葉の年代を示す。

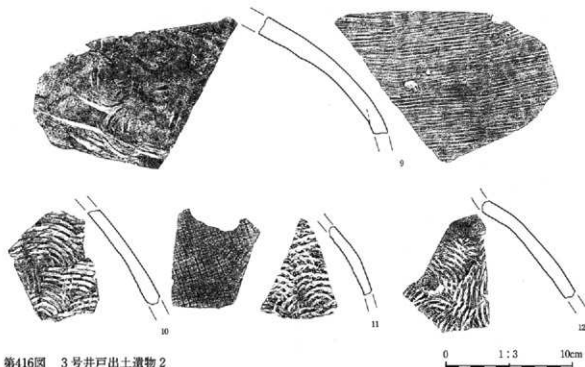


第414図 3号井戸平面図 土層断面図



第415図 3号井戸出土遺物1

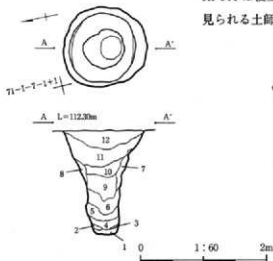
0 1:3 10cm



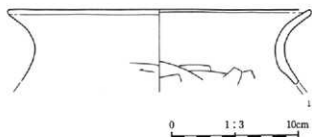
第416図 3号井戸出土遺物 2

4号井戸 71-H-6グリッド 標高112.2mの、谷地に近い東向き緩傾斜部にある。東に3号井戸、西に2号井戸、南に48号住居がある。確認面での平面形は東西1.25m、南北1.3mのややゆがんだ円形を呈する。断面形状は、確認面から80cmほど下に当たる As-BP 相当層から上方に大きく開く漏斗状を呈し、As-BP 相当層上面では径50cmほどの円筒状である。確認面下1.2mほどの深さの、As-BP 層下底から暗色帯にかけての部分にあぐりがある。底部は確認面下1.68m (標高110.56m) にある。鉄分が凝集して塊状に固まった層の中にあり、Hr-HPよりは上位にあたる。2号、3号井戸とは異なる。底面には砂層と、壁から崩落したと見

られるロームの薄層がランダムな互層をなして堆積し、その上位にはローム粒、ロームブロックを含む黒褐色から暗褐色土が載る。As-C、Hr-FAは覆土上位に見られる。出土遺物はごく乏しく、8世紀中葉と見られる土師器甕の口縁片が覆土から出土しているのみである。



第417図 4号井戸平面図 土層断面図



第418図 4号井戸出土遺物

第5章 奈良時代・平安時代以後の遺構と遺物

4号井戸 土層観察所見

- 1 砂とロームのランダムな互層。
- 2 地山ローム (As-BP から暗色帯にかけての漸移層部分) のブロック。
- 3 2.5Y2/1 黒色粘質土 ローム小ブロックを少量含む。礫石と思われる白色粒を含む砂層を挟む。粘性強い。締まりやや弱い。
- 4 10YR1.7/1 黒色土 ロームブロックを少量含む。やや粘質。締まりやや弱い。
- 5 ロームブロック、ローム小ブロックを主体とする。10YR2/2黒褐色土粒を含む。粘性強い。締まり弱い。
- 6 地山ローム (As-BP から暗色帯にかけて) の小ブロックを主体とし、10YR2/3黒褐色土の薄層が不規則に挟まる。炭化物を含む。締まりやや弱い。
- 7 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒を含む。やや粘質。締まり弱い。
- 8 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒を含む。ローム小ブロック少量含む。やや粘質。締まり弱い。
- 9 10YR1.7/1 黒色土 ローム粒を含む。ロームブロックを少量含む。やや粘質。締まりやや弱い。
- 10 10YR2/2 黒褐色土 As-C、Hr-FA をごく少量含む。土粒子が細かく均質。やや粘質。締まりやや弱い。
- 11 10YR2/2 黒褐色土 As-C、Hr-FA を含む。やや粘質。やや締まっている。
- 12 10YR2/2 黒褐色土 As-C、Hr-FA を多く含む。As-B を含む暗褐色土の円形斑を含む。粘性なし。やや締まっている。

土坑

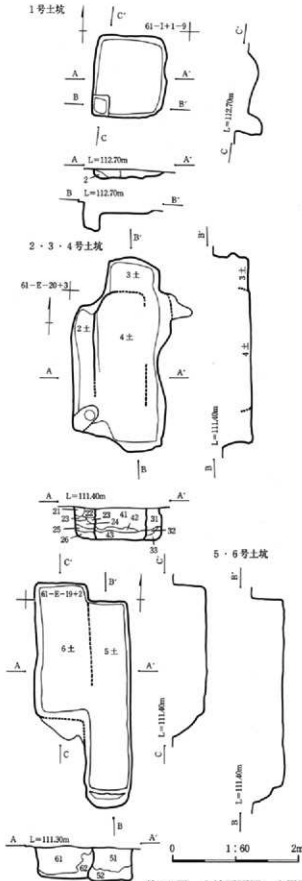
1号土坑 61-I-19グリッド 標高112.6mの東向き傾斜部にある。南北長130cm、東西長116cm、深さ41.4cm。平面形はほぼ方形を呈し、断面形は箱形であるが、南西隅底面に接して一段深くピットが掘られている。ピットは一辺が27cmほどの方形の平面形で、底面からの深さは20cmほどある。覆土は黒褐色から暗褐色土を主体とする。出土遺物はない。

2・3・4号土坑 61-E-20グリッド 標高111.3mの谷地に近い東向き傾斜部にある。土坑が3基重複している。ともに長軸を等高線に平行して南北方向におき、平面形は長方形を呈し、断面形は箱形である。底面の高さもほぼ等しい。南の5・6号土坑も同形状で、同方向に主軸を持って並ぶような位置に当たる。2号土坑は長軸長202cm、短軸確認長30cm、深さ53cm。3号土坑は長軸長293cm、短軸長84cm、深さ53.5cm。4号土坑は長軸長150cm、短軸長80cm、深さ54.5cm。2号→3号→4号の順で掘られている。覆土は全体に砂質で、3基ともに底面には川砂が堆積している。2号土坑から須恵器製の胴部片が出土している。

5・6号土坑 61-E-20グリッド 標高111.3mの谷地に近い東向き傾斜部にある。土坑2基が重複している。ともに長軸を等高線に平行して南北方向におき、平面形は長方形を呈し、断面形は箱形である。底面の高さもほぼ等しい。北の2・3・4号土坑も同形状で、同方向に主軸を持って並ぶような位置に当たる。覆土はローム質のにぶい黄褐色土を主体としている。5号土坑は長軸長326cm、短軸長76cm、深さ52cm。6号土坑は長軸長247cm、短軸長82cm、深さ56cm。西側の6号土坑の方が新しい。出土遺物はない。

41号土坑 71-Q-9グリッド 標高113.8mの東向き傾斜部にある。北西隅で36号住居(古墳時代)を切る。北に同方向の42号土坑、東に2.5m離れてやはり同方向の46号土坑がある。長軸を南北方向におく。長軸長246cm、短軸長96cm、深さ73cm。平面形は長方形を呈し、断面形は箱形である。覆土はロームを多く含む暗褐色から黒褐色土が主体である。出土遺物はない。

42号土坑 71-P-9グリッド 標高113.8mの東向き傾斜部にある。36号住居(古墳時代)の壙を切る。南に同方向の41号土坑、東に2.5m離れてやはり同方向の46号土坑がある。長軸を南北方向におく。長軸長186cm、短軸長84cm、深さ58cm。平面形は長方形を呈し、断面形は箱形である。覆土はローム粒、ローム小ブロッ



第419図 土坑平面図 土層断面図 1

1号土坑土層観察所見

- 1 10YR3/2 黒褐色砂質土 暗褐色土を斑状に含む。As-Cと思われ白色から黄色の軽石粒含む。焼土粒を少量含む。
- 2 10YR3/4 暗褐色土、褐色土を斑状に含む。漸移層が流れ込んだものとする。

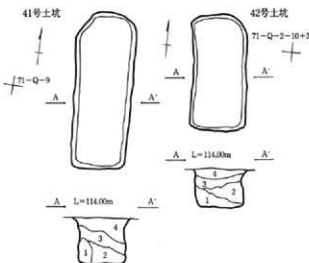
2・3・4号土坑土層観察所見

- 21 軽石を給源とする川砂と黒褐色砂質土の混土。
- 22 1層のうち黒褐色砂質土が主体となるブロック。
- 23 1層のうち、川砂が主のブロック。
- 24 1層と似る。一部互層状をなす。
- 25 川砂層。
- 26 1層と似る。川砂が互層状をなす。
- 31 軽石を多量に含む川砂と黒褐色砂質土の混土。
- 32 不明。
- 33 川砂。
- 41 川砂主体。
- 42 不明。
- 43 川砂主体。

5・6号土坑土層観察所見

- 51 黒褐色砂質土と、軽石を多く含むにぶい黄褐色土の混土。
- 52 軽石を多く含むにぶい黄褐色土。黒褐色砂質土を含む。
- 61 黒褐色砂質土と、にぶい黄褐色土の斑状混土。
- 62 軽石を多く含むにぶい黄褐色土。黒褐色砂質土を含む。

第5章 奈良時代・平安時代以後の遺構と遺物

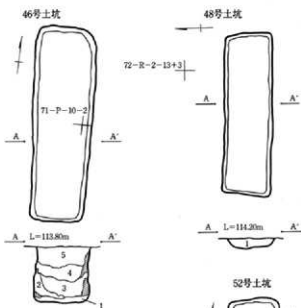


41号土坑土層観察所見

- 1 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒を多く含む。
- 2 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒、ブロック主体。
- 3 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒、ローム大型ブロックを多く含む。黒色土で汚れる。
- 4 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒、黒色土粒、ローム小ブロック、中型ブロックの混土。

42号土坑土層観察所見

- 1 10YR2/3 黒褐色土 粒子の均一な土。ローム小ブロック少量混じる。
- 2 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒、黒色土粒、ローム小ブロック、中型ブロックの混土。
- 3 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒を多く含む。
- 4 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒、ローム大型ブロックを多く含む。黒色土で汚れる。

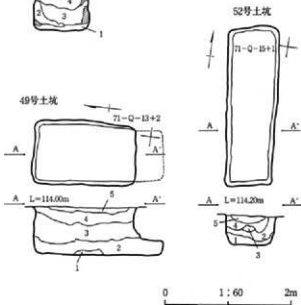


46号土坑土層観察所見

- 1 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒、ローム小ブロックを5%含む。締まり弱い。
- 2 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒、ローム小ブロックを3%含む。
- 3 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒、ローム小ブロックを15%含む。
- 4 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒、ローム小ブロックを10%含む。
- 5 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒、ローム小ブロックを40%含む。締まっている。

48号土坑土層観察所見

- 1 10YR2/3 黒褐色土 ローム小ブロックを含む。As-Cを含む。



49号土坑土層観察所見

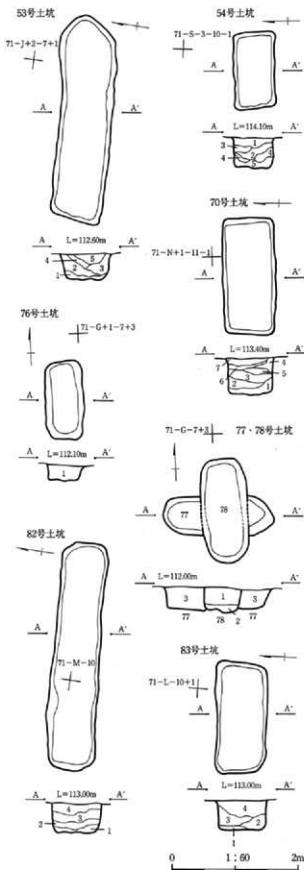
- 1 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒を多く含む。締まりない。
- 2 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを多く含む。
- 3 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒、ローム小ブロックを含む。
- 4 10YR3/4 暗褐色土 ローム小ブロックを多く含む。
- 5 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒、ローム小ブロックを少量含む。

52号土坑土層観察所見

- 1 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを多く含む。やや粘質。締まっている。
- 2 ロームブロック主体。4層をわずかに混ざる。
- 3 10YR2/3 黒褐色土 ローム塊を含む。
- 4 10YR3/4 暗褐色土 As-Bを含む。ローム小ブロックを含む。
- 5 10YR4/4 褐色土 ローム塊を含む。

0 1:60 2m

第420図 土坑平面図 土層断面図2



第421図 土坑平面図 土層断面図3

53号土坑土層観察所見

- 10YR2/3 黒褐色土 ロームブロック3%含む。As-C、Hr-FA、As-Bを含む。粘性なし。やや締まっている。
- 10YR2/3 黒褐色土 大きめのロームブロック少量含む。As-C、Hr-FA、As-Bを含む。粘性なし。やや締まっている。
- 10YR2/3 黒褐色土 ロームブロック5%含む。As-C、Hr-FA、As-Bを含む。粘性なし。やや締まっている。
- 10YR2/3 黒褐色土 ロームブロック3%含む。As-C、Hr-FA含む。As-Bやや多く含む。やや砂質。やや締まっている。
- 10YR2/3 黒褐色土 ロームブロック3%含む。As-C、Hr-FA、As-B含む。粘性なし。やや締まっている。

54号土坑土層観察所見

- 7.5YR4/6 褐色土 ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性ない。締まりやや強い。
- 7.5YR4/6 褐色土 ローム粒、ロームブロックを多量に塊状に含む。粘性ない。締まりやや強い。
- 7.5YR4/6 褐色土 ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性ない。締まりやや強い。
- 7.5YR4/6 褐色土 ローム粒、ロームブロックと黒色土が互層状をなす。粘性ない。締まりやや強い。
- 7.5YR4/6 褐色土 ローム粒、径1cm以下のローム小ブロックを少量含む。粘性ない。締まりやや弱い。

70号土坑土層観察所見

- 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒を多く含む。
- 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒多い。ロームブロック3%。
- 10YR3/4 暗褐色土 ロームブロックの集合層。
- 10YR2/3 黒褐色土 ロームブロック7%。締まっている。
- 10YR2/3 黒褐色土 As-B多く含む。ロームブロック少量。
- 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒多い。ロームブロック3%。
- 10YR3/4 暗褐色土 大型のロームブロックを15%含む。

76号土坑土層観察所見

- 2.5Y3/2 黒褐色土 ローム粒、径1cm程度のローム小ブロックを含む。As-Bを含む。やや砂質。締まり弱い。

77号・78号土坑土層観察所見

- 2.5Y3/2 黒褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。As-Bを含む。粘性ない。締まり弱い。
- 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 ローム粒、ロームブロックを密に多量に含む。粘性ない。締まりやや弱い。
- 2.5Y3/2 黒褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。As-Bを含む。粘性ない。締まり弱い。

82号土坑土層観察所見

- 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒を多く含む。締まり弱い。
- 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒含む。ローム小ブロック少量。
- 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒含む。ローム小ブロック7%。
- 10YR3/3 暗褐色土 ローム小ブロック3%含む。

83号土坑土層観察所見

- 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒を多く含む。ローム小ブロック3%含む。締まり弱い。
- 10YR2/3 黒褐色土 ローム小ブロック5%。やや締まる。
- 10YR2/3 黒褐色土 やや大きいローム小ブロック7%。
- 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒、ローム小ブロック5%。As-C、Hr-FAを少量含む。As-Bと思われる軽石を含む。

クを含む暗褐色から黒褐色土を主体とする。出土遺物はない。

46号土坑 71-P-9グリッド 標高113.7mの東向き傾斜部にある。西に2.5m離れて、41号、42号土坑が同じ長軸方向を持って並ぶ。長軸を南北方向におく。長軸長314cm、短軸長87cm、深さ89cm。平面形は長方形を呈し、断面形は箱形である。覆土はローム粒、ローム小ブロックを含む暗褐色土を主体とし、上位ほどロームブロックの量が多い傾向がある。出土遺物はない。

48号土坑 71-Q-13グリッド 標高114.1mの東向き傾斜部にある。東に2.5m離れて49号土坑がある。長軸を等高線に直行するように東西方向におく。長軸長262cm、短軸長76cm、深さ16cm。平面形は長方形を呈し、断面形は箱形である。覆土はローム小ブロック、As-Cを含む暗褐色土を主体とする。出土遺物はない。

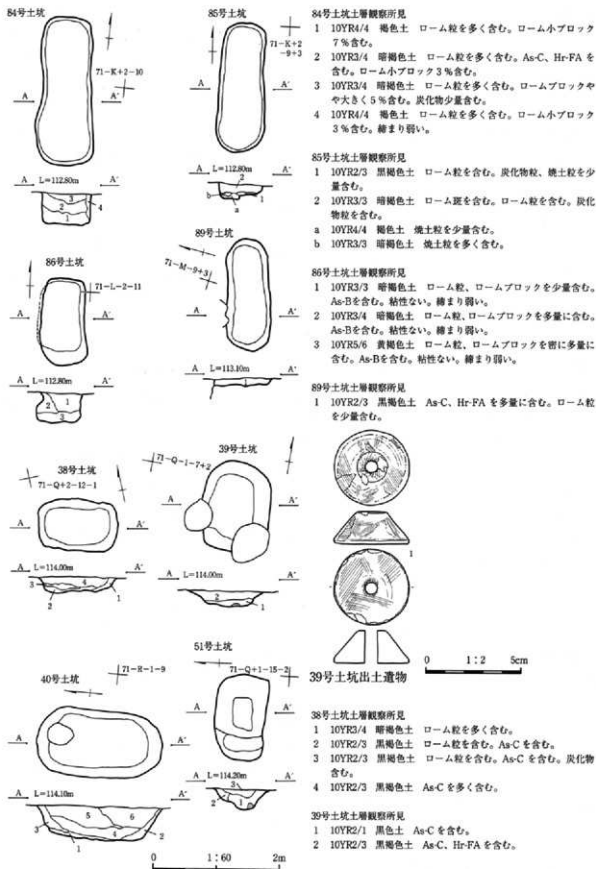
49号土坑 71-P-13グリッド 標高114mの東向き傾斜部にある。西に2.5m離れて南辺と直交する方向に48号土坑がある。北には5.5mほど離れて52号土坑があり、これとは長軸方向がそろって、長軸を南北方向におく。開口部の長軸長162cm。底面は南へトンネル状に張り出しており、底面での長は210cmある。張り出し部は底面から26cmほどの高さがある。短軸長106cm、深さ79cm。平面形は方形を呈し、横断面形は箱形、縦断面形は靴のような形を呈する。ローム粒、ロームブロックを含む暗褐色土で埋没する。出土遺物はない。同形の他の土坑は短軸方向で土層観察を行っているため記録が残っていないが、長軸の一端にロームブロックを多く含んだり、遺構確認面で認められた形状より調査後の長軸が長くなるなどの例を経験している。こうした例は本来、この土坑と同様にトンネル状の張り出しを持った形態であったものかもしれない。

52号土坑 71-Q-15グリッド 標高114mの東向き傾斜部にある。長軸を南北方向におく。長軸長261cm、短軸長74cm、深さ48cm。平面形は整った長方形を呈し、断面形は箱形である。南に5.5mほど離れて49号土坑があり、長軸方向がそろって、覆土はローム粒、ロームブロックを含む暗褐色から黒褐色土を主体とする。覆土中位の上部にAs-Bを含む暗褐色土がある。出土遺物はない。

53号土坑 71-J-7グリッド 標高112.5mの東向き傾斜部にある。20号掘立柱建物に切れる。長軸を等高線に直行するように東西方向におく。長軸長332cm、短軸長81cm、深さ82cm。平面形は長方形を基本とするものと思われるが、特に東端が丸みを帯びている。断面形はわずかに上方に開き気味となるが、箱形である。覆土はローム粒、ロームブロックを含む暗褐色から黒褐色土を主体とし、As-Bが最下位の覆土にも含まれる。出土遺物はない。

54号土坑 71-R-9グリッド 標高114mの東向き傾斜部にある。長軸を東西方向におく。長軸長133cm、短軸長70cm、深さ42cm。平面形は長方形を呈し、断面形は箱形である。覆土はローム粒、ロームブロックを多量に含む褐色土を主体とする。出土遺物はない。

70号土坑 71-N-10グリッド 標高113.3mの東向き傾斜部にある。長軸を東西方向におく。長軸長183cm、短軸長85cm、深さ56cm。平面形は長方形を呈し、断面形は箱形である。覆土はローム粒、ロームブロックを多く含む暗褐色から黒褐色土を主体とする。出土遺物はない。



第422図 土坑平面図 土層断面図4

76号土坑 71-G-7グリッド 標高112mの谷地に近い東向き緩傾斜部にある。77・78号土坑と隣接し、同一軸方向を持つ78号土坑との間は1mに満たない。長軸を南北方向におく。長軸長123cm、短軸長60cm、深さ38cm。平面形は長方形を呈し、断面形は箱形である。覆土はロームブロックとAs-Bを含む黒褐色土を主体とする。出土遺物はない。

77号土坑 71-F-7グリッド 標高112mの東向き傾斜部にある。直交する78号土坑に中央部を切られる。76号土坑と隣接する。長軸を東西方向におく。長軸長176cm、短軸長54cm、深さ45cm。平面形は隅丸長方形を呈し、断面形は箱形である。覆土はローム粒、ロームブロックとAs-Bを含む黒褐色土を主体とする。出土遺物はない。

78号土坑 71-F-7グリッド 標高112mの東向き傾斜部にある。直交する77号土坑を切る。同一軸方向を持つ76号土坑とはほぼ並行する。長軸を南北方向におく。長軸長166cm、短軸長68cm、深さ46cm。平面形は隅丸長方形を呈し、断面形は箱形である。覆土はロームブロックを含む黒褐色から暗オリーブ褐色土を主体とする。最下位の覆土にAs-Bが含まれる。出土遺物はない。

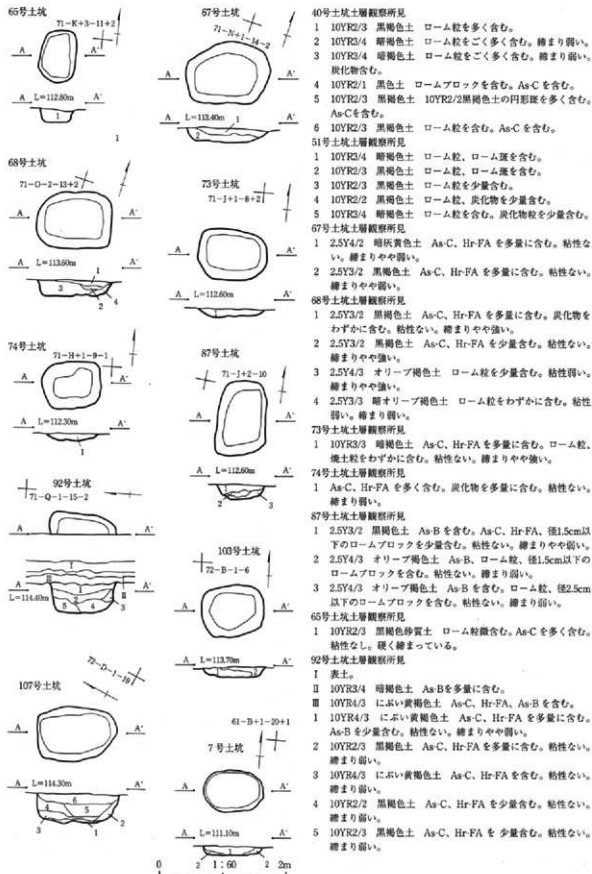
82号土坑 71-L-9グリッド 標高113mの東向き傾斜部にある。40号住居（平安時代）を切る。東に同一軸方向を持つ83号土坑が隣接する。長軸を南北方向におく。長軸長74cm、短軸長216cm、深さ70cm。平面形は長方形を呈し、断面形は箱形である。覆土はローム粒、ローム小ブロックを含む暗褐色から黒褐色土を主体とし、全体にAs-Bと思われる軽石を含む。出土遺物はない。

83号土坑 71-L-10グリッド 標高112.8mの東向き傾斜部にある。西に同一軸方向を持つ82号土坑があり、東には直交方向の軸を持つ84号土坑がある。長軸を東西方向におく。長軸長180cm、短軸長76cm、深さ50cm。平面形は長方形を呈し、断面形は箱形である。覆土はローム粒、ローム小ブロックを含む暗褐色土を主体とする。出土遺物はない。

84号土坑 71-K-9グリッド 標高112.7mの東向き傾斜部にある。西には直交方向の軸を持つ83号土坑があり、東にも東西方向に長軸を持つ長方形土坑の痕跡がある。南の85号土坑、北の86号土坑は同一軸方向を持つ。長軸を南北方向におく。長軸長236cm、短軸長77cm、深さ55cm。平面形は長方形を呈し、断面形は箱形である。ローム粒、ローム小ブロックを含む褐色から暗褐色土で埋没する。出土遺物はない。

85号土坑 71-K-9グリッド 標高112.7mの東向き傾斜部にある。44号、45号住居（平安時代）を切る。北に同一軸方向の84号土坑が並ぶ。長軸を南北方向におく。長軸長207cm、短軸長70cm、深さ20cm。平面形は長方形を呈し、断面形は箱形である。ローム粒、ローム斑を含む暗褐色土、黒褐色土で埋没する。覆土に焼土粒、炭化物が含まれ、底面には焼土粒の多い層も認められた。出土遺物はない。

86号土坑 71-K-10グリッド 標高112.7mの東向き傾斜部にある。南に同一軸方向の84号土坑がある。長軸を南北方向におく。長軸長138cm、短軸長72cm、深さ48cm。平面形はほぼ長方形で、断面は弱い袋状を呈する。ローム粒、ロームブロックを多く含む黄褐色土、暗褐色土で埋没する。覆土にはAs-Bを含む。出



第423図 土坑平面図 土層断面図5

土遺物はない。

89号土坑 71-M-9グリッド 標高113mの東向き傾斜部にある。北に2mほどの間隔を置いて、同一軸方向を持つ73号土坑が平行する。長軸を東西方向におく。長軸長176cm、短軸長64cm、深さ11cm。平面形は長方形を呈し、断面形は皿状である。As-C、Hr-FAを多量に含む黒褐色土で埋没する。出土遺物はない。

38号土坑 71-Q-8グリッド 標高113.9mの東向き緩傾斜部にある。長軸を東西方向におく。長軸長129cm、短軸長74cm、深さ26cm。平面形は隅丸長方形を呈し、断面形は皿状で、底面はやや波打つ。ローム粒とAs-Cを含む暗褐色土で埋没する。出土遺物はない。

39号土坑 71-P-8グリッド 標高113.8mの東向き緩傾斜部にある。長軸を南北方向におく。長軸長165cm、短軸長99cm、深さ25cm。平面形はゆがんだ隅丸長方形を呈し、断面形は皿状である。As-C、Hr-FAを含む黒色から黒褐色土で埋没する。覆土から石製紡錘車出土している。

40号土坑 71-R-9グリッド 標高114mの東向き傾斜部にある。長軸を南北方向におく。長軸長199cm、短軸長94cm、深さ58cm。平面形は隅丸長方形を呈し、断面形はほぼ逆台形である。ローム粒を多く含む黒褐色から暗褐色土で埋没し、一部に炭化物粒を含む。出土遺物はない。

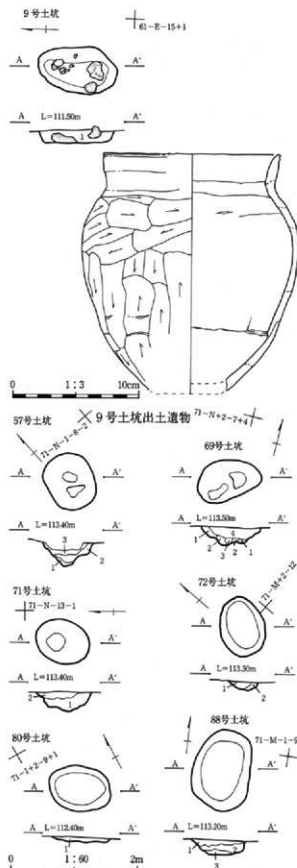
51号土坑 71-Q-14グリッド 標高114.1mの東向き傾斜部にある。長軸を南北方向におく。長軸長130cm、短軸長84cm、深さ41cm。平面形は隅丸長方形を呈し、断面形はほぼU字形である。ローム粒を含む暗褐色から黒褐色土で埋没し、一部に炭化物を少量含む。出土遺物はない。

67号土坑 71-N-13グリッド 標高113.3mの東向き傾斜部にある。長軸を南北方向におく。長軸長136cm、短軸長85cm、深さ23cm。平面形は隅丸長方形を呈し、断面形は皿状である。覆土にはAs-C、Hr-FAを多く含む。出土遺物はない。

68号土坑 71-N-13グリッド 標高113.4mの東向き傾斜部にある。長軸を東西方向におく。長軸長121cm、短軸長81cm、深さ27cm。平面形は隅丸長方形を呈し、断面形は箱形である。覆土にはAs-C、Hr-FAを多く含む。出土遺物はない。

73号土坑 71-J-8グリッド 標高112.5mの東向き傾斜部にある。長軸を東西方向におく。長軸長110cm、短軸長76cm、深さ18cm。平面形は隅丸長方形を呈し、断面形は皿状である。覆土にはAs-C、Hr-FAを多く含む、ローム粒、焼土粒をわずかに含む。出土遺物はない。

74号土坑 71-H-8グリッド 標高112.2mの東向き傾斜部にある。長軸を東西方向におく。長軸長94cm、短軸長74cm、深さ16cm。平面形は隅丸長方形を呈し、断面形は皿状である。覆土は炭化物を多量に含む、As-C、Hr-FA混土を主体とする。出土遺物はない。



第424図 土坑平面図 土層断面図 6

103号土坑土層観察所見

- 10YR3/1 黒褐色土 As-C, Hr-FA, As-Bを含む。炭化物粒を多く含む。
- 10YR2/2 黒褐色土 As-Bを含む。炭化物粒を多く含む。

107号土坑土層観察所見

- 10YR4/4 褐色土 崩れた地山ロームの再堆積土。炭化物粒、焼土粒を含む。
- 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロックを含む。
- 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒、As-Cを含む。
- 10YR2/3 黒褐色土 ローム塊、As-Cをやや多く含む。
- 10YR2/3 黒褐色土 As-C, Hr-FAを多く含む。
- 10YR2/3 黒褐色土 As-C, Hr-FA, 炭化物粒を多く含む。

7号土坑土層観察所見

- 黒色土 As-Cを多く含む。焼土粒少量含む。
 - 黒色土 As-Cを含む。1層よりやや暗い。
- 1層と2層との境に薄い砂質が挟まる。

9号土坑土層観察所見

- 10YR2/2 黒褐色砂質土 密。やや硬く締まっている。

57号土坑土層観察所見

- 10YR4/6 褐色土 崩れたロームの再堆積。
- 10YR2/3 黒褐色土 ロームブロックを多く含む。
- 10YR3/4 暗褐色土 ローム小ブロックを含む。As-Cを含む。

69号土坑土層観察所見

- 10YR4/3 ぶい黄褐色土 再堆積ローム。
- 10YR3/3 暗褐色土 再堆積ローム主体。As-C, Hr-FAを少量含む。やや粘土。やや締まっている。
- 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒を多く含む。2層のしまったブロックを含む。攪乱か。
- 10YR2/1 黒色土 As-C, Hr-FAを多く含む。特にFAが目立つ。焼土粒を少量含む。やや砂質。やや締まっている。

71号土坑土層観察所見

- 10YR4/4 褐色土 やや粘質。やや締まっている。
- 10YR2/3 黒褐色土 炭化物を少量含む。やや粘質。やや締まっている。

79号土坑土層観察所見

- 10YR2/3 黒褐色土 As-C, Hr-FAを多量に含む。粘性ない。締まりやや強い。
- 黒色土 木炭を多く含む。焼土等の混入はない。また、土坑底面も覆っていない。粘性ない。締まりやや強い。

80号土坑土層観察所見

- 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 As-C, Hr-FAを多量に含む。焼土粒をわずかに含む。粘性ない。締まり弱い。

88号土坑土層観察所見

- 10YR3/3 暗褐色土 As-C, Hr-FAを多量に含む。粘性ない。締まりやや強い。
- 10YR3/3 暗褐色土 As-C, Hr-FAを含む。粘性ない。締まりやや強い。
- 10YR3/4 暗褐色土 As-C, Hr-FAを少量含む。粘性ない。締まりやや強い。

第5章 奈良時代・平安時代以後の遺構と遺物

87号土坑 71-J-9グリッド 標高112.5mの東向き傾斜部にある。長軸を南北方向におく。長軸長129cm、短軸長78cm、深さ24cm。平面形は隅丸長方形を呈し、断面形は皿状である。覆土はローム粒、ロームブロック、As-C、Hr-FA、As-Bを含む黒褐色、オリーブ褐色土を主体とする。出土遺物はない。

65号土坑 71-K-11グリッド 標高112.7mの東向き傾斜部にある。長軸を南北方向におく。長軸長84cm、短軸長52cm、深さ26cm。平面形は隅丸長方形を呈し、断面形は箱形である。覆土はAs-Cを多く含む黒褐色砂質土を主体とする。出土遺物はない。

92号土坑 71-S-14グリッド 標高114.3mの台地頂部の平坦面に近い東向き緩傾斜部にある。長軸を南北方向におく。長軸長106cm、短軸長31cm、深さ22cm。平面形は隅丸長方形を呈し、断面形は箱形である。短軸は確認長である。覆土はAs-C、Hr-FAを多く含む暗褐色から黒褐色土が主体で、As-Bは遺構確認面より上位では認められるものの、遺構覆土には含まれない。出土遺物はない。

103号土坑 72-A-6グリッド 標高113.6mの西向き緩傾斜部にある。長軸を東西方向におく。長軸長100cm、短軸長77cm、深さ17.5cm。平面形は隅丸長方形を呈し、断面形は皿状である。覆土はAs-C、Hr-FA、As-Bのほか、炭化物粒を多く含む黒褐色土を主体とする。出土遺物はない。

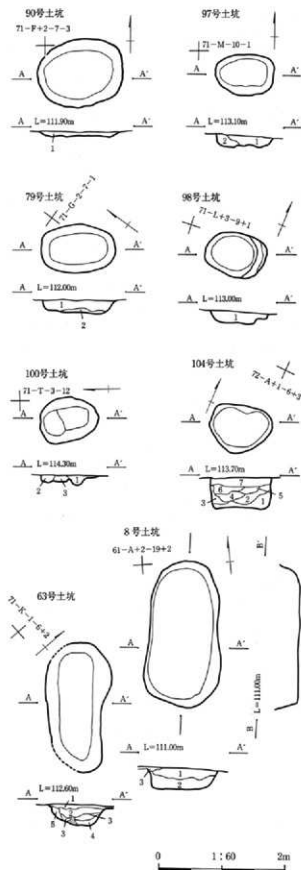
107号土坑 72-D-18グリッド 標高114.2mの台地頂部に近い西向き緩傾斜部にある。長軸を東西方向におく。長軸長124cm、短軸長80cm、深さ50.5cm。平面形は隅丸長方形を呈し、断面形は箱形である。覆土はローム粒、ロームブロックのほか、As-C、Hr-FA、炭化物粒、焼土粒を含む暗褐色から黒褐色土が主体である。出土遺物はない。

7号土坑 61-B-20グリッド 標高111mの谷地に近い東向き傾斜部にある。長軸を東西方向におく。長軸長96cm、短軸長66cm、深さ14.5cm。平面形は楕円形を呈し、断面形は皿状である。覆土はAs-C、焼土粒を含む黒褐色土で、中位に薄い砂質土の層が挟まる。出土遺物はない。

9号土坑 61-E-15グリッド 標高111.4mの東向き傾斜部にある。長軸を南北方向におく。長軸長126cm、短軸長72cm、深さ25.9cm。平面形は楕円形を呈し、断面形はほぼ逆台形である。覆土は硬く締まった黒色砂質土で、礫が多く含まれ、このなかに磨石が含まれていた。9世紀後葉と見られる土師器甕の口縁から胴部にかけての破片が出土している。

57号土坑 71-M-7グリッド 標高113.3mの東向き傾斜部にある。長軸を南北方向におく。長軸長156cm、短軸長74cm、深さ46cm。平面形は変形の長円形を呈し、北部が浅く、南部は一段深いビット状をなす。覆土はローム小ブロック、As-Cを含む暗褐色から黒褐色土が主体である。出土遺物はない。

69号土坑 71-N-7グリッド 標高112.9mの東向き傾斜部にある。長軸を東西方向におく。長軸長104cm、短軸長56cm、深さ51cm。平面形は楕円形を呈し、断面形は皿状である。覆土はAs-C、Hr-FAを含む暗褐色土を主体とし、表層には焼土粒を少量含む。出土遺物はない。



90号土坑土層観察所見

- 5Y3/2 オリーブ黒色土 焼土をごくわずかに含む。As-Bを含む。粘性ない。締まり弱い。

72号土坑土層観察所見

- 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 As-C、Hr-FAを多量に含む。粘性ない。締まりやや弱い。
- 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 As-C、Hr-FAを少量含む。粘性ない。締まりやや弱い。

98号土坑土層観察所見

- 10YR2/2 黒褐色土 As-C、Hr-FAを多量に含む。焼土、炭化物をごくわずかに含む。粘性ない。締まりやや弱い。
- 10YR3/3 暗褐色土 白色軽石粒、ローム粒を少量含む。粘性ない。締まりやや弱い。
- 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性ない。締まりやや弱い。

100号土坑土層観察所見

- 10YR2/3 黒褐色土 As-C、Hr-FAを多量に含む。粘性ない。締まりやや弱い。
- 10YR2/3 黒褐色土 As-C、Hr-FAを多量に含む。1層より黄色が強い。粘性ない。締まりやや弱い。
- 10YR2/2 黒褐色土 As-C、Hr-FAを多量に含む。粘性ない。締まりやや弱い。

104号土坑土層観察所見

- 10YR4/3 ぶい黄褐色壤土 ローム粒、ローム塊を主体とする。締まり弱い。
- 10YR2/4 暗褐色壤土 ローム塊を含む。締まり弱い。
- 10YR3/4 暗褐色壤土 ローム粒を多く含む。締まり弱い。
- 10YR2/3 黒褐色壤土 ローム塊を含む。As-C、Hr-FAを含む。
- 10YR2/3 黒褐色壤土 ローム粒を多く含む。As-C、Hr-FAを含む。
- 10YR4/3 ぶい黄褐色壤土 ローム粒、ローム塊を主体とする。締まり弱い。
- 10YR2/3 黒褐色壤土 As-C、Hr-FAを含む。

8号土坑土層観察所見

- 黒色土 As-Cを多く含む。焼土粒少量含む。
- 黒色土 As-Cを含む。1層よりやや暗い。
- 黒色砂質土 As-Cを多く含む。

63号土坑土層観察所見

- 10YR2/3 黒褐色土 白色軽石粒、橙褐色軽石粒を少量含む。粘性ない。締まっている。
- 10YR3/3 暗褐色土 白色軽石粒、橙褐色軽石粒を少量含む。粘性ない。締まっている。
- 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒を少量含む。粘性ない。締まっている。
- 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。粘性ない。締まっている。
- 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒を少量含む。粘性ない。締まっている。

第425図 土坑平面図 土層断面図 7

第5章 奈良時代・平安時代以後の遺構と遺物

71号土坑 71-N-12グリッド 標高112.8mの東向き傾斜部にある。長軸を南北方向におく。長軸長88cm、短軸長54cm、深さ21cm。平面形は楕円形を呈し、断面形はほぼU字形である。覆土はやや粘性のある褐色土、黒褐色土を主体とし、炭化物を少量含む。出土遺物はない。

79号土坑 71-F-6グリッド 標高111.8mの谷地に近い東向き緩傾斜部にある。長軸を南北方向におく。長軸長118cm、短軸長64cm、深さ22cm。平面形は楕円形を呈し、断面形はほぼ逆台形である。覆土はAs-C、Hr-FAを多く含む黒色土、黒褐色土を主体とする。黒色土中に炭化木片を多く含むが、焼土等の混入はなく、炭化した状態の材が捨てられたものと思われる。出土遺物はない。

80号土坑 71-I-9グリッド 標高112.3mの谷地に近い東向き傾斜部にある。長軸を南北方向におく。長軸長101cm、短軸長59cm、深さ13cm。平面形は楕円形を呈し、断面形は皿状である。覆土はAs-C、Hr-FAを多く含む暗オリーブ褐色土を主体とし、焼土粒をわずかに含む。出土遺物はない。

88号土坑 71-M-9グリッド 標高113mの東向き傾斜部にある。長軸を南北方向におく。長軸長128cm、短軸長86cm、深さ25cm。平面形は楕円形を呈し、断面形は皿状である。覆土はAs-C、Hr-FAを多く含む暗褐色土を主体とする。出土遺物はない。

90号土坑 71-F-6グリッド 標高111.9mの谷地に近い東向き緩傾斜部にある。長軸を東西方向におく。長軸長138cm、短軸長104cm、深さ19cm。平面形は楕円形を呈し、断面形は皿状である。覆土はAs-Bを含むオリーブ黒色土を主体とし、焼土をわずかに含む。出土遺物はない。

97号土坑 71-L-9グリッド 標高112.8mの東向き傾斜部にある。長軸を東西方向におく。長軸長94cm、短軸長55cm、深さ20cm。平面形は楕円形を呈し、断面形は皿状である。覆土はAs-C、Hr-FAを含む黒褐色から暗褐色土を主体とし、硬く締まっている。出土遺物はない。

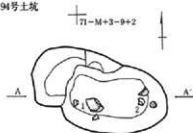
72号土坑 71-M-12グリッド 標高113mの東向き傾斜部にある。長軸を南北方向におく。長軸長92cm、短軸長73cm、深さ11cm。平面形は楕円形を呈し、断面形はほぼU字形である。覆土はAs-C、Hr-FAを多量に含む暗オリーブ褐色土を主体とする。出土遺物はない。

98号土坑 71-L-9グリッド 標高112.8mの東向き傾斜部にある。長軸を東西方向におく。長軸長97cm、短軸長62cm、深さ52cm。平面形は楕円形を呈し、断面形は皿状である。覆土下層はAs-C、Hr-FAを含む黒褐色土、中位以上にはローム粒、ロームブロックを含む。出土遺物はない。

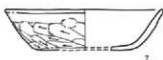
100号土坑 71-S-11グリッド 標高114.1mの東向き傾斜部にある。長軸を南北方向におく。長軸長92cm、短軸長46cm、深さ55cm。平面形は楕円形を呈し、断面形は皿状である。覆土はAs-C、Hr-FAを多量に含む黒褐色土を主体とする。出土遺物はない。

104号土坑 72-A-6グリッド 標高113.7mの西向き傾斜部にある。長軸を東西方向におく。長軸長100cm、

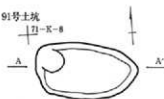
94号土坑



A, L=113.30m



91号土坑



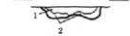
A, L=112.70m



36号土坑



A, L=110.70m



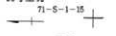
37号土坑



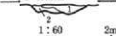
A, L=109.90m



99号土坑

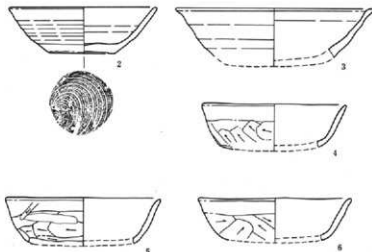


A, L=114.30m



94号土坑土層観察所見

- 1 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック7%含む。ローム粒を多く含む。やや粘質。締まり弱い。
- 2 10YR2/3 黒褐色土 As-C, Hr-FAを含む。ローム粒を少量含む。やや粘質。やや締まっている。
- 3 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒、ローム小ブロックを含む。As-C, Hr-FAを少量含む。やや粘質。やや締まっている。
- 4 10YR2/3 黒褐色土 As-C, Hr-FAを含む。焼土粒、炭化物含む。土器の破片を多く含む。やや粘質。締まっている。



0 1:3 10cm

94号土坑出土遺物

91号土坑土層観察所見

- 1 10YR2/3 黒褐色土 As-C, Hr-FAを多量に含む。焼土、炭化物を少量含む。粘性ない。締まりやや強い。
- 2 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。焼土、炭化物を少量含む。粘性ない。締まりやや強い。
- 3 10YR4/4 褐色土 白色粘土ブロックを含む。焼土、炭化物を少量含む。粘性ない。締まりやや強い。

37号土坑土層観察所見

- 1 10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック、ローム粒、As-C含む。
- 2 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック、ローム粒多く含む。白色縁石含む。締まり強い。
- 3 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック、黒色土ブロックが斑紋状に混じる。炭化物、焼土少量含む。
- 4 10YR4/4 褐色土 ロームブロック、ローム粒、黒色土・黒褐色土のブロックを含む。
- 5 10YR5/6-5/3 黄褐色からぶい黄褐色土 ロームブロック、ローム粒、粘質のローム、黒褐色土ブロックを含む。

36号土坑土層観察所見

- 1 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒・ブロック、As-C含む。
- 2 10YR4/4 褐色土 ローム粒・ブロック、1層土を含む。

99号土坑土層観察所見

- 1 10YR2/3 黒褐色土 As-C, Hr-FAを多量に含む。粘性ない。締まりやや弱い。
- 2 10YR2/3 黒褐色土 As-C, Hr-FAを多量に含む。ローム粒を少量含む。粘性ない。締まりやや弱い。

第426図 土坑平面図 土層断面図8

短軸長72cm、深さ15.5cm。平面形は楕円形を呈し、断面形は箱形である。覆土の下部はローム粒、ローム斑を多く含む暗褐色土、中位以上はAs-C、Hr-FAを含む黒褐色土を主体とする。出土遺物はない。

8号土坑 61-A-19グリッド 標高110.8mの谷地に近い東向き緩傾斜部にある。長軸を南北方向におく。長軸長232cm、短軸長110cm、深さ42.5cm。平面形は長円形を呈し、断面形はほぼ逆台形である。覆土はAs-Cを含む黒色土を主体とし、焼土粒を少量含む。出土遺物はない。

63号土坑 71-J-6グリッド 標高112.5mの東向き傾斜部にある。長軸を南北方向におく。長軸長203cm、短軸長76cm、深さ45cm。平面形は長円形を呈し、断面形はほぼU字形である。覆土はローム粒、ロームブロックを含む黒褐色から暗褐色土を主体とし、As-C、Hr-FAは記載されていない。白色軽石および橙褐色軽石を含むが、これはローム内のAs-YP、As-BPなどにあたる。出土遺物はない。

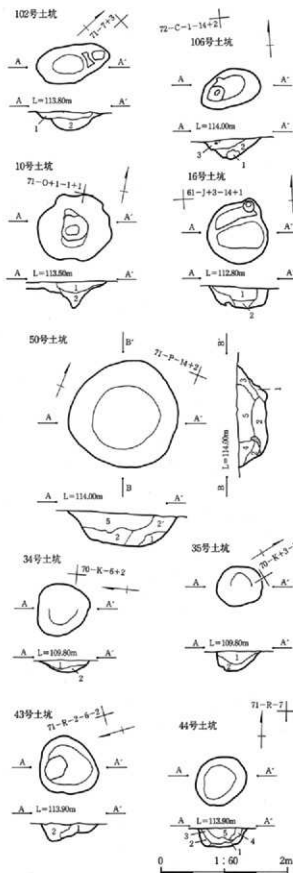
91号土坑 71-J-7グリッド 標高112.4mの東向き傾斜部にある。長軸を東西方向におく。長軸長162cm、短軸長82cm、深さ50cm。平面形は楕円形を呈し、断面形はほぼレ字状である。覆土の主体はAs-C、Hr-FAを多量に含む黒褐色土を主体とし、焼土粒、炭化物粒も含まれる。一部に白色粘土ブロックやロームブロックが混入する。出土遺物はない。

94号土坑 71-M-9グリッド 標高113.2mの東向き傾斜部にある。長軸を東西方向におく。長軸長223cm、短軸長88cm、深さ59.5cm。平面形は楕円形を呈し、断面形はほぼU字形である。24号掘立柱建物の母屋中にあたり、周囲には建物の柱穴も含め、土坑やピットが密集している。掘立柱との区別が困難な状況であるが、この土坑自体は比較的大型の楕円形を呈していて、柱穴とは考えられない。比較的多くの遺物が出土していることも含め、掘立柱建物に関連するものである可能性も考えられよう。覆土下層はローム粒、ロームブロックを含む暗褐色土、その上にAs-C、Hr-FAを含む黒褐色土が載り、さらにローム粒、ロームブロックを含む暗褐色土が載る。遺物は最上位の黒褐色土から出土している。As-C、Hr-FAを含み、焼土粒や炭化物粒も含む。礫とともに9世紀中葉から後葉にかけての須恵器高台付埴、埴、土師器埴の小片が多く出土している。

36号土坑 71-I-8グリッド 標高112.2mの谷地に近い東向き緩傾斜部にある。長軸を南北方向におく。長軸長112cm、短軸長92cm、深さ19cm。平面形は不整形を呈し、断面形はほぼW字状である。覆土はAs-C、ロームブロック、ローム粒を含む褐色から暗褐色土を主体とする。出土遺物はない。

37号土坑 71-M-11グリッド 標高113.2mの東向き傾斜部にある。長軸を南北方向におく。長軸長207.5cm、短軸長88cm、深さ40.5cm。平面形はゆがんだ長円形を呈し、断面形は皿状である。覆土はローム粒、ロームブロックを多く含む褐色から黒褐色土でAs-Cや炭化物粒、焼土粒を含む。出土遺物はない。

99号土坑 71-R-15グリッド 標高114.2mの東向き傾斜部にある。長軸を南北方向におく。長軸長118cm、短軸長38cm、深さ17cm。平面形は楕円形を呈し、断面形は皿状である。覆土はAs-C、ロームブロック、ローム粒を含む黒褐色土を主体とする。出土遺物はない。



第427図 土坑平面図 土層断面図9

102号土坑土層観察所見

- 1 10YR3/3 暗褐色土 As-C、Hr-FAを多量に含む。焼土粒をごくわずかに含む。粘性ない。締まりやや弱い。
- 2 10YR3/3 暗褐色土 As-C、Hr-FAを少量含む。ロームブロックを少量含む。粘性ない。締まりやや弱い。

106号土坑土層観察所見

- 1 10YR4/6 褐色土 崩れた地山ロームの再堆積土。
- 2 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒を多く含む。炭化物粒を少量含む。
- 3 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒を多く含む。炭化物粒を少量含む。

10号土坑土層観察所見

- 1 黒褐色砂質土 As-Cを多く含む。ローム粒を少量含む。
- 2 黒褐色砂質土とロームブロックの混土。やや密。硬く締まっている。

16号土坑土層観察所見

- 1 黒褐色砂質土 径1cm以下のローム粒多く含む。やや密で硬く締まっている。
- 2 1層と硬いロームブロックとの混土。

50号土坑土層観察所見

- 1 汚れたローム再堆積土。やや粘質。締まり弱い。
- 2 ローム塊30%含む。As-C、Hr-FA、炭化物粒を含む。2'ローム塊が主体となる。境界は漸移的で不明瞭。
- 3 2'に近いが、炭化物を多く含む。
- 4 10YR3/4 暗褐色土 As-C、Hr-FAを含む。炭化物少量含む。
- 5 10YR2/2 黒褐色土 As-C、Hr-FAを含む。炭化物を多く含む。

34号土坑土層観察所見

- 1 10YR2/2 黒褐色砂質土 ローム粒、ロームブロック少量含む。粒度のそろった細砂を含む。

35号土坑土層観察所見

- 1 10YR2/2 黒褐色砂質土 ローム粒、ロームブロック少量含む。粒度のそろった細砂を含む。
- 2 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒少量含む。やや粘性を持つ砂質土。

43号土坑土層観察所見

- 1 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒を多く含む。
- 2 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒ローム塊を含む。

44号土坑土層観察所見

- 1 10YR3/4 暗褐色土 汚れた二次堆積ローム。
- 2 7.5YR3/4 暗褐色土 汚れた二次堆積ローム。
- 3 10YR2/2 黒褐色土 ローム塊を多く含む。
- 4 10YR3/2 黒褐色土 ローム塊を多く含む。As-Cを含む。
- 5 10YR3/3 暗褐色土 ローム塊を含む。As-Cを含む。

第5章 奈良時代・平安時代以後の遺構と遺物

102号土坑 71-P-7グリッド 標高113.8mの東向き傾斜部にある。長軸を南北方向におく。長軸長110cm、短軸長36cm、深さ45cm。平面形は楕円形を呈し、断面形は皿状である。覆土はAs-C、ロームブロック、ローム粒を含む暗褐色土を主体とする。出土遺物はない。

106号土坑 72-B-14グリッド 標高113.9mの西向き傾斜部にある。長軸を東西方向におく。長軸長98cm、短軸長52cm、深さ42cm。平面形は楕円形を呈し、断面形はほぼV字形である。覆土はローム粒と少量の炭化物粒を含む黒褐色から暗褐色土を主体とする。出土遺物はない。

10号土坑 71-O-1グリッド 標高113.4mの東向き傾斜部にある。長軸を東西方向におく。長軸長118cm、短軸長100cm、深さ56.5cm。平面形は円形を呈し、断面形はほぼV字形である。覆土はAs-Cを多く含む黒褐色土を主体としてローム粒やローム小ブロックを含む。出土遺物はない。

16号土坑 61-J-14グリッド 標高112.9mの東向き傾斜部にある。長軸を南北方向におく。長軸長106cm、短軸長96cm、深さ42.8cm。平面形は円形を呈し、断面形はほぼ逆台形である。覆土は硬く締まった黒褐色砂質土を主体とする。出土遺物はない。

34号土坑 70-K-6グリッド 標高109.7mの谷地に近い西向き緩傾斜部にある。長軸を東西方向におく。長軸長86cm、短軸長76cm、深さ17cm。平面形は円形を呈し、断面形は皿状である。覆土はローム粒、ロームブロックを少量含む黒褐色砂質土を主体とする。出土遺物はない。

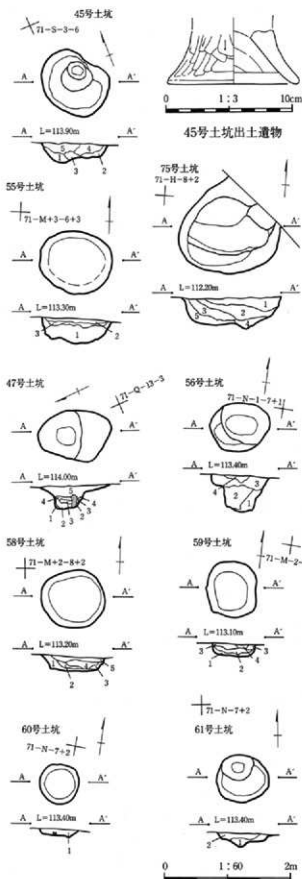
35号土坑 70-K-7グリッド 標高109.7mの谷地に近い西向き緩傾斜部にある。長軸を南北方向におく。長軸長74cm、短軸長62cm、深さ22cm。平面形は円形を呈し、断面形は皿状である。覆土はローム粒、ロームブロックを少量含む黒褐色砂質土を主体とする。出土遺物はない。

43号土坑 71-Q-5グリッド 標高113.8mの東向き傾斜部にある。長軸を東西方向におく。長軸長97cm、短軸長85cm、深さ34cm。平面形は円形を呈し、断面形はほぼレ字状である。覆土はロームを含む暗褐色土を主体とする。出土遺物はない。

44号土坑 71-R-6グリッド 標高113.8mの東向き傾斜部にある。長軸を南北方向におく。長軸長85cm、短軸長72cm、深さ35cm。平面形は円形を呈し、断面形はほぼU字形である。覆土はローム斑を多く含む暗褐色から黒褐色土を主体とし、一部As-Cを含む。出土遺物はない。

45号土坑 71-R-5グリッド 標高113.8mの東向き傾斜部にある。長軸を南北方向におく。長軸長111cm、短軸長85cm、深さ54cm。平面形は楕円形を呈し、断面形はほぼW字状である。覆土はローム斑を多く含む暗褐色から黒褐色土を主体とし、一部As-Cを含む。9世紀後葉の付付き甕片が出土している。

50号土坑 71-P-14グリッド 標高113.8mの東向き傾斜部にある。長軸を東西方向におく。長軸長177cm、短軸長132cm、深さ56cm。平面形は円形を呈し、断面形はほぼU字形である。覆土はAs-C、Hr-FAを含む



第428図 土坑平面図 土層断面図10

45号土坑土層観察所見

- 1 10YR2/3 黒褐色土 ロームブロック、ローム粒を含む。
- 2 10YR3/4 暗褐色土 汚れたロームの再堆積。
- 3 7.5YR3/4 暗褐色土 汚れたロームの再堆積。
- 4 10YR2/3 黒褐色土 ローム斑を含む。As-Cを含む。
- 5 10YR3/3 暗褐色土 ローム斑を含む。

55号土坑土層観察所見

- 1 10YR4/6 褐色土
- 2 10YR4/6 褐色土 3層の小ブロックを含む。
- 3 10YR5/4-5/3 にぶい黄褐色粘重土 粘っているかのような状態で硬く締まっている。焼けた痕跡は見られない。

75号土坑土層観察所見

- 1 10YR2/3 黒褐色土 As-C、Hr-FAを多量に含む。焼土、炭化物をごくわずかに含む。粘性ない。締まりやや弱い。
- 2 10YR2/3 黒褐色土 As-C、Hr-FAを少量含む。ローム粒、ロームブロックを含む。粘性ない。締まりやや弱い。
- 3 10YR3/4 暗褐色土 ロームがよく混じる。ローム粒、ロームブロックを含む。粘性ない。締まりやや弱い。
- 4 10YR5/6 黄褐色土 ロームがよく混じる。ローム粒、ロームブロックを密に多量に含む。粘性ない。締まりやや弱い。
- 5 10YR5/8 黄褐色土 ロームがよく混じる。ローム粒を含む。粘性弱い。締まり弱い。

47号土坑土層観察所見

- 1 10YR4/6 褐色土 崩れたローム。やや汚れる。
- 2 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒を多く含む。
- 3 10YR3/4 暗褐色土 焼土、炭化物を多く含む。やや締まっている。
- 4 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒を多く含む。
- 5 10YR2/2 黒褐色土 As-C、Hr-FAを含む。

56号土坑土層観察所見

- 1 ローム粒90%、ロームブロック40%の混土。
- 2 10YR2/2 黒褐色土 ローム斑、ブロック7%を含む。As-Cを含む。
- 3 10YR3/4 暗褐色土 ローム小ブロックを含む。As-Cを含む。
- 4 10YR2/3 黒褐色土 ローム小ブロック少量含む。As-Cを含む。

58号土坑土層観察所見

- 1 10YR4/4 褐色土 ローム粒を多く含む。締まっている。
- 2 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒を含む。焼土粒を少量含む。
- 3 10YR2/3 黒褐色土 ローム斑を含む。As-C、FA含む。
- 4 10YR2/2 黒褐色土 As-C、Hr-FAを含む。
- 5 10YR3/3 暗褐色土 As-Cを含む。焼土粒を少量含む。

59号土坑土層観察所見

- 1 10YR4/6 褐色土 崩れたローム。やや汚れる。
- 2 10YR2/3 黒褐色土 As-C、炭化物粒を少量含む。
- 3 10YR3/4 暗褐色土 As-C、炭化物粒を少量含む。やや締まる。
- 4 10YR4/4 褐色土 弱く焼土化している。炭化物を少量含む。

60号土坑土層観察所見

- 1 10YR2/3 黒褐色土 As-Cを含む。焼土、炭化物粒を含む。

第5章 奈良時代・平安時代以後の遺構と遺物

暗褐色から黒褐色土が主体である。最下位のローム再堆積土を除いて、ほぼ全体に炭化物を含み、部分的に集中する。出土遺物はない。

55号土坑 71-M-6グリッド 標高113.4mの東向き傾斜部にある。長軸を東西方向におく。長軸長114cm、短軸長83cm、深さ40cm。平面形は楕円形を呈し、断面形はほぼU字形である。覆土の下位はロームを含む褐色土を主体とし、最上位ににぶい黄褐色ロームが貼られたかのような状態で認められた、硬く締まっているが、焼けた痕跡は認められない。出土遺物はない。

75号土坑 71-G-8グリッド 標高112.1mの谷地に近い東向き緩傾斜部にある。長軸を南北方向におく。長軸確認長145cm、短軸長144cm、深さ58cm。平面形は円形を呈し、断面形はほぼ逆台形である。覆土の下位はローム粒、ロームブロックを多く含む黄褐色土が主体であり、上位はAs-C、Hr-FAを含む黒褐色土が主体となる。最上位土は炭化物粒をごくわずかに含む。出土遺物はない。

47号土坑 71-Q-14グリッド 標高114mの東向き傾斜部にある。長軸を南北方向におく。長軸長115cm、短軸長64cm、深さ38cm。平面形は楕円形を呈し、断面形は箱形である。覆土はローム粒を含む暗褐色土が主体で、一部焼土粒、炭化物粒を混ざる。出土遺物はない。

56号土坑 71-M-7グリッド 標高113.1mの東向き傾斜部にある。長軸を東西方向におく。長軸長96cm、短軸長65cm、深さ61cm。平面形は楕円形を呈し、断面形はほぼゆるい2段である。覆土はロームを含む黒褐色から暗褐色土が主体で、As-Cを混ざる。出土遺物はない。

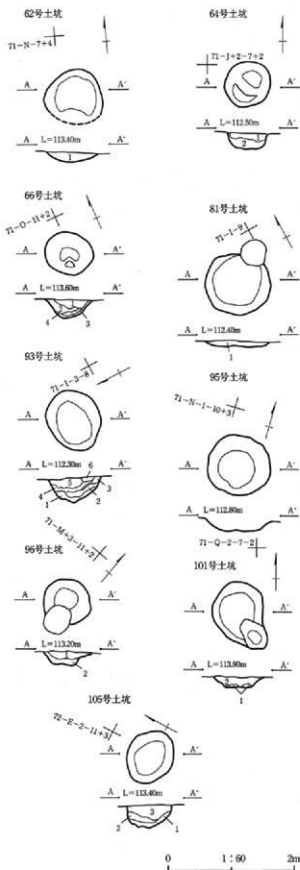
58号土坑 71-M-8グリッド 標高113.1mの東向き傾斜部にある。長軸を東西方向におく。長軸長104cm、短軸長73cm、深さ24cm。平面形は円形を呈し、断面形はほぼ逆台形である。覆土はロームを含む黒褐色から暗褐色土が主体で、As-Cを混ざる。部分的に焼土粒を含む。出土遺物はない。

59号土坑 71-L-8グリッド 標高112.8mの東向き傾斜部にある。長軸を南北方向におく。長軸長90cm、短軸長65cm、深さ21cm。平面形は円形を呈し、断面形は箱形である。覆土はAs-Cや炭化物粒を含む暗褐色から黒褐色土が主体で、最上位にやや焼土化した部分がある。出土遺物はない。

60号土坑 71-N-7グリッド 標高113.4mの東向き傾斜部にある。長軸を南北方向におく。長軸長63cm、短軸長59cm、深さ16cm。平面形は円形を呈し、断面形は皿状である。覆土はAs-C、焼土粒、炭化物粒を含む黒褐色土を主体とする。出土遺物はない。

61号土坑 71-M-7グリッド 標高113.3mの東向き傾斜部にある。長軸を東西方向におく。長軸長83cm、短軸長53cm、深さ49cm。平面形は円形を呈し、断面形は箱築研である。覆土はAs-C、ローム粒を含む黒褐色土を主体とし、焼土粒、炭化物粒を含む。出土遺物はない。

62号土坑 71-M-7グリッド 標高113.3mの東向き傾斜部にある。長軸を東西方向におく。長軸長97cm、



第429図 土坑平面図 土層断面図11

62号土坑土層観察所見

- 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒、白色軽石を少量含む。焼土粒をごくわずかに含む。粘性なし。締まりやや強い。

64号土坑土層観察所見

- 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ローム粒、As-Cを含む。粘性ない。締まりやや弱い。

66号土坑土層観察所見

- 10YR3/3 暗褐色土 径1cm以下のローム小ブロックを少量含む。As-C、Hr-FAを含む。粘性ない。締まりやや弱い。
- 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒、As-C、Hr-FAを少量含む。粘性ない。締まりやや弱い。
- 10YR3/3 暗褐色土 径1cm以下のローム小ブロック、ローム粒を含む。粘性ない。締まり弱い。

81号土坑土層観察所見

- 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 As-C、Hr-FAを多量に含む。焼土粒を少量含む。粘性ない。締まり弱い。

93号土坑土層観察所見

- 10YR3/3 暗褐色土 ローム更多く含む。やや粘質。やや締まっている。
- 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒を含む。やや粘質。やや締まっている。
- 10YR2/3 黒褐色土 ロームブロックを含むAs-C、Hr-FAを含む。やや砂質。締まりやや強い。
- 10YR2/2 黒褐色土 ローム少量含む。As-C、Hr-FAを含む。焼土粒を少量含む。やや砂質。やや締まっている。
- 10YR2/2 黒褐色土 As-C、Hr-FAを含む。As-B含む。炭化物粒を含む。砂質。やや締まっている。
- 10YR2/3 黒褐色土 As-C、Hr-FAを含む。As-B多く含む。砂質。締まり弱い。

96号土坑土層観察所見

- 10YR2/2 黒褐色土 As-C、Hr-FA粒を多く含む。粘性ない。硬く締まっている。
- 10YR2/3 黒褐色土 FA 軽石粒を含む。粘性ない。締まりやや弱い。

101号土坑土層観察所見

- 10YR3/4 暗褐色土 As-C、Hr-FAを少量含む。ローム粒を含む。やや粘質。締まり弱い。
- 10YR2/3 黒褐色土 As-C、Hr-FAを多く含む。やや砂質。やや締まっている。

105号土坑土層観察所見

- 10YR4/6 褐色壤土 崩れた地山ロームの再堆積土。
- 10YR3/3 暗褐色壤土 ローム粒を多く含む。炭化物粒を少量含む。
- 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒を多く含む。炭化物粒を少量含む。

第5章 奈良時代・平安時代以後の遺構と遺物

短軸推定長86cm、深さ18cm。平面形は円形を呈し、断面形は皿状である。覆土はローム粒を含む暗褐色を主体とし、焼土粒をわずかに含む。出土遺物はない。

64号土坑 71-J-7グリッド 標高112.5mの東向き傾斜部にある。長軸を南北方向におく。長軸長77cm、短軸長60cm、深さ24cm。平面形は円形を呈し、断面形はほぼ逆台形である。覆土はAs-Cを含むオリーブ褐色土を主体とする。出土遺物はない。

66号土坑 71-O-11グリッド 標高113.5mの東向き傾斜部にある。長軸を東西方向におく。長軸長77cm、短軸長56cm、深さ32cm。平面形は円形を呈し、断面形はほぼU字形である。覆土はローム粒、As-C、Hr-FAを含む暗褐色土を主体とする。出土遺物はない。

81号土坑 71-I-8グリッド 標高112.2mの東向き傾斜部にある。長軸を南北方向におく。長軸長113cm、短軸長97cm、深さ14cm。平面形は円形を呈し、断面形は皿状である。覆土はAs-C、Hr-FAを多量に含む暗オリーブ褐色土を主体とする。出土遺物はない。

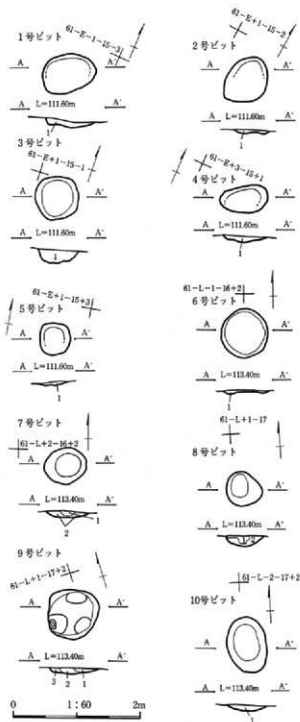
93号土坑 71-H-8グリッド 標高112.1mの谷地に近い東向き緩傾斜部にある。長軸を東西方向におく。長軸長98cm、短軸長72cm、深さ41cm。平面形は円を呈し、断面形はほぼU字形である。覆土の下部はローム斑、ロームブロックを多く含み、中上位にはAs-C、Hr-FA、As-Bとともに炭化物粒、焼土粒を含む。出土遺物はない。

95号土坑 71-M-10グリッド 標高112.7mの東向き傾斜部にある。長軸を南北方向におく。長軸長99cm、短軸長68cm、深さ21cm。平面形は円を呈し、断面形は皿状である。出土遺物はない。

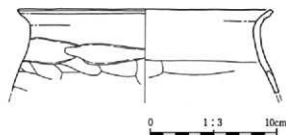
96号土坑 71-M-11グリッド 標高113.1mの東向き傾斜部にある。長軸を南北方向におく。長軸長79cm、短軸長52.1cm、深さ24cm。平面形は円を呈し、断面形は皿状である。覆土はAs-C、Hr-FAを含む黒褐色土を主体とする。出土遺物はない。

101号土坑 71-P-6グリッド 標高113.8mの東向き傾斜部にある。長軸を南北方向におく。長軸長115cm、短軸長64cm、深さ22cm。平面形は楕円を呈し、断面形は皿状である。覆土はAs-C、Hr-FAを含む暗褐色から黒褐色土を主体とする。出土遺物はない。

105号土坑 72-D-12グリッド 標高113.3mの西向き傾斜部にある。長軸を東西方向におく。長軸長88cm、短軸長70cm、深さ36cm。平面形は楕円を呈し、断面形はほぼU字形である。覆土はロームを多く含み、炭化物粒を少量含む暗褐色土を主体とする。出土遺物はない。



第430図 ピット平面図 土層断面図 1



10号ピット出土遺物

ピット

ピットの記載は名称・グリッド・長軸長×短軸長×深さ(単位はcm)・平面形状・断面形状・特記事項・土層観察所見の順で行っている。

1号ピット 61-E-14 86×60×18.5 楕円・皿状 1:10YR4/3に多い黄褐色砂質土 径5mm・3cmの5YR7/6褐色焼土ブロックを15%含む。As-Cを含む。

2号ピット 61-E-14 84×62×11 楕円・皿状 1:10YR4/3に多い黄褐色砂質土 径5mm・3cmの5YR7/6褐色焼土ブロックを15%含む。As-Cを含む。炭化物粒を少量含む。

3号ピット 61-E-15 74×70×23.5 円・皿状 1:10YR2/3黒褐色土 As-Cを含む。径3cm大のロームブロックを特に下に多く含む。

4号ピット 61-E-15 76×42×9.8 楕円・皿状 1:10YR2/2黒褐色土 10YR4/3に多い黄褐色土の塊を含む。径5mmの5YR7/6褐色焼土粒を10%含む。As-Cを含む。

5号ピット 61-E-15 51×50×8.5 円・皿状 1:10YR2/2黒褐色土 As-Cを含む。10YR4/3に多い黄褐色土の塊を中央部を中心に含む。径5mm・3cmの5YR7/6褐色焼土ブロックを15%含む。

6号ピット 61-L-16 80×75×8 円・皿状 1:10YR7/2に多い黄褐色土と軽石を含む10YR4/3に多い黄褐色砂質土の混土。

7号ピット 61-L-16 68×58×15.5 円・皿状 1:灰白色粘土とに多い黄褐色粘土の混土 2:10YR3/3暗褐色砂質土。

8号ピット 61-L-17 58×54×26 円・皿状 1:10YR3/2黒褐色砂質土 淡色黒ボク土に似る。2:10YR3/3暗褐色砂質土と10YR4/3に多い黄褐色土の塊状混土。

9号ピット 61-L-17 90×82×18.5 円・皿状 1:10YR4/3に多い黄褐色砂質土 焼土粒をやや多く含む。2:10YR3/3暗褐色砂質土と10YR4/3に多い黄褐色土の塊状混土。3:10YR4/3に多い黄褐色砂質土。

10号ピット 61-L-17 88×62×19.5 楕円・皿状 土器器裏の破片が出土している。1:暗褐色砂質土 10YR7/2-6/2に多い黄褐色粘土が上面に貼られる。

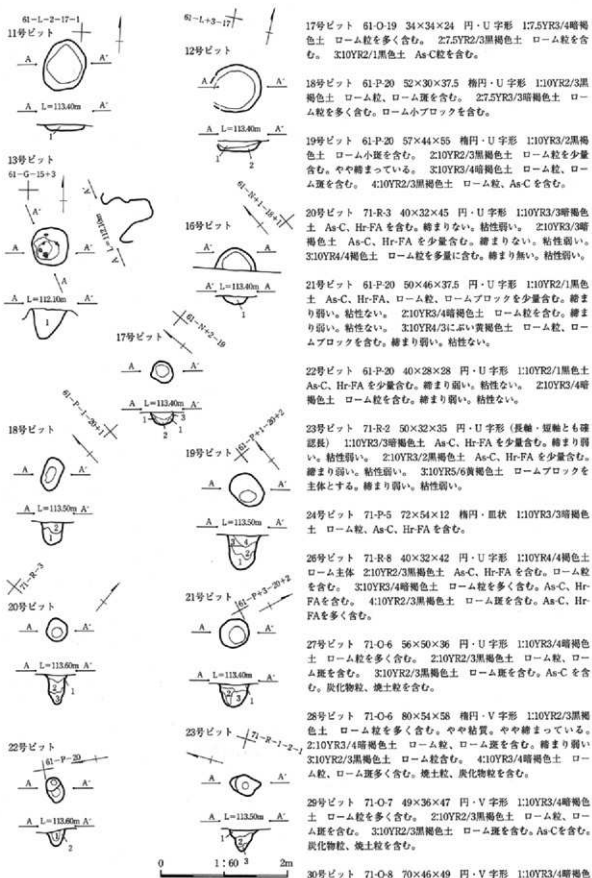
11号ピット 61-L-17 82×64×15 楕円・皿状 1:10YR3/2黒褐色砂質土 軽石を含む。焼土粒をまばらに含む。土器破片を含む。

12号ピット 61-L-17 74×68×25 (短軸は確認長) 円・皿状 1:10YR3/3暗褐色砂質土 軽石を少量含む。焼土粒をまばらに含む。2:1層とに多い黄褐色砂質土の混土。

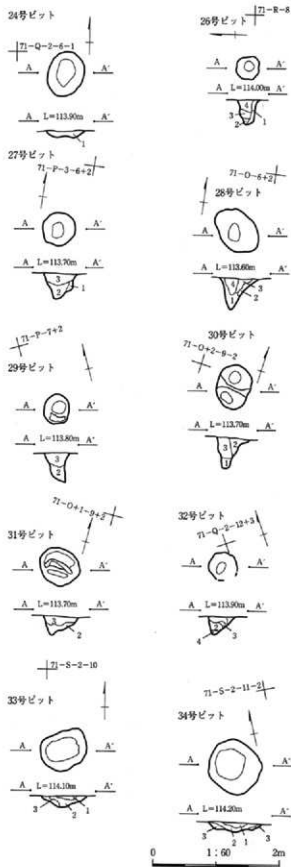
13号ピット 61-G-15 62×60×68 円・U字形 土器器環の小片が出土している。1:10YR3/4暗褐色砂質土 As-C含む。密。硬く縛まる。

16号ピット 61-N-18 64×36×18 円・皿状 (短軸は確認長) 1:10YR2/1黒色土 As-C、ローム粒を含む。

第5章 奈良時代・平安時代以後の遺構と遺物



第431図 ビット平面図 土層断面図2



第432図 ピット平面図 土層断面図3

土 ローム粒を多く含む。 210YR2/3黒褐色土 ローム粒、ローム斑を含む。 310YR2/3黒褐色土 ローム斑を含む。 As-C を含む。炭化物粒、焼土粒を含む。

31号ピット 71-O-9 67×45×46 円・レ字状 110YR3/4暗褐色土 ローム粒を多く含む。 210YR2/3黒褐色土 ローム粒、ローム斑を含む。 310YR2/3黒褐色土 ローム斑を含む。 As-C を含む。炭化物粒、焼土粒を含む。

32号ピット 71-P-12 46×32×33 円・レ字状 1.2.5Y4/3オリーブ褐色土 ローム粒、白色軽石粒を含む。粘性ない。締まりやや強い。

2.2.5Y4/2暗灰黄色土 ローム粒、白色軽石粒を少量含む。粘性ない。締まりやや強い。 3.2.5Y7/2灰黄色土 ロームブロックを含む。粘性ない。締まりやや強い。 4.2.5Y5/6黄褐色土 ローム粒を含む。粘性ない。締まりやや強い。

33号ピット 71-R-9 79×52×24 隅丸長方形・皿状 1.2.5Y4/3オリーブ褐色土 ローム粒、白色軽石粒を含む。粘性ない。締まりやや強い。 2.2.5Y4/3オリーブ褐色土 ローム粒を含む。粘性ない。締まりやや強い。 3.2.5Y4/3オリーブ褐色土 2次堆積ローム土。

34号ピット 71-R-10 90×62×21 円・皿状 110YR2/3黒褐色土 ローム粒、As-C、Hr-FA を多量に含む。粘性ない。締まりやや弱い。 2.2.5Y4/3オリーブ褐色土 ローム粒、白色軽石粒を少量含む。粘性ない。締まりやや弱い。

35号ピット 71-N-8 50×32×46 円・U字形 110YR2/3黒褐色土 ローム粒を含む。焼土粒を少量含む。 210YR2/3黒褐色土 ローム斑を含む。 As-C、Hr-FA を含む。 310YR2/2黒褐色土 As-C、Hr-FA を含む。ローム粒を含む。

36号ピット 71-M-8 51×43×39 円・U字形 110YR4/4褐色土 ローム粒を多く含む。締まっている。 210YR3/3暗褐色土 ローム粒を多く含む。締まり弱い。 310YR2/2黒褐色土 As-C、Hr-FA を含む。

37号ピット 71-R-12 82×65×59 円・箱形 110YR3/4暗褐色土 ローム斑を含む。締まっている。 210YR3/3暗褐色土 1層に似るが、ローム粒を多く含む。締まっている。 310YR3/4暗褐色土 ローム粒を含む。締まり弱い。 410YR3/4暗褐色土 ローム斑多く含む。やや締まっている。

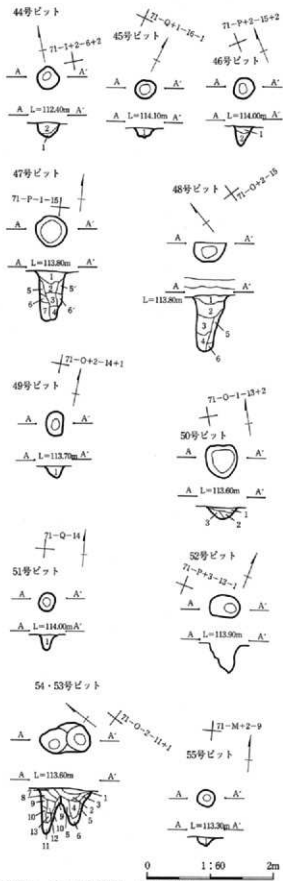
38号ピット 71-M-8 75×50×43 楕円・箱形 110YR4/4褐色土 ローム粒を多く含む。締まっている。 210YR2/3黒褐色土 ローム斑を含む。 As-C、Hr-FA を含む。 310YR2/2黒褐色土 As-C、Hr-FA を含む。

39号ピット 71-M-8 64×41×44 円・V字形 110YR2/2黒褐色土 As-C、Hr-FA を含む。

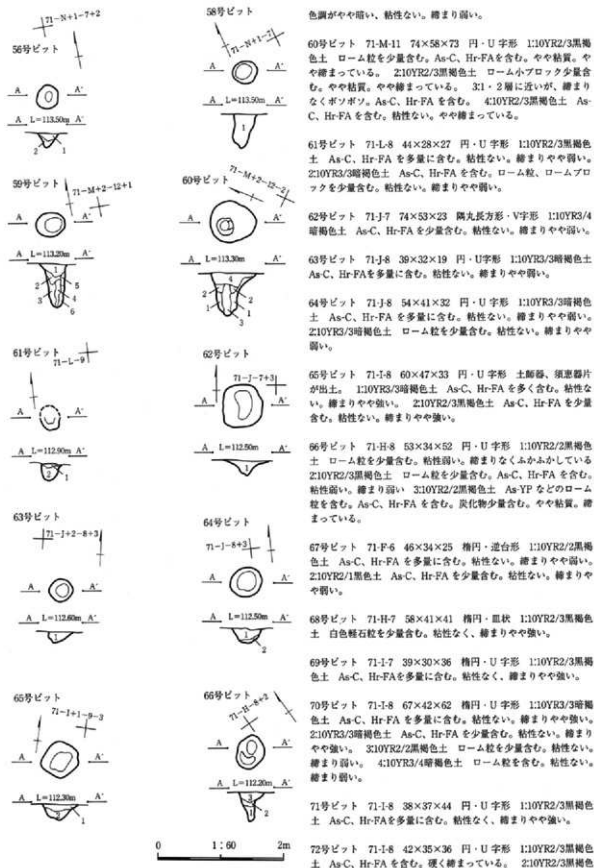
40号ピット 71-M-8 84×40×89 楕円・U字形 110YR2/3黒褐色土 As-C、ローム粒、径1.5cm以下のロームブロックを少量含む。焼土粒をわずかに含む。粘性ない。締まりやや弱い。 210YR2/3黒褐色土 1層より色調暗い。ローム粒をわずかに含む。粘性ない。締まりやや強い。 310YR2/3黒褐色土 ロームブロックを含む。粘性ない。締まりやや強い。 410YR2/3黒褐色土 2層と同相だが3層を挟むため分離したもの。 510YR2/2黒褐色土 ロームブロックを含む。粘性ない。締まりやや強い。 610YR2/2黒褐色土



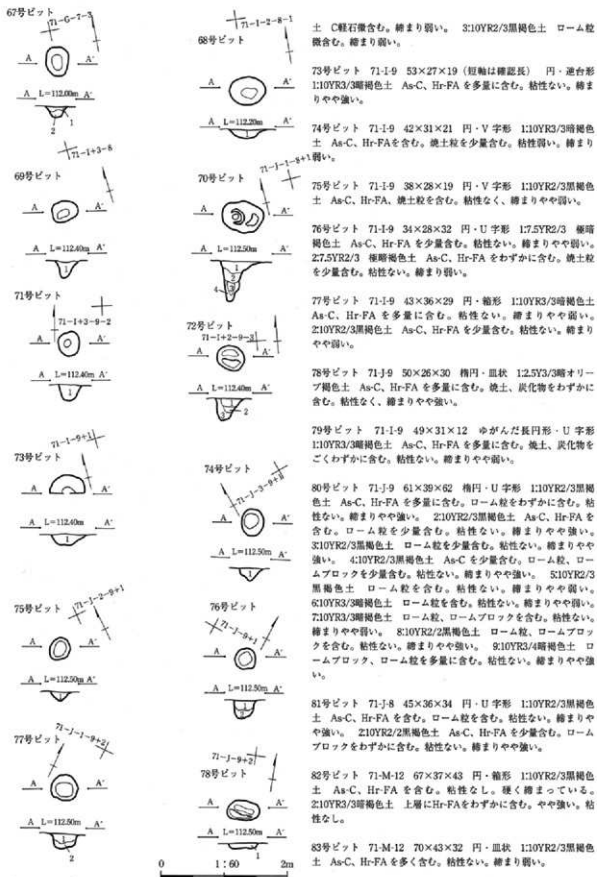
第433図 ピット平面図 土層断面図4



第434図 ピット平面図 土層断面図5

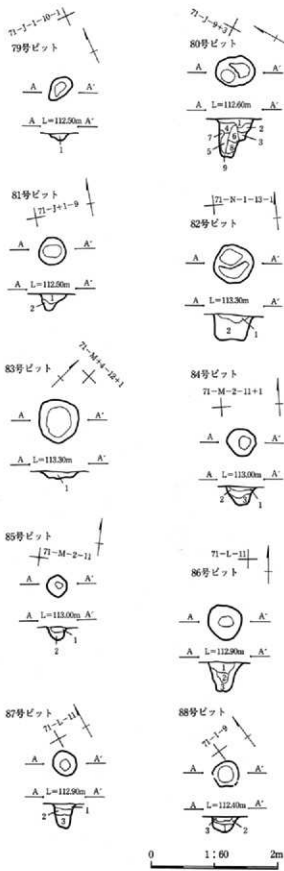


第435図 ビット平面図 土層断面図6



第436図 ビット平面図 土層断面図7

第5章 奈良時代・平安時代以後の遺構と遺物



第437図 ビット平面図 土層断面図8

84号ビット 71-L-11 46×38×34 円・U字形 1:10YR2/3黒褐色土 As-C、Hr-FAを多量に含む。粘性ない。締まりやや強い。
2:10YR2/2黒褐色土 As-C、Hr-FAを多量に含む。粘性ない。締まりやや強い。
3:10YR2/2黒褐色土 As-C、Hr-FAを少量含む。粘性ない。締まりやや強い。

85号ビット 71-L-10 34×30×29 円・U字形 1:2.5Y3/2黒褐色土 As-C、Hr-FAを少量含む。粘性ない。締まり弱い。
2:2.5Y3/3暗オリーブ褐色土 As-C、Hr-FAを少量含む。ローム粒を少量含む。粘性ない。締まり弱い。

86号ビット 71-L-10 58×52×46 円・逆台形 1:10YR3/3暗褐色土 As-C、Hr-FAを多量に含む。粘性ない。締まりやや弱い。
2:10YR3/3暗褐色土 As-C、Hr-FAを少量に含む。粘性ない。締まりやや弱い。
3:10YR3/4暗褐色土 ローム粒、径1cm程度のローム小ブロックを少量含む。粘性ない。締まり弱い。

87号ビット 71-L-10 40×37×44 円・U字形 1:10YR2/3黒褐色土 As-C、Hr-FAを多量に含む。粘性ない。締まりやや強い。
2:10YR2/2黒褐色土 As-C、Hr-FAを多量に含む。粘性ない。締まりやや弱い。
3:10YR4/3に多い黄褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。粘性ない。締まりやや弱い。

88号ビット 71-I-8 43×43×27 円・U字形 1:10YR2/3黒褐色土 Hr-FAを含む。赤褐色焼土粒をわずかに含む。粘質。締まり弱い。
2:10YR2/3黒褐色土 Hr-FAを含む。赤褐色焼土粒をわずかに含む。粘性なし。締まりやや強い。
3:10YR2/3黒褐色土 As-Cを多く含む。赤褐色焼土粒をわずかに含む。粘性なし。硬く締まっている。

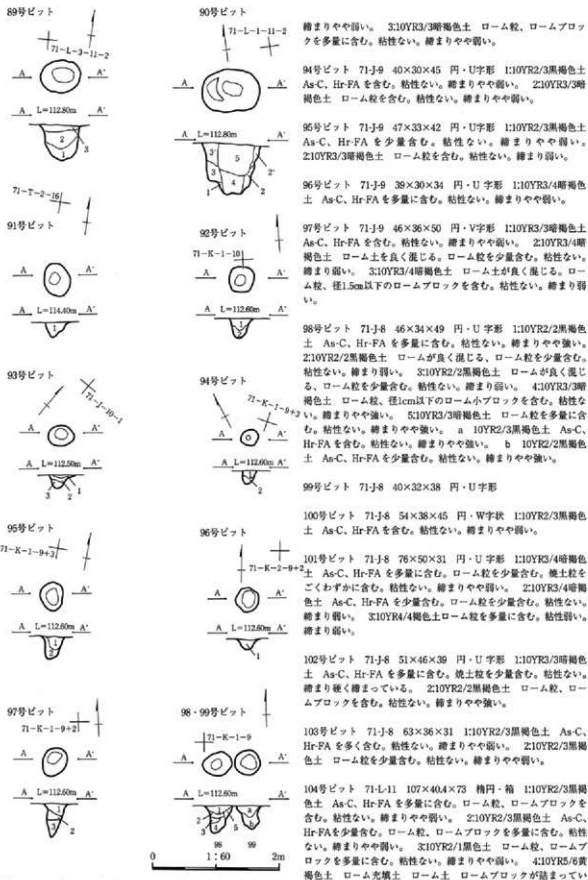
89号ビット 71-K-10 63×46×56 楕円・U字形 1:10YR3/4暗褐色土 ローム粒を多く含む。やや粘質。締まり弱い。
2:10YR2/2黒褐色土 As-C、Hr-FAを含む。ローム粒を含む。ローム小ブロック少量含む。やや粘質。やや締まっている。
3:10YR2/3黒褐色土 As-C、Hr-FA、As-Bを含む。ローム粒を少量含む。やや砂質。やや締まっている。

90号ビット 71-K-10 90×53×82 楕円・U字形 1:10YR3/3暗褐色土 ローム粒を多く含む。締まり強い。粘性強い。
2:10YR3/3暗褐色土 ローム粒を多く含む。ローム少ブロックを含む。やや粘質。やや締まっている。
3:ローム底は小さくなる。As-C、Hr-FAをやや多く含む。
4:10YR2/2黒褐色土 ローム小ブロック、ローム粒を含む。やや粘質。締まり強い。
5:10YR2/3黒褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。As-C、Hr-FAを多く含む。やや砂質。やや締まっている。

91号ビット 71-S-15 54×41×32 円・V字形 1:10YR3/3暗褐色土 白色軽石粒、ローム粒を少量含む。粘性ない。締まりやや弱い。

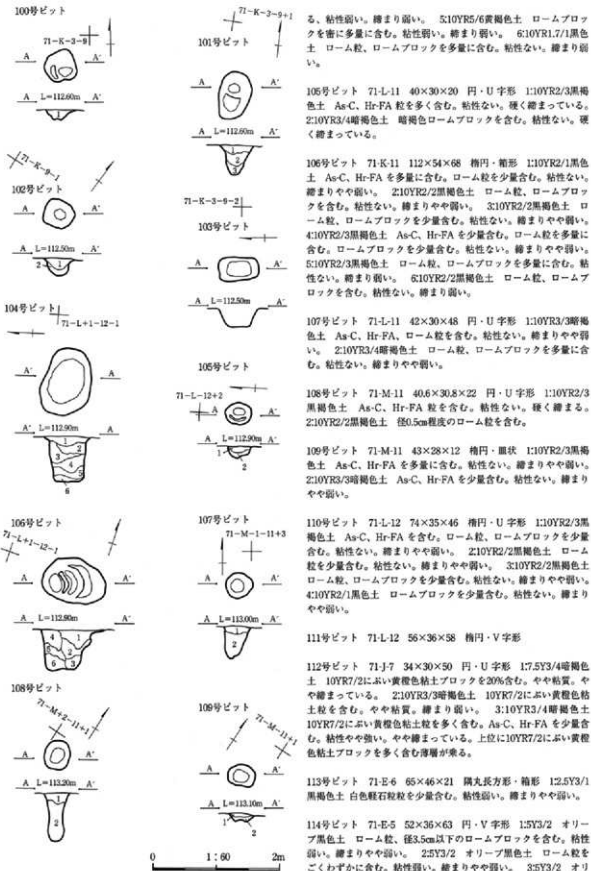
92号ビット 71-J-9 54×40×35 円・V字形 1:10YR3/3暗褐色土 As-C、Hr-FAを多量に含む。粘性ない。締まりやや弱い。
2:10YR3/4暗褐色土 As-C、Hr-FAを少量に含む。粘性ない。締まりやや弱い。

93号ビット 71-I-9 40×30×30 円・U字形 1:10YR2/3黒褐色土 As-C、Hr-FAを多量に含む。粘性ない。締まりやや弱い。
2:10YR2/3黒褐色土 1層と同じ、ローム粒を少量含む。粘性ない。

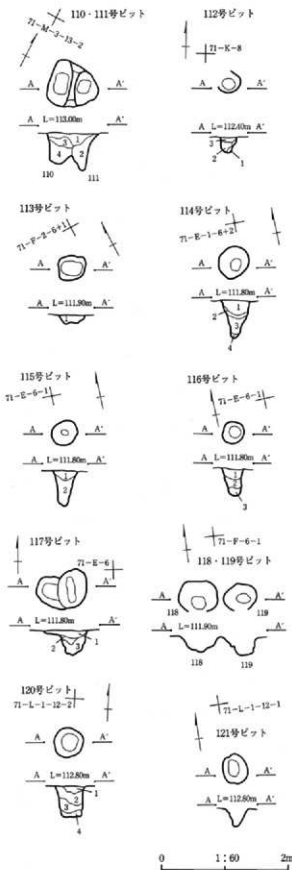


第438図 ピット平面図 土層断面図9

第5章 奈良時代・平安時代以後の遺構と遺物



第439図 ビット平面図 土層断面図10



第440図 ピット平面図 土層断面図11

ーブ黒色土 径0.5cm以下のローム粒を少量含む。粘性弱い。締まりやや弱い。 4.5Y3/2 オリーブ黒色土 混入物ない。粘性強い。締まりやや強い。

115号ピット 71-D-5 42×31×57 円・V字形 1.5Y2/2 オリーブ黒色土 As-Bかと思われる軽石粒を含む。径1cm以下のローム小ブロック、白色軽石粒をごくわずかに含む。焼土粒、炭化物粒をごくわずかに含む。粘性弱い。締まりやや弱い。 2.5Y2/2 オリーブ黒色土 ローム粒を少量含む。粘性弱い。締まり弱い。

116号ピット 71-E-5 36×26.1×43 円・V字形 1.2.5Y3/2黒褐色土 白色軽石粒を少量含む。粘性弱い。締まりやや弱い。 2.5Y2/2 オリーブ黒色土 径0.5cm以下のローム粒を少量含む。粘性弱い。締まり弱い。 3.5Y2/2 オリーブ黒色土 ローム粒を少量含む。粘性弱い。締まり弱い。

117号ピット 71-E-5 84×40×42 楕円・U字形 1.5Y3/2 オリーブ黒色土 ローム粒、白色軽石粒を含む。焼土粒をごくわずかに含む。やや粘質。締まりやや弱い。 2.5Y4/3暗オリーブ土 ローム粒をごくわずかに含む。やや粘質。締まりやや弱い。 3.5Y3/2 オリーブ黒色土 ローム粒、径3cm以下のロームブロックを含む。やや粘質。締まりやや弱い。

118号ピット 71-E-5 53×34×31 円・U字形

119号ピット 71-F-5 61×46×32 円・U字形

120号ピット 71-K-11 48×36×48 円・箱形 1.10YR2/2黒褐色土 As-C、Hr-FAを多量に含む。ローム粒をわずかに含む。粘性ない。締まりやや強い。 2.10YR2/2黒褐色土 ローム粒、ロームブロックを少量含む。粘性ない。締まりやや弱い。 3.10YR2/3黒褐色土 ローム粒、ロームブロックを少量含む。粘性ない。締まりやや弱い。 4.10YR4/6 褐色土 ローム土をよく含む。ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性弱い。締まり弱い。

121号ピット 71-K-11 45×30×39 円・V字形

122号ピット 71-S-16 67×42×27 円・道合形 1.10YR3/3暗褐色土 白色軽石粒、ローム粒を少量含む。粘性ない。締まりやや弱い。

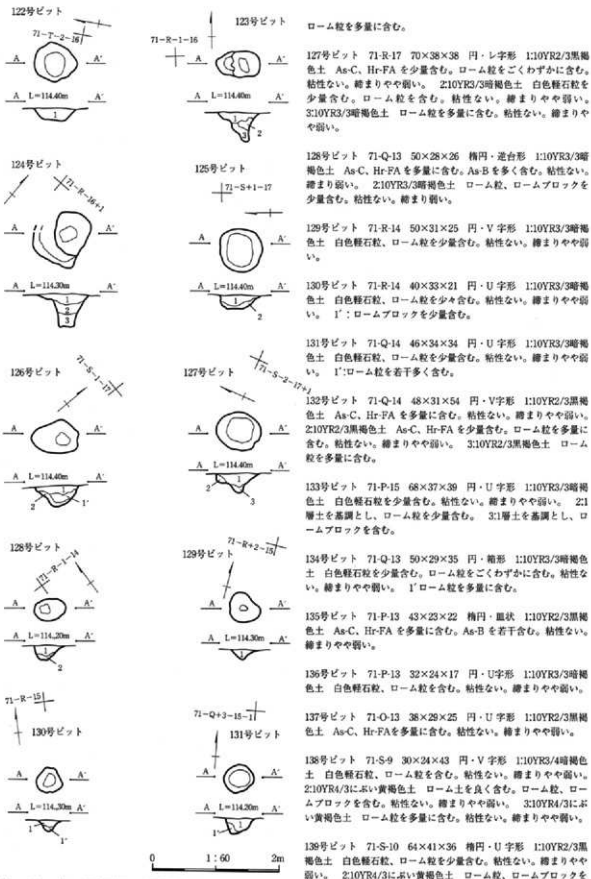
123号ピット 71-R-15 68×29×22 楕円・レ字形 1.10YR3/3暗褐色土 白色軽石粒、ローム粒を含む。粘性ない。締まりやや弱い。 2.1層土を基調とし、ローム粒が若干少ない。 3.1層土を基調とし、ロームブロックを少量含む。

124号ピット 71-R-16 98×52×51 変形円形・U字形 1.10YR3/3暗褐色土 白色軽石粒を含む。ローム粒を少量含む。粘性ない。締まりやや強い。 2.1層土を基調とし、ローム粒をやや多く含む。 3.10YR4/6 褐色土 ローム土をよく含む。ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性ない。締まり弱い。

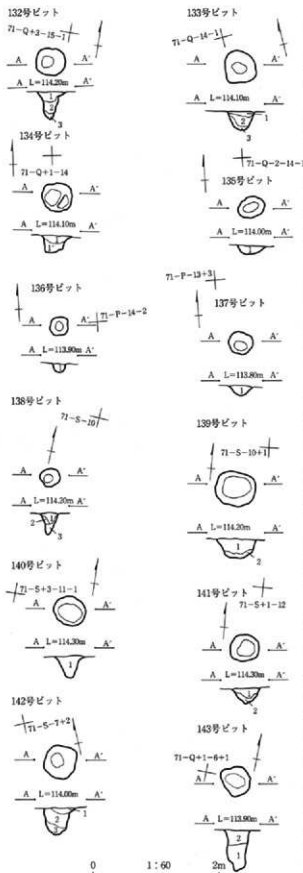
125号ピット 71-R-16 73×40×34 円・箱形 1.10YR3/3暗褐色土 白色軽石粒、ローム粒を少量含む。粘性ない。締まりやや強い。 2.1層土を基調とし、ローム粒を多量に含む。

126号ピット 71-R-16 65×38×37 楕円・U字形 1.10YR2/3暗褐色土 白色軽石粒を含む。ローム粒を少量含む。粘性ない。締まりやや強い。 2.10YR3/4暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性ない。締まりやや強い。 3.1層土を基調とし、

第5章 奈良時代・平安時代以後の遺構と遺物



第441図 ビット平面図 土層断面図12



第442図 ピット平面図 土層断面図13

多量に含む。粘性ない。締まりやや弱い。

140号ピット 71-S-10 52×30×33 円・V字形 1:10YR2/2黒褐色土 As-C, Hr-FA, ロームブロックを多量に含む。粘性ない。締まりやや強い。

141号ピット 71-S-11 46×33×24 円・V字形 1:10YR2/3黒褐色土 白色軽石粒、ローム粒を少々含む。粘性ない。締まりやや強い。 2:10YR2/2黒褐色土 ロームブロックを含む。粘性ない。締まりやや強い。

142号ピット 71-R-7 54×41×44 円・U字形 1:10YR3/1黒褐色土 As-C, Hr-FA を多量に含む。粘性ない。締まりやや弱い。 2:10YR3/1黒褐色土 ローム粒を多量に含む。粘性ない。締まりやや弱い。 3:10YR4/4褐色土 ローム土を良く含む、ローム粒、ロームブロックを多く含む。粘性弱い。強く締まっている。

143号ピット 71-Q-6 49×36×70 円・U字形 1:10YR3/3暗褐色土 ローム粒を含む。粘性強い。締まり普通 2:10YR2/3黒褐色土 ローム粒を含む。やや粘質。やや締まっている。

144号ピット 71-R-7 45×23×24 円・U字形 1:10YR3/4暗褐色土 ローム土を良く含む。ローム粒を多量に含む。粘性ない。締まりやや弱い。

145号ピット 71-R-7 43×27×22 円・U字形 1:10YR4/3Cに多い黄褐色土 ローム土を良く含む。As-C, Hr-FA を少量含む。粘性ない。締まりやや弱い。 2:10YR4/3Cに多い黄褐色土 ローム土を良く含む。ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性ない。締まりやや弱い。

146号ピット 71-Q-7 61×35×42 円・U字形 1:10YR2/3黒褐色土 As-C, Hr-FA を少量含む。粘性ない。締まりやや弱い。 2:10YR3/4暗褐色土 As-C, Hr-FA をごくわずかに含む。ローム粒を多量に含む。粘性ない。締まりやや弱い。

147号ピット 71-R-9 44×30×41 円・U字形 1:10YR3/3暗褐色土 As-C, Hr-FA を中量含む、ロームブロックを少量含む。粘性ない。締まりやや弱い。 2:10YR3/3暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性ない。締まりやや弱い。

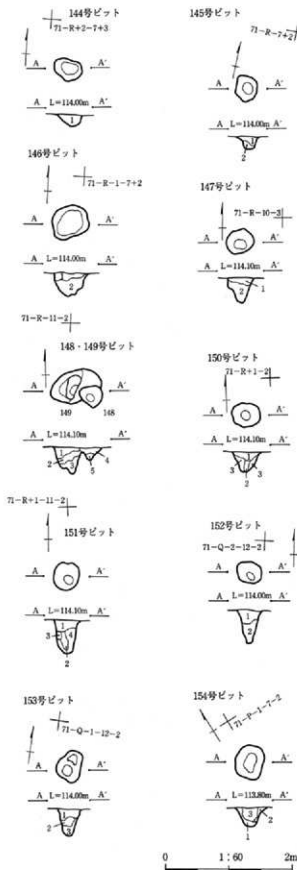
148号ピット 71-Q-10 80×48×47 円・U字形 1:10YR4/3Cに多い黄褐色土 ロームブロックを少量含む。As-C, Hr-FA を多量に含む。粘性ない。締まりやや弱い。 2:10YR3/3暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを少量含む。粘性ない。締まりやや弱い。 3:10YR4/3Cに多い黄褐色土 ローム土を良く含む。ロームブロックを少量含む。粘性ない。締まりやや弱い。 4:10YR4/3Cに多い黄褐色土 ローム粒を多量に含む。粘性ない。締まりやや弱い。 5:10YR4/3Cに多い黄褐色土 ローム土を良く含む。ローム粒を少量含む。粘性ない。締まりやや弱い。

149号ピット 71-Q-10 80×48×49 ゆがんだ円・レ字状

150号ピット 71-R-10 46×25×50 円・U字形 1:As-C, Hr-FA を多量に含む。ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性ない。締まりやや弱い。 2:ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性ない。締まりやや弱い。 3:ローム土を多く含む。ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性ない。締まりやや弱い。

151号ピット 71-R-10 45×29×52 1:10YR3/3暗褐色土 As-C,

第5章 奈良時代・平安時代以後の遺構と遺物



第443図 ビット平面図 土層断面図14

Hr-FAを含む。ロームブロックを多量に含む。粘性ない。締まりやや弱い。210YR3/3暗褐色土 ローム粒を少量含む。ロームブロックをごくわずかに含む。粘性ない。締まりやや弱い。310YR3/4暗褐色土 ローム土を良く含む。ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性ない。締まりやや弱い。410YR3/4暗褐色土 3層に似る。ローム粒、ロームブロックがやや少ない。粘性ない。締まりやや弱い。

152号ビット 71-P-11 40×24×38 円・V字形 110YR3/3暗褐色土 白色軽石粒、ローム粒を含む。粘性ない。締まりやや弱い。210YR3/3暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。粘性ない。締まりやや弱い。

153号ビット 71-P-11 50×28×54 円・U字形 110YR3/4暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性ない。締まりやや弱い。210YR3/3暗褐色土 ローム粒を少量含む。粘性ない。締まりやや弱い。

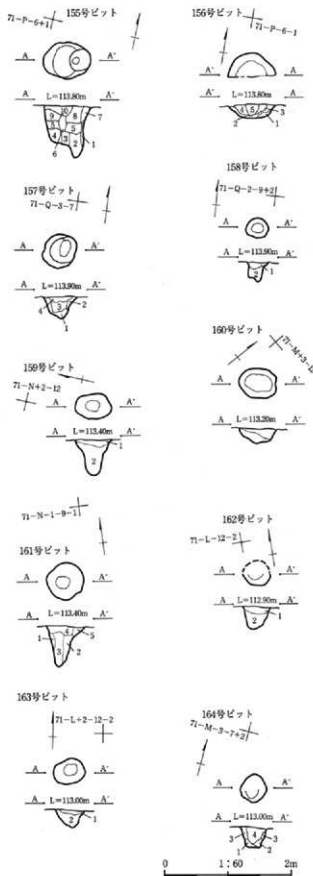
154号ビット 71-O-6 54×36×37 円・U字形 110YR3/4暗褐色土 ローム粒を多く含む。ロームブロックを含む。As-C、Hr-FAを少量含む。やや粘質。やや締まっている。210YR3/3暗褐色土 ローム粒を含む。As-C、Hr-FAを少量含む。やや粘質。締まりやや強い。310YR2/3黒褐色土 As-C、Hr-FA、焼土粒を含む。やや砂質。締まりやや強い。

155号ビット 71-O-6 75×41×81 楕円・U字形 110YR4/3に多い黄褐色土 ローム再堆積土。型はハードロームであるため、掘土と判別したが、汚れの少ないソフトローム。210YR3/3暗褐色土 ローム再堆積土主体。粘性やや強い、締まり弱い。310YR3/4暗褐色土 ローム粒を多く含む。炭化物少量含む。やや粘質。締まり弱い。413層とローム斑の混土。やや粘質。締まり弱い。510YR2/3黒褐色土 ローム混含む。As-C、Hr-FAを少量含む。粘性弱い。締まり弱い。710YR3/4暗褐色土 ローム粒を多く含む。As-C、Hr-FAを少量含む。やや粘質。やや締まっている。810YR4/3に多い黄褐色土 ローム粒、ロームブロックを多く含む。As-C、Hr-FAを少量含む。やや粘質。特に上層は強く締まる。910YR2/2黒褐色土 As-C、Hr-FAを含む。焼土粒を少量含む。やや砂質。やや締まっている。1010YR2/2黒褐色土 As-C、Hr-FAを含む。ローム粒を少量含む。やや粘質。やや締まっている。

156号ビット 71-O-5 74×36×19 円・U字形 110YR2/2黒褐色土 As-C、Hr-FAを含む。粘性弱い。締まり弱い。210YR3/3暗褐色土 ローム再堆積土主体。粘性やや強い、締まり弱い。310YR3/4暗褐色土 ローム粒を多く含む。As-C、Hr-FAを少量含む。やや粘質。やや締まっている。410YR2/3黒褐色土 As-C、Hr-FAを少量含む。As-Bを含む。やや砂、やや締まっている。510YR2/2黒褐色土 As-C、Hr-FA、As-Bを含む。焼土粒を少量含む。やや砂質。やや締まっている。

157号ビット 71-P-6 60×47×27 円・U字形 110YR4/3に多い黄褐色土 ローム再堆積土。210YR3/4暗褐色土 ローム粒を多く含む。ロームブロックを含む。As-C、Hr-FAを少量含む。やや粘質。やや締まっている。310YR2/3黒褐色土 As-C、Hr-FA、焼土粒を含む。やや砂質。締まりやや強い。410YR2/3黒褐色土 As-C、Hr-FAを含む。ローム小ブロックを含む。やや砂質。やや締まっている。

158号ビット 71-P-9 35.5×31×31 円・楕形 110YR2/3黒褐色土 As-C、Hr-FAを多量に含む。粘性ない。締まりやや弱い。210YR3/4暗褐色土 As-C、Hr-FA、ローム粒、ロームブロックを



第444図 ピット平面図 土層断面図15

多量に含む。粘性ない。締まりやや弱い。

159号ピット 71-N-11 58×37×56 円・U字形 1:10YR2/3黒褐色土 ローム粒、軽石を含む。粘性ない。硬く締まっている。
2:10YR2/2黒褐色土 ローム粒、軽石を含む。粘性ない。締まり弱い。

160号ピット 71-M-11 58×40×23 楕円・U字形 土層観察所見なし。

161号ピット 71-M-8 60×57×58 円・V字形 1:10YR4/3に多い黄褐色土 ローム粒を多く含む。粘性弱い。やや締まっている。
2:10YR4/3に多い黄褐色土 ローム粒を多く含む。As-YP粒目立つ。やや粘質。やや締まっている。3:10YR3/3暗褐色土 ローム粒を多く含む。焼土粒、炭化物粒を少量含む。やや粘質。やや締まっている。
4:10YR3/3暗褐色土 ローム粒を多く含む。As-C、Hr-FAを少量含む。焼土粒を含む。やや粘質。やや締まっている。
5:10YR3/3暗褐色土 ローム粒を多く含む。As-C、Hr-FAを含む。焼土粒を含む。粘性弱い。締まりやや強い。

162号ピット 71-L-11 43×40×38 円・U字形 1:10YR2/2黒褐色土 As-C、Hr-FA粒、多く含む。粘性ない。硬く締まっている。
2:10YR2/2黒褐色土 10YR2/3黒褐色土 ロームブロックを多く含む。粘性ない。締まり弱い。

163号ピット 71-L-11 49×40×38 円・V字形 1:10YR2/2黒褐色土 As-C、Hr-FAを多く含む。粘性ない。硬く締まっている。
2:10YR2/3黒褐色土 As-C、Hr-FA粒を含む。ローム粒をわずかに含む。粘性弱い。硬く締まっている。

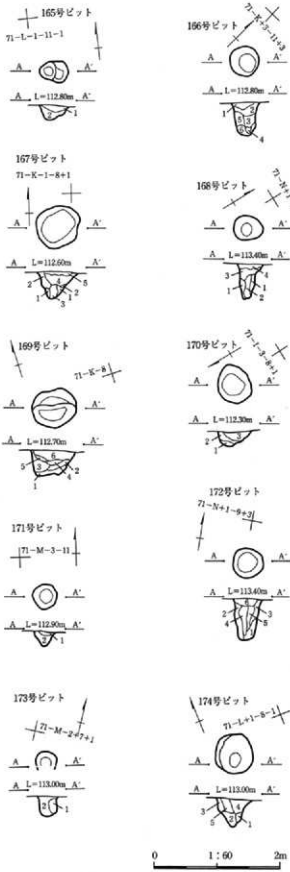
164号ピット 71-L-7 46×34×29 円・楕形 1:10YR2/3黒褐色土 ロームブロックを含む。ローム再堆積土主体、やや粘質。締まり弱い
2:10YR2/3黒褐色土 ローム粒、ローム塵を含む。焼土粒を少量含む。やや粘質。やや締まっている。3:10YR3/3暗褐色土 ロームブロックを含む。As-C、Hr-FAを含む。やや粘質。やや締まっている。
4:10YR2/3黒褐色土 As-C、Hr-FAを多く含む。炭化物、焼土含む。やや粘質。やや締まっている。

165号ピット 71-K-10 44×28×24 円・U字形 1:10YR2/2黒褐色土 As-C、Hr-FAを少量含む。粘性ない。締まりやや弱い。
2:10YR2/3黒褐色土 As-C、Hr-FAを少量含む。ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性ない。締まりやや弱い。

166号ピット 71-K-11 49×40×57 円・U字形 1:10YR2/3黒褐色土 As-C、Hr-FAを含む。粘性ない。締まりやや弱い。
2:10YR2/3黒褐色土 ローム粒、ロームブロックを少量含む。粘性ない。締まりやや弱い。3:10YR3/3暗褐色土 ローム粒を少々含む。粘性ない。締まりやや弱い。4:10YR2/3黒褐色土 ローム粒をわずかに含む。粘性ない。締まりやや弱い。5:10YR3/4暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。粘性ない。締まりやや強い。6:10YR4/3に多い黄褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。粘性ない。締まりやや弱い。

167号ピット 71-J-8 72×50×38 円・V字形 1:10YR4/3に多い黄褐色土 暗褐色土塵を含む。2:10YR3/3暗褐色土 ローム粒を多く含む。As-C、Hr-FAを少量含む。やや粘質。締まり強い
3:10YR2/3黒褐色土 ローム粒を含む。As-Cを少量含む。均質な粒径。締まり弱い。4:10YR2/2黒褐色土 10YR3/3暗褐色土の円形塵を含む。ローム粒 (特にAs-YPの粒が目立つ) 含む。As-C、Hr-FAを含む。やや粘質。やや締まっている。5:10YR2/3黒褐色

第5章 奈良時代・平安時代以後の遺構と遺物



土 ローム粒を少量含む。As-C、Hr-FA を多く含む。粘性ない。やや締まっている。

168号ビット 71-N-7 70×37×56 楕円・U字形 1:10YR4/3にふい黄褐色土 ローム粒を多く含む。粘性弱い。やや締まっている。2:10YR3/3暗褐色土 ローム粒を多く含む。ローム小ブロックを含む。焼土粒、炭化物粒を少量含む。やや粘質。やや締まっている。3:10YR3/3暗褐色土 ローム粒を多く含む。As-C、Hr-FA を少量含む。焼土粒を含む。やや粘質。やや締まっている。4:10YR3/3暗褐色土 ローム粒を多く含む。As-C、Hr-FA を含む。焼土粒を含む。粘性弱い。締まりやや強い。

169号ビット 71-K-7 70×49×49 円・楕形 1:10YR3/4暗褐色土と10YR4/3にふい黄褐色土、ローム混の混土。やや粘質。やや締まっている。2:10YR3/4暗褐色土 ローム粒を多く含む。As-C、Hr-FA を少量含む。やや粘質。締まり普通。3:10YR3/4暗褐色土ローム混、As-YP粒を含む。やや粘質。やや締まっている。4:10YR2/3暗褐色土 As-C、Hr-FA を少量含む。ローム混を含む。やや粘質。やや締まっている。5:4層よりローム混大きく、締まりやや強い。6:10YR2/3暗褐色土 ローム粒を少量含む。As-C、Hr-FA を多く含む。粘性ない。やや締まっている。

170号ビット 71-H-8 62×46×27 円・U字形 1:10YR2/2黒褐色土 ローム粒を少量含む。粘性弱い。締まっている。2:10YR2/3黒褐色土 ローム粒を少量含む。粘性弱い。締まっている。3:10YR2/3黒褐色土 As-C、Hr-FA を含む。粘性弱い。締まりふつう。

171号ビット 71-L-10 40×32×32 円・U字形 1:10YR2/3黒褐色土 As-C、Hr-FA を含む。粘性ない。締まりやや弱い。2:10YR2/3黒褐色土 暗褐色ロームブロックを含む。粘性ない。締まりやや弱い。

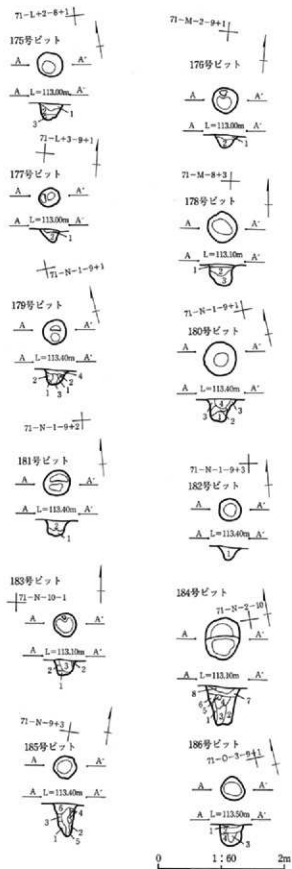
172号ビット 71-N-9 47×38×65 円・U字形 1:10YR2/3黒褐色土 ローム小ブロック少量含む。ローム粒を多く含む。やや粘質。締まり弱い。2:10YR3/4暗褐色土 ローム小ブロック少量含む。As-C、Hr-FA を含む。粘性弱い。やや締まっている。3:10YR3/4暗褐色土 ローム混多く含む。ローム粒を多く含む。やや粘質。やや締まっている。4:10YR3/3暗褐色土 ローム小ブロック、ローム混を含む。ローム粒を多く含む。As-C、Hr-FA を少量含む。粘性弱い。締まり弱い。5:10YR3/4暗褐色土 ローム小ブロック少量含む。As-C、Hr-FA を含む。粘性弱い。やや締まっている。6:10YR2/3黒褐色土 ローム小ブロック、ローム粒を多く含む。As-C、Hr-FA を多く含む。やや粘質。やや締まっている。

173号ビット 71-L-7 30×30×26 円・U字形 1:10YR2/3黒褐色土 As-C、Hr-FA を含む。ローム粒を多く含む。炭化物、焼土粒を少量含む。粘性弱い。締まり弱い。2:10YR3/4暗褐色土 ローム粒を多く含む。As-C、Hr-FA を含む。炭化物、焼土粒を1層より多く含む。やや粘質。やや締まっている。

174号ビット 71-L-7 66×46×40 円・V字形 1:10YR2/3黒褐色土 ローム小ブロックを含む。やや粘質。やや締まっている。2:10YR3/3暗褐色土 崩れたローム主体。3:10YR3/4暗褐色土ローム粒、ローム小ブロックを含む。焼土粒を少量含む。やや粘質。やや締まっている。4:10YR2/3黒褐色土 As-C、Hr-FA を含む。焼土、炭化物粒を含む。やや粘質。締まっている。5:10YR3/3暗褐色土 As-C、Hr-FA を含む。やや粘質。締まり弱い。

175号ビット 71-L-8 40×36×33 円・U字形 1:10YR3/3暗褐色

第445図 ビット平面図 土層断面図16



第446図 ピット平面図 土層断面図17

土 As-C, Hr-FA を多量に含む。粘性ない。締まり弱い。
 210YR4/3にぶい黄褐色土 As-C, Hr-FA を少量含む。粘性ない。
 締まり弱い。 310YR3/3暗褐色土 ローム粒を少量含む。粘性ない。
 締まり弱い。

176号ピット 71-L-8 40×34×18 円・U字形 110YR2/3黒褐色土 As-C, Hr-FA を少量含む。ローム粒を少量含む。粘性ない。締まりやや高い。 210YR3/3暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを少量含む。粘性ない。締まりやや弱い。

177号ピット 71-L-9 33×22×20 円・V字形 110YR2/3黒褐色土 As-C, Hr-FA を少量含む。粘性ない。締まりやや高い。 210YR3/3暗褐色土 As-C, Hr-FA をごくわずかに含む。粘性ない。締まりやや弱い。

178号ピット 71-M-8 47×38×38 円・U字形 110YR2/3黒褐色土 As-C, Hr-FA を多量に含む。粘性ない。締まりやや弱い。 210YR2/3黒褐色土 1層に似る。ロームブロック、焼土粒をわずかに含む。粘性ない。締まりやや強い。 310YR3/4暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。粘性ない。締まりやや弱い。

179号ピット 71-M-8 39×30×47 円・U字形 110YR4/3にぶい黄褐色土 再堆積ローム主体、As-C, Hr-FA を少量含む。 210YR2/3黒褐色土 As-C, Hr-FA を含む。焼土粒を含む。粘性ない。締まり弱い。 310YR2/3黒褐色土 ローム粒を含む。粘性弱い。締まり弱い。 410YR2/3黒褐色土 As-C, Hr-FA を含む。焼土粒を含む。粘性強い。やや締まっている。

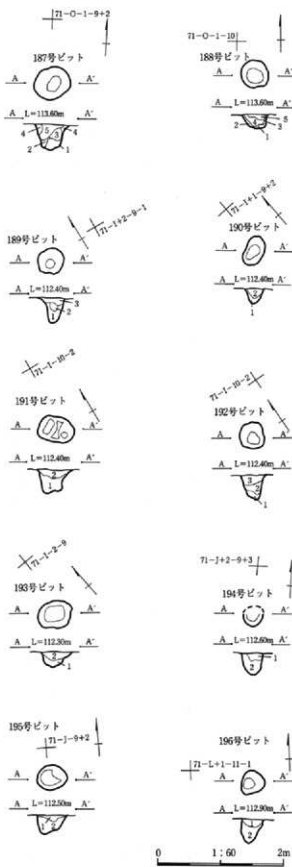
180号ピット 71-M-9 52×40×38 円・U字形 110YR2/3黒褐色土 ローム粒を含む。やや粘質。やや締まっている。 210YR3/3暗褐色土 ローム粒を含む。As-C, Hr-FA を少量含む。やや粘質。やや締まっている。 310YR2/3黒褐色土 As-C, Hr-FA を含む。ローム粒を少量含む。やや粘質。やや締まっている。 410YR2/3黒褐色土 As-C, Hr-FA を含む。炭化物、焼土含む。粘性弱い。やや締まっている。

181号ピット 71-M-9 40×35×34 円・U字形 110YR4/3にぶい黄褐色土 再堆積ローム主体、As-C, Hr-FA を少量含む。 210YR2/3黒褐色土 As-C, Hr-FA を含む。炭化物、焼土含む。粘性弱い。やや締まっている。

182号ピット 71-M-9 35×32×31 円・V字形 110YR3/2黒褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。As-C, Hr-FA を多く含む。やや砂質。やや締まっている。

183号ピット 71-M-9 38×30×26 円・U字形 110YR4/3にぶい黄褐色土 再堆積ローム主体、やや粘質。締まり弱い。 210YR2/3黒褐色土 ローム粒を含む。As-C, Hr-FA を少量含む。やや粘質。締まり弱い。 310YR2/2黒褐色土 As-C, Hr-FA を含む。やや砂質。やや締まっている。

184号ピット 71-M-9 66×42×72 円・逆台形 110YR3/3暗褐色土 ローム粒を多く含む。やや粘質。やや締まっている。 210YR3/3暗褐色土 ローム粒を多く含む。ローム小ブロックを含む。やや粘質。やや締まっている。 310YR3/4暗褐色土 ローム粒を多く含む。締まり弱い。粘性弱い。 410YR3/3暗褐色土 ローム小ブロック、ローム塊を含む。ローム粒を多く含む。As-C, Hr-FA を少量含む。粘性強い。締まり弱い。 5.8層のブロック。 610YR4/3にぶい黄褐色土 再堆積ローム、やや粘質。やや締まっている。 710YR3/3暗褐色土 ローム粒、ローム小ブロックを含



第447図 ビット平面図 土層断面図18

む。As-C、Hr-FAを含む。粘質。締まり弱い。 810YR2/2黒褐色土 As-C、Hr-FAを多く含む。ローム粒を少量含む。やや砂質。やや締まっている。

185号ビット 71-M-9 36×31×35 円・V字形 1:10YR3/3暗褐色土 ローム粒を多く含む。やや粘質。やや締まっている。 2:ローム小ブロックを含む。 3:10YR3/4暗褐色土 ローム粒多く含む。As-C、Hr-FAを少量含む。やや粘質。やや締まっている。 4:10YR3/3暗褐色土 ローム粒を多く含む。締まり弱い。粘性弱い。 5:10YR2/2黒褐色土 As-C、Hr-FAを含む。ローム粒、小ブロックを含む。粘性弱い。締まり弱い 6:10YR3/2黒褐色土 As-C、Hr-FAを含む。ローム粒を含む。やや砂質。やや締まっている。

186号ビット 71-N-9 40×30×37 円・U字形 1:10YR2/3黒褐色土 As-C、Hr-FAを多量に含む。粘性ない。締まりやや弱い。 2:10YR4/6 褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。粘性ない。締まりやや弱い。 3:10YR4/6 褐色土 ローム粒を少量含む。粘性ない。締まりやや弱い。 4:10YR5/6黄褐色土 ローム土をよく含む。粘性ない。締まりやや弱い。

187号ビット 71-N-9 57×30×51 円・U字形 1:10YR3/4暗褐色土 ローム粒、小ブロックを多く含む。やや粘質。やや締まっている。 2:10YR4/3にぶい黄褐色土 再堆積ローム主体、ハードロームブロックを含む。 3:10YR3/3暗褐色土 As-C、Hr-FAを含む。ローム粒を多く含む。 4:10YR4/3にぶい黄褐色土 再堆積ローム主体。 5:10YR2/2黒褐色土 As-C、Hr-FAを多く含む。ローム小ブロックを含む。やや砂質。やや締まっている。

188号ビット 71-N-9 42×39×27 円・U字形 1:10YR4/3にぶい黄褐色土 再堆積ローム主体、やや粘質。締まり弱い。 2:10YR2/3黒褐色土 ローム粒を含む。As-C、Hr-FAを少量含む。やや粘質。締まり弱い。 3:10YR2/3黒褐色土 ローム粒を含む。As-C、Hr-FAを少量含む。やや粘質。締まり弱い。 4:10YR2/2黒褐色土 As-C、Hr-FAを含む。やや砂質。やや締まっている。 5:10YR3/3暗褐色土 4層が主体だが、As-Bを含む。円形産物多く含む。

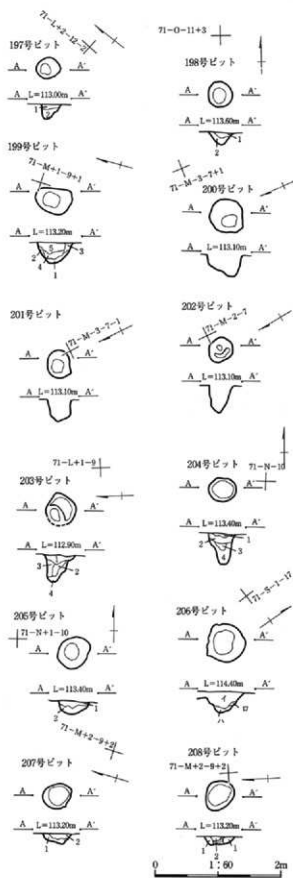
189号ビット 71-I-8 40×38×44 円・U字形 1:10YR3/2黒褐色土 粘性ない。締まりごく弱い。 2:10YR3/4暗褐色土 As-Cを含む。粘性ない。やや締まっている。 3:10YR3/3暗褐色土 As-Cを含む。粘性ない。やや締まっている。

190号ビット 71-I-9 49×28×31 円・U字形 1:10YR2/2黒褐色土 粘性ない。締まりごく弱い。 2:10YR2/2黒褐色土 As-C、Hr-FAを含む。粘性ない。締まっている。

191号ビット 71-I-9 58×35×48 楕円・楕円形 1:10YR2/2黒褐色土 径1cmほどの10YR4/6褐色ローム小ブロックを多く含む。粘性ない。締まりごく弱い。 2:10YR2/2黒褐色土 径0.5cmほどの10YR4/6褐色ローム粒を多く含む。上位は10YR2/1黒土を含む。硬く締まっている。

192号ビット 71-I-9 42×34×39 円・V字形 1:10YR4/3にぶい黄褐色土 やや粘質。締まりごく弱い。 2:10YR2/2黒褐色土 As-Cを含む。粘性ない。やや締まっている。 3:2.5Y2/2黒褐色土 As-Cを多く含む。粘性ない。硬く締まっている。

193号ビット 71-I-8 53×40×25 楕円・U字形 1.7.5YR2/3黒褐色土 粘性ない。締まり弱い。 2.7.5YR2/2黒褐色土 As-Cわずかに含む。粘性ない。やや締まっている。



第448図 ピット平面図 土層断面図19

194号ピット 71-J-9 32×32×33 円・U字形 1:10YR2/3黒褐色土 As-C、Hr-FAを多量に含む。粘性ない。締まりやや弱い。2:10YR2/3黒褐色土 As-C、Hr-FAを少量含む。ロームブロックをわずかに含む。粘性弱い。締まりやや弱い。

195号ピット 71-I-9 48×32×32 円・U字形 1:10YR2/2黒褐色土 As-C、Hr-FAを多量に含む。粘性ない。締まりやや弱い。2:10YR2/3黒褐色土 As-C、Hr-FAを少量含む。ローム粒を少量含む。

196号ピット 71-L-10 39×32×37 円・U字形 1:10YR3/3暗褐色土 As-C、Hr-FAを多く含む。粘性ない。締まりやや弱い。2:10YR3/2黒褐色土 ロームブロックを多く含む。粘性ない。締まり弱い。

197号ピット 71-L-11 38×21×31 円・U字形 1:10YR2/2黒褐色土 As-C、Hr-FAを多く含む。粘性ない。硬く締まっている。2:10YR2/3黒褐色土 暗褐色ロームブロックを含む。粘性ない。硬く締まっている。

198号ピット 71-O-11 40×30×19 円・U字形 1:10YR2/2黒褐色土 Hr-FAを多く含む。粘性ない。硬く締まっている。2:10YR3/3暗褐色土 ロームブロックわずかに含む。粘性ない。締まり弱い。

199号ピット 71-M-9 92×52×42 楕円・U字形 1:10YR2/2黒褐色土 ローム塊を含む。粘性やや強い。締まっている。2:10YR4/3にぶい黄褐色土 汚れたローム主体、ローム塊を含む。粘性やや強い。締まっている。3:10YR3/3暗褐色土 ローム塊を含む。As-C、Hr-FAを少量含む。やや粘質。締まっている。4:10YR3/4暗褐色土 ローム粒、小ブロックを含む。As-C、Hr-FAを少量含む。やや粘質。やや締まっている。5:10YR2/3黒褐色土 As-C、Hr-FAを多く含む。ローム粒を含む。やや粘質。やや締まっている。

200号ピット 71-L-7 56×38×33 円・レタ形

201号ピット 71-L-7 43×30×32 円・U字形

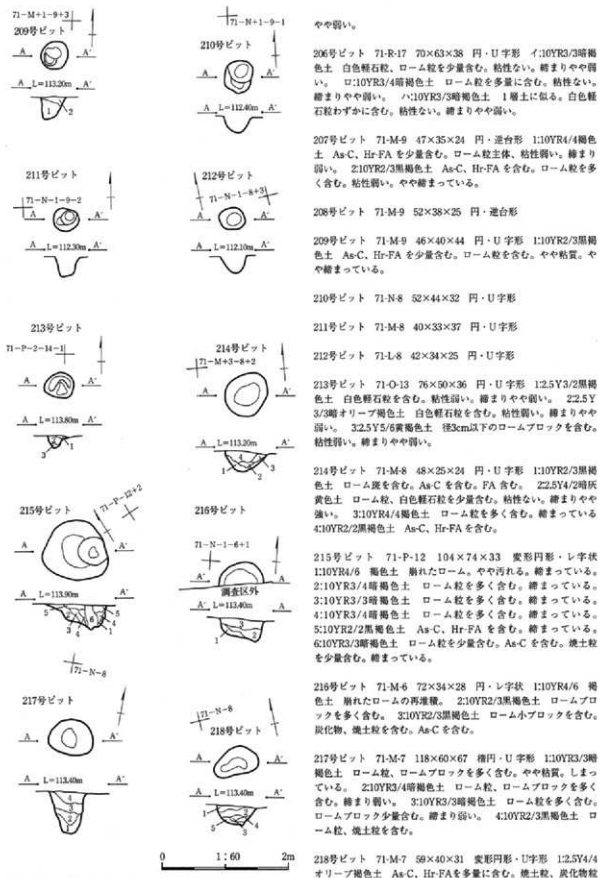
202号ピット 71-L-6 40×29×40 円・V字形

203号ピット 71-L-9 49×33×43 円・U字形 1:10YR2/3黒褐色土 As-C、Hr-FAを多量に含む。ローム粒をごくわずかに含む。粘性ない。締まりやや弱い。2:10YR2/3黒褐色土 ローム粒、ロームブロック、As-C、Hr-FAを少量含む。粘性ない。締まり弱い。3:10YR3/3暗褐色土 As-C、Hr-FAを少量含む。粘性ない。締まり弱い。4:10YR3/4暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。粘性ない。締まり弱い。

204号ピット 71-N-9 44×31×79 円・U字形 1:10YR3/2黒褐色土 As-C、Hr-FAを多量に含む。粘性ない。締まりやや弱い。2:10YR3/2黒褐色土 As-C、Hr-FAを少量含む。粘性ない。締まりやや弱い。3:10YR3/2黒褐色土 As-C、Hr-FAをわずかに含む。粘性ない。締まり弱い。4:10YR3/3暗褐色土 As-C、Hr-FAを多量に含む。ローム粒、ロームブロックを含む。粘性ない。締まり弱い。

205号ピット 71-N-9 54×35×23 円・U字形 1:10YR3/2黒褐色土 As-C、Hr-FAを多量に含む。粘性ない。締まりやや弱い。2:10YR3/2黒褐色土 As-C、Hr-FAを少量含む。粘性ない。締まり

第5章 奈良時代・平安時代以後の遺構と遺物



第449図 ビット平面図 土層断面図20

やや弱い。

206号ビット 71-R-17 70×63×38 円・U字形 I:10YR3/3暗褐色土 白色軽石粒、ローム粒を少量含む。粘性ない。締まりやや弱い。 R:10YR3/4暗褐色土 ローム粒を多量に含む。粘性ない。締まりやや弱い。 H:10YR3/3暗褐色土 1層土に似る。白色軽石粒わずかに含む。粘性ない。締まりやや弱い。

207号ビット 71-M-9 47×35×24 円・逆台形 I:10YR4/4褐色土 As-C, Hr-FAを少量含む。ローム粒主体、粘性弱い。締まり弱い。 2:10YR2/3黒褐色土 As-C, Hr-FAを含む。ローム粒を多く含む。粘性弱い。やや締まっている。

208号ビット 71-M-9 52×38×25 円・逆台形

209号ビット 71-M-9 46×40×44 円・U字形 I:10YR2/3黒褐色土 As-C, Hr-FAを少量含む。ローム粒を含む。やや粘質。やや締まっている。

210号ビット 71-N-8 52×44×32 円・U字形

211号ビット 71-M-8 40×33×37 円・U字形

212号ビット 71-L-8 42×34×25 円・U字形

213号ビット 71-O-13 76×50×36 円・U字形 I:2.5Y3/2黒褐色土 白色軽石粒を含む。粘性弱い。締まりやや弱い。 2:2.5Y3/3暗オリーブ褐色土 白色軽石粒を含む。粘性弱い。締まりやや弱い。 3:2.5Y5/6黄褐色土 径3cm以下のロームブロックを含む。粘性弱い。締まりやや弱い。

214号ビット 71-M-8 48×25×24 円・U字形 I:10YR2/3黒褐色土 ローム塊を含む。As-Cを含む。FA含む。 2:2.5Y4/2暗灰黄色土 ローム粒、白色軽石粒を少量含む。粘性ない。締まりやや強い。 3:10YR4/4褐色土 ローム粒を多く含む。締まっている。 4:10YR2/2黒褐色土 As-C, Hr-FAを含む。

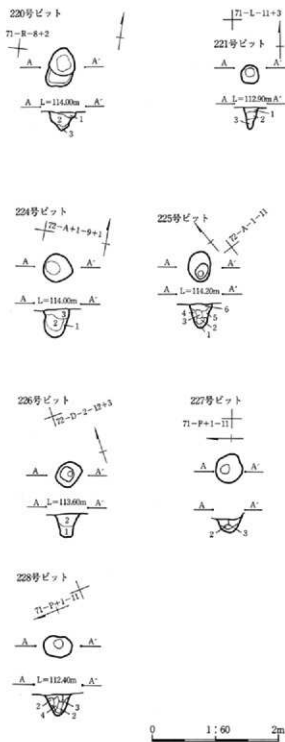
215号ビット 71-P-12 104×74×33 変形円形・レ字状 I:10YR4/6 褐色土 崩れたローム。やや汚れる。締まっている。 2:10YR3/4暗褐色土 ローム粒を多く含む。締まっている。 3:10YR3/3暗褐色土 ローム粒を多く含む。締まっている。 4:10YR3/4暗褐色土 ローム粒を多く含む。締まっている。 5:10YR2/2黒褐色土 As-C, Hr-FAを含む。締まっている。 6:10YR3/3暗褐色土 ローム粒を少量含む。As-Cを含む。焼土粒を少量含む。締まっている。

216号ビット 71-M-6 72×34×28 円・レ字状 I:10YR4/6 褐色土 崩れたロームの再堆積。 2:10YR2/3黒褐色土 ロームブロックを多く含む。 3:10YR2/3黒褐色土 ローム小ブロックを含む。炭化物、焼土粒を含む。As-Cを含む。

217号ビット 71-M-7 118×60×67 楕円・U字形 I:10YR3/3暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを多く含む。やや粘質。しまっている。 2:10YR3/4暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを多く含む。締まり弱い。 3:10YR3/3暗褐色土 ローム粒を多く含む。ロームブロック少量含む。締まり弱い。 4:10YR2/3黒褐色土 ローム粒、焼土粒を含む。

218号ビット 71-M-7 59×40×31 変形円形・U字形 I:2.5Y4/4 オリーブ褐色土 As-C, Hr-FAを多量に含む。焼土粒、炭化物粒

4 井戸・土坑・ピット



第450図 ピット平面図 土層断面図21

を少量含む。ローム粒、径1cm以下のローム小ブロックをわずかに含む。粘性ない。やや締まっている。225Y4/4オリーブ褐色土 径1cm以下のローム小ブロックをわずかに含む。焼土粒、炭化物粒を少量含む。白色軽石等をわずかに含む。粘性ない。やや締まっている。32.5Y4/4オリーブ褐色土 ローム粒をわずかに含む。粘性ない。やや締まっている。42.5Y3/3暗オリーブ褐色土 径0.5cm以下のローム粒を少量含む。焼土、炭化物をわずかに含む。粘性ない。やや締まっている。

220号ピット 71-Q-8 64×40×34 楕円・U字形 I10YR3/4暗褐色土 As-C, Hr-FA を多く含む。粘性ない。締まりやや弱い。210YR3/4暗褐色土 As-C, Hr-FA を含む。ローム粒を多量に含む。粘性ない。締まりやや弱い。310YR3/3暗褐色土 ローム粒を多量に含む。粘性ない。締まりやや弱い。

221号ピット 71-K-10 30×26×29 円・V字形 I10YR2/3黒褐色土 As-C, Hr-FA, 焼土を含む。粘性ない。締まりやや弱い。210YR2/3黒褐色土 As-C, Hr-FA を多量に含む。粘性ない。締まりやや弱い。310YR3/3暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。粘性ない。締まりやや弱い。

224号ピット 72-A-9 46×42×33.5 円・U字形 I10YR4/4褐色土 崩れた地山ロームを主体とする。2層と混じる。締まり弱い。210YR3/3暗褐色土 ローム粒を多く含む。As-C, Hr-FA を少量含む。やや締まっている。310YR2/3黒褐色土 As-C, Hr-FA を含む。やや締まっている。

225号ピット 72-A-10 48×36×45.5 円・U字形 I10YR4/6褐色土 崩れた地山ロームの再堆積土。やや締まっている。210YR3/3暗褐色土 ロームブロックを含む。締まり弱い。310YR3/3暗褐色土 As-C を含む。締まり弱い。410YR4/6褐色土 ロームブロックと崩れた地山ロームの混土。510YR4/6 褐色土 ロームブロックと崩れた地山ロームの混土。610YR2/3黒褐色土 As-C, Hr-FA, 炭化物粒を含む。締まっている。

226号ピット 72-B-12 42×32×67.5 円・U字形 I10YR2/3黒褐色砂質土 ローム粒を含む。210YR2/3黒褐色砂質土 ローム粒、As-C を含む。

227号ピット 71-P-10.11 円・U字形 I10YR2/3黒褐色土 ローム粒少量含む。粘性なし。締まりやや弱い。210YR2/3黒褐色土 ローム粒少量含む。ロームブロックを不均質に少量含む。粘性なし。締まりやや弱い。310YR2/2黒褐色土 ローム粒、ロームブロックを少量含む。粘性なし。締まりやや弱い。410YR3/2黒褐色土 ローム粒を少量含む。粘性なし。締まりやや弱い。

228号ピット 71-P-10 円・楕形 I10YR4/3にふい黄褐色土 ローム粒、ロームブロック多量に含む。粘性なし。締まりやや弱い。210YR4/3にふい黄褐色土 ローム粒、ロームブロック少量含む。粘性なし。締まりやや弱い。310YR3/4暗褐色土 ロームブロック少量含む。粘性なし。締まりやや弱い。

5 溝・水田

溝

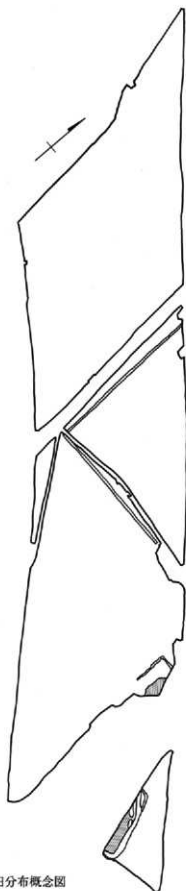
調査区中央部の東向き斜面に、現行地割りに沿って、台地上部の一画を区切るように屈曲する1号溝がある。古代の遺構を囲むような位置にあたるが、覆土にAs-Bを含み、9世紀末の25号住居を切るなどのことから、古代までの遺構とは関係しない。

東側谷部の西縁辺でL字状に屈曲する2号溝に区画された内部にはAs-Bの堆積があり、水田が想定される。この溝は水田に関連するものかと思われるが、機能・性格や時代を確定できる資料を得られなかった。東縁辺では、As-Bに埋没した水田と、この水田の外縁を区切る6号溝がある。ここでは、6号溝をトレースするように、同位置でさらに3条の溝が重複し、最も新しい3号溝は耕地改良直前まで使われていたものらしい。平安時代以後、断続的ながら類似した土地区画、土地利用がなされていたものと推定される。

水田

東側谷部の西縁辺部では、As-Bの堆積を認め、水田があるものと想定されるが、遺構としては把握されていない。東縁辺のAs-B下水田も、低い畦と水口をごく一部のみを見いだしたもので、水田耕地全体の広がりや把握するには到っていない。この東側谷地は、堅穴住居や掘立柱建物のある当遺跡の台地からも、対岸の富田下大日遺跡の台地からも比較的緩い傾斜で連続する、浅い低地である。谷地内では、試掘調査によりAs-Bが堆積していることは確認されたものの、明確な水田遺構はない事がわかっており、縁辺部だけに小規模な水田が作られたものかもしれない。

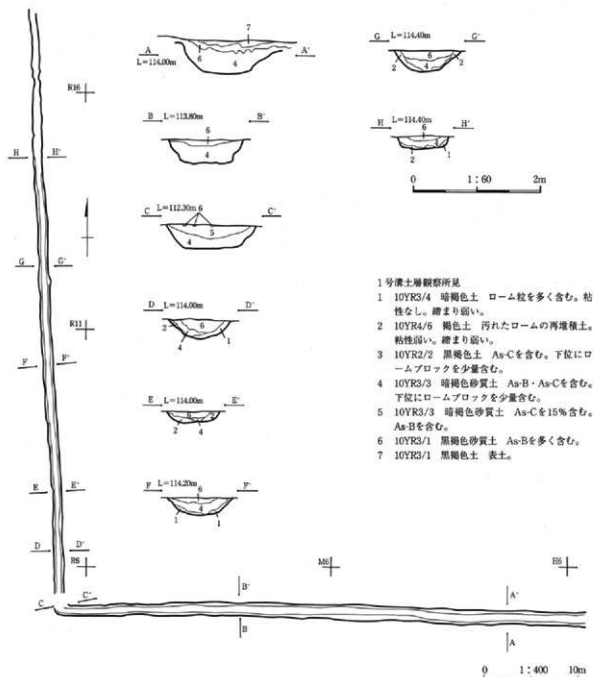
台地西側の谷は、遺構全体が希薄な台地西斜面から、急な傾斜を持って画される深い谷である。萱野Ⅱ遺跡に含まれるが、こちらも厚いAs-B層が、プライマリーな状態で堆積するものの、遺構は確認されず、植物珪酸体も水田があることを示すような量では検出されていない。



第451図 溝・水田分布概念図

1号溝

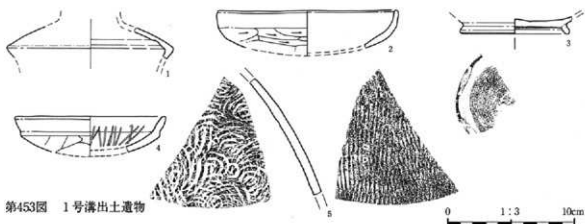
71R-17グリッドの調査区北端からS-4グリッドまで、台地頂部近くを北から南に延び、ほぼ直角に東に折れてG-5グリッドに到る。東端は確認できていない。北端から屈曲部までの南北確認長13m。この部分は上位の表土が薄いこともあってか、細く、浅い。特に北部では痕跡程度にしか確認できない。確認面での上端幅40cmから50cm、深さ7cmから14cmで、皿状の断面形を呈す。屈曲部から東方向への確認長は11.3mで、さらに東に延びて、おそらく東側谷地に到るものであろう。この部分では上端幅60cmから70cm、下端幅40cmから50cm、深さ20cm-30cmで、逆台形の断面形を呈する。南北方向部は現道に沿い、現水路との交点



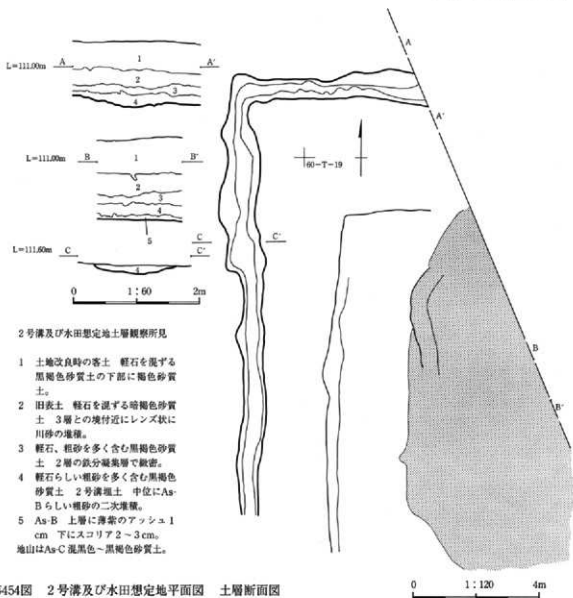
第452図 1号溝平面図 土層断面図

第5章 奈良時代・平安時代以後の遺構と遺物

で屈曲して、水路に沿って東に延びる。覆土に土師器・須恵器・灰釉陶器片や縄文土器片等を含むが、竪穴住居や掘立柱建物を切り、覆土にAs-Bを混ざるため、早くとも中世以後の掘削である。



第453図 1号溝出土遺物



2号溝及び水田想定地土層観察所見

- 1 土地改良時の客土 軽石を覆する黒褐色砂質土の下部に褐色砂質土。
- 2 田底土 軽石を混ざる暗褐色砂質土 3層との境付近にレンズ状に川砂の堆積。
- 3 軽石、粗砂を多く含む黒褐色砂質土 2層の鉄分凝集帯で緻密。
- 4 軽石らしい粗砂を多く含む黒褐色砂質土 2号溝埋土 中位にAs-Bらしい粗砂の二次堆積。
- 5 As-B 上層に薄層のアッシュ1cm 下にスコリア2~3cm。地山はAs-C 混黒色~黒褐色砂質土。

第454図 2号溝及び水田想定地平面図 土層断面図

2号溝及び水田想定地

2号溝は61-Q-18グリッドからT-19グリッドにかけて、標高110.5mの等高線に沿うように、東側谷地西縁辺の一部を区切る。確認できたのはL字状に屈曲する形状で、東西確認長6m、南北確認長14.4m。上部部がやや崩れていて幅を確定しがたいが、60cmから140cmほど、深さは20cmほどで、浅い皿状の断面形を呈する。出土遺物はなく、時代を判定する資料に欠けるが、覆土中にAs-Bかと思われる粗砂状の粒子の層を挟む。

この溝の内側には、わずかな平坦面が、弱い階段状に2段作られている。平面図にトーンで示したとおり、最下位の平坦面をAs-Bが覆っており、畦や水口は認められないものの、2号溝に示される区画と併せて水田があったものと想定される。

3・4・5・6号溝及び水田

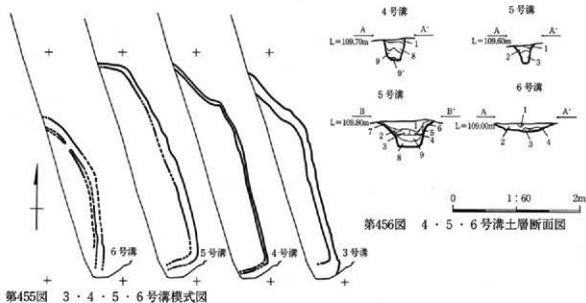
東側谷地の東縁辺に当たる61-K-5からK-10グリッドにかけて、標高109.6mの等高線に沿うようにゆるい弧を描いて、大まかにまとめて4条の溝がほぼ同一位置で重複する。

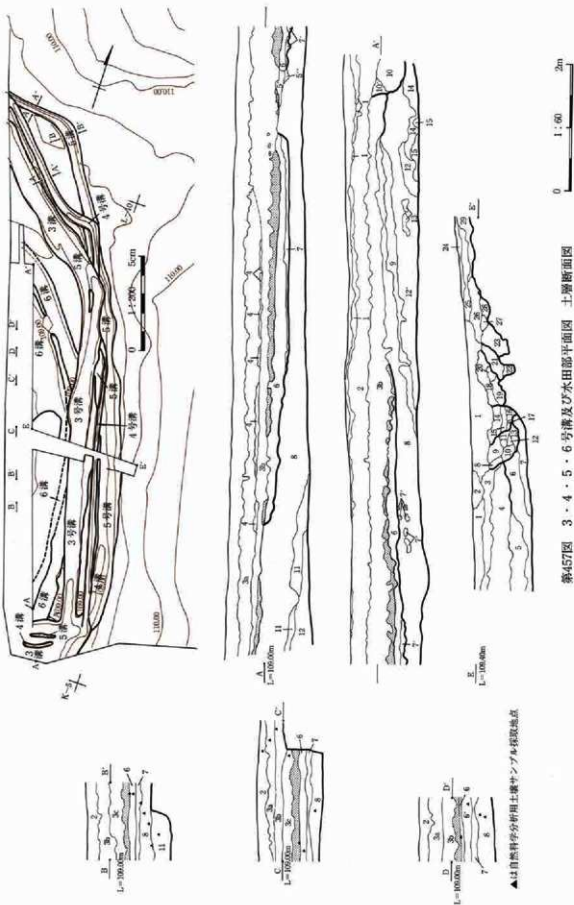
3号溝とした最も新しい溝は、細分すると3条以上の溝が重複したものであるが、最下位の溝覆土下層からごく最近のガラス片などが出土したため、積極的な調査対象とはしなかった。他の溝はいずれも3号溝に切られている。

4号溝は3号溝と相似形でやや外側を走る。上端幅36cmから43cmほどで、中位で幅20cmほどに狭まって漏斗状の断面形を呈する。覆土には砂粒を多く含む。5号溝を切る。出土遺物はないが、これもさして時代の遡るものとは見られない。

5号溝は一番外側をめぐっている。北部では上端幅40cm、深さ35cmから40cmほどの細く深い、U字状の断面形を持つ溝で東西方向に伸びているが、調査区内に入ってすぐに南に折れ、上端幅60cm、深さ30cmほどのコ字状に近い断面形のやや幅広の溝となる。覆土は砂層を介する黒色土で、As-B層を切って掘られている。これも出土遺物はなく、年代の特定はできない。

6号溝は一番内側にある。上端幅は80cmから90cm、土層断面図は上位を他の溝で削られた部分に当たるため、ごく浅い溝に見えるが、北端部での東側上端部からの最大確認深は66cmある。ここからも出土遺物はないが、As-B前の溝である。





第457図 3・4・5・6号溝及び水田部平面図 土層断面図

6号溝の西側壁に沿って低い畦が残っており、幅50cm弱の間畦がとぎれる水口も見られる。畦に囲まれた内部にはAs-Bが堆積する。堆積状況から見て、畦をそれとして確認できなかった部分においても水田区画がなされているものと考えられる。東側は3号溝に切れ、西側を現用水路に切られるが、西側調査区界での長は13.7mあり、土層断面で見るとこの間に2区画の水田があったものらしい。As-B下は混入物がほとんど無い、きめの細かい黒色粘質土で、水田の耕土と見て良い。水田面にあたるAs-B下面においてはイネのプラントオパールが検出されており、上下の層にはそれが見られない。とはいえ800個/gから3000個/gと低めの数値であり、量的にはヨシ属のプラントオパールが圧倒的に多いところから見て、食糧生産の主力となりうるような良質の水田ではなかったようである。

4号溝土層観察所見

- 1 10YR2/3 黒褐色砂質土 ロームブロックを少量含む。
- 2 7.5YR2/3 黒褐色砂質土 1層よりやや明るい、ロームブロックはなく、砂は1層より多い。
- 3 10YR3/2 黒褐色砂質土 2層よりさらに明るい。ローム粒及び細かな軽石を少量含む。2層よりさらに多く砂を含む。

5号溝土層観察所見

- 1 10YR1.7/1~2/2 黒色~黒褐色砂質土 ロームブロック少量含む。やや粗粒の砂を含む。
- 2 7.5YR2/1 黒色砂質土 1層よりやや暗い。1層より細かい砂を含む。
- 3 10YR2/2 黒褐色砂質土 ローム粒を含む。
- 4 7.5YR2/1 黒色砂質土 やや粘性がある。
- 5 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。やわらかく、砂粒は少ない。
- 6 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロックを含む。
- 7 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロックを含む。
- 8 10YR2/1 黒色砂質土 細粒の砂を含む。
- 9 10YR2/1~2/2 黒色~黒褐色砂質土 ロームブロックを含む。細粒の砂を含む。硬い。
- 10 10YR2/2~10YR3/1 黒褐色砂質土 9層に近いが砂粒を多く含む。

6号溝土層観察所見

- 1 10YR3/2 黒褐色砂土 火山灰層を伴うAs-Bのブロック。
- 2 10YR2/2 黒褐色砂質土。
- 3 10YR3/2 黒褐色砂土 黒色粘質土のブロックを含む。
- 4 10YR2/1 黒色土 砂粒を少量含む。

3~6号溝及び水田部土層観察所見

A-Dライン B・C・D部は植物球形体分析サンプル採取地点

- 1 7.5YR2/2 黒褐色粘質土 土のようになり、細粒。混入物ほとんど無し。
 - 2 10YR2/3 黒褐色粘質土 黒色土、褐色土の塊を含む。
- 3a・3b 10YR2/1 黒色土 4層で2分される。b層のほうがやや灰色がかかるが、中間の砂層が無い部分では全体がb層に近くなり、分層が困難。b層上には土壌化した部分も見られる。3c 3bより黒みが強く砂粒が少ない。下位には火山灰部分を含むAs-Bや青みがかったAs-kkの火山灰と思われるものがブロック、あるいは団子状に混じる。
- 4 10YR3/1 黒褐色砂層 3a・b層の中間にあり、3b層はこの層の下位部分だけ、厚さ2~3cm程度耕土化する。
 - 5 As-Bを主体とする。上面は洗れたように乱れるが、団子状の火山灰がある。下面は安定している。5' 3b層を主体とし、As-Bが混ざる。5'' As-Bを主体とし、3b層が混ざる。
 - 6 10YR1.7/1 黒色粘質土 細粒の粘土質土。混入物はほとんど無い。水田耕土。6' 黒味がやや強く、細粒の軽石や砂粒を含む。
 - 7 10YR2/2 黒褐色土 細粒の軽石、砂を含む。
 - 8 10YR1.7/1 黒色土 6層より黒み弱い。As-C、Hr-FAを含む。
 - 9 10YR2/2 黒褐色土 As-Cと思われる軽石及び砂粒を含む。
 - 10 10YR2/1 黒色砂土 砂を主体とする。中位にレンズ状に黒色土がある。下位にはAs-YPらしき軽石を含む。10' 2層が混ざる。
 - 11 10YR2/1 黒色粘質土 As-C、Hr-FAを含む。11' 灰色味が強く、褐灰色を呈する。シルト、砂粒を含む。ヨシのような植物の腐食した根茎が含まれる。As-Cと思われる軽石が風化した粒子が見られる。
 - 12 10YR4/2 暗灰黄色粘質土 細粒の砂、炭化物片を含む。As-YPと思われる風化した黄色みがかった軽石を含む。12' やや砂が多い。
 - 13 10YR3/1 黒褐色砂土 細粒の軽石、炭化物片を少量含む。
 - 14 10YR5/4 に近い黄褐色粘質土 As-BP相当層か。もとは軽石を多く含んでいたようだが、風化して粘土化が進み、粒子はほとんど分らない。
 - 15 5RP3/1 暗赤灰色粘土 混入物ほとんど無い。暗赤色が粘土化した部分だろう。周辺遊離の有機質土に用いられる粘土と思われる。
- Eライン
- 1 10YR3/3 暗褐色土 雑文土砂を含む。
 - 2 10YR3/1 黒褐色粘質土 黄褐色ロームのブロックや粒子を含む。As-Cと思われる軽石を含む。
 - 3 10YR1.7/1 黒色粘質土 As-Cを含む。砂粒含む。

第6章 遺物観察表

1 観察表凡例

(1) 縄文時代土器分類表について

縄文土器については、以下の基準に則して個別破片の分類を行っている。後段の土器分類表にはここで示した略号を用いた。

第I群土器 早期弥生系土器群

- 第3類 稲荷台式土器を一括する
 c) 胴部・底部破片で比較的原体施文が粗いものを一括する。
 d) 無文のものを一括する。

第II群土器 他の早期の土器群

- 第1類 押型文系土器群を一括する
 b) 楕円押型文土器を一括する

第III群土器 前期花綱下層式土器

- 第1類 惣紐の側面庄直文を施文する土器群を一括する。
 a) 口縁部文様帯に2段の縄の側面庄直文を施すもの
 b) 口縁部文様帯に1段としを合わせた側面庄直文を施すもの
 第2類 羽状縄文のみ施文する土器群を一括する。
 a) 縦位構成の縦角羽状縄文を施文するもの
 b) 縦位縄文や斜格子目状縄文を施文するもの
 第3類 帯位の横位羽状縄文を施文する土器群を一括する。
 a) 口縁部に帯文を施文するもの
 c) 非結束羽状縄文を施文するもの

第IV群土器 前期有尾式土器群

- 第1類 爪形文系土器群を一括する。
 第2類 平行沈線文系土器群を一括する。

第V群土器 前期黒沢式土器

- 第1類 黒沢式古段階に比定される有文土器を一括する。
 第2類 黒沢式新段階に比定される有文土器を一括する。
 a) 平行沈線文を施文するもの
 b) コンパス文を施文するもの
 c) 平行爪形文の区画や「米」字文を描くもの
 d) 円形竹管文列を施文するもの
 第3類 地文縄文のみ施文する土器群を一括する。

第VI群土器 前期諸磯a式土器

- 第1類 「米」字文を構成する土器群を一括する。
 第2類 多糸平行沈線文で「米」字文を描くもの
 第3類 「米」字文以外のモチーフを描くものを一括する。
 a) 肋骨文を基調としたモチーフを描くもの
 (1) 弧状肋骨文を描くもの
 (2) 鹿角状肋骨文を描くもの
 (3) 単方向の肋骨文を描くもの
 b) 平行波状沈線文を基調としたモチーフを描くもの
 (1) 横位多段区画内に波状沈線文を描くもの
 (2) 文様帯内に多段の波状沈線文を描くもの
 (3) 横位区画内に縦位波状沈線文を描くもの
 c) 円形竹管文列を垂下するもの
 (1) 波状口縁の頂部から短く垂下する小さな円形竹管文のもの
 (2) 文様帯内に幅広く垂下する小さな円形竹管文のもの
 (3) 文様帯内に幅広く垂下する大きな円形竹管文のもの
 d) 口縁部や胴部を爪形文や平行沈線文で区画するもの
 (1) 2本対の爪形文で磨溝縄文状に区画するもの
 (2) 3本以上の爪形文で区画するもの

(4) 文様帯の区画線として爪形文や平行沈線文を施文するもの
 第3類 木葉文系のモチーフを描くものを一括する。

- a) 木葉文を基調とするモチーフを描くもの
 (1) 平行沈線で描くもの
 (2) 爪形文で描くもの
 b) 変形木葉文を基調とするモチーフを描くもの
 (1) 平行沈線で描くもの
 (2) 爪形文で描くもの
 第4類 地文縄文および無文の土器群を一括する
 a) 縄文のみ施文する土器群
 b) 所謂無文の浅鉢を一括する
 c) 無文の土器群を一括する
 第5類 北白川下層式土器群を一括する

第VII群土器 前期諸磯b式土器

第1類 諸磯b1式に比定される平行沈線文及び爪形文土器を一括する。

- a) 変形木葉文のモチーフを描くもの
 (1) 平行沈線で描くもの
 (2) 爪形文で描くもの
 c) 波状文と渦巻文を組み合わせたもの
 (1) 平行沈線で描くもの
 (2) 刻みを挟む縦位爪形文で描くもの
 d) 格子目文や肋骨文系のモチーフを描くもの
 (1) 平行沈線、爪形文でのモチーフを描くもの
 (2) 爪形文で区画し、主文様を平行沈線文で描くもの
 e) 区画文のみを施文するもの
 (1) 平行沈線で描くもの
 (2) 爪形文で描くもの
 第2類 諸磯b2式・b3式に比定される浮線文土器を一括する。
 a) 変形木葉文系モチーフの歯止め文を浮線で描くもの
 (1) 縄文を帯がす浮線で描くもの
 (2) 刻みを施す太い浮線で描くもの
 b) 渦巻文系のモチーフを描くもの
 (1) 刻みを施す太い浮線で描くもの
 (2) 交互異方向の刻みを施す複数浮線で描くもの
 c) 区画文や円形竹管文など組み合わせもの
 (1) 刻みを施す太い浮線で描くもの
 (2) 獣面把手や隆帯渦巻文が口縁部に付くもの
 (1) 刻みを施す太い浮線で描くもの
 g) 化粧浮線、扁平浮線、微隆起状浮線を施文するもの
 第3類 諸磯b2式・b3式に比定される浮線文土器を一括する。
 a) 平行沈線で渦巻文を連結するモチーフを描くもの
 (1) 平行沈線で描くもの
 c) 横位多段の平行沈線、条線を施文するもの
 第4類 縄文のみ施文する深鉢、浅鉢を一括する。
 a) 口縁部に円形竹管文で、時間の確定が難しいもの
 c) 無文の浅鉢を一括する

第VIII群土器 前期諸磯c式土器

- 第1類 貼付文系土器を一括する。
 a) 耳たぶ状貼付文を持つもの
 (1) 円形竹管文を施した2個対のボタン状貼付文を伴うもの
 b) 棒状貼付文、ボタン状貼付文を施文するもの
 (2) 地文に沈線文のみを施文するもの
 第2類 結節浮線文を施文するものを一括する。
 b) ミズ腰状の集合結節浮線を施文するもの
 第3類 平行沈線、条線のみで施文するものを一括する。
 c) 沈線文のみ施文するもの
 d) 横位の羽状沈線文を施文するもの

第Ⅳ群土器 その他の前期の土器

第2期 浮島・興津系土器群を一括する

a) 幅広い爪形状のロッキング文を施文するもの

b) 扇状のロッキング文を施文するもの

(1) 肋のある貝殻線文を施文するもの

e) 平行比線文間に棒子状の貝殻線文を施文するもの

g)

第4期 大木式系土器群を一括する。

a) 大木4式に類似するもの

第Ⅴ群土器 中期の土器群

第1期 中期前半の土器群を一括する。

b) 五領ヶ台Ⅱ式及び平衡器の土器群を一括する

c) 阿玉台Ⅰb式に比定される土器群を一括する

d) 阿玉台Ⅱ式に比定される土器群を一括する

第2期 中期後半の土器群を一括する

c) 加曾野ⅡⅢ式に比定される土器群を一括する

第Ⅵ群土器 後期の土器群

第1期 後期初期の土器群を一括する。

a) 称名寺Ⅰ式に比定される土器群を一括する

b) 称名寺Ⅱ式に比定される土器群を一括する

第2期 後期前半の土器群を一括する。

a) 堀之内Ⅰ式に比定される土器群を一括する

b) 堀之内Ⅱ式に比定される土器群を一括する

第Ⅶ群土器 草創期、晩期の土器群

第2期 晩期の土器群を一括する

b)

(2)

第Ⅷ群土器 時期不明の土器群

第2期 時期不明の無文土器を一括する。

c)

第3期 時期不明の細片を一括する。

器形の分類 A 深鉢 B 浅鉢 C その他

部位 a 口縁 b 胴部 c 底部

縄文原体の分類

1 無筋斜縄文 a=L b=R

2 単筋斜縄文 a=LR b=RL

3 複筋斜縄文 b=RLR

4 0段多条

5 直段多条

7 附加条第1種

$$\begin{array}{ccccccc}
 & & R & & L & & R \\
 a=L & & +R & b=R & +L & c=L & +L \\
 & & R & & L & & R
 \end{array}$$

9 短軸絡糸体第1類

a=L1条 b=R1条 d=R2条 e=11条

11 結束第1種 a=RL+LR

12 非結束羽状 a=RL+LR b=(RL+L)+(LR+R) d=L+R

15 短軸絡糸体第5類 b=RR

17 判読不能

18 縄文無施文(無文)

19 糸状文 d=糸線文

21 原体圧痕 a=L b=R c=RL

(2) 縄文時代石器分類表について

縄文時代の石器については、以下の基準に則して分類を行っている。後段の石器分類表にはここで示した略号を用いた。

器種A 石鏃

形態分類

- 1類 無茎で基部が平坦なもの
- 2類 無茎で基部に浅い抉りがあるもの
- 3類 無茎で基部に深い逆U字状の抉りがあるもの
- 5類 茎部が円弧状のもの
- 6類 有茎で基部が平坦なもの
- 7類 有茎で基部が抉れるもの
- 8類 有茎で基部が突出するもの
- 9類 未製品
- 10類 破片など形状が不明なもの

残存状態

- I類 完形のもの
- II類 欠損するもの
 - 1 先端を欠損するもの
 - 2 基部を欠損するもの
 - 3 側縁を欠損するもの

器種B 石鏃

形態分類

- 1類 つまみの無いもの
- 2類 つまみの有るもの
- 4類 碎片のため形状が不明なもの

残存状態

- I類 完形のもの
- II類 欠損するもの
 - 1 先端を欠損するもの
 - 2 基部を欠損するもの
 - 3 小破片のもの

器種C 石匙

形態分類

- 1類 横長のもの
- 2類 縦長のもの

残存状態

- I類 完形のもの

器種D 打製石斧

形態分類

- 1類 側縁が平行ないわゆる短盾形のもの
- 2類 側縁が刃部に向かって広がるいわゆる楕形のもの
- 3類 2類の形状で側縁に抉りが入るもの
- 4類 側縁に浅い抉りが入るいわゆる分銅形のもの
- 6類 未製品のもの
- 7類 尖頭状のもの
- 8類 小破片のため形状が不明

残存状態

- I類 完形のもの
- II類 欠損するもの
 - 1 基部を欠損するもの
 - 2 上半部を欠損するもの
 - 3 下半部を欠損するもの
 - 4 刃部のみ残存するもの
 - 5 刃部を欠損するもの
 - 6 基部のみ残存するもの
 - 7 側縁を欠損するもの
 - 8 基部・刃部を欠損するもの
 - 9 小破片のもの

第6章 遺物観察表

刃部分類

- a類 円刃のもの
- b類 直刃のもの
- c類 偏刃のもの

原表面分類

- ①類 両面が剥離面で構成するもの
- ②類 片面に原表面を残存するもの

素材分類

- A類 剥片を使用するもの
- I類 自然礫をそのまま使用するもの

器種E 刮器・掻器

形態分類

- 1類 横長のもの
- 2類 縦長のもの
- 3類 小破片のため不明のもの

器種F 剥片・砕片

器種G 雑器

残存状態

- I類 定形のもの
- II類 欠損するもの

器種I 磨石類

形態分類

- 1類 円形のもの
 - a 磨面のあるもの
 - b 凹部のあるもの
 - c 敲打痕のあるもの
- 2類 楕円形のもの
 - a 磨面のあるもの
 - b 凹部のあるもの
 - c 敲打痕のあるもの
- 3類 棒状のもの
 - a 磨面のあるもの
 - b 凹部のあるもの
 - c 敲打痕のあるもの
- 4類 不定形のもの
 - a 磨面のあるもの
 - b 凹部のあるもの
 - c 敲打痕のあるもの
- 5類 破片のため不明のもの
 - a 磨面のあるもの
 - b 凹部のあるもの
 - c 敲打痕のあるもの

残存状態

- I類 定形のもの
- II類 欠損するもの

磨面分類

- i類 両面に磨面があるもの
- ii類 片面のみ磨面があるもの
- iii類 磨面に磨面があるもの
- iv類 片面のみと側面に磨面があるもの
- v類 両面と側面に磨面があるもの

凹部の分類

- ①類 両面に1か所ずつ凹部があるもの
- ②類 両面に2か所以上凹部があるもの
- ③類 片面に1か所のみ凹部があるもの
- ④類 片面に2か所以上凹部があるもの
- ⑤類 片面に1か所、片面に2か所以上凹部があるもの
- ⑥類 片面と側面に1か所以上凹部があるもの

⑦類 両面と側面に1か所以上凹部があるもの

敲打痕分類

- A類 両面に敲打痕があるもの
- I類 片面に敲打痕があるもの
- ウ類 辺縁部に敲打痕があるもの
- エ類 片面と辺縁部に敲打痕があるもの
- オ類 両面と辺縁部に敲打痕があるもの

器種J 石皿

形態分類

- 3類 不定形のもの
- 5類 破片のため形状が不明のもの

残存状態

- I類 定形のもの
- II類 欠損するもの

器種L 磨製石斧

形態分類

- 2類 定角状のもの
- 4類 不明なもの

残存状態

- I類 定形のもの
- II類 欠損するもの
 - 2 上半部を欠損するもの
 - 4 刃部のみが残存するもの

器種M 石製品

器種N 石核

器種X 自然石

器種Z その他

石材の名称略号

輝安	輝石安山岩	石閃	石英閃緑岩
黒安	黒色安山岩	閃	閃緑岩
細輝安	細粒輝石安山岩	チャ	チャート
粗輝安	粗粒輝石安山岩	泥	泥岩
灰安	灰色安山岩	粘板岩	粘板岩
蜜質安	蜜質安山岩	文蓮	文楽連岩
軽石	軽石	ハン	はんれい岩
凝	凝灰岩	変ハン	変はんれい岩
溶結凝	溶結凝灰岩	ひん	ひん岩
デイ	デイサイト	雲石片	雲母石葉片岩
デイ凝	デイサイト凝灰岩	埴岩	埴岩
玉	玉髄	黒片	黒色片岩
埴頁	埴質頁岩	片岩	片岩
頁	頁岩	緑	緑泥片岩
硬頁	硬質頁岩	珪安	珪質安山岩
黒頁	黒色頁岩	ホル	ホルンフェルス
蜜玄	蜜玄武岩	流	流紋岩
黒	黒曜石	紫燧	紫燧石
砂岩	砂岩		

(3) 古墳時代以後の遺物観察表について

- 1 実測番号は実測図に付された番号を、仮図版Noは仮レイアウトにおける図版番号を示す。
- 2 法量の口は口径、高は器高、底は底径・高台径を表す。また、数量に () があるものは復元した推定値、< >があるものは残存値を表す。
- 3 法量の単位は、単位を明記したもの以外はcm、重量についてはgとした。
- 4 胎土中の砂粒の大きさは、2mm以上を粗、2mm～0.2mmを粗砂、0.2mm以下を細砂とした。
- 5 色調に関しては、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色原監修の新版標準土色帖に基づいている。
- 6 出土状態で、①は遺物の平面位置を表し、特に甕からの出土遺物、甕の構築材として検出された遺物は出土した場所、構築材として用いられた部位を明記した。②は垂直位置を表し、床面直上は床直、+○は床面から○cm離れて出土したことを表す。埋没土は埋没土中からの出土遺物であることを表す。
- 7 備考については、墨書や自然軸など器形・技法以外の特徴を記した。また、年代の分かるものについては年代を○世紀前・中・後葉の単位で記した。

2 遺物観察表

縄文土器観察表

32号住居

No	図/写真	群.類.種	器形.部位	原体
1	10/17/5	V.3	Aa/b	2a/12a/12b
2	10/17/5	V.3	Aa/b	2b/12a
3	10/17/5	V.3	Ab/c	2a/2b/12a
4	10/17/5	V.2c	Ab	12a
5	10/17/5	V.2a	Ab	
6	10/17/5	V.2a	Ab	2b
7	10/17/5	V.2a	Ab	
8	10/17/5	V.2a	Ab	
9	10/17/5	V.2a	Ab	
10	10/17/5	V.2a	Ab	
11	10/17/5	V.3	Aa	2a
12	10/17/5	V.3	Aa	a
13	10/17/5	V.3	Aa	17
14	10/17/5	V.3	Ab	2a
15	10/17/5	V.3	Ab	2a
16	10/17/5	V.3	Ab	12a
17	10/17/5	V.3	Ab	2b
18	10/17/5	V.3	Ab	2a
19	10/17/5	V.3	Ab	2b
20	10/17/5	V.3	Ac	12a
21	10/17/5	V.3	Ab	2a
22	10/17/5	V.3	Ab	2a
23	10/17/5	V.3	Ab	2a
24	10/17/5	V.3	Ab	2a
25	10/17/5	V.3	Ab	2b
26	10/17/5	V.3	Ab	2a
27	10/17/5	V.3	Ab	12a
28	10/17/5	V.3	Ab	2a
29	10/17/5	V.3	Aa	12a
30	10/17/5	V.3	Ab	b
31	10/17/5	V.3	Ab	9a

57号住居

No	図/写真	群.類.種	器形.部位	原体
1	15/22/8	Ⅲ.1b	Aa	9a・9b
2	15/22/8	Ⅲ.1b	Aa	4a
3	15/22/8	Ⅲ.2a	Ab	4a
4	15/22/8	Ⅲ.2a	Ab	4a
5	15/22/8	Ⅲ.2a	Ab	4a
6	15/22/8	Ⅲ.3c	Ab	4a・4b
7	15/22/8	Ⅲ.2a	Ab	4a
8	15/22/8	Ⅲ.2a	Ac	4a
9	15/22/8	Ⅲ.2a	Ac	4a

58号住居

No	図/写真	群.類.種	器形.部位	原体
1	20/30/10	Ⅴ.1c2	Ab	-
2	20/30/10	Ⅴ.4a	Ab	11a
3	20/30/10	Ⅴ.1c1	Aa	2b
4	20/30/10	Ⅴ.1d1	Aa	2b
5	20/30/10	Ⅴ.1c1	Ac	1a
6	20/30/10	Ⅴ.1d1	Aa/b	2b
7	20/30/10	Ⅴ.1d1	Aa/b	-
8	20/30/10	Ⅴ.1e2	Aa	2b
9	20/30/10	Ⅴ.1c2	Aa	-
10	20/30/10	Ⅴ.1c2	Aa/b	2b
11	20/30/10	Ⅴ.2a1	Aa/b	2a
12	20/30/11	Ⅴ.2b2	Aa	2a
13	21/31/11	Ⅴ.2a2	Ab	2b
14	21/31/11	Ⅴ.2a1	Ab	2b
15	21/31/11	Ⅴ.2a1	Ab	2a
16	21/31/11	Ⅴ.2c1	Ab	2b
17	21/31/11	Ⅴ.2a1	Aa	2b
18	21/31/11	Ⅴ.2b2	Aa/b/c	2a/2b
19	21/31/11	Ⅴ.2b1	Aa/b	2a/2b
20	21/31/11	Ⅴ.2a2	Aa	2a
21	22/32/11	Ⅴ.2g	Aa/b/c	2a/2b
22	22/32/11	Ⅴ.4c	Bc	2b
23	22/32/11	Ⅴ.4a	Aa	2a
24	22/32/11	Ⅴ.4a	Ab	1a/2a/2b
25	22/32/11	Ⅴ.4a	Ac	2b
26	22/32/11	Ⅴ.4a	Ac	2b
27	23/33/12	Ⅴ.1c1	Aa/b	2b
28	23/33/12	Ⅴ.1c1	Aa	2b
29	23/33/12	Ⅴ.1d1	Aa	2b
30	23/33/12	Ⅴ.1d1	Aa	2b
31	23/33/12	Ⅴ.1d1	Ab	2b
32	23/33/12	Ⅴ.1d1	Ab	2b
33	23/33/12	Ⅴ.1d1	Aa	-
34	23/33/12	Ⅴ.1d1	Aa/b	2b
35	23/33/12	Ⅴ.1c2	Aa	-
36	23/33/12	Ⅴ.1c2	Ab	-
37	23/33/12	Ⅴ.1c2	Ab	-
38	23/33/12	Ⅴ.1c2	Ab	-
39	23/33/12	Ⅴ.1c2	Aa	2b
40	23/33/12	Ⅴ.1c2	Aa	2b
41	23/33/12	Ⅴ.1c2	Ab	-
42	23/33/12	Ⅴ.1c2	Aa	-
43	23/33/12	Ⅴ.1c2	Aa	-
44	23/33/12	Ⅴ.1c2	Aa	2b
45	24/34/12	Ⅴ.1c2	Ab	2b
46	24/34/12	Ⅴ.1c2	Ab	-

2 遺物観察表

No	図/写真	群, 類, 種	器形, 部位	原形
47	24/34/12	Ⅷ.1c2	A.b	2b
48	24/34/12	Ⅷ.1c2	A.a	-
49	24/34/12	Ⅷ.1c2	A.b	2b
50	24/34/12	Ⅷ.1c2	A.a	2b
51	24/34/12	Ⅷ.1c2	A.b	2b
52	24/34/13	Ⅷ.2a1	A.a	2b
53	24/34/13	Ⅷ.2a1	A.a	2b
54	24/34/13	Ⅷ.2a1	A.a	2b
55	24/34/13	Ⅷ.2a1	A.a	2b
56	24/34/13	Ⅷ.2c1	A.a/b	2b
57	24/34/13	Ⅷ.2a1	A.b	2a
58	24/34/13	Ⅷ.2a1	A.b	2b
59	24/34/13	Ⅷ.2c1	A.b	2b
60	24/34/13	Ⅷ.2c1	A.b	2b
61	24/34/13	Ⅷ.2c1	A.b	2b
62	24/34/13	Ⅷ.2a2	A.a	2b
63	24/34/13	Ⅷ.2a2	A.b	2b
64	25/35/13	Ⅷ.2a2	A.a	2a
65	25/35/13	Ⅷ.2a2	A.a	2b
66	25/35/13	Ⅷ.2b1	A.a	-
67	25/35/13	Ⅷ.2b2	A.a	2a
68	25/35/13	Ⅷ.2a2	A.a	2a
69	25/35/13	Ⅷ.2a2	A.a	2b
70	25/35/13	Ⅷ.2a2	A.a	2a
71	25/35/13	Ⅷ.2a2	A.b	2a
72	25/35/13	Ⅷ.2a2	A.b	2a
73	25/35/13	Ⅷ.2a2	A.b	2b
74	25/35/13	Ⅷ.2c1	A.b	2b
75	25/35/13	Ⅷ.2b1	A.b	2a
76	25/35/13	Ⅷ.2c1	A.b	2b
77	25/35/13	Ⅷ.2b2	A.b	2b
78	25/35/13	Ⅷ.2b2	A.b	2b
79	25/35/13	Ⅷ.2b1	A.b	1a
80	25/35/13	Ⅷ.2b2	A.b	2a
81	25/35/13	Ⅷ.2 g	A.b	2a
82	25/35/13	Ⅷ.2b2	A.c	2b
83	25/35/13	Ⅷ.2b2	B.c	2a
84	25/35/13	Ⅷ.2b2	A.c	2b
85	25/35/13	Ⅷ.2b2	A.c	2b
86	25/35/13	Ⅷ.2b2	A.b	2b
87	25/35/13	Ⅷ.2c1	B.a	18
88	25/35/13	Ⅷ.2c1	B.b	18
89	26/36/14	Ⅷ.2d1	A.a	2b
90	26/36/14	Ⅷ.2d1	A.a	2b
91	26/36/14	Ⅷ.2d1	A.a	2b
92	26/36/14	Ⅷ.2d1	A.a	2b
93	26/36/14	Ⅷ.4a	A.a	2b
94	26/36/14	Ⅷ.4a	A.a	2b

No	図/写真	群, 類, 種	器形, 部位	原形
95	26/36/14	Ⅷ.2a	A.b	-
96	26/36/14	Ⅷ.2 g	A.b	2a
97	26/36/14	Ⅷ.4a	A.b	2a/2b/11a/12a
98	26/36/14	Ⅷ.4a	A.b	11a
99	26/36/14	Ⅷ.4a	A.b	11a
100	26/36/14	Ⅷ.4a	A.b	11a
101	26/36/14	Ⅷ.4a	A.b	11a
102	26/36/14	Ⅷ.4a	A.b	2b
103	26/36/14	Ⅷ.4a	A.b	2b
104	26/36/14	Ⅷ.4a	A.b	2a
105	26/36/14	Ⅷ.4a	A.b	2a
106	26/36/14	Ⅷ.4a	A.b	2b
107	26/36/14	Ⅷ.4a	A.b	2b
108	26/36/14	Ⅷ.4a	A.b	2a
109	26/36/14	Ⅷ.4a	A.b	2b
110	26/36/14	Ⅷ.4a	A.b	2b
111	26/36/14	Ⅷ.4a	A.b	2b
112	26/36/14	Ⅷ.4a	A.b	1a

11号土坑

No	図/写真	群, 類, 種	器形, 部位	原形
1	30/41/21	V.3	A.b	12a
2	30/41/21	V.3	A.b	12a

12号土坑

No	図/写真	群, 類, 種	器形, 部位	原形
1	30/41/21	Ⅳ.2	A.b	18

13号土坑

No	図/写真	群, 類, 種	器形, 部位	原形
1	30/41/21	Ⅳ.2	A.b	18

19号土坑

No	図/写真	群, 類, 種	器形, 部位	原形
1	31/42/21	V.3	A.b	9b
2	31/42/21	V.3	A.a	12d

23号土坑

No	図/写真	群, 類, 種	器形, 部位	原形
1	32/43/21	Ⅳ.1	A.b	18
2	32/43/21	V.3	A.b	2a
3	32/43/21	V.3	A.a	12a
4	32/43/21	Ⅳ.2	A.b	18
5	32/43/21	Ⅳ.2	A.b	18
6	32/43/21	Ⅳ.2	A.a	18

29号土坑

No	図/写真	群, 類, 種	器形, 部位	原形
1	33/44/21	V.3	A.b	12a

110号土坑

No	図/写真	群, 類, 種	器形, 部位	原形
1	34/46/21	Ⅷ.1c2	A.a	-
2	34/46/21	Ⅷ.2b1	A.a/b	2a/2b/
3	34/46/21	Ⅷ.4a	A.b	2b

第6章 遺物観察表

No	図/写真	群、類、種	器形、部位	原体
4	34/46/21	Ⅳ.4a	A.b	2b
5	34/46/21	Ⅳ.4a	A.b	2b
6	34/46/21	Ⅳ.2b1	A.a	2a・2b

112号土坑

No	図/写真	群、類、種	器形、部位	原体
1	36/48/21	Ⅵ.2d1	A.a	5b

A15グループ

No	図/写真	群、類、種	器形、部位	原体
1	43/58/23	Ⅲ.1a	A.a	4a
2	43/58/23	Ⅲ.1a	A.a	4a
3	43/58/23	Ⅲ.1b	A.a	4a
4	43/58/23	Ⅲ.1b	A.a	4a
5	43/58/23	Ⅲ.1b	A.a	4a
6	43/58/23	Ⅲ.1b	A.a	4a
7	43/58/23	Ⅲ.1b	A.a	4a/9a
8	43/58/23	Ⅲ.1b	A.a	9a/9b
9	43/58/23	Ⅲ.1b	A.a	9a/9b
10	43/58/23	Ⅲ.2a	A.a	4a
11	43/58/23	Ⅲ.2a	A.a	4a
12	43/58/23	Ⅲ.2a	A.a	4a
13	43/58/23	Ⅲ.2a	A.a	4a
14	43/58/23	Ⅲ.2a	A.a	4a
15	43/58/23	Ⅲ.2a	A.a/b	4a
16	43/58/23	Ⅲ.2a	A.b	4a
17	43/58/23	Ⅲ.2a	A.b	4a
18	43/58/23	Ⅲ.2a	A.b	4a
19	43/58/23	Ⅲ.2a	A.b	4a
20	43/58/23	Ⅲ.2a	A.b	4a
21	43/58/23	Ⅲ.2a	A.b	4a
22	43/58/23	Ⅲ.2a	A.b	4a
23	43/58/23	Ⅲ.2a	A.b	4a
24	43/58/23	Ⅲ.2a	A.b	4a
25	43/58/23	Ⅲ.2a	A.b	4a
26	43/58/23	Ⅲ.2a	A.b	4a
27	43/58/23	Ⅲ.2a	A.b	4a
28	44/59/24	Ⅲ.2a	A.b	4a
29	44/59/24	Ⅲ.2a	A.b	4a
30	44/59/24	Ⅲ.2a	A.b	4a
31	44/59/24	Ⅲ.2a	A.b	4a
32	44/59/24	Ⅲ.2a	A.b	4a
33	44/59/24	Ⅲ.2a	A.b	4a
34	44/59/24	Ⅲ.2a	A.b	4a
35	44/59/24	Ⅲ.2a	A.b	4a
36	44/59/24	Ⅲ.2a	A.b	4a
37	44/59/24	Ⅲ.2a	A.b	4a
38	44/59/24	Ⅲ.2a	A.b	4a
39	44/59/24	Ⅲ.2a	A.b	4a
40	44/59/24	Ⅲ.2a	A.b/c	4a

No	図/写真	群、類、種	器形、部位	原体
41	44/59/24	Ⅲ.2a	A.b/c	4a
42	44/59/24	Ⅲ.2a	A.b	4a
43	44/59/24	Ⅲ.2a	A.b	4a
44	44/59/24	Ⅲ.2a	A.b	4a
45	44/59/24	Ⅲ.2a	A.b	4a
46	44/59/24	Ⅲ.2a	A.b	4a
47	44/59/24	Ⅲ.2a	A.b	4a
48	44/59/24	Ⅲ.2a	A.b	4a
49	44/59/24	Ⅲ.2a	A.b	4a
50	44/59/24	Ⅲ.2a	A.b	4a/4b
51	44/59/24	Ⅲ.2a	A.b	4a/4b
52	44/59/24	Ⅲ.2a	A.b	4a/4b
53	44/59/24	Ⅲ.2a	A.b	4a/4b
54	44/59/24	Ⅲ.2a	A.b	4a/4b
55	44/59/24	Ⅲ.2a	A.b	4a/4b
56	44/59/24	Ⅲ.2a	A.b	4a/4b
57	44/59/24	Ⅲ.2a	A.b	4a/4b
58	44/59/24	Ⅲ.2a	A.c	4a
59	44/59/24	Ⅲ.2a	A.c	4a
60	44/59/24	Ⅲ.2a	A.c	4a
61	44/59/24	Ⅲ.2a	A.c	4a
62	44/59/24	Ⅲ.2a	A.c	4a

A17グループ

No	図/写真	群、類、種	器形、部位	原体
1	48/63/27	Ⅲ.1a	A.a	4a
2	48/63/27	Ⅲ.1b	A.a	4a
3	48/63/27	Ⅲ.1b	A.a	4a
4	48/63/27	Ⅲ.1b	A.a	4a
5	48/63/27	Ⅲ.2a	A.a	4a
6	48/63/27	Ⅲ.2a	A.a	4a
7	48/63/27	Ⅲ.2a	A.a/b	4a
8	48/63/27	Ⅲ.2a	A.b	4a
9	48/63/27	Ⅲ.2a	A.b	4a
10	48/63/27	Ⅲ.2a	A.b	4a
11	48/63/27	Ⅲ.2a	A.b	4a
12	48/63/27	Ⅲ.2a	A.b	4a
13	48/63/27	Ⅲ.2a	A.b	4a
14	48/63/27	Ⅲ.2a	A.b	4a
15	48/63/27	Ⅲ.2a	A.b	4a
16	48/63/27	Ⅲ.2a	A.b	4a
17	48/63/27	Ⅲ.2a	A.b	4a
18	48/63/27	Ⅲ.2a	A.b	4a
19	48/63/27	Ⅲ.2a	A.b	4a
20	48/63/27	Ⅲ.2a	A.b	4a
21	48/63/27	Ⅲ.2a	A.b	4a
22	48/63/27	Ⅲ.2a	A.b	4a
23	48/63/27	Ⅲ.2a	A.b	4a
24	48/63/27	Ⅲ.2a	A.b	4a

2 遺物観察表

No	図/写真	群, 類, 種	器形, 部位	原体
25	48/63/27	Ⅲ.2a	A.b	4a
26	48/63/27	Ⅲ.2a	A.b	4a
27	48/63/27	Ⅲ.2a	A.b	4a
28	48/63/27	Ⅲ.2a	A.b	4a
29	49/64/27	Ⅲ.2a	A.b	4a
30	49/64/27	Ⅲ.2a	A.b	4a
31	49/64/28	Ⅲ.2a	A.b	4a
32	49/64/28	Ⅲ.2a	A.b	4a
33	49/64/28	Ⅲ.2a	A.b	4a
34	49/64/28	Ⅲ.2a	A.b	4a
35	49/64/28	Ⅲ.2a	A.b	4a
36	49/64/28	Ⅲ.2a	A.b	4a
37	49/64/28	Ⅲ.2a	A.b	4a
38	49/64/28	Ⅲ.2a	A.b	4a
39	49/64/28	Ⅲ.2a	A.c	4a
40	49/64/28	Ⅲ.2a	A.c	4a
41	49/64/28	Ⅲ.2a	A.c	4a

C17 グループ

No	図/写真	群, 類, 種	器形, 部位	原体
1	51/65/29	Ⅲ.1a	A.a	4b
2	51/65/29	Ⅲ.1b	A.a	4a
3	51/65/29	Ⅲ.1b	A.a	4a
4	51/65/29	Ⅲ.2a	A.a	4a
5	51/65/29	Ⅲ.2a	A.a	4a
6	51/65/29	Ⅲ.2a	A.b	4a
7	51/65/29	Ⅲ.2a	A.b	4a
8	51/65/29	Ⅲ.2a	A.b	4a
9	51/65/29	Ⅲ.2a	A.b	4a
10	51/65/29	Ⅴ.3a1	A.b	-
11	51/65/29	Ⅴ.1c2	A.a/b	-
12	51/65/29	Ⅴ.1c2	A.b	-
13	51/65/29	Ⅴ.4c	B.a	-
14	51/65/29	Ⅴ.4c	B.a	-
15	51/65/29	Ⅴ.3d	A.b	-

H17 グループ

No	図/写真	群, 類, 種	器形, 部位	原体
1	54/68/30	X I.1.b	A.a	18
2	54/68/30	X I.1.b	A.a	18
3	54/68/30	X I.1.b	A.b	18
4	54/68/30	X I.1.b	A.b	-
5	54/68/30	X I.1.b	A.b	-
6	54/68/30	X I.1.b	A.b	18
7	54/68/30	X I.1.b	A.a	18
8	54/68/30	X I.1.b	A.a/b	18
9	54/68/30	X I.1.b	A.b	18
10	54/68/30	X I.1.b	A.b	18
11	54/68/30	X I.1.b	A.b	18
12	54/68/30	X I.1.b	A.b	18

No	図/写真	群, 類, 種	器形, 部位	原体
13	54/68/30	X I.1.b	A.b	18
14	55/69/30	X I.1.b	A.b	18
15	55/69/30	X I.1.b	A.a	18
16	55/69/30	X I.1.b	A.b	18
17	55/69/30	X I.1.b	A.b	-
18	55/69/30	X I.1.b	A.b/c	18
19	55/69/30	X I.1.b	A.c	18
20	55/69/30	X I.1.b	A.c	18
21	55/69/30	X I.2.b	B.c	18

グワッド

No	図/写真	群, 類, 種	器形, 部位	原体
1	56/70/31	I.3.c	A.b	19d
2	56/70/31	I.3.c	A.b	19d
3	56/70/31	I.3.c	A.b	19d
4	56/70/31	I.3.c	A.b	19d
5	56/70/31	Ⅱ.1.b	A.a	-
6	56/70/31	Ⅱ.1.b	A.a	-
7	56/70/31	Ⅱ.1.b	A.b	-
8	56/70/31	Ⅱ.1.b	A.b	-
9	56/70/31	Ⅱ.1.b	A.b	-
10	56/70/31	Ⅱ.1.b	A.b	-
11	56/70/31	Ⅱ.1.b	A.b	-
12	56/70/31	Ⅱ.1.b	A.b	-
13	56/70/31	Ⅱ.1.b	A.b	-
14	56/70/31	Ⅱ.1.b	A.b	-
15	56/70/31	Ⅱ.1.b	A.b	-
16	56/70/31	Ⅲ.1.a	A.a	21c
17	56/70/31	Ⅲ.1.a	A.a	21c
18	56/70/31	Ⅲ.1.a	A.a	4a
19	56/70/31	Ⅲ.1.a	A.a	4a
20	56/70/31	Ⅲ.1.a	A.a	4a
21	56/70/31	Ⅲ.1.a	A.a	4a
22	56/70/31	Ⅲ.1.a	A.b	4a
23	56/70/31	Ⅲ.1.a	A.b	4a
24	56/70/31	Ⅲ.1.a	A.b	4a - 21c
25	56/70/31	Ⅲ.1.b	A.a	-
26	56/70/31	Ⅲ.1.b	A.a	-
27	56/70/31	Ⅲ.1.b	A.a	21a - 21b
28	56/70/31	Ⅲ.1.b	A.a	21a - 21b
29	56/70/31	Ⅲ.1.b	A.a	21a - 21b
30	56/70/31	Ⅲ.1.b	A.a	4a
31	56/70/31	Ⅲ.1.b	A.a	4a
32	56/70/31	Ⅲ.1.b	A.a	4a
33	56/70/31	Ⅲ.1.b	A.a	4b
34	56/70/31	Ⅲ.1.b	A.a	9a - 9b
35	56/70/31	Ⅲ.1.b	A.b	-
36	56/70/31	Ⅲ.1.b	A.b	21a - 21b
37	56/70/31	Ⅲ.1.b	A.b	21a - 21b

第6章 遺物観察表

No.	図/写真	群、類、種	器形、部位	原体
38	56/70/31	Ⅲ.1.b	A.b	21a・21b
39	56/70/31	Ⅲ.1.b	A.b	4a
40	56/70/31	Ⅲ.1.b	A.b	4a
41	56/70/31	Ⅲ.1.b	A.b	4a
42	56/70/31	Ⅲ.2.a	A.a	4a
43	56/70/31	Ⅲ.2.a	A.a	4a
44	56/70/31	Ⅲ.2.a	A.a	4a
45	56/70/31	Ⅲ.2.a	A.a	4a
46	56/70/31	Ⅲ.2.a	A.a	4a
47	57/71/31	Ⅲ.2.a	A.a	4a
48	57/71/31	Ⅲ.2.a	A.a	4a
49	57/71/31	Ⅲ.2.a	A.a	4a
50	57/71/31	Ⅲ.2.a	A.a	4a
51	57/71/31	Ⅲ.2.a	A.a	4b
52	57/71/31	Ⅲ.2.a	A.b	4a
53	57/71/31	Ⅲ.2.a	A.b	4a
54	57/71/31	Ⅲ.2.a	A.b	4a
55	57/71/31	Ⅲ.2.a	A.b	4a
56	57/71/31	Ⅲ.2.a	A.b	4a
57	57/71/31	Ⅲ.2.a	A.b	4a
58	57/71/31	Ⅲ.2.a	A.b	4a
59	57/71/31	Ⅲ.2.a	A.b	4a
60	57/71/31	Ⅲ.2.a	A.b	4a
61	57/71/31	Ⅲ.2.a	A.b	4a
62	57/71/31	Ⅲ.2.a	A.b	4a
63	57/71/32	Ⅲ.2.a	A.b	4a
64	57/71/32	Ⅲ.2.a	A.b	4a
65	57/71/32	Ⅲ.2.a	A.b	4a
66	57/71/32	Ⅲ.2.a	A.b	4a
67	57/71/32	Ⅲ.2.a	A.b	4a
68	57/71/32	Ⅲ.2.a	A.b	4a
69	57/71/32	Ⅲ.2.a	A.b	4a
70	57/71/32	Ⅲ.2.a	A.b	4a
71	57/71/32	Ⅲ.2.a	A.b	4a
72	57/71/32	Ⅲ.2.a	A.b	4a
73	57/71/32	Ⅲ.2.a	A.b	4a
74	57/71/32	Ⅲ.2.a	A.b	4a
75	57/71/32	Ⅲ.2.a	A.b	4a
76	57/71/32	Ⅲ.2.a	A.b	4a
77	57/71/32	Ⅲ.2.a	A.b	4a
78	57/71/32	Ⅲ.2.a	A.b	4a
79	57/71/32	Ⅲ.2.a	A.b	4a
80	57/71/32	Ⅲ.2.a	A.b	4a
81	57/71/32	Ⅲ.2.a	A.b	4a
82	57/71/32	Ⅲ.2.a	A.b	4a
83	57/71/32	Ⅲ.2.a	A.b	4a
84	57/71/32	Ⅲ.2.a	A.b	4a
85	57/71/32	Ⅲ.2.a	A.b	4a

No.	図/写真	群、類、種	器形、部位	原体
86	57/71/32	Ⅲ.2.a	A.b	4a
87	57/71/32	Ⅲ.2.a	A.b	4a
88	57/71/32	Ⅲ.2.a	A.b	4a
89	57/71/32	Ⅲ.2.a	A.b	4a
90	57/71/32	Ⅲ.2.a	A.b	4a
91	58/72/32	Ⅲ.2.a	A.b	4a
92	58/72/32	Ⅲ.2.a	A.b	4a
93	58/72/32	Ⅲ.2.a	A.b	4a
94	58/72/32	Ⅲ.2.a	A.b	4a
95	58/72/32	Ⅲ.2.a	A.b	4a
96	58/72/32	Ⅲ.2.a	A.b	4a
97	58/72/32	Ⅲ.2.a	A.b	4a
98	58/72/32	Ⅲ.2.a	A.b	4a
99	58/72/32	Ⅲ.2.a	A.b	4a
100	58/72/32	Ⅲ.2.a	A.b	4a
101	58/72/32	Ⅲ.2.a	A.b	4a
102	58/72/32	Ⅲ.2.a	A.b	4a
103	58/72/32	Ⅲ.2.a	A.b	4a
104	58/72/32	Ⅲ.2.a	A.b	4a
105	58/72/33	Ⅲ.2.a	A.b	4a
106	58/72/33	Ⅲ.2.a	A.b	4a
107	58/72/33	Ⅲ.2.a	A.b	4a
108	58/72/33	Ⅲ.2.a	A.b	4a
109	58/72/33	Ⅲ.2.a	A.b	4a
110	58/72/33	Ⅲ.2.a	A.b	4a
111	58/72/33	Ⅲ.2.a	A.b	4a
112	58/72/33	Ⅲ.2.a	A.b	4a
113	58/72/33	Ⅲ.2.a	A.b	4a
114	58/72/33	Ⅲ.2.a	A.b	4a
115	58/72/33	Ⅲ.2.a	A.b	4a
116	58/72/33	Ⅲ.2.a	A.b	4a
117	58/72/33	Ⅲ.2.a	A.b	4a
118	58/72/33	Ⅲ.2.a	A.b	4a
119	58/72/33	Ⅲ.2.a	A.b	4a
120	58/72/33	Ⅲ.2.a	A.b	4a
121	58/72/33	Ⅲ.2.a	A.b	4a
122	58/72/33	Ⅲ.2.a	A.b	4a
123	59/73/33	Ⅲ.2.a	A.b	4a
124	59/73/33	Ⅲ.2.a	A.b	4a
125	59/73/33	Ⅲ.2.a	A.b	4a
126	59/73/33	Ⅲ.2.a	A.b	4a
127	59/73/33	Ⅲ.2.a	A.b	4a
128	59/73/33	Ⅲ.2.a	A.b	4a
129	59/73/33	Ⅲ.2.a	A.b	4a
130	59/73/33	Ⅲ.2.a	A.b	4a
131	59/73/33	Ⅲ.2.a	A.b	4a
132	59/73/33	Ⅲ.2.a	A.b	4a
133	59/73/33	Ⅲ.2.a	A.b	4a

2 遺物観察表

No	図/写真	群, 類, 種	器形, 部位	原形
134	59/73/33	Ⅲ2a	A.b	4a
135	59/73/33	Ⅲ2a	A.b	4a
136	59/73/33	Ⅲ2a	A.b	4a
137	59/73/33	Ⅲ2a	A.b	4a
138	59/73/33	Ⅲ2a	A.b	4a
139	59/73/33	Ⅲ2a	A.b	4a
140	59/73/33	Ⅲ2a	A.b	4a
141	59/73/33	Ⅲ2a	A.b	4a
142	59/73/33	Ⅲ2a	A.b	4a
143	59/73/33	Ⅲ2a	A.b	4a
144	59/73/33	Ⅲ2a	A.b	4a
145	59/73/33	Ⅲ2a	A.b	4a
146	59/73/33	Ⅲ2a	A.b	4a
147	59/73/33	Ⅲ2a	A.b	4a
148	59/73/33	Ⅲ2a	A.b	4a
149	59/73/33	Ⅲ2a	A.b	4a
150	59/73/33	Ⅲ2a	A.b	4a
151	59/73/33	Ⅲ2a	A.b	4a
152	59/73/33	Ⅲ2a	A.b	4a
153	59/73/33	Ⅲ2a	A.b	4a
154	59/73/34	Ⅲ2a	A.b	4a
155	59/73/34	Ⅲ2a	A.b	4a
156	59/73/34	Ⅲ2a	A.b	4a
157	59/73/34	Ⅲ2a	A.b	4a
158	59/73/34	Ⅲ2a	A.b	4a
159	59/73/34	Ⅲ2a	A.b	4a
160	59/73/34	Ⅲ2a	A.b	4a
161	59/73/34	Ⅲ2a	A.b	4a
162	59/73/34	Ⅲ2a	A.b	4a
163	59/73/34	Ⅲ2a	A.b	4a
164	60/74/34	Ⅲ2a	A.b	4a
165	60/74/34	Ⅲ2a	A.b	4a
166	60/74/34	Ⅲ2a	A.b	4a
167	60/74/34	Ⅲ2a	A.b	4a
168	60/74/34	Ⅲ2a	A.b	4a
169	60/74/34	Ⅲ2a	A.b	4a
170	60/74/34	Ⅲ2a	A.b	4a
171	60/74/34	Ⅲ2a	A.b	4a
172	60/74/34	Ⅲ2a	A.b	4a
173	60/74/34	Ⅲ2a	A.b	4a
174	60/74/34	Ⅲ2a	A.b	4a
175	60/74/34	Ⅲ2a	A.b	4a
176	60/74/34	Ⅲ2a	A.b	4a
177	60/74/34	Ⅲ2a	A.b	4a
178	60/74/34	Ⅲ2a	A.b	4a
179	60/74/34	Ⅲ2a	A.b	4a
180	60/74/34	Ⅲ2a	A.b	4a
181	60/74/34	Ⅲ2a	A.b	4a

No	図/写真	群, 類, 種	器形, 部位	原形
182	60/74/34	Ⅲ2a	A.b	4a
183	60/74/34	Ⅲ2a	A.b	4a
184	60/74/34	Ⅲ2a	A.b	4a
185	60/74/34	Ⅲ2a	A.b	4a
186	60/74/34	Ⅲ2a	A.b	4a
187	60/74/34	Ⅲ2a	A.b	4a
188	60/74/34	Ⅲ2a	A.b	4a
189	60/74/34	Ⅲ2a	A.b	4a
190	60/74/34	Ⅲ2a	A.b	4a
191	60/74/34	Ⅲ2a	A.b	4a
192	60/74/34	Ⅲ2a	A.b	4a・4b
193	60/74/34	Ⅲ2a	A.c	4a
194	60/74/34	Ⅲ2a	A.c	4a
195	60/74/34	Ⅲ2a	A.c	4a
196	60/74/34	Ⅲ2a	A.c	4a
197	60/74/35	Ⅲ2a	A.c	4a
198	60/74/35	Ⅲ2a	A.c	4a
199	60/74/35	Ⅲ2a	A.c	4a
200	60/74/35	Ⅲ2a	A.c	4a
201	61/75/35	Ⅲ2a	A.c	4a
202	61/75/35	Ⅲ2a	A.c	4a
203	61/75/35	Ⅲ2a	A.c	4a
204	61/75/35	Ⅲ2a	A.c	4a
205	61/75/35	Ⅲ2a	A.c	4a
206	61/75/35	Ⅲ2a	A.c	4a
207	61/75/35	Ⅲ2b	A.b	4a
208	61/75/35	Ⅲ2b	A.b	4a
209	61/75/35	Ⅳ.1.	A.a	-
210	61/75/35	Ⅳ.1.	A.b	-
211	61/75/35	Ⅳ.1.	A.b	-
212	61/75/35	Ⅳ.1.	A.b	-
213	61/75/35	Ⅳ.1.	A.b	-
214	61/75/35	Ⅳ.2.	A.a	-
215	61/75/35	Ⅳ.2.	A.a	-
216	61/75/35	Ⅳ.2.	A.a	-
217	61/75/35	Ⅳ.2.	A.a	-
218	61/75/35	Ⅳ.2.	A.a	-
219	61/75/35	Ⅳ.2.	A.a	18
220	61/75/35	Ⅳ.2.	A.a	18
221	61/75/35	Ⅳ.2.	A.a	18
222	61/75/35	Ⅳ.2.	A.a	2b
223	61/75/35	Ⅳ.2.	A.b	-
224	61/75/35	Ⅳ.2.	A.b	-
225	61/75/35	Ⅳ.2.	A.b	-
226	61/75/35	Ⅳ.2.	A.b	-
227	61/75/35	Ⅳ.2.	A.b	-
228	61/75/35	Ⅳ.2.	A.b	-
229	61/75/35	Ⅳ.2.	A.b	-

第6章 遺物観察表

No.	図/写真	群、種	形状、部位	原体
230	61/75/35	Ⅱ2	Ab	-
231	61/75/35	Ⅱ2	Ab	18
232	61/75/35	Ⅱ2	Ab	18
233	61/75/35	Ⅱ2	Ab	1a
234	61/75/35	Ⅱ2	Ab	2a
235	61/75/35	V.1.	Aa	-
236	61/75/35	V.1.	Ab	-
237	61/75/35	V.1.	Ab	-
238	61/75/35	V.1.	Ab	-
239	62/76/35	V.1.	Ab	-
240	62/76/35	V.1.	Ab	-
241	62/76/35	V.1.	Ab	-
242	62/76/35	V.1.	Ab	-
243	62/76/35	V.1.	Ab	-
244	62/76/35	V.1.	Ab	-
245	62/76/36	V.1.	Ab	18
246	62/76/36	V.1.	Ab	2b
247	62/76/36	V.1.	Ab	9a
248	62/76/36	V.1.	Ac	-
249	62/76/36	V.2a/c	Aa/b	1a
250	62/76/36	V.2a	Aa	-
251	62/76/36	V.2a	Aa	12d
252	62/76/36	V.2a	Aa	7b
253	62/76/36	V.2a	Ab	-
254	62/76/36	V.2a	Ab	-
255	62/76/36	V.2a	Ab	-
256	62/76/36	V.2a	Ab	-
257	62/76/36	V.2b	Aa	12a
258	62/76/36	V.2b	Aa	2b
259	62/76/36	V.2c	Aa	-
260	62/76/36	V.2c	Ab	-
261	62/76/36	V.2c	Ab	12a
262	62/76/36	V.2c	Ab	12a
263	62/76/36	V.2c	Ab	2a
264	62/76/36	V.2c	Ab	2a
265	63/77/36	V.2c	Ab	2b
266	63/77/36	V.2c	Ab	2b
267	63/77/36	V.2c	Ab	2b
268	63/77/36	V.2c	Ab	4b
269	63/77/36	V.2d	Ab	2a
270	63/77/36	V.3.	Aa	12a
271	63/77/37	V.3.	Aa	12a
272	63/77/37	V.3.	Aa	12a
273	63/77/36	V.3.	Aa	12a
274	63/77/36	V.3.	Aa	12a
275	63/77/36	V.3.	Aa	12a
276	63/77/36	V.3.	Aa	12a
277	63/77/37	V.3.	Aa	12b

No.	図/写真	群、種	形状、部位	原体
278	63/77/37	V.3.	Aa	12d
279	63/77/37	V.3.	Aa	12d
280	63/77/37	V.3.	Aa	15b
281	63/77/37	V.3.	Aa	15b
282	63/77/37	V.3.	Aa	15b
283	63/77/37	V.3.	Aa	1a
284	63/77/37	V.3.	Aa	1a
285	63/77/37	V.3.	Aa	1b
286	63/77/37	V.3.	Aa	2a
287	63/77/37	V.3.	Aa	2a
288	63/77/37	V.3.	Aa	2b
289	63/77/37	V.3.	Aa	2b
290	63/77/37	V.3.	Ab	12a
291	63/77/37	V.3.	Ab	12a
292	63/77/37	V.3.	Ab	12a
293	63/77/37	V.3.	Ab	12a
294	63/77/37	V.3.	Ab	12a
295	63/77/37	V.3.	Ab	12a
296	64/78/37	V.3.	Ab	12a
297	64/78/37	V.3.	Ab	12a
298	64/78/37	V.3.	Ab	12a
299	64/78/37	V.3.	Ab	12a
300	64/78/37	V.3.	Ab	12a
301	64/78/37	V.3.	Ab	12a
302	64/78/37	V.3.	Ab	12a
303	64/78/37	V.3.	Ab	12a
304	64/78/37	V.3.	Ab	12a
305	64/78/37	V.3.	Ab	12a
306	64/78/37	V.3.	Ab	12a
307	64/78/37	V.3.	Ab	12a
308	64/78/37	V.3.	Ab	12a
309	64/78/37	V.3.	Ab	12b
310	64/78/37	V.3.	Ab	12b
311	64/78/37	V.3.	Ab	12b
312	64/78/38	V.3.	Ab	12d
313	64/78/37	V.3.	Ab	12d
314	64/78/37	V.3.	Ab	12d
315	64/78/37	V.3.	Ab	12d
316	64/78/38	V.3.	Ab	12d
317	64/78/38	V.3.	Ab	12d
318	64/78/38	V.3.	Ab	1a
319	64/78/38	V.3.	Ab	1a
320	64/78/38	V.3.	Ab	1a
321	64/78/38	V.3.	Ab	1a
322	64/78/38	V.3.	Ab	1a
323	64/78/38	V.3.	Ab	1a
324	64/78/38	V.3.	Ab	1a
325	64/78/38	V.3.	Ab	1b

2 遺物観察表

No	図/写真	群, 類, 種	器形, 部位	原体
325	64/78/42	V.3	A.b	1b
327	64/78/38	V.3	A.b	2a
328	64/78/38	V.3	A.b	2a
329	64/78/38	V.3	A.b	2a
330	65/79/38	V.3	A.b	2a
331	65/79/38	V.3	A.b	2a
332	65/79/38	V.3	A.b	2a
333	65/79/38	V.3	A.b	2b
334	65/79/38	V.3	A.b	9a
335	65/79/38	V.3	A.b	9d
336	65/79/38	V.3	A.b	9e
337	65/79/42	V.3	A.c	1a
338	65/79/42	V.3	A.c	2a
339	65/79/38	VI.2a1	A.b	-
340	65/79/38	VI.2a2	A.a	-
341	65/79/38	VI.2a2	A.a	-
342	65/79/38	VI.2a2	A.b	-
343	65/79/38	VI.2a2	A.b	-
344	65/79/38	VI.2a2	A.b	-
345	65/79/38	VI.2a2	A.b	-
346	65/79/38	VI.2a2	A.b	-
347	65/79/38	VI.2a2	A.b	2a
348	65/79/38	VI.2a2	A.b	2b
349	65/79/38	VI.2a3	A.a	2b
350	65/79/38	VI.2b1	A.a	-
351	65/79/38	VI.2b1	A.a	-
352	65/79/38	VI.2b1	A.b	-
353	65/79/38	VI.2b1	A.b	-
354	65/79/38	VI.2b1	A.b	2b
355	65/79/39	VI.2b2	A.a	-
356	65/79/39	VI.2b3	A.b	2b
357	65/79/39	VI.2c1	A.b	2a
358	65/79/39	VI.2c3	A.a	-
359	65/79/39	VI.2d1	A.b	2b
361	66/80/39	VI.2d4	A.a	2a/2b
362	66/80/39	VI.2d4	A.a	2b
363	66/80/39	VI.3a1	A.b	-
364	66/80/39	VI.3a1	A.b	-
365	66/80/39	VI.3a1	A.b	2b
366	66/80/39	VI.3a2/b1	A.a	2b
367	66/80/42	VI.3a2	A.a	2b
368	66/80/39	VI.3b2	A.a	-
369	66/80/39	VI.3b2	A.a	2b
370	66/80/39	VI.3b2	A.b	2b
371	66/80/39	VI.3b2	A.b	2b
372	66/80/39	VI.3b2	A.b	2b
373	66/80/39	VI.3b2	B.b	2a/2b
374	66/80/39	VI.4a	A.a	2a

No	図/写真	群, 類, 種	器形, 部位	原体
375	66/80/39	VI.4a	A.b	2b
376	66/80/39	VI.4a	A.b	2b
377	66/80/39	VI.4a	A.b	2b
378	66/80/39	VI.4a	A.b	2b
379	66/80/39	VI.4a	A.b	2b
380	66/80/42	VI.4a	A.b	2b
381	66/80/39	VI.4a	A.b	2b
382	66/80/39	VI.4a	A.b	2b
383	66/80/39	VI.4a	A.b	2b
384	66/80/39	VI.4a	A.b	2b
385	66/80/39	VI.4a	A.b	2b
386	66/80/39	VI.4a	A.b	2b
387	66/80/39	VI.4a	A.b	2b
388	66/80/39	VI.4a	A.b	5b
389	66/80/39	VI.4a	A.b	5b
390	66/80/39	VI.4a	A.c	2b
391	66/80/39	VI.4b	B.b	-
392	66/80/39	VI.1c	A.b	2b
393	66/80/39	VI.1c2	A.-	-
394	66/80/39	VI.1c2	A.-	-
395	67/81/40	VI.1c2	A.a	-
396	67/81/40	VI.1c2	A.a	-
397	67/81/40	VI.1c2	A.a	-
398	67/81/40	VI.1c2	A.b	-
399	67/81/40	VI.1c2	A.b	-
400	67/81/40	VI.1c2	A.b	-
401	67/81/40	VI.1c2	A.b	-
402	67/81/40	VI.1c2	A.b	-
403	67/81/40	VI.1c2	A.b	-
404	67/81/40	VI.1c2	A.b	-
405	67/81/40	VI.1c2	A.b	-
406	67/81/40	VI.1c2	A.b	-
407	67/81/40	VI.1c2	A.b	-
408	67/81/40	VI.1c2	A.b	-
409	67/81/40	VI.1c2	A.b	-
410	67/81/40	VI.1c2	A.b	-
411	67/81/40	VI.1c2	A.b	-
412	67/81/40	VI.1d1	A.a	2a
413	67/81/40	VI.1d1	A.b	2b
414	67/81/40	VI.1e2	A.a	-
415	67/81/40	VI.1/2a1/e2	A.a/b	2a/2b
416	67/81/40	VI.2a1	A.a	2a・2b
417	67/81/40	VI.2b1	A.a	2a
418	67/81/40	VI.2b1	A.a	2a
419	67/81/40	VI.2b1	A.a	2b
420	67/81/40	VI.2b1	A.a	2b
421	67/81/40	VI.2b1	A.a	2b
422	67/81/40	VI.2b1	A.a	2b

第6章 遺物観察表

No	図/写真	群、類、種	器形、部位	原体
423	67/81/40	Ⅷ.2.b1	A.b	-
424	67/81/40	Ⅷ.2.b1	A.b	-
425	67/81/40	Ⅷ.2.b1	A.b	-
426	67/81/40	Ⅷ.2.b1	A.b	2a
427	67/81/40	Ⅷ.2.b1	A.b	2a
428	67/81/40	Ⅷ.2.b1	A.b	2a
429	67/81/40	Ⅷ.2.b1	A.b	2b
430	67/81/40	Ⅷ.2.b1	A.b	2b
431	67/81/40	Ⅷ.2.b1	A.b	2b
432	67/81/40	Ⅷ.2.b1	A.b	2b
433	68/82/40	Ⅷ.2.b1	A.b	2b
434	68/82/40	Ⅷ.2.b1	A.b	2b
435	68/82/40	Ⅷ.2.b1	A.b	2b
436	68/82/40	Ⅷ.2.b1	A.b	2b
437	68/82/40	Ⅷ.2.b1	A.c	2b
438	68/82/40	Ⅷ.2.b2	A.a	2a
439	68/82/40	Ⅷ.2.b2	A.a	2b
440	68/82/41	Ⅷ.2.b2	A.a	2b
441	68/82/41	Ⅷ.2.b2	A.b	2a
442	68/82/41	Ⅷ.2.b2	A.b	2a
443	68/82/41	Ⅷ.2.c1	B.a	-
444	68/82/41	Ⅷ.3.a1	A.b	2a
445	68/82/41	Ⅷ.3.a1	A.b	2a
446	68/82/41	Ⅷ.4.a	A.-	
447	68/82/41	Ⅷ.4.a	A.b	2a/2b
448	68/82/41	Ⅷ.4.a	A.a/b	2b/11a
449	68/82/41	Ⅷ.4.a	A.b	1a
450	68/82/41	Ⅷ.4.a	A.b	12a
451	68/82/41	Ⅷ.4.a	A.b	12a
452	68/82/41	Ⅷ.4.a	A.b	1a
453	68/82/41	Ⅷ.4.a	A.b	1a/2a
454	68/82/41	Ⅷ.4.a	A.b	2a
455	68/82/41	Ⅷ.4.a	A.b	2a
456	68/82/41	Ⅷ.4.a	A.b	2a/2b
457	68/82/41	Ⅷ.4.a	A.b	2b
458	69/83/41	Ⅷ.4.a	A.b	2b
459	69/83/41	Ⅷ.4.a	A.b	2b
460	69/83/41	Ⅷ.4.a	A.b	2b
461	69/83/41	Ⅷ.4.a	A.b	2b
462	69/83/41	Ⅷ.4.a	A.b	2b
463	69/83/41	Ⅷ.4.a	A.b	2b
464	69/83/41	Ⅷ.4.a	A.b	2b
465	69/83/41	Ⅷ.4.a	A.b	2b
466	69/83/41	Ⅷ.4.a	A.b	2b
467	69/83/41	Ⅷ.4.a	A.b	2b
468	69/83/41	Ⅷ.4.a	A.b	2b
469	69/83/42	Ⅷ.4.a	A.b	2b
470	69/83/42	Ⅷ.1.b2	A.a	-

No	図/写真	群、類、種	器形、部位	原体
471	69/83/42	Ⅷ.1.b2	A.b	-
472	69/83/42	Ⅷ.2.b	A.b	-
473	69/83/42	Ⅷ.2.b	A.b	-
474	69/83/42	Ⅷ.2.b	A.b	-
475	69/83/42	Ⅷ.2.b	A.b	-
476	69/83/42	Ⅷ.2.b	A.b	-
477	69/83/42	Ⅷ.2.b	A.b	-
478	69/83/42	Ⅷ.3.c	A.b	-
479	69/83/42	Ⅷ.3.c	A.b	-
480	69/83/42	Ⅷ.3.c	A.b	-
481	69/83/42	Ⅷ.3.d	A.b	-
482	69/83/42	Ⅷ.3.d	A.b	-
483	69/83/42	Ⅷ.2/3.b1/d	A.b	-
484	69/83/42	Ⅸ.2.e	A.b	-
485	69/83/42	Ⅸ.2.e	A.b	-
486	69/83/42	Ⅹ.1.b	A.b	-
487	69/83/42	X.1.c	A.a	-
488	69/83/42	X.1.c	A.b	-
489	69/83/42	X.1.c	A.b	-
490	69/83/42	X.1.c	A.b	-
491	70/84/42	X.1.c	A.b	-
492	70/84/42	X.1.d	A.a	-
493	70/84/42	X.1.d	A.a	-
494	70/84/42	X.1.d	A.b	-
495	70/84/42	X.2.c	A.a	2b
496	70/84/42	X.2.c	A.b	2b
497	70/84/42	X.2.c	A.b	2b
498	70/84/42	X.2.c	A.b	2b
499	70/84/42	X.2.c	A.b	2b
500	70/84/42	X.2.c	A.b	2b
501	70/84/42	X.2.c	A.b	2b

石器観察表

32号住居

No	図No./図 頁/PL	器種	石材	形態	残存	分類			計測値(mm・g)				備考
						刃部 凹部	原産 敲打	素材 磨面	長	幅	厚	重量	
1	11/18/5	ER	黒頁	2	Ⅱ	*	*	*	44	23	9	7.1	
2	11/18/5	L	黒片	4	I	*	*	*	129	46.5	17	132.2	
3	11/18/5	EP	黒頁	1	I	*	*	*	42.5	68	16	56.3	
4	11/18/5	ESc	黒頁	1	I	*	*	*	50	92	17	63.2	
5	11/18/6	ER	黒頁	2	I	*	*	*	89	71	22	113.8	
6	11/18/6	ER	黒頁	2	I	*	*	*	103	77	19	132.8	
7	11/18/5	ER	黒頁	1	I	*	*	*	70.5	61	22	87	
8	11/18/5	ER	黒頁	2	Ⅱ	*	*	*	74	40	20	61.1	
9	11/18/5	ER	黒頁	2	I	*	*	*	72	47	23	64.9	
10	12/19/6	EU	黒頁	1	I	*	*	*	44.5	76	20	45.7	
11	12/19/6	EU	黒頁	1	I	*	*	*	44	67.5	15	29.5	
12	12/19/6	EU	黒頁	1	I	*	*	*	55	73	12	42.9	
13	12/19/6	EU	黒頁	1	I	*	*	*	69	91.5	16	88.4	
14	12/19/6	ER	黒頁	2	I	*	*	*	60	58	17	48.3	
15	12/19/6	ER	黒頁	2	I	*	*	*	94	45.5	13	37.2	
16	12/19/6	ER	黒頁	2	I	*	*	*	122	42	36	157.8	
17	12/19/7	ER	黒頁	1	I	*	*	*	73	71	16	74.1	
18	12/19/7	EU	黒頁	1	I	*	*	*	82	93	16	104.6	
19	12/19/7	ER	黒頁	*	I	*	*	*	166	48	41	304.9	
20	13/20/7	I	ひん	2ab	I	㊸	*	i	95	81	33	397.5	
21	13/20/7	I	粗輝安	2ab	I	㊹	*	i	104	70	51	438.4	
22	13/20/7	I	粗輝安	2abc	I	㊺	?	i	100	74	35	412.2	
23	13/20/7	J	粗輝安	5	Ⅱ	*	*	*	128	139	60	1042.1	

57号住居

No	図No./図 頁/PL	器種	石材	形態	残存	分類			計測値(mm・g)				備考
						刃部 凹部	原産 敲打	素材 磨面	長	幅	厚	重量	
1	16/23/8	A	黒頁	5	I	*	*	*	35	20	8	4.3	
2	16/23/8	B	黒頁	1	I	*	*	*	39	11	5	1.4	
3	16/23/8	ER	黒頁	2	I	*	*	*	82.5	55	13	66.4	
4	16/23/8	D	黒頁	2	I	b	㊸	?	96.5	67	21	121.2	
5	16/23/8	ER	黒頁	2	I	*	*	*	66	39.5	10	23.4	
6	16/23/8	I	粗輝安	3ab	I	㊸	*	i	113	60	35	372	
7	16/23/8	I	粗輝安	1ab	I	㊸	*	i	97	98	34	375.9	
8	16/23/8	I	粗輝安	1a	I	*	*	i	99	84	41	464.8	
9	16/23/8	I	粗輝安	3a	I	*	*	i	147	75	46	750.3	
10	16/23/8	I	粗輝安	2a	I	*	*	i	109	87	45	612	

58号住居

No	図No./図 頁/PL	器種	石材	形態	残存	分類			計測値(mm・g)				備考
						刃部 凹部	原産 敲打	素材 磨面	長	幅	厚	重量	
1	27/37/14	A	黒頁	I	I	*	*	*	19	14	4	0.7	
2	27/37/14	A	チャ	2	Ⅱ-2	*	*	*	24	19	8	2.4	
3	27/37/14	A	チャ	2	Ⅱ-2	*	*	*	32	25	7	3.3	
4	27/37/14	B	チャ	2	I	*	*	*	23	22	6	2.6	
5	27/37/14	B	黒頁	1	Ⅱ-2	*	*	*	21	17	4	1.2	
6	27/37/14	B	黒安	1	Ⅱ-1	*	*	*	31	10	5	1.5	
7	27/37/14	B	黒頁	1	I	*	*	*	40	16	7	4.7	
8	27/37/14	B	黒安	1	I	*	*	*	39	36	7	5.5	未製品か?
9	27/37/14	C	黒頁	1	I	*	*	*	49	21	7	6.2	
10	27/37/14	ER	チャ	1	I	*	*	*	17	26	10	5.1	
11	27/37/14	ER	黒	1	I	*	*	*	16	18	7	1.5	
12	27/37/14	N	チャ	1	I	*	*	*	26	36	23	20.9	
13	27/37/14	ESc	黒頁	1	I	*	*	*	56	72	16	76.2	
14	27/37/14	ESc	黒頁	1	I	*	*	*	55	78.5	21	99.5	
15	27/37/15	ER	黒頁	1	I	*	*	*	70	96	19	86.7	
16	27/37/15	ER	黒頁	1	I	*	*	*	58	82	10	46.2	

第6章 遺物観察表

No	図No./国 頁/PL	器種	石材	形態	残存	分類			計測値(mm・g)				備考
						刃部 凹部	原磨 敲打	素材 磨面	長	幅	厚	重量	
17	28/38/15	ESc	黒頁	2	I	*	*	*	89	65.5	12	66.7	
18	28/38/15	EP	黒頁	1	I	*	*	*	57.5	57	19	53.1	
19	28/38/15	ESc	黒頁	1	I	*	*	*	83	56	15.5	63.5	
20	28/38/15	ER	黒頁	2	II	*	*	*	77	59	13	47.6	
21	28/38/15	ER	黒頁	1	I	*	*	*	100	68.5	11	102.2	
22	28/38/15	I	緑輝安	3c	I	*	ウ	*	56	21	25	29.1	
23	28/38/15	I	アイ	3c	I	*	ウ	*	93	31	31	116.3	
24	28/38/15	I	石閃	2a	I	*	*	i	56	56	18	83.1	
25	28/38/16	I	粗輝安	2ab	I	㊸	*	i	78	57	42	208	
26	28/38/16	I	粗輝安	2ab	I	㊸	*	i	149	97	50	829.3	
27	29/39/16	D	黒頁	1	II-7	b	①	フ	66	43	20	60	
28	29/39/16	D	粗輝安	1	II-2	c	②	フ	93	50.5	16	94	
29	29/39/16	D	黒頁	2	I	b	②	フ	68	50	15	52	
30	29/39/16	D	黒頁	2	I	b	②	フ	81	54	32	147.9	
31	29/39/16	D	黒頁	1	I	a	②	フ	75.5	52	33	156.5	
32	29/39/16	D	黒頁	6	I	a	②	フ	80	48.5	26	126.4	敲き石に転用
33	29/39/16	D	黒頁	7	I	a	②	フ	85.5	76	33	238.4	敲き石に転用
34	29/39/16	L	変玄	2	II	*	*	*	145	50	26	279.8	
35	29/39/16	L	変玄	2	II	*	*	*	118	62	32	392.3	

20号土坑

No	図No./国 頁/PL	器種	石材	形態	残存	分類			計測値(mm・g)				備考
						刃部 凹部	原磨 敲打	素材 磨面	長	幅	厚	重量	
1	31/42/21	A	黒安	1	I	*	*	*	29	16	6.5	1.9	

110号土坑

No	図No./国 頁/PL	器種	石材	形態	残存	分類			計測値(mm・g)				備考
						刃部 凹部	原磨 敲打	素材 磨面	長	幅	厚	重量	
1	34/46/21	ER	ホル	1	I	*	*	*	24	39	7	6.4	

113号土坑

No	図No./国 頁/PL	器種	石材	形態	残存	分類			計測値(mm・g)				備考
						刃部 凹部	原磨 敲打	素材 磨面	長	幅	厚	重量	
1	35/48/21	N	黒	*	I	*	*	*	33	35	18	15.7	

114号土坑

No	図No./国 頁/PL	器種	石材	形態	残存	分類			計測値(mm・g)				備考
						刃部 凹部	原磨 敲打	素材 磨面	長	幅	厚	重量	
1	35/48/21	ER	黒頁	1	I	*	*	*	51	104	10	58.9	
2	35/48/21	I	粗輝安	2ab	II	㊸	*	i	89	65	35	335.9	

223号ピット

No	図No./国 頁/PL	器種	石材	形態	残存	分類			計測値(mm・g)				備考
						刃部 凹部	原磨 敲打	素材 磨面	長	幅	厚	重量	
1	36/50/21	A	チャ	2	I	*	*	*	28	16	5	1.6	

A15グループ

No	図No./国 頁/PL	器種	石材	形態	残存	分類			計測値(mm・g)				備考
						刃部 凹部	原磨 敲打	素材 磨面	長	幅	厚	重量	
1	45/60/25	A	黒頁	1	II-1	*	*	*	21	16	4	1.3	
2	45/60/25	A	チャ	2	I	*	*	*	33	19	6	2.2	
3	45/60/25	C	黒頁	2	I	*	*	*	63	37	11	2.2	
4	45/60/25	D	黒頁	1	I	b	②	フ	101.5	53	18	108.2	
5	45/60/25	D	黒頁	1	I	b	①	フ	104	56.5	33	188.5	
6	45/60/25	D	黒頁	2	I	a	②	フ	76	47	19	60.8	
7	45/60/25	D	黒頁	1	I	a	②	フ	106	58	27	238.2	
8	45/60/25	D	黒頁	1	I	a	②	フ	97	46	21	115.6	
9	45/60/25	ER	黒頁	1	I	*	*	*	47	37	8	17.3	
10	45/60/25	D	黒頁	3	II-2	a	②	フ	116	69	33	264.2	
11	45/60/25	D	黒頁	6	I	*	②	フ	108	61	36	201.7	

2 遺物観察表

No	図No./図頁/PL	器種	石材	形態	残存	分類			計測値(mm・g)				備考
						刃部 凹部	原産 敲打	素材 磨面	長	幅	厚	重量	
12	46/61/25	D	黒頁	6	I	*	*	ア	183	86	46	849.8	
13	46/61/25	D	変支	7	I	a	②	ア	95	68	18	122.2	
14	46/61/25	ER	黒安	1	I	*	*	*	40.5	73	10	26.2	
15	46/61/25	ER	黒頁	1	I	*	*	*	55	81.5	15	40.2	
16	46/61/25	ER	黒頁	1	I	*	*	*	62	97.5	15.5	66.7	
17	46/61/25	ER	黒頁	2	I	*	*	*	117	54	19	108.8	
18	46/61/25	ER	黒頁	2	I	*	*	*	107.5	56	41	252.7	
19	46/61/25	ER	緑	2	I	*	*	*	229	96	17	447.6	
20	46/61/26	ESc	黒頁	1	I	*	*	*	39	65	11	19.7	
21	46/61/26	ESc	黒頁	2	I	*	*	*	66	40.5	16	30.3	
22	47/62/26	I	粗輝安	1a	I	*	*	i	55	45	35	119.7	
23	47/62/26	I	粗輝安	1ab	I	③	*	i	99	90	43	564.1	
24	47/62/26	I	粗輝安	1ab	I	③	*	i	113	98	51	806.5	
25	47/62/26	I	粗輝安	2a	I	*	*	i	120	74	42	572.2	
26	47/62/26	I	文班	2a	I	*	*	i	107	69	35	370	
27	47/62/26	I	石閃	2ac	I	④	*	i	120	58	45	461	
28	47/62/26	I	雲石片	4c	I	*	ウ	*	68	15	13	19.4	
29	47/62/26	I	溶結凝	4c	I	*	ウ	*	56	25	17	31.8	

A17 グループ

No	図No./図頁/PL	器種	石材	形態	残存	分類			計測値(mm・g)				備考
						刃部 凹部	原産 敲打	素材 磨面	長	幅	厚	重量	
1	49/64/28	ER	黒頁	1	I	*	*	*	16	51	5	4.4	
2	49/64/28	ER	黒頁	2	I	*	*	*	58	45	19	38.7	
3	49/64/28	ER	珪安	2	II	*	*	*	49	36	9	15	
4	49/64/28	ER	黒頁	1	I	*	*	*	67	92.5	3.3	256.2	
5	50/65/28	D	黒頁	1	I	a	②	ア	96	50	24	116.5	
6	50/65/28	I	変支	4c	I	*	ウ	*	79	24	19	53.8	
7	50/65/28	I	粗輝安	2ac	I	*	ウ	i	111	86	50	660.4	
8	50/65/28	M	葉楓	*	II	*	*	*	37	24	7	5.5	耳飾り

C17 グループ

No	図No./図頁/PL	器種	石材	形態	残存	分類			計測値(mm・g)				備考
						刃部 凹部	原産 敲打	素材 磨面	長	幅	厚	重量	
1	52/66/29	A	チャ	1	I	*	*	*	23	16	5	1.5	
2	52/66/29	D	黒頁	1	I	b	②	ア	112	55	12.5	100.8	
3	52/66/29	D	黒頁	2	I	a	②	ア	85	62	14	69.8	
4	52/66/29	D	黒頁	3	I	a	②	ア	148	88.5	25	310.9	
5	52/66/29	ESc	黒頁	1	I	*	*	*	43	82	22	77.9	
6	52/66/29	ESc	黒安	2	I	*	*	*	66	36	8	18.6	
7	52/66/29	I	石閃	2a	I	*	*	i	65	47	26	108.6	
8	52/66/29	I	粗輝安	2a	I	*	*	i	63	49	23	90.6	

H17 グループ

No	図No./図頁/PL	器種	石材	形態	残存	分類			計測値(mm・g)				備考
						刃部 凹部	原産 敲打	素材 磨面	長	幅	厚	重量	
1	56/69/30	D	黒頁	2	I	a	①	ア	119	59	31	183.8	

第6章 遺物観察表

グリッド

No.	図No./図 頁/PL	器種	石材	形態	残存	分類			計測値(mm・g)				備考
						刃部 凹部	厚縁 敲打	素材 磨面	長	幅	厚	重量	
1	73/86/43	A	チャ	1	I	*	*	*	23	15	4	1.1	71-K-02
2	73/86/43	A	チャ	1	I	*	*	*	23.36	16.03	5.04	1.4	61-C-07
3	73/86/43	A	チャ	1	I	*	*	*	28	19	5	1.7	表土 52
4	73/86/43	A	チャ	1	I-1	*	*	*	20	17	5	1.6	71-O-13
5	73/86/43	A	チャ	1	I	*	*	*	26	20	7	2.9	71-M-07
6	73/86/43	A	チャ	1	I	*	*	*	25	19	7	2.9	71-O-13
7	73/86/43	A	チャ	1	II-2	*	*	*	23	16	5	1.3	72-A-11
8	73/86/43	A	埴瓦	1	II-1	*	*	*	27	17	5	2.3	71-K-03
9	73/86/43	A	埴瓦	1	II-1	*	*	*	26	14	5	1.6	82-E-01
10	73/86/43	A	黒安	1	I	*	*	*	16	13	4	0.7	82-I-05
11	73/86/43	A	黒安	1	II-1	*	*	*	26	22	9	3.9	82-E-01
12	73/86/43	A	黒瓦	1	I	*	*	*	29	14	4	1.4	61-I-18
13	73/86/43	A	黒瓦	1	I	*	*	*	26	13	6	1.9	82-G-03
14	73/86/43	A	黒瓦	1	II-1	*	*	*	25	16	6	2.4	82-E-01
15	73/86/43	A	チャ	2	II	*	*	*	24	16	4	1.1	61-J-17
16	73/86/43	A	チャ	2	I	*	*	*	32	18	6	2.2	61-L-17
17	73/86/43	A	チャ	2	I	*	*	*	24.69	19.1	5.94	2.1	61-C-08
18	73/86/43	A	チャ	2	I	*	*	*	26	15	5	1.2	表土 52
19	73/86/43	A	チャ	2	II-1	*	*	*	20	17	5	1.1	71-O-09
20	73/86/43	A	チャ	2	I	*	*	*	26	17	5	1.9	72-C-15
21	73/86/43	A	チャ	2	II-1	*	*	*	23	16	4	1.5	82-G-08
22	73/86/44	A	埴瓦	2	I	*	*	*	29	12	4	0.9	71-R-03
23	73/86/44	A	黒	2	II	*	*	*	19	12	2	0.2	61-G-18
24	73/86/44	A	黒	2	I	*	*	*	21	18	3	0.8	71-M-09
25	73/86/44	A	黒安	2	II	*	*	*	33	17	5	1.7	61-K-17
26	73/86/44	A	黒安	2	II	*	*	*	25	17	5	1.9	61-Q-20
27	73/86/44	A	黒安	2	I	*	*	*	28	17	5	1.5	61-Q-20
28	73/86/44	A	黒安	2	I	*	*	*	32	21	6	2.8	71-Q-09
29	74/87/44	A	黒瓦	2	I	*	*	*	24	16	5	1.8	61-I-09
30	74/87/44	A	黒瓦	2	I	*	*	*	21	17	6	1.5	61-L-20
31	74/87/44	A	黒瓦	2	I	*	*	*	30	14	6	1.5	61-K-17
32	74/87/44	A	黒瓦	2	II-3	*	*	*	35	15	6	3.2	82-E-01
33	74/87/44	A	チャ	3	II	*	*	*	18	15	3	0.5	61-G-18
34	74/87/44	A	チャ	3	I	*	*	*	18	11	3	0.3	61-H-19
35	74/87/44	A	チャ	3	I	*	*	*	39	18	6	2.5	70-R-09
36	74/87/44	A	チャ	3	I	*	*	*	20	16	4	0.6	82-G-03
37	74/87/44	A	埴瓦	3	I	*	*	*	15	15	4	0.4	61-F-10
38	74/87/44	A	黒	3	II-2	*	*	*	26	14	4	0.9	71-R-03
39	74/87/44	A	チャ	5	I	*	*	*	29	23	8	5.5	82-G-03
40	74/87/44	A	黒瓦	5	I	*	*	*	31	22	7	4.7	71-Q-13
41	74/87/45	A	黒瓦	6	I	*	*	*	29	14	3	0.8	61-G-20
42	74/87/45	A	黒瓦	7	I	*	*	*	25	15	4	0.9	71-Q-09
43	74/87/45	A	チャ	8	II-2	*	*	*	24	14	4	1.1	71-K-04
44	74/87/45	A	黒安	8	I	*	*	*	28	15	4	1.1	71-T-07
45	74/87/45	A	チャ	9	I	*	*	*	29	24	10	5.4	71-M-07
46	74/87/45	A	チャ	10	II-2	*	*	*	22	16	6	1.5	82-G-03
47	74/87/45	B	チャ	1	I	*	*	*	36	24	12	8.8	71-M-10
48	74/87/45	B	黒瓦	1	I	*	*	*	34	17	7	3.9	61-K-17
49	74/87/45	B	黒瓦	1	II-1	*	*	*	35	19	6	3.8	72-E-09
50	74/87/45	B	チャ	2	I	*	*	*	22.49	24.63	6.67	2.6	61-C-10
51	74/87/45	C	黒瓦	2	I	*	*	*	31	22	7	4.9	71-G-07
52	74/87/45	C	細埴安	1	I	*	*	*	46.28	80.66	8.74	22.3	82-J-05
53	75/88/45	C	チャ	2	I	*	*	*	29	41	8	6.9	表土 54
54	75/88/46	C	埴瓦	2	I	*	*	*	50	20	5	4.5	71-Q-11
55	75/88/46	C	黒瓦	2	I	*	*	*	37	68	12	18.2	表土 54
56	75/88/46	D	灰安	1	I	a	②	ア	150	65	32.5	384.6	61-F-16

2 遺物観察表

No	国No./ 頁/PL	器種	石材	形態	残存	分類			計測値(mm・g)			備考	
						方部 凹部	原種 敲打	素材 磨面	長	幅	厚		重量
57	75/88/46	D	灰安	1	I	c	②	7	118	73	32	217.6	71-R-03
58	75/88/46	D	灰安	1	I	c	②	7	121	64	31	327.9	71-P-14
59	75/88/46	D	黒頁	1	I	b	②	7	118.69	36.53	20.36	115.2	61-F-10
60	75/88/46	D	黒頁	1	II-2	c	②	7	96	57	27	158.4	71-I-03
61	76/89/46	D	黒頁	1	I	b	①	7	95	61	30	239.2	表土 51
62	76/89/46	D	黒頁	1	I	b	②	7	156	71	33	448.1	61-K-18
63	76/89/46	D	黒頁	1	I	a	②	7	122	113	24	195.3	表土 52
64	76/89/47	D	黒頁	1	II-3	*	①	i	70	39	21	59.1	71-N-07
65	76/89/47	D	黒頁	1	II-5	*	②	7	104	50	18	97.8	71-J-08
66	76/89/47	D	黒頁	1	I	b	②	7	78	49	15	74.5	71-S-11
67	76/89/47	D	黒頁	1	I	a	②	7	98	62.5	27	171.3	71-S-10
68	76/89/47	D	黒頁	1	I	a	①	7	103	45	16	66.7	71-K-08
69	76/89/47	D	黒頁	1	I	a	②	7	102	42	21	98.5	71-R-10
70	76/89/47	D	黒頁	1	I	b	②	7	105.5	65	17	152.3	71-M-10
71	77/90/47	D	黒頁	1	I	a	②	7	96.5	44	29	126.7	71-N-12
72	77/90/47	D	黒頁	1	I	b	②	7	78	49	21	81.2	82-E-01
73	77/90/47	D	黒頁	1	I	a	②	7	107.5	53	36	203.8	72-C-15
74	77/90/47	D	黒頁	1	I	b	②	7	105	68	15	130.2	73-A-11
75	77/90/47	D	黒頁	1	I	c	②	7	108	52	34	206.2	72-C-15
76	77/90/47	D	黒頁	1	I	a	②	7	125	63	28	248.6	72-C-13
77	77/90/47	D	龜甲安	1	II-5	a	②	7	93	49.5	16	60	71-I-06
78	77/90/47	D	蒙北	1	I	a	②	7	151	76	29	371.2	71-S-13
79	77/90/48	D	黒安	2	I	b	②	7	95	54.5	25	120.1	71-O-13
80	78/91/47	D	黒頁	2	I	b	②	7	70.01	47.84	12.67	43.9	61-J-17
81	78/91/48	D	黒頁	2	I	c	②	7	133	74	35	391.2	表土 52
82	78/91/48	D	黒頁	2	I	b	①	7	86	56	26	114.3	71-Q-13
83	78/91/48	D	黒頁	2	I	b	②	7	102	58	17	97.5	71-Q-11
84	78/91/48	D	黒頁	2	I	a	②	7	89	55	19	100	72-C-15
85	78/91/48	D	黒頁	2	I	b	②	7	81	50	20	88.5	72-C-13
86	78/91/48	D	黒頁	2	I	c	②	7	73	47.5	20	62.3	82-G-03
87	78/91/48	D	黒頁	2	I	b	②	7	77.5	46.5	18	73.2	82-G-03
88	78/91/48	D	黒頁	2	I	b	①	7	103	59.5	22	121.4	72-G-19
89	78/91/48	D	黒頁	2	I	b	②	7	163	71	48	463.6	72-B-16
90	79/92/49	D	龜甲安	2	I	a	②	7	136	55	56	130.3	71-K-11
91	79/92/49	D	ホル	3	I	a	①	7	88	50	9	45.8	82-I-01
92	79/92/49	D	黒頁	3	I	a	②	7	78	59.5	27	100.3	72-C-19
93	79/92/49	D	黒頁	4	I	a	②	7	108	62	28	208.4	72-A-11
94	79/92/49	D	黒頁	7	I	a	②	7	68.5	58	28	117.8	82-E-01
95	79/92/49	D	黒頁	7	I	a	①	7	91	58	13	72.2	82-G-03
96	79/92/49	D	黒頁	8	II-4	a	②	7	61.5	61	20	83.9	71-M-10
97	79/92/49	ER	チャ	1	I	*	*	*	38	27	11	9	61-Q-20
98	79/92/49	ER	チャ	1	I	*	*	*	23	17	7	2.6	82-E-01
99	79/92/49	ER	チャ	1	II	*	*	*	31	19	9	4.6	72-A-09
100	79/92/49	ER	灰安	1	I	*	*	*	66	78	10	70.5	72-C-13
101	79/92/49	ER	珪頁	1	I	*	*	*	33	20	8	2.8	82-E-01 被熱
102	79/92/49	ER	黒頁	1	I	*	*	*	28	47	8	11.7	61-K-18
103	79/92/49	ER	黒頁	1	I	*	*	*	75	47	15	61.7	61-M-19
104	80/30/49	ER	砂頁	1	II	*	*	*	81	45	12	50.9	61-K-19
105	80/30/50	ER	チャ	2	I	*	*	*	41	17	8	5.2	表土 51
106	80/30/49	ER	チャ	2	I	*	*	*	31	17	7	2.6	71-Q-09
107	80/30/50	ER	珪頁	2	II	*	*	*	32	24	6	2	61-D-08 龜未成品中
108	80/30/50	ER	黒頁	2	II	*	*	*	76	56	14	45.4	61-L-17
109	80/30/50	ER	黒頁	2	I	*	*	*	76	73	11	46.7	71-E-02
110	80/30/50	ER	黒安	*	I	*	*	*	50	45	16	29.8	72-C-13
111	80/30/50	ESc	黒頁	1	II	*	*	*	47	117	14	94.9	61-K-18
112	80/30/50	ESc	黒頁	1	I	*	*	*	66	132	20	168.5	61-F-10
113	80/30/50	ESc	黒頁	1	I	*	*	*	46	69	11	34.5	82-E-01

第6章 遺物観察表

No	図No./図頁/PL	器種	石材	形製	残存	分類			計測値(mm・g)				備考
						刃部 四部	原種 敲打	表材 磨面	長	幅	厚	重量	
114	81/94/50	ESc	黒頁	1	I	*	*	*					72-C-05
115	81/94/50	ESc	黒頁	1	I	*	*	*	82.5	110.5	17	183.4	82-G-05
116	81/94/50	ESc	黒頁	1	I	*	*	*	66.5	47	25	84	72-C-15
117	81/94/50	ESc	黒頁	2	I	*	*	*	68.5	59	21	62.4	72-B-17
118	81/94/50	ESc	黒頁	*	I	*	*	*	71	53	21	75.1	61-K-17
119	81/94/51	G	黒頁	*	I	*	*	*					72-E-09
120	81/94/51	I	粗輝安	1a	I	*	*	i	99	100	40	547.1	72-C-15
121	81/94/51	I	粗輝安	1ab	I	③	*	i	63	50	36	133.8	72-C-15
122	81/94/51	I	粗輝安	2a	I	*	*	i	92	77	25	232.2	72-E-13
123	81/94/51	I	粗輝安	2a	I	*	*	i	146	73	41	656	72-C-15
124	81/94/51	I	粗輝安	2a	I	*	*	i	117	98	35	513.2	72-C-15
125	81/94/51	I	粗輝安	2ab	I	③	*	i	116	88	37	530.6	72-G-19
126	82/95/51	I	粗輝安	2ab	I	①	*	i	82	65	41	262.3	82-G-06
127	82/95/51	I	粗輝安	2ab	I	②	*	i	109	67	31	295.2	72-B-17
128	82/95/51	I	粗輝安	2ab	I	②	*	i	127	86	46	636.9	82-G-03
129	82/95/51	I	溶結凝	2ab	I	①	*	i	112	75	40	484.1	71-I-08
130	82/95/51	I	粗輝安	3ab	I	②	*	*	188	92	71	1511.2	61-C-08
131	82/95/51	I	ひん	3ac	I	*	ウ	i	127	62	40	473.8	71-I-03
132	82/95/51	I	粗輝安	3ac	I	*	ウ	i	167	81	50	1105.2	71-L-05
133	82/95/51	I	変玄	3ac	I	*	ウ	i	111	39	30	234.7	72-C-15
134	82/95/52	I	粗輝安	2ab	I	③	*	i	116	88	37	530.6	表土 54
135	82/95/52	I	粗輝安	2a	I	*	*	i	92	77	25	232.2	72-E-13
136	83/96/52	I	粗輝安	4a	I	*	*	i	143	141	37	1116.5	71-H-02
137	83/96/52	I	粗輝安	4ab	I	②	*	*	171	147	60	1774.5	61-H-18
138	83/96/52	J	粗輝安	5	II	*	*	*	109	89	48	450.3	82-E-01
139	83/96/52	L	変玄	4	I	*	*	*	196	51	29	416.4	71-H-02
140	83/96/52	L	変玄	4	II-9	*	*	*	60	40	13	30.4	表土 51
141	83/96/52	M	雲石片	*	II	*	*	*	70.64	29.77	13.82	45.8	61-F-10
142	83/96/52	N	チャ	*	I	*	*	*	23	39	27	25.8	72-A-19
143	83/96/52	M	玉	*	II	*	*	*	20	16	5	2.2	82-E-01 古墳時代か?

古墳時代以後の遺物観察表

33号住居

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	88/99/53	石製品 紡錘車	最大長55 幅5.3 厚20 重量69.6	石材砥沢石	埋没土	断面台形、角はとれて丸み、表面全体磨蝕、底面線刻状傷。

34号住居

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	94/104/55	須臾器 蓋	口(122) 高 4.5 天井はほぼ 完、口縁1/3	雲母、石英、 細砂、黒粒 /還元/硝灰黄	北東壁部 ～中央南寄 り/東直 ～+29	天井厚い、縁部突出弱い。口縁緩く下降し、肩部やや浅い。外面丁寧な横ナデ。6世紀中葉
2	94/104/55	須臾器 坏蓋	口144 高43 天井はほぼ完、 口縁1/2	黒粒、黒粒、 白粒/還元/灰	中央南寄り /東直	天井の一部がつぶれ、歪む。縁の突出弱い。口縁丸みを帯びて聞き肩部で内彎。口縁左回転。天井回転へつ切り。頂部周囲を回転へつ切り。口縁横ナデ。6世紀中葉
3	94/104	土師器 坏	口(140) 高 (28) 表-体 部1/5、口縁	細砂、黒粒 /酸化/橙	中央/埋没 土	扁平なつくりで底平ら。口縁短く、内彎。底部・体部へつ切り。口縁から内面横ナデ。
4	94/104/55	土師器 坏	口96 高40 1/2	黒粒、白粒、 角閃石/酸化 /にぶい赤褐	中央南東寄 り/東直	小型の坏蓋模倣坏。口縁内彎しながら聞き、肩部丸い。厚手。底部・体部へつ切り後、横ナデ。口縁から内面横ナデ。6世紀前葉～中葉
5	94/104/55	土師器 坏	口(132) 高 54 底66 口縁1/3、 底-体部一部 欠損	石英、黒粒、 黒粒、白粒 /酸化/にぶい 黄褐	中央南東寄 り /+15～26	坏蓋模倣坏。底丸みを持ち、口縁緩く外反しながら聞き。底部・体部へつ切り後、横ナデ。口縁横ナデ。内面黒色処理。磨きが施された可能性もあるが、内面全体の磨耗と剝離で不明。6世紀中葉

No.	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
6	94/104	土師器 坏	口(124) 高(22) 破片	粗粒、白粒、 角四石/酸化 /褐	埋没土	丸底。稜は明瞭で、口縁内傾して開く。口縁横ナデ。口縁上半内 外面とも潤縁顕著。
7	94/104 /55	土師器 坏	口132 高 (5.0) 底部・ 口縁2/3	石英、粗粒、 黒粒、白粒/ 酸化/褐	中央南寄り /+18 ~18.5	坯蓋模倣。厚手。底部・体部と口縁境に弱い稜。口縁外傾しな がら開き、肩部丸い。底部・体部へラ削り。口縁横ナデ。6世紀中 葉
8	94/104 /55	土師器 鉢	口(140) 高 6.3 底4.3 口縁肩部の 大半、体部 の一部を欠損	石英、粗粒、 黒粒、白粒/ 酸化/ぶい 褐	北東壁際~ 中央南寄り /+9.5~29	底高台状に突出し、平らに調整される。体部縦く開き、口縁との 境に弱い稜。口縁外反しなから開き、肩部丸い。底部から体部へ ラ削り。口縁横ナデ、内面から口縁端部外面黒色。内面棒状工具 による放射状磨き。6世紀前葉
9	94/104 /55	土師器 坏	口127 高4.7 底7.1 底部・ 中央、体部、口 縁一部を欠損	石英、粗粒、 黒粒、白粒、 角四石/酸化 /黒褐	中央南寄り /+12.5	底部偏平。口縁縦く外反しなから開き、肩部丸い。底部・体部へ ラ削り。口縁横ナデ。内面棒状工具による放射状磨き。6世紀中 葉
10	94/104 /55	土師器 坏	口140 高4.0 ほぼ完形	粗粒、黒粒、 白粒/酸化 /明赤褐	中央南寄り /+8.5~14	底丸みを持ち、唇高狭くやや偏平。坯蓋模倣。体部と口縁境に 弱い稜。口縁直線的に開き、僅かに外反。底部へラ削り。口縁か ら内面横ナデ。6世紀中葉
11	94/104	須恵器 壺	破片	白粒、赤粒 /還元/外面に ぶい/褐~灰内 面灰		外面平行可き。明瞭に凸凹。内面同心円状の当て目。焼成は外 面焼きムラあり。
12	94/104 /55	須恵器 壺	口130 高 (8) 口縁~ 胴部上半はほ ぼ完	石英、白粒、 角四石/酸化 /ぶい/黄橙	電燈塔部 (支脚)/灰 直	厚手。胴部球状に膨らむ。口縁縦く屈曲し、短く外反。内外面と も粘土継接合痕多い。器面粘土継による凸凹。胴部外面雑なへラ 削り。口縁横ナデは狭い。内面接痕。胴部内面縦や雑なナデ。 角四石を多量に含む。6世紀中葉
13	95/105 /55	土師器 壺	口(142) 高 (12.8) 胴部 1/3、頸~口縁 1/2	石英、細砂、 黒粒、白粒、 角四石/酸化 /明赤褐	電燈口・南 袖(構築材) /+11~18	最大径は胴部中央。胴部器内厚く、上製。頸部短く胴部上半との 境は横ナデとケズリで明瞭。口縁斜め上方に開き、肩部方形。胴 部横から斜めへラ削り。頸部短い横ナデ。口縁から内面横ナデ。 外面被熱による赤色化。6世紀中葉
14	95/105 /55	土師器 壺	口(177) 高 (16.0~16.5) 口縁~胴部上 半1/2	石英、軽石、 角四石/酸化 /明黄褐	電北袖(構 築材) /+12.5	ずん割で、口縁直立して開き、上半で強く外反。頸部肥厚し丸く おさめる。厚手で、粘土継による凹凸残る。胴部外面へラ削り後、 細かい工具による粗いミガキ様のナデ。胴部内面や横かい雑な ナデ。口縁に至む。6世紀中葉
15	95/105 /55	土師器 壺	口171 高 (15.0~15.7) 口縁4/5、胴部 上半はほぼ完形	石英、白粒、 角四石/酸化 /橙	電南袖(構 築材) /+8.5 ~20.5	ずん割で中位に最大径。口縁屈曲して外反気味に開く。胴部内面 強いナデによる凹みあり。胴部外面ミガキに近いような細かい丁 取なナデ。胴部内面強めの丁取なナデで、工具匠痕顕著。口縁横 ナデ。口縁歪み顕著。6世紀中葉
16	95/105 /55	土師器 壺	口186 胴部 上半一部、口 縁	片岩、石英、 粗粒、黒粒、 白粒、角四石 /酸化/浅黄	東壁際~中 央 /床直 ~+13.5	口縁縦く外傾しなから開き、断面くの字状。胴部縦へラ削り。口 縁横ナデ。6世紀中葉
17	95/105 /55	土師器 壺	高(8.9) 底(7.6) 胴部 下位~底部 1/2	軽石、角四石 /酸化/ぶい 褐	中央南東寄 り /+16.5 ~27.5	厚手。粘土継による器面の凹凸顕著。粗粒。底部雑なケズリで凹 凸顕著。胴部外面やや幅狭のへラ削り。最下部ナデ。内面へラナ デ。ナデは不定。カマドとして使用した為、底部外面潤縁顕著。
18	95/105 /56	土師器 壺	口212 高 25.5 底9.0 ほぼ完形	石英、粗粒、 黒粒、白粒、 角四石/酸化 /ぶい/黄橙	北東隅~中 央南寄り /+2~25	底部の孔は中心からずれ、孔の縁は一部が赤変。口縁縦く開き、 肩部外反。厚手で粗粒。胴部上半から底部縦へラ削り。内面縦磨 き。口縁内外面横ナデ。底部孔の内面へラ削り。胎土に角四石が 多く含まれる。6世紀中葉
19	95/105 /56	土師器 壺	口158 高 (15.2) 底部 全て、胴部下 半一部欠損	石英、粗粒、 黒粒、白粒、 角四石/酸化 /ぶい/褐	電北袖(構 築材) /+12.5	小型の壺。胴部殆どとげれば、口縁縦く外傾しなから開く。肩部 丸い。胴部へラ削り。口縁から内面横ナデ。6世紀中葉
20	95/105	須恵器 坏	高(1.4) 底 (6.8) 口縁下 位~底部1/3	石英、軽石/還 元/灰	埋没土	底部回転糸切り。胎土に粗く大粒の石英を多く含む。8世紀

第6章 遺物観察表

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
21	96/106	須恵器 坏	高(0.7) 底 (7.6) 底部 1/3	軽石、赤粒 /還元/灰	埋没土	ロクロ右回転。底部回転糸切り後、周辺部のみ回転ヘラ削り。8世紀中葉
22	96/106 /56	土師器 羹	口(18.2) 高 33.7 底(6.6) 口縁4/5、胴部上 半完、胴部下 半1/2、 底部1/4	石英、軽石、 赤粒、角閃石 /酸化/明焼	甕焚口・ 北袖南・ 燃焼部/北 東壁際～南 東寄り /床直 ～+20	精製。長胴で最大径中央よりやや下位。口縁強く屈曲して外反気味に開く。粘土層による凹凸。胴部外面上下2段に分けて一息に削り。胴部内面丁寧なナデ。口縁外側粘土層接合痕が沈線状に走る。口縁から胴部上半粘土状の付着物。6世紀中葉
23	96/106 /56	土師器 羹	口18.0 高 35.0 底5.0 口縁4/5、胴部 ～底部は完形	石英、軽石、 砂粒、角閃石 /酸化/明赤焼	甕焚口・ 北袖・南袖 /+3.5～19	大型品。精製。長胴で最大径中位。口縁屈曲して外反し、端部で強く外反。胴部粘土層により器面に凹凸。胴部外面下から上へ一息にヘラ削り。胴部内面強い横ナデ。ヘラ工具痕が沈線状に残る。口縁3度に分けて強めの横ナデ。胴部内面黒変している。6世紀中葉
24	96/106 /56	土師器 羹	高(27.7) 底 7.0 胴部上 ～中位1/4、胴 部下位～底部 4/5	石英、白粒、 赤粒、角閃石 /酸化/にぶい 焼	甕焚口・北 袖(構築材) /東壁際～ 中央南寄り /床直 ～+26.5	厚手。長胴で下位に最大径。粘土層による凹凸。底部ナデ後、周辺部のみ削り。胴部上位から中位は下から上へ一息に削る。下位は接合部分で横削り。最下部分の削り。胴部内面のナデは丁寧。胴部下位は粘土層痕が明瞭。接合部分で器面が剥落している。6世紀中葉
25	96/106 /56	土師器 羹	口16.0 高 (22.3) 胴部 下手・底部 欠損	黒粒、白粒、 角閃石/酸化 /豊	甕北袖(構 築材)/+11	口縁断面くの字状。口縁斜め上方に直線的に開き、端部丸い。厚手で、上製。胴部ヘラ削り。口縁横ナデ。内面輪轆み痕が明瞭に残る。口縁から胴部スズが付着し、被熱のために器内表面が赤色化する。6世紀中葉
26	96/106 /56	土師器 羹	高(4.0) 底 5.5 底部	雲母、粗粒、 角閃石/酸化 /明赤焼	中央北寄り /+8.5	底部ヘラ削り。内外面ともに被熱で赤色化、磨耗も進行する。
27	94/104 /56	鉄製品 刀子か	住居南東隅部で、床面からやや浮いた状態で出土。両端を欠く厚手の板状品で、刀子基部の断片か。存長5.35cm。一端がやや幅広く、厚く、長さ1.2cm、厚さ0.4cm、他端は幅0.5cm、厚さ0.3cm。			

36号住居

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	101/111 /57	土師器 坏	口(13.4) 高 6.0 底(12.6) 底・体部3/4、 口縁1/3	石英、粗粒、 角閃石/酸化 /外面灰褐色内 面明赤焼	中央/床直	坯変横壁坏。体部と口縁境に弱い横。口縁外反しながら開く。口縁端部の内側風化顕著。内面赤変。底部・体部ヘラ削り。口縁から内面横ナデ。
2	101/111 /57	土師器 坏	口(12.4) 高 5.1 底11.4 2/3	石英、粗粒、 長石、角閃石 /酸化/明赤焼	北西隅 /+36.0	底・体部歪み。口縁との境に弱い横。口縁やや外反しながら開く。端部丸い。厚手で、上製。底部・体部ヘラ削り。口縁から内面横ナデ。底部が被熱で黒片。胎土に石英の塵が多く含まれる。
3	101/111 /57	土師器 坏	口12.2 高 6.1 底11.8 3/4	石英、粗粒、 角閃石/酸化 /外面にぶい 黄褐色内面明赤 焼	甕燃焼部 /+38.5	須恵器坏等の横壁坏。底・体部丸みを持ち、口縁との境に弱い横。口縁直線的に開き、端部で外反。端部内側に弱い沈線。底部・体部ヘラ削り。口縁から内面横ナデ。一部に赤色化、炭化物付着。
4	101/111 /57	土師器 坏	口(13.2) 高 4.9 底・体部 1/4、口縁破片	石英、黒粒、 角閃石/酸化/赤 焼	埋没土	底・体部丸い。口縁斜め上方に開き、端部で外反。厚手。やや風化が進む。底部・体部ヘラ削り。口縁内外面横ナデ。
5	101/111 /57	土師器 坏	口(12.2) 高 4.6 底・体部 1/2、口縁破片	粗粒、黒粒、 白粒、角閃石 /酸化/赤焼	南東隅 /+36.0～ 40.0	底・体部丁寧な調整で丸い。口縁との境に弱い横。口縁斜め上方に開き、端部外反。底部・体部ヘラ削り。口縁内外面横ナデ。底・体部の内面ヘラナデ。
6	101/111 /57	土師器 羹	口11.4 高 (8.4) 1/2	雲母、軽石、 粗粒、白粒、 角閃石/酸化 /豊	北西隅 /+32.0	最大幅胴部上半。口縁斜め上方に強く外反しながら開き、くの字状。端部丸い。厚手で、特に口縁が厚い。胴部外面ヘラ削り。上半から中位横ヘラ削りが多い。胴部内面斜めにヘラナデ。中位放射状の痕もしくは棒状工具痕。胴部から口縁内外面、横ナデ。胎土には雲母(あるいは糠か)の結晶が多く含まれる。胎土が粗い。

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
7	101/111 /57	土師器 埴	口(190) 高(62) 坏部1/2	石英、粗粒、 黒粒、白粒、 角閃石/酸化/ 橙	中央南～南 東寄り /床底 ～+4.0	厚手、上製。斜め上方に開き、端部丸い。胴部周辺縦へら削り。 口縁端部の外面から内面横ナダ。内外面ススが一部付着。
8	101/111 /57	土師器 壺	高(9.0) 底53 胴部1/2	石英、軽石、 粗粒、黒粒、 白粒、角閃石/ 酸化/黄褐色	南東隅 /+6.5～ 36.0	半球形。底は平ら。内面風化顕著。底・胴部に横から斜めへら削り。 底部に被熱によるススが付着。
9	101/111 /57	土師器 壺	高(3.5) 底90 底部のみ	石英、粗粒、 黒粒、白粒、 角閃石/酸化/ 淡黄	竈突口 /+37.0	底は高台状に突出。胴部下平から底部周辺斜めから横へら削り。 内面へらナダ。
10	101/111 /57	須恵器 壺	高(1.4) つ まみは1/2定	白粒/還元/灰	埋没土	上製。取り付け後、周辺ナダ。つまみの中央部僅かに凸起している。 ロタ口成形。天井との接合部に横ナダ。つまみ部分自然釉が付着。
11	101/111 /57	土師器 壺	高(8.7) 底 75 底部～ 胴部中位	雲母、石英、 粗粒、黒粒、 白粒/酸化/ 淡黄	北東隅 /+19.5～ 30.5	平底。胴部下平縁く内響しながら開く。厚手で、特製。胴部下 平縁から斜めへら削り。底部縁から斜めへら削り。外面被熱による 黒片。
12	102/112 /57	土師器 壺	口(160) 高(14.9) 胴部1/4	石英、粗粒、 黒粒、白粒、 角閃石/酸化/ 灰黄褐色	竈燃焼部 /+42.5～ 46.0	最大幅胴部中位。口縁外反しながら緩く開き、端部丸い。胴部外 面縦へら削り。口縁内外面横ナダ。胴部内面横へらナダ。胴部外 面ススが付着。
13	102/112 /57	土師器 壺	口(15.8) 高 (9.7) 口縁 ～胴部上半 1/4	雲母、石英、 粗粒、黒粒、 白粒、角閃石/ 酸化/ふい 黄褐色	南西隅 /+31.5	最大幅胴部上半から中位。口縁短く、直線的に立ち上がった後、 緩く外反して開く。胴部外面縦へら削り。口縁内外面横ナダ。

55号住居

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	107/116 /58	土師器 坏	口122 高5.0 ほぼ定形	粗粒、黒粒、 白粒、角閃石/ 酸化/灰褐色	竈北袖脇 /+8～9.5	坏壺復元後。底丸みを持ち、口縁緩く外反して開く。口縁端部僅 かに内響。底部へら削り。口縁から内面横ナダ。口縁内面横ナダ 後に放射状の磨き。外面ススが付着。6世紀中葉
2	107/116 /58	土師器 坏	口124 高4.4 底9.6 ほぼ定形	粗粒、黒粒、 白粒、角閃石/ 酸化/赤褐色	南東隅/野 竈穴内	坏壺復元後。底丸みを持ち、口縁緩く外反しながら開く。底部と 口縁間に割い縁。底部へら削り。口縁から内面横ナダ。口縁内面 横ナダ後に磨き。口縁内面右回り放射状の磨き。底部にススが付 着。6世紀中葉
3	106/115 /58	土師器 坏	口90 高4.4 ほぼ定形	石英、粗粒、 黒粒、白粒、 角閃石/酸化/ 橙	竈燃焼部 /+17.5	坏壺復元後。底丸みを持ち中央付近等に突出。底部・体部器内 に厚みを持ち上製。口縁と体部の境に割い縁。口縁直線的に真っ 直ぐ開く。底部・体部へら削り。口縁から内面横ナダ。石英の塵 を多く含む。風化が進行する。6世紀前半～中葉
4	107/116 /58	土師器 坏	口(120) 高 5.1 1/4	石英、軽石、 赤粒、角閃石/ 酸化/橙	竈南袖脇 (竈外) /床直	深めの丸底で、厚手。口縁直線的にやや外傾し、端部内面明瞭な 面をもつ。口縁と底明瞭な境により区分される。底部へら削り。 口縁横ナダ。内面底部横ナダ。6世紀中葉
5	107/116 /58	土師器 鉢	口(13.2) 高 (4.7) 1/4	軽石、赤粒、 角閃石/酸化/ 赤褐色	埋没土	底部から緩く屈曲し、口縁直線的に外方へ開く。丸底で深い。底 部窪みへら削り。口縁との間は無調整。口縁横ナダ。内面底部ナ ダ。胎土に赤色粒子を多量に含む。6世紀中葉
6	106/115 /58	土師器 坏	口121 高4.5 ～4.7 ほぼ定形	石英、軽石、 角閃石/酸化/ 橙	中央 /+14.5	口縁強く外反。深い丸底。口縁と底部の境は明瞭な境。口縁直 線的。底部外周丁寧なへら削り。口縁横ナダ。内面ナダ。6世紀中葉
7	106/115 /58	土師器 坏	口93 高3.9 ほぼ定形	軽石、赤粒、 角閃石/酸化/ 赤褐色	南東隅 /野竈穴内	小型品。厚手。口縁と底部の境に割い縁。深い丸底。内面底部中心部 大きく凹む。口縁強く外反して開く。底部外面へら削り。口縁横 ナダ。底部内面割離線著。内外面とも黒染。6世紀前半～中葉
8	107/116 /59	土師器 高坏	口13.6 高 12.3～12.7 底11.0 ほぼ 定形	軽石、赤粒、 角閃石/酸化/ 赤褐色	カマド燃 焼部(支脚) /床直	坏底部から口縁へ屈曲し、強く外反して開く。脚部長く円柱状、 裾部で大きく外反して開く。裾部横ナダ。脚部外周上半大雑把な ミガキ。下半細狭の細いヘラミガキ。坏底部から坏部と脚部の 境付近はナダ。口縁横ナダ。口縁内面部分的に暗文。6世紀中葉
9	107/116	土師器 壺	口(18.0) 高 (6.8) 口縁 1/4	粗粒、黒粒、 白粒、角閃石/ 酸化/橙	北壁/+38	口縁の小さい反響。胴部最大幅は残存部位が少ない為不明。口縁 斜め上方に外傾して開き、端部で外反。胴部上半は縦へら削り。 胴部内面横へらナダ。口縁内外面横ナダ。6世紀前半

第6章 遺物観察表

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
10	107/116 /59	土師器 高坏	□190 高134 底 (108) 坏部 2/3, 脚部1/2	粗粒、黒粒、 白粒/酸化/橙	中央/竈突 口前・南袖 脇・北袖脇 /+3-29.5	脚部中空円錐状で裾部横に開く。坏部厚手で、体部と口縁境に横。口縁縁く外反しながら大きく開く。脚部外面へう割り後に横ナデ。内面へうナデ。坏部強い横ナデ。6世紀中葉
11	107/116 /59	土師器 甕	高(113) 脚 部4/5	石英、粗粒、 黒粒、赤粒 /酸化/橙	竈北袖・突 口・燃焼部 /+8-28.5	胴部球状に膨らむ。外面横へう割り。内面細かいうへうナデ。内面粘土縁接合痕残る。6世紀中葉
12	108/117 /59	土師器 甕	□142 高 197 底6.0 ほぼ定形	石英、粗粒、 黒粒、白粒 /酸化/橙	竈南袖脇 /南東隅 /床直/貯蔵 穴内	最大径は胴部中位。平底。口縁外反しながら開く。底部へう割り、底部胴部へう割り。胴部縦へう割り。内面横へうナデ。口縁横ナデ。底被熱で赤色化。胴部下半部にスガが付着。6世紀前葉～中葉
13	108/117 /59	土師器 甕	□220 高 280 底10.2 ほぼ定形	石英、粗粒、 黒粒、白粒、 角閃石/酸化/ 灰黄	竈南袖脇 (竈外) /床直	最大径胴部中位から上半。口縁縁く外反しながら開く。胴部外面丁寧な横へう割り。内面横ナデ。口縁内外面横ナデ。胴部外面広範囲でスガが付着。6世紀中葉
14	108/117 /59	土師器 甕	□166 高 27.6 底7.7 ほぼ定形	石英、粗粒、 黒粒、白粒、 角閃石/酸化/ 橙	竈突口前・ 突口・南袖 /+3-23	平底。最大径胴部中位。厚手。口縁直立した後、肩部で縁く外反。底部へう割り。胴部下半横、中位縦、上半斜めもしくは横へう割り。胴部内面横ナデ。口縁横ナデ。内面横へうナデ。底被熱で赤色化。6世紀前葉～中葉
15	108/117 /59	土師器 甕	□208 高 32.2 底5.5 (4)ほぼ定形	石英、粗粒、 黒粒、白粒、 角閃石/酸化/ 赤褐	竈北袖・突 口・燃焼部 (構築材) /+4-23	平底。最大径胴部中位。口縁縁く外反しながら開く。底部へう割り。胴部下半斜、中位縦、上位横へう割り。口縁横ナデ。胴部内面横へうナデ。底部下半被熱により赤色化。6世紀中葉

56号住居

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	115/121 /60	土師器 甕	□182 高 338 底(4.8) 口縁～胴部は ほぼ定	石英、粗粒、 黒粒、白粒 /酸化/浅黄	竈突口・突 口前/床直 ～+9	平底。最大径胴部中位。口縁縁く外反しながら開く。底部・胴部外面へう割り。胴部のへう割りは上半から中位縦、下半斜めから横に施される。口縁横ナデ。胴部内面へうナデ。6世紀中葉
2	115/121 /60	土師器 甕	□133 高 29.7 底9.3 完	石英、黒粒、 白粒/酸化/橙	中央南東寄 り/床直～ +10.5 Pn4 内	口縁斜め上方に直線的に開く。胴部直線的。底孔は面取。胴部上位が口縁、下半が底部の縦へう割り。胴部内面へうナデ。6世紀中葉
3	115/121 /60	土師器 甕	□207 高 (16.7-17.0) 胴部下半欠損 以外ほぼ定形	石英、白粒、 赤粒、角閃石 /酸化/白い 黄橙	竈南袖・南 袖前(構築 材)/+3-9	胴部球形で厚手。口縁縁く外反。胴部外上位から中位に縦後、下位で横へう割り。口縁横ナデ。胴部内面細かいうへうナデ。内面粘土縁痕が多数残る。6世紀中葉
4	115/121 /60	土師器 高坏	□104 高 11.0 底8.2 完	粗粒、黒粒、 白粒、角閃石 /酸化/明赤褐	竈燃焼部 (支脚) /床直	小振りの高坏。脚短く、唇は外反しながら開く。坏体部深く、口縁との境に弱い横。口縁外反しながら上方に開く。脚部中位から坏体部へう割り。脚部内面上半へう割り。脚部外面と口縁外面から坏内面横ナデ。カマド支脚。No.6の坏と重なって出土。
5	115/121 /60	土師器 坏	□109 高5.5 完	石英、粗粒、 黒粒、白粒、 角閃石/酸化/ 明褐	竈燃焼部 /+5	丸底で体部と口縁の境に弱い横。口縁縁く外反しながら上方に開く。底部・体部外面へう割り。口縁外面から内面横ナデ。口縁端部内面が面取りされ断面三角形となる。高坏と重なった状態で、5号住居カマド支脚として出土。底部中央が被熱により黒変。6世紀前葉～中葉

1号住居

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	119/124 /61	須恵器 蓋	□174 高21 2/3	粗粒物、粗粒 /還元・硬質 /灰黄褐	南東隅 /床直	柄みは付かない。内面かえり付かず、端部が折り返し。偏平口クロ成形。天井頂部回転軸切り後、周辺を右回転へう割り。天井端部、内面横ナデ。8世紀後葉
2	119/124	土師器 甕	□(260) 高 (5.3) 破片	粗粒物、粗粒 /酸化/明赤褐	埋没土	胴部内横したのち縁く外反しながら開く。口縁縁く外反。肩部肥厚。口縁を横ナデ。胴部上半を横にへう割り。8世紀後葉

2号住居

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	122/126	土師器 坏	口(13.0) 高 (23) 破片 全体の1/4	粗砂、角閃石、 雲母/酸化 /明焼	埋没土	器高低く、重製。底部・体部へラ削り、口縁、内面全体横ナデ。外面の磨耗顕著。8世紀中葉
2	122/126	土師器 坏	口(13.0) 高 (29) 破片 全体の1/4	粗砂、角閃石 /酸化/橙	埋没土	器高低く、重製。底部・体部へラ削り、口縁、内面全体横ナデ。外面の磨耗顕著。8世紀中葉
3	122/126 /61	須恵器 壺	口(12.8) 横み 径4.8 高4.1 天井1/3口縁 1/2	粗砂/還元・硬 質/灰	西壁部 /+19.0	偏平な天井頂部に中央の凹むボタン状構み。天井には断面三角形の後、口縁との接点は後。口縁直線的に開き、内傾。肩部平坦。天井ロクロ左回転。天井外面左回転へラ削り。天井を後、縁・横みを彫付。口縁・内面全体横ナデ。有蓋短頸壺(上野型短頸壺)の蓋。8世紀中葉
4	122/126	土師器 壺	口(18.8) 破 片	粗砂、灰物粒 多量/酸化/焼	竈突口前 /+9.5	口縁緩く外傾して開く。胴部のへラ削り上半斜、中から下半縦。口縁外面から内面横ナデ。8世紀前葉～中葉
5	122/126	須恵器 壺	横み径4.0 破片	粗砂/還元・精 製/灰	南西隅 /+5.5	中央の凹むボタン状構み。ロクロ成形。8世紀中葉

3号住居

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	127/129 /62	土師器 坏	口(14.0) 高3.5 底部 1/5、口縁1/3	粗砂/酸化 /明焼	埋没土	器高低く、歪む。口縁斜め上方に開き、肩部丸い。底部、体部をへラ削り。口縁外面、内面全体横ナデ。口縁内面の一部に傷が付着。外面全体は磨耗顕著。8世紀

4号住居

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	131/131 /63	須恵器 高台付埴	口(15.2) 高 5.3 底(7.2) 1/2	粗砂、灰物粒 多量/酸化/橙	竈北袖 /+3.5	口縁斜め上方に緩く開き、肩部強く外反。高台複雑なつくりで潰れたようロクロ左回転。回転糸切り。体部調整は施されず、口縁外面から内面横ナデ。内外面磨耗顕著。9世紀後葉
2	131/131	土師器 壺	口(19.8) 高 (39) 破片	粗砂、石英、 角閃石/酸化 /橙	埋没土	口縁中位で強く屈曲し、外傾して開く。断面コ字状。口縁下半を横ナデ後、上半を横ナデ。口縁肩部には丁寧に横ナデを施し、外面で面取り。9世紀後葉
3	131/131 /63	須恵器 坏	口12.2 高4.1 底6.0 口縁 1/2、底部2/3	粗砂/酸化 /浅黄橙	南西隅 /+11.0	口縁斜め上方に開き、肩部丸い。ロクロ成形。外面の調整不明瞭。外面一部へラ削り。底部回転糸切り痕を撫でて消す。内面広範囲にわたって漆が付着。9世紀後葉
4	131/131	土師器 壺	高(9.3) 底 5.0 胴部下 半1/4、底部 3/4	粗砂、角閃石、 赤鉄物粒 /酸化/橙	竈燃焼部 /+16.7	薄手で、底部径小さい。胴部下縦へラ削り。胴部内面粗雑なへラナデ。

5号住居

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	136/134	土師器 壺	口(9.1) 高 (7.2) 破片	粗砂、角閃石 /酸化/にぶい 黄橙	南東隅 /+22.9	口縁内傾した後、強く外反して開く。最大径胴部上半。口縁上半横ナデ後、下半横ナデ。口縁内面横ナデ。胴部上半横へラ削り、胴部内面横へラナデ。9世紀後葉
2	136/134	土師器 壺	口(20.4) 高 (11.3) 破片	粗砂、礫、 角閃石/酸化 /外面黒褐色 内面焼	中央 /+13.0	口縁胴部上半からはほぼ垂直に立ち上がった後、外傾。最大幅は胴部上半位置する。器内非常に薄い。口縁上半横ナデ後、下半横ナデ。肩部外面に面取り。胴部上半横へラ削り。9世紀後葉
3	136/134 /64	土師器 壺	口(22.0) 高 (19.2) 口縁 1/3、胴部上 半2/3	粗砂、角閃石 /酸化/明焼	中央～東壁 隅/+25～ 26.9	口縁胴部上半から直線的に立ちあがり、外反。コの字に近い形。最大径胴部上半。薄手。口縁内外面ともに丁寧に横ナデ。胴部上半横、胴部中・下半縦へラ削り。胴部内面横へラナデ。
4	136/134 /64	土師器 壺	口19.0 高 (16.9) 口縁 1/2、胴部1/3、 底部欠損	粗砂/酸化/橙	中央～東壁 隅/床直 ～+5.8	口縁直線的に開き、中位で強く屈曲し、外反しながら開く。口縁強い横ナデ。口縁外部外面取り。胴部上半横ナデ後、中・下半縦へラ削り。胴部内面横へラナデ。9世紀前葉～中葉

第6章 遺物観察表

6号住居

No.	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	140/137	須恵器 坏	口(140) 高(39) 底 (60) 1/3 底はぼ欠損	粗砂、角閃石、 燧/還元/灰白	北壁際 /+108	口縁斜め上方に緩く開き、端部で外反。器高狭く、底部径小さい。 ロクロ成形。底部回転承切り。体部下半横ナデ、上半~口縁では 外面はほぼ無調整。9世紀後葉
2	140/137 /65	須恵器 高台付埴	口(148) 高 5.3 底(68) 口縁1/2、 体部1/3	粗砂、石英 /酸化/浅黄	竜南袖 /床直	高台断面三角形で、僅かに外傾。接地面平らに面取。体部下半脚 らみが強く、口縁斜め上方に直線的に開く。口縁端部やや肥厚し、 外反。ロクロ成形。底部回転承切り後、高台取り付け。内面と、 高台接合部横ナデ。体部外面調整見られない。9世紀後葉
3	140/137 /65	須恵器 高台付埴	高(37) 底 (74) 口縁 半~高台部 1/2	粗砂、軽石、石 美/還元/灰	北壁際 /+218	口縁端部欠損する。高台低く、八字状に開く。ロクロ成形。底部 回転承切り後、高台を貼付。高台と底部の接合部周辺は丁寧な横 ナデ。9世紀後葉
4	140/137 /65	須恵器 高台付埴	底6.2 破片	粗砂/還元 /灰白	南東隅 /+230	高台直線的に下降し、断面の形状は三角形。ロクロ成形。底部回 転承切り後、高台を貼付。底部内面と高台との接合部に横ナデ。 9世紀後葉
5	140/137	須恵器 高台付埴	底(70) 高 (21) 破片	粗砂、軽石、 角閃石/還元 /灰	埋没土	底部・高台部破片。高台八字状に開く。ロクロ成形。底部回転承 切り後、高台を貼付。底部内面と高台接合部に、粗雑な横ナデ。
6	140/137	土師器 甕	口(163) 高 (72) 口縁 から胴部上位 1/6	粗砂/酸化/橙	南東隅、 埋没土 /+129	口縁緩く外反しながら開く。胴部上半が最大幅になる。口縁内外 面横ナデ。胴部上半横へラ削り。胴部内面横へラナデ。9世紀後 葉
7	140/137 /65	須恵器 壺	底110 底部・ 高台のみ存	粗砂/還元/灰	竜廻り方 /掘り方埋 没土	高台厚みを持ち、八字状に開く。接地面平らに整形され、内面施 された強いナデで、底部が凸状に突出。ロクロ右回転。底部回転 承切り後、高台を貼付接合部横ナデ。回転承切り後はナデで消さ れる。
8	140/137 /65	須恵器 壺	底10.2 底部・ 高台のみ存	粗砂、燧/還元 /灰	中央/掘り 方埋没土	高台厚みを持ち、八字状に開く。接地面平らに整形。ロクロ右回 転。底部回転承切り。切り離し後、高台貼付。底部との接合部に 横ナデ。
9	140/137 /65	土師器 甕	口(204) 高 (57) 口縁 1/2、胴・底 部欠損	粗砂/酸化 /明赤褐	龍燃焼部・ 煙道 /+132 ~230	口縁中位で強く屈曲し、外反。口縁内外面横ナデ。胴部上半横へ ラ削り。9世紀後葉
10	140/137	須恵器 甕	破片	粗砂、角閃石 /還元/外面黒 内面灰黄褐	埋没土	外面丁寧にナデ。内面同心円状当て目。外面自然釉がかかる。
11	140/137	須恵器 甕	破片	粗砂、軽石 /還元/外面黒 内面灰	龍燃焼部支 脚部 /+212 ~238	胴部中位破片。外面平行叩き目。内面粘土接合痕残る。
12	140/137	土師器 甕	口(212) 高 (66) 破片	粗砂、角閃石 /酸化/橙	龍焚口前 /中央 /+75 /床直	口縁僅かに内傾して開き、端部で強く屈曲。口の字に近い形。口 縁横ナデ。中位に未調整箇所あり、粘土経直線に残る。胴部上 半横へラ削り、内面横へラナデ。口縁内面隅状の圧痕が認められ る。9世紀後葉

30号住居

No.	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	238/202 /65	須恵器 高台付埴	口(150) 高 5.2 底6.7 口縁~体部 中位1/2、体部 下位~高台部 完	白粒、赤粒、 角閃石/還元 /灰白	南東隅 /床直~+6	体部内彎気味に開き、口縁僅かに外傾。器面粗。ロクロ右回転。 ロクロナデは弱め。底部回転承切り後、高台を付け、周辺部にナ デ。9世紀後葉
2	238/202	土師器 甕	口(200) 高 (90) 口縁 ~胴部上位 1/4	雲母、白粒、 赤粒/酸化/橙	南東隅 /床直~+3	薄手で非常に上製。口縁下半で直線的に開き、上半で強く外傾。 口縁下半部分に粘土経直が沈着状に明瞭に残る。口縁上、下半で 2回に分けて強い横ナデ。胴部外面横へラ削り。内面横状の工具 によるナデ。9世紀中葉

7号住居

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	144/141	土師器 杯	口(118) 高 (29) 破片	粗砂、雲母、 石英/酸化/橙	埋没土	口縁内彎気味に開き、体部より器内に厚い。器高低く、やや偏平、底部・体部へつ削り。口縁から内面横ナデ。8世紀前葉
2	144/141	土師器 杯	口(122) 高 (27) 破片	粗砂、角閃石 /酸化/橙	埋没土	口縁緩く内彎しながら開く。底部・体部へつ削り。口縁から内面横ナデ。26号住居の覆土一括遺物と接合。8世紀前葉
3	144/141 /66	土師器 杯	口122 高32 3/4	粗砂、石英、 角閃石/酸化 /外面にぶい 堀内面明赤褐色	甕敷地部 /掘り方埋 没土	器高低く、底偏平。口縁内彎気味に開き、薄でのつくり。底部外面へつ削り。口縁外面から底部内面、横ナデ。底部内面の横ナデが粗雑なためか、粘土継接合部による凹凸が目立つ。8世紀
4	144/141	土師器 杯	口(119) 高 (23) 破片	粗砂、角閃石 /酸化/橙	埋没土	底偏平で、口縁強く屈曲して斜め上方に開く。底部・体部へつ削り。口縁から内面横ナデ。8世紀
5	144/141 /66	土師器 杯	口(145) 高(32) 底 (8.0) 1/3	粗砂、雲母、 礫/酸化/橙	北壁際 /+3.3	平底、体部から口縁斜め上方に緩く開く。須恵器・杯に類似した形。底部・体部へつ削り後、横ナデ。8世紀前葉
6	144/141 /66	須恵器 高台付塊	口119 高19 底7.2 体部 1/3欠損	粗砂、黒鉱物 粒多量/還元 /灰	北西隅 /床直	器内非常に薄く、体部内彎気味に開き、口縁端部でわずかに肥厚。高台部薄く、外反しながらハ字状に開く。右回転ロクロ整形。底部回転へつ削り後、高台を貼付。体部・口縁内外面ともに丁寧な横ナデ。8世紀前葉
7	144/141 /66	須恵器 杯	口(110) 高 3.7 底6.0 1/2	粗砂/還元 /灰白	埋没土	体部下半部が強い。口縁斜め上方に緩く開く。ロクロ左回転。底部回転余切り。切り難し後、底部余切り直周面に粗雑な横ナデ。体部に敷置所、手持ちによるものと圧痕が認められる。8世紀中葉
8	144/141 /66	須恵器 杯	口(121) 高 3.4 底7.1 1/2、口縁1/3	粗砂、石英 /還元/灰	埋没土	口縁斜め上方に、直線的に開く。底部回転余切り後、底部の外周のみへつ削り。体部・口縁内外面横ナデ。胎土に大きめの載物粒(石英)が多量に含まれる。8世紀中葉
9	145/142 /66	須恵器 杯	口(132) 高 3.2 底(7.6) 1/3	粗砂、雲母、 角閃石/還元 /暗青灰	北西隅 /床直	体部・口縁斜め上方に直線的に開き、端部で僅かに内彎。底部回転へつ削り。切り難し後、底部の外周のみナデ。生産地は東毛太田金山窯8世紀前葉
10	145/142	須恵器 杯	口(119) 高(38) 底 (7.2) 破片	粗砂/還元 /灰白	南東隅 /+17.4	口縁緩く斜め上方に開く。ロクロ成形。横ナデ。口縁から端部、焼成時に黒色化。8世紀前葉
11	145/142	須恵器 杯	口(145) 高 (30) 破片	粗砂、石英 /還元/灰	南壁部 /+13.9	口縁斜め上方に、緩く立ち上がり、端部で僅かに外反。ロクロ成形。口縁内外面横ナデ。8世紀前葉
12	145/142	土師器 台付壺	口(139) 高 (8.5) 破片	粗砂、角閃石 /酸化/ぶい 堀	南東隅 /+3.2 -19.7	器内非常に薄く、最大径部上半。口縁緩く外反しながら開く。胴部上半横へつ削り、口縁から内面横ナデ。8世紀中葉
13	145/142 /66	須恵器 杯	口138 高40 底7.6 口縁 1/3欠損	粗砂、角閃石、 石英、礫/還元 /外面灰黄内 面黄	甕敷口前 /床直	厚手で上製。体部下半部が強く、口縁斜め上方に緩く開く。ロクロ整形。底部回転余切り後、右回転へつ削り。8世紀前葉
14	145/142	須恵器 杯	口(182) 高 (6.0) 破片	粗砂、石英、 礫/還元/灰	埋没土	体部薄く、下半部が強い。口縁斜め上方に直線的に開き、端部で僅かに外反。ロクロ整形。体部・口縁内外面横ナデ。8世紀前葉
15	145/142	土師器 台付壺	高(38) 底 (10.0) 破片	粗砂、雲母 /酸化/橙	中央南寄り /+19.9	台幅は緩く下降しながら端部で外反。台部横ナデ。底部との接合部周辺に、強いナデ。8世紀中葉
16	145/142 /66	石製品 管玉	最大長2.5 最大幅0.9 最大厚0.9 重量4.4	石材建質頁岩	中央/+5.0	整った円筒形、丁寧に仕上げられている。
17	145/142 /66	鉄製品 刀子か鎌	覆土から出土。 幅1cm、厚さ0.4cm。先端は幅0.5cm、厚さ0.4cm。			刀子または鎌の基部片と棒状品。存長5cm。方形の断面形。両端を欠くが、一端がやや幅広く

8号住居

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	150/145	土師器 杯	口(128) 高 (3.1) 破片	粗砂、石英、 角閃石/酸化 /褐	甕北端前 /+15.5	粗製。口縁端部で内彎。底部・体部外面粗雑なへつ削り、口縁から内面全体横ナデ。8世紀

第6章 遺物観察表

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
2	150/145	須恵器 坏	口(119) 高(3.2) 底 (8.7) 破片	粗砂、石英 /還元/灰	北東壁際 /+9	口縁緩く内彎しながら、斜め上方に開く。肩部丸い。ロクロ成形。口縁端部横ナデ。1号溝と接合。8世紀中葉
3	150/145	土師器 坏	口(15.8) 高 (2.4) 破片	粗砂、角閃石、 雲母/酸化/橙	中央 /+29.5	唇高低く、偏平。口縁斜め上方に緩く屈曲しながら開く。肩部丸い。体部へ削り。体部・口縁内面丁寧な横ナデ。8世紀中葉
4	150/145	須恵器 坏	口(11.8) 高 (3.2) 破片	粗砂、礫/還元 /明褐	北西隅 /+23	口縁斜め上方に緩く開き、肩部僅かに外反。ロクロ成形。口縁端部横ナデ。8世紀中葉
5	150/145	土師器 甕	口(19.8) 高 (13.5) 破片	粗砂、角閃石 /酸化/橙	中央 /+11~13	最大径は胴部上半。薄く硬質。頸部で強く屈曲し、直線的に外傾して開く。口縁端薄くつくれる。胴部上半横、中~下半は縦へ削り。内面横または斜めヘラナデ。口縁内外面横ナデ。8世紀中葉
6	150/145	土師器 甕	口(19.8) 高 (12.4) 破片	粗砂、角閃石 /酸化/明赤褐	電北袖前 /北東壁際 /+3.7 /+19	最大径は胴部上半。口縁緩く外反しながら開き、く字状。頸部に粘土結核痕が残る。胴部上半外面横へ削り、内面横ヘラナデ。口縁内外面横ナデ。8世紀中葉

9号住居

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	154/147 /67	土師器 坏	口12.3 高3.2 底9.0 ほぼ完形	粗砂、石英、 角閃石/酸化 /橙	電北袖前 /+2	唇高低く、平底。口縁緩く開く。肩部丸い。底部へ削り。口縁から内面横ナデ。8世紀後葉
2	154/147 /67	土師器 坏	口12.3 高3.4 底8.2 ほぼ完形	粗砂、角閃石 /酸化/明褐	中央東寄り /+10	平底で厚手。口縁斜め上方に緩く開き、肩部丸い。底部へ削り。口縁から内面横ナデ。8世紀後葉
3	154/147 /67	土師器 坏	口(12.0) 高 (3.0) 底ほぼ 欠損。口縁1/2	粗砂、角閃石 /酸化/橙	埋設土	口縁斜め上方に緩く開き、肩部丸い。底部へ削り。口縁から内面横ナデ。8世紀後葉
4	154/147	土師器 甕	高(5.4) 底 4.2 破片	粗砂、角閃石 /酸化/橙	埋設土	器内非常に薄い。平底。底部へ削り。胴部下半縦へ削り。内面ナデ。残存する胴部だけが付着。

10号住居

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	158/150 /68	土師器 甕	口(19.2) 高 (25.5) 1/2	黒粒、白粒 /酸化/明赤褐	中央~電焚 口~横道 /床直 ~+17.7	胴部上半が膨らみ、底部に行くに従ってすぼむ形。口縁斜め上方に開き、肩部丸い。胴部下半縦、上半横が斜めに削り。頸部丁寧な横ナデ。
2	158/150 /68	土師器 甕	口(20.6) 高 (21.3) 胴部 1/2、口縁2/3	粗砂/酸化 /明赤褐	中央/+2	胴部最大径が上半くる。口縁内傾して立ち上がってから、強く外傾している。コの字状口縁。薄手。胴部上半は横方の、下半は縦へ削り。口縁強い横ナデ、胴部内面横ヘラナデ。9世紀前葉~中葉
3	158/150	土師器 甕	口(20.6) 高 (7.3) 破片	粗砂、角閃石 /酸化/赤褐	電南袖前 /+4.5	胴部上半部分が最大径になる。口縁緩く開き、肩部で外反。胴部と口縁境界が不明瞭。胴部上半横へ削り、内面横ヘラナデ。口縁横ナデ。8世紀後葉
4	158/150	土師器 甕	口(20.4) 破 片	粗砂/酸化 /明赤褐	電横道 /+3.5	口縁緩く開き、肩部で外反。胴部上半横へ削り、口縁内外面横ナデ。8世紀後葉
5	158/150 /68	土師器 甕	口20.0 高 (17.6) 1/3	雲母、角閃石 /酸化/橙	電横道 /+3.5	最大径は胴部上半。口縁胴部から直線的に開き、緩く外傾。胴部内彎。コの字状口縁。胴部上半横、中位以下には斜めへ削り。内面横が斜めヘラナデ。口縁横ナデ。8世紀後葉
6	158/150 /68	須恵器 甕	口(14.4) 高 2.9天弁(6.0) 破片	粗砂、軽石 /還元/灰	埋設土	天井頂部に狭みを持たず、回転糸切り痕が未調整で残る。口縁端部弱い折り返し。ロクロ成形。天井回転糸切り痕。口縁端部の横ナデ以外は、調整痕は見られない。軽石の礫が胎土に多く含まれる。8世紀後葉
7	158/150	須恵器 甕	破片	粗砂、礫、石英 /還元/灰	埋設土	腰部位は不明。外面平叩き目、内面同心円状の当て目残る。
8	158/150	土師器 甕	高(5.0) 底 4.4 底部、胴 部下半	粗砂、石英、 角閃石/酸化 /明赤褐	電焚口 /+5~7.5	薄手。胴部下半縦へ削り、底部へ削り。内面縦もしくは斜めヘラナデ。

11号住居

No.	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	161/151	須臾器 壺	破片	粗砂、軽石 /還元/暗灰	埋没土	壺内面同心円状の当て目残る。外面自然釉が付着。

12号住居

No.	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	165/155	土師器 環	□(122) 高 (3.0) 破片	粗砂/酸化/橙	掘り方埋没 土	口縁厚みを持ち、上唇。端部で外反。底部へう割り。口縁から内 面横ナデ。風化顕著。8世紀前期
2	165/155	土師器 環	□(158) 高 (3.8) 破片	粗砂/酸化/橙	掘り方埋没 土	口縁緩く開き、端部丸い。底部外面へう割り。口縁から内面横ナ デ。8世紀前期
3	165/155	須臾器 長瀬壺	破片	粗砂/還元/灰	埋没土	壺の肩部破片。外面カキ目文と、斜めに施された刺突文。ロクロ 成形。
4	165/155 /69	土師器 壺	□222 高 (21.1) 2/3	粗砂、角四石 /酸化/橙	竈焚口 /床直へ+7	胴部上半から中位の膨らみが強い。口縁強く外反し、くの字状。 胴部外面へう割り。下位は厚みが著しく不明瞭。内面調整不明。 口縁上下2段に分けて横ナデ。下位にへう圧痕残る。8世紀前期
5	165/155	土師器 壺	□(220) 高 (6.4) 破片	粗砂、角四石 /酸化/明赤褐	埋没土	口縁緩く開き、外反しながら開く。くの字状。端部丸い。胴部上 半横もしくは斜めへう割り。口縁内外面横ナデ。8世紀前期
6	165/155 /69	鉄製品 刀子か	覆土から出土。刀子の区部断片。存長5.3cm。最大幅1.7cm。厚さは0.4cmから0.3cmで、磨着の少ない部分 でわずかに刃状の部分が見られる。			

13号住居

No.	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	171/159 /70	土師器 環	□(137) 高 (3.5) 1/3	雲母、粗砂、 黒粒/酸化/橙	北壁際 /+28.6	体部から口縁へ丸みをもって開く。底部外面へう割り。口縁から 内面横ナデ。底部内面ナデ。口縁から体部粘土積痕。口縁と体部 の間は無調整。内面器面の剥離顕著。底黒変している。8世紀前 葉
2	171/159 /70	土師器 環	□(148) 高 2.9 口縁 1/2、体部4/5	石英、粗砂、 白粒、角四石 /酸化/橙	中央東寄り /+16.2	大型品。やや器高低い。口縁内彎気味に立ち上がり外傾。内面底 粘土粒による凹凸顕著。底部から体部へう割り。口縁から内面 や強めの横ナデ。8世紀前期
3	171/159 /70	土師器 環	□(127) 高 3.4 口縁 1/4、体部1/2	細砂、白粒、 赤粒、角四石 /酸化/橙	北東隅 /+31	底厚手。口縁内彎して直立気味に開く。底部から体部へう割り。 口縁から内面横ナデ。底部内面粘土粒痕あり。8世紀前期
4	171/159	土師器 環	□(138) 高 (2.5) 口縁 →体部上半 1/4	白粒、角四石 /酸化 /にぶい釉	埋没土	丸底。器内薄手。口縁端部ゆるく内彎。体部へう割り。口縁外面 から内面横ナデ。8世紀中葉
5	171/159 /70	土師器 環	□(140) 高 4.4 底(13.4) 1/3	雲母、軽石、 白粒/普通 /暗緑	埋没土	口縁外傾しながら開き、端部でやや丸みを帯びて外反。底部・体 部へう割り。口縁横ナデ。底部内面の一部が被熱により赤色化。 8世紀前期
6	171/159 /70	土師器 環	□116 高3.5 4/5	白粒、赤粒、 角四石/酸化 /橙	北壁際 /+27	底厚手。口縁やや外方へ開く。底部から体部へう割り。口縁横ナ デ。底部付近全面で黒変している。
7	171/159 /70	土師器 環	□145 高40 口縁3/4、体部 4/5、底部完	石英、白粒、 角四石/酸化 /橙	中央→西隅 /+11.2 →22.3	大型品。口縁内彎気味に開き、端部丸い。底部・体部へう割り。 口縁と体部の境付近は無調整。口縁から内面強めの横ナデ。内面 のナデは丁寧。8世紀前期
8	171/159 /70	土師器 環	□(160) 高 (3.5) 口縁 1/8、体部→底 部1/5	石英、白粒、 角四石/酸化 /橙	中央 /+12.2	大型品。器高は低い。口縁内彎気味に開き、端部で強く外反。底 部・体部へう割り。口縁と体部の境付近は無調整。口縁から内面 横ナデ。8世紀中葉
9	171/159 /70	土師器 環	□(137) 高 3.8 口縁→ 体部1/3	雲母、軽石、 黒粒、角四石 /酸化/明赤褐	南東隅 /+6.8~6.9	口縁と体部ではっきり屈曲している。口縁内彎して開く。精製。 底部・体部へう割り。口縁から内面横ナデ。8世紀中葉
10	171/159	土師器 環	□(132) 高 (2.6) 口縁 1/4、体→底部 1/6	石英、軽石、 角四石/酸化 /にぶい釉	埋没土	器高低く扁平。口縁僅かに外傾して直線的に開き、端部で外反。 底部へう割り。口縁と体部の境は無調整。口縁横ナデ。底部外側 部分的に黒変している。8世紀中葉

第6章 遺物観察表

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
11	171/159 /70	土師器 坏	□(130) 高39 □縁 1/4, 体~底部 1/2	雲母、白粒、 角閃石/酸化 /にぶい赤褐	南隅 /+228	中型品。丸底。口縁直立して開く。底部・体部へう削り。口縁と 体部の境付近にへう工具によるナデ痕。粗し、雑で不定。内面の ナデは丁寧。8世紀前半
12	171/159 /70	土師器 坏	□(154) 高41 □縁 1/4, 体~底部 1/2	白粒、角閃石 /酸化/橙	中央/+74	大型品。薄手。口縁と体部の境で内側へ凹み、口縁傾斜め上方 へ開く。底部・体部へう削り。口縁と体部の境は無調整。口縁か ら内面強めの横ナデ。内面のナデは丁寧。8世紀中葉
13	171/159 /70	土師器 坏	□(134) 高 (31) □縁 僅か、体~底部 1/5	白粒、角閃石 /酸化/橙	埋没土	器高はやや低く、丸底。口縁端部内彎して内側に肥厚。底部・体 部へう削り。口縁と体部の境は無調整。口縁から内面横ナデ。8 世紀前半
14	171/159 /70	土師器 坏	□135 高39 完形	雲母、石英、 細砂、白粒、 角閃石/酸化/橙	南東壁際 /+32	丸底。口縁底部から鋭く屈曲し、直立して開く。上製。底部・体 部丁寧なへう削り。口縁から内面横ナデ。口縁強めのナデ。内面 丁寧なナデ。8世紀前半
15	171/159 /70	土師器 坏	□116 高28 底83 □縁 1/2、底部 4/5	石英、白粒、 角閃石/酸化 /橙	埋没土	底厚みがあり凹凸顕著。平底。口縁やや内彎して開く。底部・体 部へう削り。口縁横ナデ。内面口縁から体部縦文が走る。8世紀 中葉
16	171/159 /71	土師器 坏	□(123) 高 35 □縁 僅か、体~底部 1/4	白粒、角閃石 /酸化/橙	南隅 /+211	底部に穿孔か。口縁僅かに外反。底部・体部やや幅広く雑なへう 削り。口縁から内面横ナデ。内面穿孔部付近に縦状の跡み。8世 紀中葉
17	171/159 /70	土師器 壺	□(235) 高 (113) □縁 1/3, 胴部上位 1/3	細砂、白粒、 赤粒、角閃石 /酸化/橙	竈突口・南 袖前 /+25~28	胴部薄手。口縁強く屈曲して外反。精製。胴部強いへう削りで器 面に凹凸。口縁横ナデ。粘土粒痕が明瞭に残る。口縁端部強いナ デでむ。胴部内面へうナデ。8世紀中葉
18	171/159	須恵器 短頸壺	□(127) 高 (51) 胴部 上位1/8	軽石、白粒、 /還元/灰	埋没土	口縁短く直立し、端部で外側に肥厚。ロクロナデは強い。器面の 凹凸顕著。内外面とも胴部に粘土粒痕。特に内面その部分でヒビ 割れている。8世紀中葉
19	171/159	須恵器 坏	高(14) 底67 底部 1/2, 体部下位 1/2	細砂、白粒 /還元/灰白	中央 /+119	ロクロ右回転。底部回転へう切り。8世紀中葉
20	172/160 /70	土師器 坏	□184 高66 142完形	雲母、白粒子、 黒粒子/普通 /明赤褐	南東隅 ~南壁 /+15 ~274	薄手で、硬質。形態は丸みを帯び、銅鏡模倣型。口縁内彎しながら 上方に開く。器内に厚み。端部丸い。底部・体部へう削り。8世 紀前半~中葉
21	172/160	須恵器 壺	破片	黒粒、白粒 /還元/灰	西壁 /+729	外面叩き後リケシ。内面同心円状の当て目が明瞭。
22	172/160	須恵器 壺	破片	石英、軽石、 白粒/還元/灰	北西隅 /+287	外面格子目叩き目。内面同心円状当て目。
23	172/160 /71	石製品 紡錘車	最大長43 最大幅44 最大厚1.1 重量35.5	石材滑石	南東隅 /床直	扁平。上面の円孔周辺がわずかに突出。
24	172/160 /71	石製品 砥石	最大長41 最大幅35 最大厚2.3 重量44.2	石材砥沢石	埋没土	上部に円孔があげられる。携帯用のものか。
25	172/160 /71	鉄製品 刀子	住居中央部やや南よりで、床面からやや浮いた状態で出土。刀子区部の断片。存長7.3cm、刃部の存長28cm。身幅1.3cm、棟の厚さ1.4cm。凹区で茎の幅は0.8cmから存端部で0.5cmへせばまる。			
14号住居						
No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	177/163 /72	土師器 坏	□(120) 高31 □縁 1/4, 体~底部 1/3	白粒、角閃石 /酸化 /にぶい黄褐	竈北袖前 /床直	器高低く扁平。底部付近は薄手。体部から底部に粘土粒による器 面の凹凸。口縁弱く内彎。やや雑なつくり。口縁と底部の間は無 調整。口縁外面粘土粒痕。8世紀後半

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
2	177/163 /72	土師器 環	口(14.3) 高4.2 口縁 2/3, 体~底部 3/4	雲母、石英、 角閃石/酸化 /橙	埋没土	大型品。底歪。粘土粒の凹凸残る。口縁と体部、体部と底部との 屈曲は明瞭。口縁端部内彎。ヘラ削りは体部と底部で別々に削っ ている。口縁から内面横ナデ。8世紀後葉
3	177/163	土師器 環	口(12.1) 高 (2.7) 口縁 ~底部 1/4	雲母、白粒、 角閃石/酸化 /橙	北東壁部 /+2	器高低く扁平。丸底。口縁から体部への屈曲が明瞭。口縁内彎し て開く。内面面取り。薄手。底部ヘラ削り。体部粗粒。口縁から 内面横ナデ。8世紀後葉
4	177/163	土師器 環	口(10.8) 高 (3.1) 口縁 ~体部1/4	石英、白粒 /酸化/橙	竜北袖前 /+26.5	口縁端部内彎気味。外面で面取り。口縁と底部の間は無調整。口 縁から体部へ明瞭に屈曲し、内彎して開く。8世紀後葉
5	177/163	須恵器 環	口(11.8) 高 3.5 底(6.8) 口縁~底部 1/4	軽石、黒粒、 白粒/還元/灰 1/4	南東隅 /+20.5	回転ヘラ削りの影響で底部中央に凸凹。口縁内彎気味に開き、端 部丸い。体部内面粘土粒痕が部分的に残る。ロクロ右回転。底部 回転ヘラ削り。体部内外面無調整。口縁横ナデ。8世紀後葉
6	177/163	須恵器 環	口(11.8) 高 (3.4) 口縁 ~体部1/4	黒粒、白粒 /還元/灰	埋没土	平底。口縁直線的に開く。ロクロ右回転。口縁横ナデ。8世紀後 葉
7	177/163	須恵器 長頸壺 (小型)	口(9.7) 高 (1.9) 口縁 1/4	白粒/還元/灰	埋没土	口縁強く屈曲してラッパ状に開く。端部内側が凹む。精製。ロク ロ成形。口縁に丁寧なナデ。外面前面自然釉がかかっている。
8	177/163	須恵器 壺	破片	黒粒、白粒 /還元/灰	竜南袖前 /+6.5	外面ナデ。内面同心円状の当て目が明瞭に残る。外面自然釉。
9	177/163	土師器 甌	口(24.0) 高 (5.8) 口縁 ~上部 1/6	雲母、軽石、 粗粒、赤粒 /酸化/橙	中央北寄り /+12	胴部粘土粒による器面の凹凸が明瞭。厚手。口縁短く、強く屈曲 して外反。口縁を横ナデ後、胴部強いヘラ削り。口縁端部面取り。 胴部内面横幅広いナデ後、不定の縦細いナデを所々に施す。粘土 粒痕部分は沈着態になっている。8世紀中葉~後葉

16号住居

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	183/166 /73	土師器 壺	口19.6 高 27.3 底4.4 底部2/3, 胴部 3/4, 頸~口縁 ほぼ完	細砂、黒粒、 白粒、角閃石 /酸化 /にぶい黄橙	中央/竜燃 焼部・焚口 /南東壁部 /床直 ~+14	胴部上半が膨らみ、底部に行くに従ってすぼまる。薄手。口縁横 く立ち上がり、端部で強く外反。胴部ヘラ削り。上半横から斜め、 下半斜めから縦。口縁から内面全体横ナデ。8世紀後葉
2	183/166 /73	土師器 壺	口22.0 高 (18.0) 口縁 3/4, 胴部上~ 中位1/2	雲母、白粒、 角閃石/酸化 /褐	竜燃焼部・ 焚口 /+4.5~9.3	薄手。口縁外反して開き、端部で内彎。胴部丁寧なヘラ削り。上 位は横反、中位は斜めから縦。口縁横ナデ。胴部内面指痕による ナデ成形後、工具ナデ。指痕顕著。内面粘土粒により器面に凸 凹。8世紀後葉
3	183/166	土師器 環	口(13.0) 高 (2.9) 口縁 ~体部上半 1/6	石英、白粒、 角閃石/酸化 /褐	埋没土	底浅く扁平。口縁体部より屈曲して直線的に開き、端部で僅かに 外反。底部やや強くなへ削り。口縁から内面横ナデ。内面口縁と 底部の境付近指痕による凹凸。8世紀後葉
4	183/166	土師器 壺	高(6.8) 底 4.4 底部完、 胴部下位1/2	白粒、角閃石 /酸化/明赤褐	竜燃焼部・ 焚口/南東 壁/+25 ~14.5	薄手。底部ヘラ削り。但し、剥離して置いて器面残り僅か。胴部外 面一息に削る。内面やや雑なナデ。工具痕が多くある。

17号住居

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	188/170 /74	土師器 環	口(14.6) 高 3.1 1/4	雲母、細砂、 黒粒、角閃石 /酸化/明赤褐	埋没土	扁平。口縁直線的に開き、端部でやや内彎気味になる。底部・体 部手持ちヘラ削り。8世紀中葉
2	188/170	土師器 環	口(11.2) 高 (3.0) 1/3	原粒、白粒 /酸化/橙	埋没土	口縁短く、直線的に開き、端部丸みをもつ。底部・体部ヘラ削り。 外面磨耗が進行する。8世紀中葉
3	188/170 /74	土師器 環	口(13.0) 高 (3.8) 1/2	雲母、黒粒、 白粒、角閃石 /酸化/明赤褐	竜北袖前 /床直	丸底になる。体部斜め上方に開き、口縁短く内彎。底部外面ヘラ 削り。口縁から内面横ナデ。磨耗顕著。8世紀前葉
4	188/170 /74	土師器 環	口(12.0) 高 3.3 1/2	粗粒、黒粒、 白粒、角閃石 /酸化 /にぶい黄橙	埋没土	口縁横く開き、やや内彎気味で端部丸い。底部・体部ヘラ削り。 内外面とも磨耗顕著。8世紀中葉

第6章 遺物観察表

No.	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
5	188/170 /74	土師器 坏	□(122) 高 3.8 3/4	粗粒、黒粒、 白粒、角閃石 /酸化/明褐	埋没土	口縁斜め上方に開き、端部丸みをもつ。底部・体部へう割り。口縁から内面横ナデ。外面の磨耗が目立つ。一部に被熱による赤色化。8世紀前半
6	188/170	土師器 坏	□(148) 高 (4.1) 1/4	雲母、細砂、 黒粒、角閃石 /酸化/明赤褐	庵北袖 /+4.7	器高低く、上製。稜明瞭。口縁斜め上方にやや外反しながら開き、端部丸みをもつ。底部・体部へう割り。口縁から内面横ナデ。底部・体部磨耗が進む。8世紀前半
7	188/170	土師器 坏	□(124) 高 (3.2) 破片	黒粒、白粒、 角閃石/酸化 /着痕	埋没土	口縁短く、外反しながら開く。底部・体部へう割り。口縁から内面横ナデ推す。外面磨耗が進行する。8世紀中葉
8	188/170	土師器 坏	□(160) 高 (2.8) 破片	雲母、細砂、 黒粒、白粒 /酸化	埋没土	器高低い。口縁斜め上方に開く。へう割り。圧痕。8世紀中葉
9	188/170 /74	土師器 坏	□126 高3.6 ほぼ方形	雲母、細砂、 黒粒、白粒、 角閃石/酸化 /明赤褐	庵懸焼部・ 狭口・北袖 /東壁溝内 /+8.5 ~25.5	底偏平に近い。口縁直線的に開き、端部で内彎。底部・体部へう割り。口縁から内面横ナデ。外面磨耗が進行する。8世紀中葉
10	188/170	土師器 坏	□(184) 高 (3.6) 破片	雲母、粗粒、 黒粒、白粒、 角閃石/酸化 /明赤褐	埋没土	偏平。口縁斜め上方に開き、端部丸みをもつ。内彎気味。底部・体部へう割り。体部から口縁内面磨耗顕著。8世紀中葉
11	188/170	土師器 坏	□(180) 高 (4.4) 1/4	石英、細砂、 黒粒、白粒、 角閃石/酸化 /明赤褐	埋没土	口縁直線的に開き、端部丸みをもつ。底部・体部へう割り。口縁から内面横ナデ。外面と内面の上半著しく磨耗が進む。体部の一部に被熱による赤色化。8世紀前半
12	188/170	土師器 壺	□(220) 高 (6.3) 口縁 ~胴部上位 1/6	石英、白粒、 黒粒、角閃石 /酸化/明赤褐	埋没土	口縁強く外反し、大きくラッパ状に開く。口縁と胴部の境に明瞭な段。胴部外面やや大縁肥なへう割り。口縁強めの横ナデ。胴部内面ナデ。工具圧痕残る。8世紀前半
13	188/170 /74	土師器 壺	□(236) 高 (9.4) 口縁 1/2	細砂、黒粒、 白粒、角閃石 /酸化/明赤褐	東壁溝内	口縁くの字状、薄手で硬質。胴部上半横もしくは斜めへう割り。8世紀前半
14	188/170 /74	須恵器 蓋	□16.0 横み 径4.4 高2.9 完形	雲母、長石、 細砂、黒粒、 白粒/還元 /表面灰内面 灰白	南東壁際 /床直	天井頂部に小さな横み。偏平なつくりで端部を折り返し、強いナデで髷ができる。厚みをもち、上製。横み周辺の天井に左回転へう割り。端部から内面横ナデ。8世紀中葉~9世紀前半
15	188/170 /74	土師器 坏	□(194) 高6.3 口縁 1/2、体部2/3	細砂、黒粒、 白粒、角閃石 /酸化/橙	埋没土	丸底で大型。器内底部から中央付近は薄く、体部が最も厚い。体部から口縁強く開き、端部丸い。底部外面へう割り。口縁から内面横ナデ。歪みが底部から口縁にある。8世紀前半
16	188/170 /74	鉄製品 鎌	覆土からの出土。両端を欠損した板状鉄片だが、一端が薄く立ち上げられており、鎌の断片。存長5.2cm、幅2.8cmから2.3cm。横部の厚さ0.4cm。			

18号住居

No.	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	192/172 /74	須恵器 蓋	□14.6 横み 径2.6 高4.1 完形	石英/還元/灰	中央/床直	上製。口縁右回転。天井外面上位は右回転へう割り。横み取り付け後、周辺を横ナデ。端部内外面自然軸が付着する。8世紀後半
2	192/172 /74	須恵器 坏	□(148) 高 (3.1) 口縁 ~体部1/3、 底部1/4	白粒、赤粒 /還元/灰黄	埋没土	器高低く、平底。口縁直線的に大きく外傾し、端部でやや外反。底部切り離し後、回転へう割りにより調整。口縁付近焼成不十分。焼きムラあり。8世紀後半
3	192/172 /74	土師器 坏	□(132) 高 2.9 1/8	石英、白粒、 角閃石/酸化 /外面にふい 粉内面澄	庵覆没土	器高低く偏平。底やや厚みがあり、粘土紐による凹凸顕著。口縁底部から内彎し、直立して開く。底部縁なへう割り。口縁と体部の境は無調整。口縁から内面横ナデ。8世紀後半

19号住居

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	196/175 /75	土師器 環	□(119) 高 35 底(64) 1/4	白粒、角四石 /還元/灰	埋没土	口縁内彎して開き、端部に向かって直線的に外傾。体部内面粘土 坯痕が化炭状になって明瞭に残る。ロクロ右回転。底部丁寧な回 転へラ削り調整。ロクロナデは削め。8世紀中葉
2	196/175 /75	土師器 環	□(130) 高 (29) 口縁 ～体部1/2	石英、軽石、 角四石/酸化/ 橙	埋没土	口縁屈曲して開く。体部内面成形時の指押痕さえによる凹凸顯著。 粗製。底部へラ削り。口縁から内面横ナデ。口縁と体部の境は無 調整。8世紀中葉
3	196/175 /75	土師器 環	□127 高30 3/4	白粒、角四石 /酸化/橙	埋没土	器高低く扁平。口縁短く直立する。底部強いへラ削りにより器面 に凸凹。ケズリは幅広いの工具で雑。口縁と体部の境は無調整。口 縁横ナデは弱く、未調整部分との境が不明瞭。8世紀中葉
4	196/175 /75	土師器 甕	□208 1/2	細砂、黒粒、 白粒/還元/ 明焼	電北袖前 /直直 ～+7.7	器内湾いつくり。口縁くの字状。胴部上半横、斜めに、下半上下 にへラ削り。8世紀中葉

20号住居

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	201/178 /77	土師器 環	□(122) 高 (28) 口縁 1/3、体部1/4	雲母、白粒、 角四石/酸化/ 橙	覆板埋没土	器高低く扁平。口縁僅かに外傾して開く。口縁と体部との境の境 は明瞭。底部へラ削り。口縁と体部の境は無調整。口縁から内面 強めの横ナデ。9世紀前葉
2	201/178 /77	土師器 環	□(124) 高 (33) 口縁 1/4、体部1/4	白粒、角四石 /酸化/橙	埋没土	口縁から体部へ明瞭に屈曲。口縁強く外反して外方へ開く。底部 へラ削り。口縁上位を横ナデの後、内面を横ナデ時の指痕による 器面の凸凹。これにより上位の横ナデが部分的に消えている。9 世紀前葉～中葉?
3	201/178 /77	土師器 環	□121 高 (33) 口縁 1/2、体～底部 1/4	雲母、白粒、 角四石/酸化/ 橙	埋没土	扁平な丸底。口縁から体部への屈曲は明瞭。口縁内彎して外方へ 開き、端部で直立する。底部内面粘土坯による凹凸残る。底部粗 雑なへラ削り。口縁と体部の境は無調整。口縁から内面全体横ナ デ。9世紀前葉
4	201/178	土師器 環	□(117) 高 (31) 口縁 ～体部1/4	白粒、角四石 /酸化/橙	埋没土	扁平な平底。口縁から体部へ強く屈曲。口縁内彎して開く。底部 雑なへラ削り。口縁から内面横ナデ。口縁と体部の境は無調整。 9世紀前葉
5	201/178	土師器 鉢	□(237) 高(68) 口 縁1/10、体部 1/6、	雲母、石英、 白粒/還元/橙	埋没土	体部・口縁斜め上方に開く。口縁端部僅かに外反し、丸い。体部 やや幅広いの工具のよる粗いへラ削り。内面ナデにより器面滑らか。 8世紀前葉
6	201/178 /77	須恵器 甕	□(139) 高 4.1 高17 口縁～体部 1/4、 横み部 1/4	軽石、黒粒 /還元/灰	北東壁際 /+5	扁平な天井の中央に凹む環状の溝が付き、肩部折り返しとなり、 内面かえりは付かない。ロクロ右回転。天井外面上位で左回転の へラ削り。横み取り付け後、周部部をナデ。9世紀前葉
7	202/179 /77	須恵器 環	□122 高32 底8.1 口縁 ～体部1/2、 底部3/4	白粒/還元/灰	南西溝 /+3.5	口縁直線的に外傾して開く。端部丸くおさめる。底部回転へラ削 り後、周部の不定の雑な手持ちナデ。8世紀中葉
8	202/179 /77	須恵器 環	□122 高35 底(64) 口 縁1/2、 底部 1/3	石英/還元 /暗青灰	埋没土	口縁内彎味に開き、端部で肥厚して外反。ロクロ右回転。体部 下半強めのロクロナデ。器面の凹凸顯著。大粒の石英が多量に混 入。8世紀後葉
9	202/179 /77	須恵器 高台付埴	□(119) 高 5.0 底7.4 口縁1/3、体～ 高台部1/2	石英、黒粒、 白粒/還元/灰	電北袖前 /+6.5	付け高台。処理が雑。高台取り付け部分は明瞭に痕跡残る。沈積 が速る。口縁直線的に外傾して開く。ロクロナデは強く器面の凹 凸顯著。ロクロ左回転。底部回転承切り。9世紀前葉
10	202/179	須恵器 甕	□(164) 高 (67) 口縁 1/4、胴部上位 僅か	黒粒/還元 /暗青灰	埋没土17号 住居埋没土	上製品だが割離著しく、器面荒れる。口縁強く屈曲し、外反して 開く。ロクロナデ弱め。胴部内面当て目か、指痕僅。内外面とも 器面の割離顯著。外形襷は数ヶ所修復した。胎土は粗密。

第6章 遺物観察表

No	図/写真	器種	流量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
11	202/179	須恵器 壺	破片	白粒/還元 /青灰	掘り方埋没土	算盤珠形の胴部を持つ。胴部との境に強い稜。肩部上半はカキ目が一糸の沈線をはさみ、権堂工具による刺突文が走る。胴部下半自然釉が付着。8世紀後半
12	202/179	須恵器 壺	破片	雲母、白粒 /還元/灰	埋没土	胴部上半から頸部破片粘土層積み上げ。印き絡みの後、外面ナデ。内面当て目が明瞭。
13	202/179	土師器 壺	口(23.9) 高 (8.9) 口縁 1/3、胴部上位 僅か	雲母、白粒、 赤粒、角閃石 /酸化/橙	掘り方埋没土	口縁強く外反し、肩部僅かに内彎。内側で強い凹み。コ字状口縁。薄手。胴部強いヘリ削りで器面凸凹している。口縁内外面横ナデを2回に分けてなでる。胴部内面丁寧なナデ。8世紀後半
14	202/179 /77	土師器 台付壺	高(7.9) 胴 部下半1/3、台 部上位	石英、白粒、 角閃石/酸化 /橙	南壁 /+425	胴部丸い。やや薄手。胴部外面へう削りの後、台部と胴部の接合部周辺をナデ。台部取り付けは雑に仕上げている。内外面とも接合痕が明瞭に残る。内面工具ナデ。底部付近は細かくなデ。
15	202/179	土師器 台付壺	高(4.0) 底 9.9 台部上 半完、下半1/3	白粒、角閃石 /酸化/橙	埋没土	上製。脚台部強く外反し、裾へ向かって広がる。胴部と脚台部のつなぎ目横ナデ。
16	202/179 /77	土師器 壺	口(23.1) 高 (21.5) 口縁 2/3、胴部上～ 中位1/4	雲母、細砂、 白粒、角閃石 /酸化/外表面 内面明赤褐	竪掘り方埋 没土	薄手で丁寧なつくりの壺。胴部の器面粘土結による凹凸。口縁強く外反。コ字状口縁が崩れたものか。胴部丁寧なへう削り。上位は横ケズリの後、中位から下位で縦ケズリ。口縁の境は明瞭な段を持つ。口縁横ナデは強い。内面丁寧なナデ。所々に工具の正痕残る。胴部外面中位と内面中位付近が帯状に黒染している。8世紀後半
17	202/179 /77	石製品 砥石	最大長9.7 最大幅5.0 最大厚4.3 重量221.3	石材砥沢石	竪南壁前 /+40	長軸の両端部を欠損する。欠損部を除く全面を使用面とする。正面と向かって右側面が最も使用されており、右側面凹状に磨滅している。

21号住居

No	図/写真	器種	流量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	205/181 /78	須恵器 高台付壺	高(4.2) 底 6.1 口縁下 半一 高台部 1/4完	軽石、粗粒 /還元/灰白	北隅 /+205	厚手。高台粗製。ロクロ右回転。強いナデ。底部回転糸切り後、高台を付け、周辺部をナデ。口縁外面磨き「鏡」。9世紀後半
2	205/181 /78	須恵器 高台付壺	高(2.3) 底 5.2 体部下 半一高台部 1/2	白粒、赤粒、 角閃石/還元 /灰	埋没土	粗製。特に高台がゆがみ、肩部調整も粗。接合痕明瞭に残る。ロクロ不明。底部切り難し痕不明瞭。底部切り難し後、高台を付け、周辺部をナデ。9世紀後半
3	205/181 /78	須恵器 高台付壺	高(2.1) 底 6.0 体部下 位、高台部 3/4	白粒、角閃石 /還元/灰また は灰白	中央/床直	高台部断面三角形。高台取り付け部分は沈線状に痕跡が明瞭に残る。底部回転糸切り後、高台を付け、周辺部をナデ。9世紀後半
4	205/181	須恵器 高台付壺	口(13.7) 高 (4.6) 口縁 1/6、体部1/4、 底部1/6	軽石、白粒、 角閃石/還元 /黒	竪埋没土	口縁内彎して開き、肩部で肥厚し、強く外反。ロクロナデは強く、外面の後は明瞭。底部の切り難し痕は不明。高台を付け後、周辺部をナデ。9世紀後半
5	205/181	須恵器 高台付壺	口(11.9) 高 4.9 底(5.2) 口縁一 体部 中位1/8、体部 下位一 底1/4、 高台部僅か	雲母、片岩、 白粒/酸化 /にぶい黄橙	南東隅 /+75	高台部粗製。口縁直線的に外傾し、肩部で肥厚し強く外反。ロクロはやや強め。底部回転糸切り後、高台を付け、周辺部をナデ。内面黒色。9世紀後半
6	205/181 /78	須恵器 壺	高(3.9) 底 6.4 体部 中位1/4、体部 下位一 底部完	白粒、角閃石 /還元/灰白	中央～南東 隅 /+2～75	大型品。厚ぼったくて粗製。器面ガラガラ。口縁内彎して開く。ロクロ右回転。底部回転糸切り。9世紀後半

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
7	206/182 /78	土師器 甕	□(16.0) 高 (15.2) □線 一胴上位1/4、 胴中位僅か	白粒、赤粒、 角閃石/酸化 /ぶい貴燻	竈内焼部・ 北袖南 /+5~12	粗製。粘土結核部が内外面とも多い。胴張り弱い。口縁短く、 強く屈曲して、僅かに外反。肩部歪み顯著。胴部に幅広の横へ う削りの後、口縁横ナデ。一部ナデの後で削り。下位で縦ケズリ。 胴部内面へう工具痕が残る。9世紀後葉
8	206/182 /78	土師器 甕	□18.4 高 23.5 底4.5 ほぼ定形	石英、軽石、 粗粒、角閃石 /還元 /ぶい貴燻	北東隅/竈 内焼部 /+5~11.5	器面やや厚み。胴部やや上位で弱い張り。底小さめ。口縁短く、 強めに屈曲して直線的に外傾。胴部幅広の強いへう削り。下半後、 上半で削り。最上部の削りは非常に強く、器面の凹凸顯著。胴部 内面の調整はやや粗。底部の凹凸顯著。中位の粘土結核部、指 頭押さえた後、ナデ。胴部中位から底部ススが付き。一部口縁付 近も付着している。9世紀後葉
9	206/182 /78	須恵器 高台付埴 輪	□13.4 高5.2 ~5.6 底6.2 □線上半1/2、 □線下半~ 高台部定	白粒、赤粒、 角閃石/酸化 /ぶい貴燻	竈内焼部 /+11.5	高台部粗製。口縁内増しながら開き、端部で肥厚し外反。口縁歪 み。ロクロ成形。ロクロナデは強く、稜が明瞭。底部回転へう切 り後、高台を付け、周辺にナデ。体部内面刻書文字。「根」か。9 世紀後葉
10	206/182 /78	土師器 環	□12.7 高4.0 底6.5 □線 一上部上位 2/3、体部下半 ~底部定	粗粒、白粒、 赤粒、角閃石 /還元 /ぶい貴燻	中央+7.5	いびつ。体部外反気味に大きく外方へ開き、口縁で肥厚して内彎。 底部外周のみ幅広のへう削り。体部上半削りナデ。下半指ナデ。 口縁一内面強い横ナデ。底部内面ナデ。器面粘土結核による凹凸、 ヒビ割れ顯著。ゼラザラしている。9世紀後葉

22号住居

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	208/183	土師器 甕	□(22.0) 高 (6.5) □線 1/4	白粒、角閃石 /酸化/明赤燻	東隅/床直	口縁強く外反。端部内面で僅かに凹む。横ナデ後、胴部へう削り。 口縁外周不規則なへう痕が残る。口縁下半から胴部粘土状の付 着物が器表面付く。そのため調整はほとんど不明。

23号住居

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	211/184 /79	須恵器 高台付埴 輪	□(14.0) 高 5.3 底5.7 □線僅か、体 部下位~高台 部定	石英、白粒、 赤粒/酸化/燻		高台部断面三角形。粗製。口縁端部でやや肥厚し、強く外反。器 内やや厚手。粗製。外面のロクロナデも粗雑。ロクロ回転。底 部回転赤切り後、高台を付す。高台接合部と口縁内外面横ナデ。 9世紀後葉
2	211/184 /79	須恵器 高台付埴 輪	□(14.1) 高 5.1 底(5.6) 1/2	粗砂、白粒、 角閃石/還元 /灰	南壁際 /+14.6	ややいびつ。高台粗雑なつくりで歪む。口縁から体部上位ロクロ ナデによる痕が多い。口縁内増して開き、端部で肥厚して強く外 反。ロクロ成形。底部回転赤切り後、高台を付す。高台端部ナデ。 口縁横ナデ。9世紀後葉
3	211/184 /79	須恵器 環	□(12.3) 高 (3.9) 底 (6.0) □線 一上部上半 1/8、体部下位 ~底部1/2	石英、軽石、 角閃石/酸化 /浅黄		粗製。底厚手。口縁内彎気味に開き、端部で弱く外反。ロクロ成 形。底部回転赤切離し。ロクロナデは下位で強め。体部下半から 底全面が開い。胎土に粗粒を多く含む。9世紀後葉
4	212/185	須恵器 環	□(14.0) 高 (3.8) □線 一上部上半 1/4	石英、白粒、 角閃石/酸化 /ぶい貴燻	埋没土	厚手。口縁端部で肥厚。ロクロ成形。ロクロナデは強い。内面磨 減し、器表面が割離しているところが多い。9世紀後葉
5	212/185	須恵器 高台付埴 輪	高(2.1) 底 (6.2) 底~ 高台部1/3	白粒/還元/灰	埋没土	上製。焼成堅緻。高台部は薄く丁寧。ロクロ成形。底部外周切り 離した後、ナデ。9世紀中葉~後葉か
6	212/185	須恵器 高台付埴 輪	高(2.2) 底 6.9 体部下 半~高台部 3/4	軽石、赤粒 /酸化/浅黄	埋没土	粗製。厚手。高台の接合部に比喩状に痕跡あり。高台部ハ字状に 外傾し、接地面平らに整えられる。ロクロ成形。底部回転赤切り 後、高台を付す。高台接合部に横ナデ。9世紀後葉
7	212/185	須恵器環	□(12.8) 高 (3.7) 破片	赤粒、角閃石 /還元 /ぶい貴燻	埋没土	上製。口縁僅かに屈曲しながら外方へ開く。口縁から内面の横ナ デは強く痕跡が明瞭。体部手持らへう削り。口縁と体部の境は無 調整。口縁から体部の破片。体部外面磨減。9世紀後葉

第6章 遺物観察表

No	図/写真	器種	流量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
8	212/185	土師器 台付罍	高(25) 底 7.2 底部～ 台部上半完、 台部下半2/3	白粒、赤粒、 角閃石/酸化 /浅黄緑	埋没土	脚台部強く外反して広がる。上製。台部内外面を一息にナデる。9世紀後葉
9	212/185	土師器 罍	口(17.7) 高 (3.0) 口縁 1/6	白粒、赤粒、 角閃石/酸化 /橙	埋没土	口縁短く強く外反。コ字状口縁。胴部強いケズリで磨製工具による凸凹歪みが明瞭に残る。9世紀後葉

24号住居

No	図/写真	器種	流量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	215/187 /80	須恵器 高台付埴	口(13.7) 高 (5.1) 口縁 上位破片、口 縁中位～底部 1/3	軽石、角閃石 /還元/灰	甕壇道・焚 口前/床直 ～+55	ロクロナデ強く、後が明瞭に残る。口縁内彎気味に開き、端部で肥厚して強く外反。ロクロ成形。底部回転糸切り後、高台を付け、周辺部をナデ。但し高台欠損。口縁に横ナデ。口縁内面「石」と縁刻。軽石と角閃石を多量に含む。底部内面黒炭あり。9世紀後葉
2	215/187 /80	土師器 罍	口11.6 高 (12.5) 胴部 2/3	粗粒、黒粒、 白粒、角閃石 /還元 /にぶい黄緑	甕壇道・熱 焼部 /床直～95	胴部上半が膨らむ。口縁縁やかなくの字状に開き、端部丸い。胴部上半横から斜めへ削り。9世紀後葉
3	215/187 /80	土師器 坏	高(3.4) 底 4.5 口縁2/3、 底部完	白粒、赤粒、 角閃石/酸化 /にぶい黄緑		器内厚手、粗製。平底。表面粘土紋り痕跡著。底部調整は器面摩擦で不明。口縁下位のみへ削り。上位～中位は無調整。凸凹顕著。削り後ナデの部分もあり。口縁内面強い横ナデ。底部内面へ削りナデ。工具痕跡残る。9世紀後葉
4	215/187	須恵器 高台付埴	高(2.0) 底 (5.6) 体部下 半～高台部 1/3	雲母、石英、 軽石/還元 /灰白	中央/+13	高台断面方形で接地面平坦。ロクロ成形。ロクロナデは弱く外面では明確な縁は確認できない。底部回転糸切り後、高台を付け、周辺部を横ナデ。高台、端部も丁寧にナデ。9世紀後葉

25号住居

No	図/写真	器種	流量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	220/190 /81	須恵器 坏	口13.6 高4.5 底5.7 口縁 ～体部上半 3/4、体部下 半～底部完	石英、白粒、 角閃石/酸化 /明黄緑	甕焚口 /+47	上製。底部の厚手。口縁内彎して開き、端部で肥厚して外反。ロクロ左回転。底部回転糸切り。口縁内外面横ナデ。9世紀後葉～10世紀前葉
2	220/190 /81	須恵器 坏	口(12.3) 高 (3.8) 底 (6.6) 口縁 ～体部1/3、 底部1/8	石英/還元 /明黄緑	甕焚焼部・ 焚口/+11 ～11.6	口縁直線的に外傾し、端部で僅かに外反。9世紀後葉～10世紀前葉
3	220/190	灰釉陶器 坏	口(16.0) 高 (3.4) 口縁 ～体部中位 1/4	黒粒、白粒 /還元/灰白	埋没土	器内厚手。底部の形状は不明。口縁内彎して開き、端部僅かに肥厚して外反。ロクロ成形。一部を除き、内外面とも金面釉が付着している。9世紀後葉～10世紀前葉
4	220/190	須恵器 高台付埴	高(2.9) 底 (6.4) 体部下 位～底部ほぼ 完、高台部 1/3	白粒、赤粒、 角閃石/還元 /灰	南西壁 /+34.5	高台ハ字状に外傾。高台接合部分、体部側の接合面糸切り痕跡残る。ロクロ成形。底部回転糸切り後、高台を付け、周辺部をナデ。内面ナデが強。9世紀
5	220/190 /81	土師器 坏	口12.4 高3.6 ～4.0 底6.3	石英、白粒、 角閃石/酸化 /にぶい黄緑	甕北傾/甕 掘り方埋没	平底。口縁内彎気味に開き、端部で内傾。精製。底部細かいへ削り。体部へ削り後、上位でナデ。底部内面縁刻らしき痕跡。「玄」、「玄」か。もみ斑も残る。9世紀後葉～10世紀前葉
6	220/190 /81	須恵器 高台付埴	高(2.2) 底 7.0 体部下位 僅か、底部完、 高台部3/4	片岩、石英 /還元/灰	北壁際 /+10.5	高台ハ字状に外傾し、厚みのあるつくり。ロクロ成形。底部回転糸切り後、高台を付け、周辺部をナデ。9世紀
7	220/190	須恵器 壺	高(1.3) 積み 部分完、天井 僅か	白粒/還元 /暗灰	北壁際 /+7.5	積みは中央が突出した宝珠形に類似。積み取り付け後、周辺部横ナデ。9世紀前葉

2 遺物観察表

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
8	220/190/81	土師器 環	口131 高42 ～45 底71 ほぼ完成	石英、白粒、 角閃石/酸化 /にぶい黄澄	貯蔵穴内	厚手、平底。口縁直線的に外傾し、肩部外側で面取り。底部離なへう削り。体部内面横ナデ時の指痕全面に残る。一部ナデ状。ケズリ僅かある。口縁と体部の境に浅く離な沈線。内面何處にも分けて非常に離な横ナデ。9世紀後半～10世紀前半

26号住居

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	225/194/82	須恵器 環	口(122) 高 41 底61 口縁～体部中 位1/4、体部下 位～底部完	石英、軽石/濶 元/灰	中央 /+28.5	底厚手。口縁直線的に外方に及び肩部で僅かに外反し、丸い。ロクロ成形。底部回転糸切り。石英粒(φ 2～5mm)を多く含む。9世紀中葉
2	225/194	須恵器 環	口(138) 高 3(5) 底 (90) 口縁 ～底部1/6	白粒/濶元/灰	埋没土	底厚手。口縁僅かに腰が張り、外方に開く。ロクロ成形。底部回転糸切り後、外周をナデ。口縁上半自然胎が付着。8世紀後半
3	225/194/82	須恵器 環	口(118) 高 33 底(66) 口縁～底部 1/2	軽石、赤粒 /濶元/灰	甕南輪前 /+31	精製、厚手。口縁内彎気味に開き、肩部外面で僅かに肥厚。ロクロ成形。底部回転糸切り。口縁内外面横ナデ。9世紀中葉
4	225/194	須恵器 蓋	口(158) 高 (22) 天弁 1/10	粗粒/濶元/灰	埋没土	ロクロナデは強く、内外面とも器面の凹凸顯著。肩部の精製。天井やや丸みを帯びている。肩部鉤状に屈曲。ロクロ成形。肩部に横ナデ。8世紀後半
5	225/194	須恵器 環	口(140) 高 (4.4) 口縁 上平1/4	軽石/濶元/灰	埋没土	口縁内彎気味に開き、肩部で肥厚して外反。ロクロ成形。口縁に横ナデ。自然胎が残存破片全面部分に付着している。ターム状の付着物あり。8世紀後半
6	225/194	須恵器 高台付罐	高(41) 底 7.5 体部下 半～高台部 1/4	石英、軽石、 赤粒/濶元/灰	埋没土	高台ハ字状に外傾し、接地面平らに、断面バナ形。体部斜め上方に直線的に開く。ロクロ成形。底部回転切り離し後、高台を付け、周辺をナデ。糸切り痕残る。高台部先端部も丁寧ナデ。8世紀後半
7	225/194	須恵器 蓋	高(31) 底 (118) 口縁 ～天弁1/6	黒粒、白粒 /濶元/灰	埋没土	上野型短頸蓋の蓋。口縁やや内湾気味に下降する。肩部離な面取りをする。堅く上製。天井には口縁接合箇所に沿って絞線が走り、肩には絞が斜め上方に突出。ロクロ成形。全面自然胎が付着している。8世紀中葉～後半
8	225/194	須恵器 壺	破片	石英、白粒、 赤粒/濶元/外 面灰ナリーブ 内面灰	住居外	粘土結接合箇所断面、剥離面より観察できる。粘土層による器面の凹凸、外面平行叩き目痕残る。内面同心円状の当て目が残るが、ナデにより明確ではない。
9	225/194/82	土師器 環	口128 高35 口縁3/4、底 部定	軽石、角閃石 /酸化/にぶい 赤濁	甕焚口～甕 東隅 /米直～+8	平底につくられる。口縁内彎気味に外方へ開く。底部離なへう削り。口縁と底部の間は無調整。口縁から内面横ナデ。口縁ナデは強く、損傷が明瞭。8世紀後半～9世紀前半
10	225/194	須恵器 環	高(08) 底 7.4 底部完	軽石、白粒、赤 粒/濶元/灰	埋没土	底部のみ。ロクロ成形。底部回転へう切り後、ナデ。中心部のみへう切り痕残る。ナデは不定で手持ちによる。
11	225/194/82	土師器 環	口(136) 高(4.4) 底 (9.9) 口縁 ～体部1/3、 底部僅か	白粒、角閃石 /酸化/微	南隅/+15	体部丸みを残しながら平底化。体部から口縁へ緩く「S」字を描いて開く。底部へう削り。口縁から内面丁寧な横ナデ。口縁端部内外面とも深い黒色で、重ね焼きの痕跡か。9世紀中葉
12	225/194	土師器 壺	口(200) 高 (42) 口縁 1/4	軽石、角閃石 /酸化/微	埋没土	口縁直立して開き、上位で緩く屈曲して外傾。胴部外面へう削り。口縁中位から下位へう削り。口縁4段に分けて横ナデ。強めで擦痕。9世紀中葉
13	225/194	土師器 壺	口(200) 高 (5.3) 口縁 1/6	雲母、白粒、 角閃石/酸化 /明赤濁	中央/+18	口縁直立して開き、上位で緩く屈曲して外傾。底部僅かに内彎。十字状口縁。口縁上下2段に分け横ナデ。口縁外面下半不定のへう削りによる沈線。9世紀中葉
14	225/194	土師器 壺	口(200) 高 (5.1) 口縁 1/6	白粒、赤粒、 角閃石/酸化 /微	埋没土	口縁下半で僅かに外方へ開き、上半で緩く屈曲して外反。胴部内彎。胴部外面ケズリ。口縁上、下で別々に横ナデ。やや離な仕上げ。胴部内面ナデ。8世紀後半

第6章 遺物観察表

No.	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
15	225/194	土師器 甕	□(21.2) 高 (7.3) 口縁 1/4	細砂、黒粒、 白粒、角閃石 /酸化/橙	甕燃焼部 /+55	最大径は胴部上手。薄手。口縁胴部との境界で一度屈曲し、上方に緩く外反しながら開く。くの字状の口縁。胴部上半から底部横へう割り。口縁に粘土継ぎみ上げ痕。9世紀前半

27号住居

No.	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	230/197 /83	土師器 坏	□(120) 高 (3.6) 体- 底部1/3、口縁 1/2	細砂、黒粒、 白粒/酸化/褐	南壁際/+3	底端どが欠損するが、丸底。体部底部に比べて厚みがあり、斜め上方に開く。口縁強い横ナゲで外反。底部へう割り。体部目だった調整痕は見られず。口縁から内面横ナゲ。9世紀前半
2	230/197 /83	須恵器 坏	□(128) 高(3.5) 底 (7.0) 1/3	石英、黒粒、 黒粒、角閃石 /還元/灰白	北東壁溝内	口縁やや内彎気味に開き、端部で僅かに外反。ロクコ成形。底部回転糸切り後、無調整。口縁内面ロクロナゲによる横痕顕著。9世紀前半

28号住居

No.	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	235/201 /84	須恵器 坏	□124 高3.2 底7.0 ほぼ定形	黒粒、白粒 /還元/灰	貯蔵穴内 /住居外	器高は低い。口縁斜め上方に直線的に開き、端部丸い。底部回転糸切り。胴部無調整。9世紀中葉
2	235/201 /84	須恵器 坏	□(122) 高 3.6 底(6.2) 1/3	細砂、黒粒、 白粒/還元/灰	南西隅 /+107	器高低く、下半が膨らむ。口縁斜め上方に緩く開き、端部丸い。底部回転糸切り。胴部無調整。9世紀中葉
3	235/201 /84	須恵器 坏	□(122) 高 3.3 底(6.4) 1/3	細砂、黒粒、 白粒/還元/灰	甕掘り方壇 没土	口縁下半やや膨らみを持ち、斜め上方に開く。端部外反し、丸い。底部回転糸切り。胴部無調整。9世紀前半～中葉
4	235/201 /84	須恵器 坏	□(116) 高 3.6 底(6.0) 1/3	細砂、白粒 /還元/灰	甕掘り方壇 没土 /貯蔵穴内 /甕壁 /+168	器高低く、口径も小張り。口縁下半やや膨らみを持ち、斜め上方に直線的に開く。端部丸い。底部回転糸切り。胴部無調整。9世紀中葉
5	235/201 /84	須恵器 高台付埴	□(150) 高 6.8 底(8.2)	長石、細砂、 黒粒、白粒 /還元/灰	南西隅 /+25	高台部ハ字状に外傾し、端部丸い。高台と坏の接合部での歪み。口縁緩く斜め上方に開き、端部やや外反。底部回転糸切り。胴部にケズリ等の調整は認められない。9世紀中葉
6	235/201 /84	須恵器 坏	底6.6 破片	長石、黒粒、 白粒/還元/灰	中央 /+474	底部回転糸切り。
7	235/201 /84	須恵器 坏	高(2.1) 底 5.8 口縁下 半～底部2/3	雲母、黒石、 角閃石/酸化 /浅黄	南西隅 /+585	内面器面の割痕顕著。ロクロナゲはやや強。底部回転糸切り。
8	235/201	須恵器 甕	□(156) 高 (2.6)	黒粒、白粒 /還元/灰	甕掘り方壇 没土	天井頂部殆ど残っていないが、筒みが付いたもの。天井丸みを持ち、内面小さなえりが付く。天井回転へう割り。口縁端部表から内面自然痕。9世紀前半
9	235/201 /84	土師器 坏	□(116) 高 (3.3) 底 (7.6) 1/2	粗粒、黒粒、 白粒/酸化 /明赤褐	南東隅 /貯蔵穴 /床直	平底で、口縁緩く斜め上方に開く。口縁外面中位に内面横ナゲ時の指摺りさえの圧痕と痕跡。内面、口縁と底部の境付近に成形時の指摺痕顕著。口縁から内面横ナゲ。9世紀中葉
10	235/201	須恵器 高台付埴	高(1.6) 底 (8.4) 底部 完、高台部 1/2	石英、白粒 /還元/灰	南壁 /+136	高台部薄く、ハ字状に外傾。底部回転糸切り後、高台を付け、周辺部をナゲ。高台端部丁寧にナゲているが、底部外面の取り付け部分は端な仕上げ。高台側面部分で接合面が観察できる。
11	235/201 /84	土師器 坏	□124 高3.8 底8.3 ほぼ定形	雲母、黒粒 /酸化/橙	南壁 ～南壁際 /+17 ～217	平底で、口縁歪みながら斜め上方に開く。端部一旦外反してからやや内彎し、丸い。底部へう割り。口縁から内面横ナゲ。内面中央付近に黒溝? 9世紀中葉
12	235/201 /84	土師器 坏	□120 高3.5 底8.5 ほぼ定形	雲母、黒粒 /酸化/明褐	南壁際 ～南東隅 /+68 ～185	平底に整形され、体部斜め上方に直線的に開く。口縁外反し、端部丸い。底部から体部かけてへう割りが施されるが、体部の調整は粗雑。口縁外面から内面横ナゲ。9世紀中葉
13	235/201 /84	須恵器 高台付埴	高(2.2) 底 8.2 破片	長石、粗粒、 黒粒、白粒、 赤粒/還元/灰	貯蔵穴内	高台低く僅かに外傾して付けられる。接地面平たくつくられる。底部回転糸切り。
14	236/202	土師器 甕	□(19.4) 高 (6.7) 口縁 1/4	雲母、黒粒、 黒粒、白粒、 赤粒/酸化/明褐	南壁 /+9.1 ～14.2	胴部の器内ごく薄い。口縁胴部から直立し、端部で外反。コ字状口縁。端部丸い。胴部上半横へう割り。口縁内外面横ナゲ。胴部内面横へう割り。9世紀中葉

No.	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
15	236/202	土師器 台付壺	高(9.5) 底 (10.2) 胴部 下段2/3, 台部 1/5	白粒, 角閃石 /酸化/明赤褐	住居外	台部外反して広がる。肩部太い。胴部外面強いヘラ削りにより器面が凸出している部分あり。内面粘土粒による器面の凹凸顕著。台部を取り付け後、周辺部に強めのナデ。台部強めの横ナデで、裾直。胴部外面強いヘラ削り。内面のナデは雑。9世紀中葉～後葉か
16	236/202 /84	鉄製品 釘	住居中央部で床面からやや浮いた状態で出土。先端部が欠損する釘。弱い字状にゆがむ。存長 5.96cm。胴部断面方形で胴部に近づくとほど幅広となる。ていをして折り曲げた痕跡がある。			

35号住居

No.	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	242/206	須恵器 環	口(15.2) 高(4.4) 口縁1/4	石英、白粒、 角閃石/還元 /灰黄	中央南寄り /床直	口縁内彎して外方へ開き、肩部で肥厚して外反。ロクロナテ弱い。9世紀後葉
2	242/206 /85	須恵器 環	口13.6 高(3.4) 底(6.4) 口縁2/3	白粒、角閃石 /酸化/明黄褐	竈橋橋部・ 焚口/中央 南寄り/床 直～+4.0 /埋没土	浅めの環。口縁は直線的に外方へ開き、肩部で僅かに外反。口縁肩部やや肥厚。ロクロナテは弱め。色調は口縁上位の明黄褐色部分以外は黒色。9世紀後葉
3	242/206	須恵器 高台付 短頸壺	高(3.6) 胴 部上半1/6	石英、磁砂 /還元 /外面灰黄内 面灰	中央/+5.0	高台付短頸壺。胴部に強い張り。胴部外面、肩部に沈線 2本、中位に沈線 1本。9世紀後葉
4	242/206 /85	灰釉陶器 高台付皿	口(15.8) 高2.9 底8.0 口縁～高台部 1/4	黒粒/還元 /灰白	中央南寄り /床直	高台部断面台形。口縁緩く内彎しながら大きく開く。口縁肩部を強くつまみ上げて外反させる。外側に沈線状のへこみ。底部回転糸切り。高台取り付け後、接合部を横ナデ。内面施釉(緑灰)。内面重ね焼き痕あり。9世紀後葉
5	242/206	土師器 壺	口(20.2) 高 (7.0) 口縁 ～胴部上位 1/6	白粒、赤粒、 角閃石/酸化 /明赤褐	中央東寄り /+23.0	口縁直立して開き、上位で外反。肩部で再び上方へ開く。器内厚手。胴部外面強めのヘラ削り。口縁 4筋に分けて横ナデ。強めのナデで弱い段が出来ている。但し、中位の一部分が無調整。胴部内面割離している。9世紀後葉
6	242/206	須恵器 環	高(18) 底 5.5 口縁下位 1/4、底部完	雲母、石英、 白粒/還元 /灰黄	中央南寄り /+2.0	口縁内彎して立ち上がる。底部回転糸切り。外面、口縁最下部にナデ。9世紀後葉
7	242/206	土師器 環	破片	白粒、角閃石 /酸化/橙	埋没土	外面ヘラ削り。内面ナデ。墨書。環底部の内面潰かれている。記号のようなものか。

37号住居

No.	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	247/210 /86	灰釉陶器 高台付碗	口(17.4) 高 5.3 底(8.8) 口縁～高台部 1/5	黒粒、白粒 /還元/灰	中央南寄り /+20.5	高台断面台形。口縁内彎気味に大きく開き、肩部を小さく外反させる。底部切り離し後、周辺部を回転ヘラ削り調整をする。高台を付け、周辺部をナデ。内面のみ全面施釉。9世紀後葉か
2	247/210 /86	須恵器 環	口12.5 高3.4 ～3.8 底7.0 口縁上半2/3、 口縁下半 ～底部完	軽石、白粒 /還元/灰	南西隅～中 央南寄り /+25～8.5	底部から口縁下半厚手。口縁直線的に外傾し、肩部で肥厚。底部回転糸切り後、無調整。内外面ともロクノ痕顕著。9世紀中葉
3	247/210	土師器 壺	口(18.0) 高 (15.2) 口縁 破片、胴部上 半1/4	片岩、白粒、 赤粒/酸化/橙	中央南寄り /+5.0 ～18.5	胴部上位に最大径。口縁下半やや内彎して直線的に開き、上半で屈曲して強く外反。薄手。胴部上位が横、中位から下位が縦ヘラ削り。最上位に無調整部分あり。胴部内面ヘラナデ。口縁横ナデ。9世紀中葉
4	247/210	須恵器 壺	破片	石英、白粒 /還元/暗灰	竈橋軸前 /+27.5	口縁外反して開き、肩部断面方形。口縁上位に段を持つ。内面のロクノ痕は顕著。口縁外面中位に7条一単位の波状文が二単位施される。口縁上位は横ナデ。
5	247/210	須恵器 壺	破片	石英、黒粒 /還元/灰	竈堂口前 /+31.0	外面カキ目調整。内面ナデ。
6	247/210	土師器 壺	口(19.8) 高(27.6) 底 (3.9) 口縁 ～底部1/4	磁砂、白粒、 赤粒、角閃石 /酸化/橙	中央西～南 寄り /床直 ～+28.0	胴部上位に最大径。口縁下半が直立気味に開き、上半で外傾。薄手。底部ヘラ削り。胴部上位が横、中位から下位が縦ヘラ削り。口縁横ナデ。胴部内面ヘラナデ。9世紀中葉

第6章 遺物観察表

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
7	268/211	須恵器 壺	高(104) 口 縁下平1/3、肩 部僅か	石英、白粒 /還元/灰	甕突口前 /+230 -305	口縁外反気味に外方へ開く。胴部丸い。外面頸部上平4条・2条・4条の波状文。下半幅広のナデを施し、一部波状文が消失している。肩部刷毛ナデ。内面頸部不規則強いナデ。肩部同心円状の当て目残る。
8	247/210	須恵器 壺	破片	石英、白粒 /還元/外面暗 灰内面灰	甕突口前～ 中央 /+300 -340	内面器面の凹凸顯著。外面平行叩き目。内面同心円状の当て目。
9	248/211	須恵器 壺	破片	石英、軽石 /還元/外面暗 灰内面灰	甕衝前 突口前 /+250 -345	内面接合部分の凹凸残る。外面平行叩き目。内面同心円状の当て目。胎土に糠を含む。
10	249/212	須恵器 壺	破片	軽石、黒粒 /還元/灰	中央南寄り /+210 -275	胴部下位破片。外面叩きの後、ナデ。内面同心円状の当て目。
11	248/211	須恵器 壺	破片	石英、白粒 /還元/灰	甕衝前 /+270 -350	外面平行叩き目。叩き後、ナデ。内面同心円状の当て目。
12	249/212 /86	石製品 紡錘車	長49 幅48 厚16 ほぼ完	石材砥沢石	甕/埋没土	扁平な形状で丁寧に仕上げられる。円孔は丁寧にあけられる。

38号住居

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	253/215 /87	須恵器 坏	口(118) 高 3.7 底7.1 口縁1/2、底 部2/3	石英、軽石 /還元/灰	北西隅 /+55.5	上製。口縁直線的に外方へ開く。底部肥厚して丸くおさめる。底部回転ヘラ切り後、不定ナデ。8世紀前半
2	253/215 /87	土師器 坏	口16.8 高3.4 口縁一体部上 半4/5、体部下 半～底部完	石英、軽石、 角閃石/酸化 /橙	南東壁際 /床直	大型品。丸底の底部から内彎。口縁短く、直立気味に開く。体部不定ヘラ削り。ケズリにより底部を作り出す。但し、底部の輪郭はあまり明確ではない。口縁と体部の間に無調整部分あり。口縁横ナデ。角閃石を多く含む。8世紀前半
3	253/215 /87	土師器 坏	口(143) 高 3.2 口縁 1/6、体～底部 1/3	軽石、角閃石 /酸化/橙	中央南寄り ～南西隅 /床直	器高低く、扁平。口縁底部から屈曲して開き、やや内彎。底部内面凹凸顯著。底部不定ヘラ削り。口縁との間に無調整部分あり。口縁横ナデ、内面ナデ。8世紀前半
4	253/215 /87	土師器 坏	口(134) 高 3.9 口縁 1/3、底部 1/2	石英、軽石、 角閃石/酸化 /橙	中央南寄り /床直	底部厚い。やや大型品。器高は低い。底部から口縁端部まで強く内彎して開く。口縁短い。底部内面中央部が凸面状。底部はほぼ横に一定ヘラ削り。一部、指摺圧痕あり。口縁との間に無調整。口縁横ナデ、内面ナデ。8世紀前半
5	253/215	土師器 坏	口(119) 高 (2.6) 口縁 ～底部1/4	白粒、角閃石 /酸化/橙	埋没土	器高低く、扁平。口縁外反気味に外方へ開く。底部不定ヘラ削り。口縁横ナデ、内面丁寧ナデ。8世紀前半
6	253/215 /87	土師器 坏	口(140) 高 (2.6) 口縁 ～底部1/3	軽石、角閃石 /酸化 /ふい/褐	中央北寄り /+28.0	器高低く、扁平。底部から丸みを持って開く。体部ナデ後、底部に一定ヘラ削り。口縁横ナデ、内面ナデ。8世紀前半
7	253/215 /87	土師器 坏	口(140) 高 (3.2) 口縁 ～底部1/4	軽石、角閃石 /酸化/橙	甕衝前 /床直	器高低く扁平。口縁底部から強く屈曲しながら開き、端部で内彎。底部一定に細かいヘラ削り。口縁との間に調整。口縁横ナデ、内面ナデ。8世紀前半
8	253/215 /87	土師器 坏	口14.6 高3.2 口縁2/3、体 ～底部は完	白粒、角閃石 /酸化/橙	中央 ～南西隅 /+28.0 -48.0	器高低く、扁平。底部から内彎し、端部で直立して開く。底部内面凹凸顯著。底部強い横ヘラ削り後、周辺部のみナデ。口縁との間に無調整部分あり。口縁横ナデ、内面丁寧ナデ。底部外面中央に漆書。模様?馬丸5点。
9	253/215	土師器 坏	口(25.5) 高 (7.6) 口縁 1/4、胴部上位 1/6	白粒、赤粒、 角閃石/酸化 /ふい/赤褐	埋没土	口縁くの字状に外反し、最大径は口縁。胴部上位はやや強めの横ヘラ削り。口縁横ナデ。特に端部強いナデで、内面凹面をもつ。内面ヘラナデ。8世紀前半

39号住居

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	257/222	土師器 坏	口(130) 高 (3.8) 底8.7 口縁1/2、底 部破片	石英、軽石、 角閃石/酸化 /赤褐	埋没土	口縁と体部縁により明確に区分されている。口縁強く外反している。体部直線的に外傾。平底。口縁強い横ナデ。体部外面指摺とスズメが走る。底部ヘラ削り。体部から底部内面ナデ。焼成はムラがあり、内外面ともまだら模様。胎土に糠を含む。9世紀後半

2 遺物観察表

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
2	257/222	須恵器 杯	口(14.9) 高 (3.4) 口縁 上半1/3	石英、白粒、 角閃石/酸化 /灰黄	埋没土	口縁直線的に外方へのびる。外面ロクロ痕顕著。胎土に糠を含む。9世紀後葉
3	257/222	須恵器 杯	口(13.7) 高 (3.4) 口縁 1/4	石英、白粒 /還元/灰	甕埋没土	口縁やや内彎して開き、端部で強く外反。ロクロナデは弱め。9世紀後葉～10世紀初葉か
4	257/222	須恵器 杯	口(13.7) 高 (3.0) 口縁	白粒/還元/灰 1/4	甕埋没土	口縁内湾気味に外方へ開き、端部で弱く外反。9世紀後葉
5	257/222	須恵器 杯	口(13.8) 高 (4.7) 口縁 1/4	雲母、片岩、 石英、角閃石 /還元/灰	貯蔵穴 /埋没土	口縁内湾気味に外方へ開き、端部で肥厚して高く外反。底部厚い。ロクロ右回転。ロクロナデ弱い。還元尖稜成だがやや軟質。黒斑あり。片岩を多く含む。9世紀後葉
6	257/222	須恵器 杯	口(16.0) 高 (4.1) 口縁 1/8	軽石、赤粒、 角閃石/酸化 /ふい黄橙	埋没土	口縁やや内彎して外方へ開き、端部で強めに外反。ロクロの痕跡、外面で顕著。ロクロ不明。外面の口縁端部から内面全体、黒色。口縁外面の上方に粘土様接合痕が高まる。9世紀後葉～10世紀前葉か
7	257/222	土師器 杯	口(12.8) 高 (2.8) 口縁 1/4	石英、白粒、 角閃石/酸化 /橙	埋没土	口縁僅かに「S」字状に屈曲し、端部で内側に強いナデによる凹みをもつ。平底と考えられる。口縁始めの横ナデ。外面口縁と底部の間、無調整。内面丁寧なナデ。9世紀中葉～後葉
8	257/222	須恵器 杯	口(13.8) 高 4.7 底(5.6) 口縁1/5、底 部僅か	片岩、石英、 軽石、角閃石 /酸化/灰黄	甕焚口前 /+20～30	口縁内湾気味に外方へ開き、端部で肥厚して外反。器面磨減している。底部の切り難し痕は不明。口縁下位から底部内面黒斑。9世紀後葉
9	257/222	須恵器 杯	口(13.8) 高 (3.2) 口縁 1/4	雲母、粗粒、 白粒/酸化 /灰黄	中央東寄り /+70	口縁内湾気味に外方へ開き、端部で肥厚。ロクロ右回転。ロクロナデは雄。内外面とも黒斑。口縁粘土接合痕。9世紀後葉
10	257/222 /88	須恵器 杯	口(13.0) 高 3.8 底(5.5) 口 縁上半破片、 下半2/3、 底部欠	雲母、石英、 軽石、角閃石 /還元/灰	南隅/+14	底部から口縁下半部内厚み。口縁内湾気味に外方へ開く。口縁上半で器内薄くなり、端部でやや外反。底部回転糸切り後、無調整。但し、器面磨減してやや不明瞭。9世紀後葉
11	257/222 /88	須恵器 杯	口(11.3) 高 4.0 底(5.0) 底部3/4、体部 ～口縁1/3	角閃石、粗砂 /酸化/灰黄	南東隅 /+26.0	底小さく、器高が高い小振りの杯。体部斜め上方に直線的に開き、口縁端部で外反、粗粒。ロクロ右回転。底部回転糸切り。口縁横ナデ。風化顕著。9世紀後葉
12	257/222 /88	須恵器 杯	口12.8 高3.7 底5.8 ほぼ 定形	黒粒、白粒 /還元/灰	中央やや北 西寄り /龍一括 /埋没土	底は口径の約1/2。体部下やや膨らみ形で、口縁緩く開く。端部丸みをもつ。歪みが認められる。ロクロ右回転。底部回転糸切り。口縁横ナデ。9世紀後葉
13	257/222	須恵器 杯	口(14.6) 高 3.8 底(9.0) 口縁～底部 1/8	白粒、赤粒 /還元/灰	南西隅 /+21.5	口縁内湾気味に外方へ開き、端部でさらに弱く内彎。底部切り難し痕不明瞭。ロクロナデは強く、外面ロクロ痕を残す。底部付近は軟質気味。色調赤褐色。体部外面2文字以上の墨書。9世紀中葉～後葉
14	257/222 /88	須恵器 杯	口13.0 高4.3 底6.7 ほぼ 定形	雲母、粗粒、 黒粒、白粒、 角閃石/還元 /灰	北東壁際 /+30	底は口径の約1/2。体部の下半がやや膨らみ、口縁緩く開く。端部で外反し、丸い。歪み。ロクロ左回転。底部回転糸切り。内外面、口縁端部横ナデ。胎土にφ3～8mmの礫が含まれる。内面の大半と底部から体部、口縁一部黒斑。やや風化進む。9世紀後葉
15	257/222 /88	須恵器 高台付埴 杯	口14.6 高5.4 底6.8 ほぼ 定形	雲母、粗粒、 黒粒、白粒 /還元/浅黄	南西壁際 /+21.5	底は口径の約1/2以下。底部には切り難し後高台が付けられるが、粗製。体部から口縁緩く開き、体部下がやや膨らみ形。口縁斜め上方に外傾し、端部丸い。八字状に開き、接地面平たくつくれる。ロクロ左回転。体部ナデ、ケズリ等の調整は認められず。ロクロ目が明瞭に残る。口縁横ナデ、底部回転糸切り。体部に狂度か認められる。9世紀後葉
16	257/222 /88	須恵器 高台付埴 杯	口14.8 高 5.7 底(9.9) 2/3、口縁1/2	片岩、粗粒、 黒粒、白粒、 角閃石/還元 /灰	北東隅 /+8.5	高台との接合部分歪む。高台粗雑なつくりで八字状に開く。体部下が膨らみ、口縁直線的に開く。ロクロ左回転。底部回転糸切り後、高台を付す。内外面横ナデ。9世紀後葉

第6章 遺物観察表

No.	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
17	257/222 /89	須恵器 高台付埴	口139 高60 底(7.0) 底・ 体部141.2完、 口縁4/5	雲母、片岩、 粗粒、黒粒、 白粒/還元/ 灰黄緑	南東隅 /+70 -190	底部に高台の欠損した痕跡。体部下半が膨らみ、口縁緩く開く。 肩部外反。体部から口縁垂む。ロクロ右回転。糸切り後に高台を 付す。横ナデ等の調整は、口縁内外面と高台接合部周辺のみ認め られる。片岩の織を含む。内外面の大半が黒炭。9世紀後葉
18	257/222 /89	須恵器 高台付埴	口(120) 高 6.2 底(5.6) 高台1/4、底 部完、体部・口 縁1/4	粗砂、石英、 礫/還元/灰 緑1/4	南隅 /+240	高台ハ字状に外傾し、断面方形。体部斜め上方に直線的に開き、 口縁やや内彎し肩部で僅かに外反。深さがあり、底部径小さい。 上製。ロクロ右回転。糸切り後、高台を付す。高台接合部の横ナ デ以外は、体部外面削り等の調整は認められない。口縁短部には 横ナデ。9世紀後葉
19	258/223 /89	須恵器 高台付皿	口134 高33 6.2 底(5.6) 底完	石英、黒粒、 白粒/還元/ 灰白	南東隅 /床直	高台ハ字状に開き、接地面平らに整形される。体部から口縁斜め 上方に開き、僅かに内彎。肩部丸い。ロクロ右回転。底部回転糸 切り。皿内外面横ナデ。皿内面中央付近に重ね焼き痕。高台部 の内面ヘラ記号。大粒の石英が含まれる。9世紀後葉
20	258/223	灰輪陶器 埴	口(138) 高 (3.4) 口縁 1/4	石英、白粒 /還元/灰白	中央北寄り /床直	口縁内彎して開き、肩部で外反。やや浅めの境。内外面とも丁寧 なロクロナデ。内外面とも施釉。9世紀後葉
21	258/223 /89	灰輪陶器 高台付皿	口(148) 高 2.2 底(7.0) 1/3	黒粒、白粒 /還元/灰白	北西隅 /+400	低いがつくりの丁寧な高台。体部、口縁緩く開き、肩部外反。ロ クロ成形。丁寧な横ナデ。内面全体から口縁肩部外側僅しい輪が かけられる。施釉の方法は不明。9世紀後葉～10世紀前葉か
22	258/223	須恵器 坏	高(1.0) 底 5.2 底部完	軽石、黒粒 /還元/灰	南東隅 /+90	底部内面ロクロナデによる凹凸顯著。底部回転糸切り後、無調整。
23	258/223 /89	須恵器 坏	高(1.5) 底 5.4 底部完	軽石、赤粒、 針状物質 /還元/灰	南東隅 /+100	口縁直線的に外方へ開く。底部回転糸切り後、無調整。
24	258/223 /89	須恵器 高台付埴	高(2.2) 底 7.0 底部～高 台部1/2	雲母、白粒、 赤粒/還元/ 灰白黄緑	埋没土	高台部短く、断面台形。底部内面の中央部ロクロナデにより凸状。 底部切り離した後、高台を付す。周辺部強いナデ。口縁外面ロクロ 目顯著。内面黒色。9世紀後葉か
25	258/223 /89	須恵器 高台付埴	高(2.0) 底 6.6 口縁下位 ～高台部完	雲母、白粒、 赤粒/還元/ 灰黄	中央東寄り /+80	高台部の断面三角形。底部回転糸切り後、高台取り付ける。周辺 部ナデ。焼きムラあり。9世紀後葉
26	258/223 /89	須恵器 高台付埴	高(2.3) 底 (7.0) 底部・ 高台のみ	雲母、石英、 黒粒、白粒 /還元/灰黄緑	北東隅 /+50	高台粗雑。一部つぶれたよう。ロクロ右回転。高台接合部に横ナ デ。風化が進行する。9世紀後葉
27	258/223 /89	須恵器 罍	破片	黒粒、白粒 /還元/灰	北西隅Pr4 /Pr4埋没 土	最大径胴部下位。内面胴部上位横ナデ。胴部下半横ナデ。胴部中 位はナデ残して同心円状当て目残る。外面横丁寧なナデ。
28	259/224	土師器 罍	口(200) 高 (7.8) 口縁 ～胴部上位 1/8	石英、白粒、 赤粒、角閃石 /還元/橙	南東～南隅 /+280 -320	コ字状口縁。肩部外側に面を持ち内側で凹む。胴部の厚手。胴部 上位に最大幅をもつ。口縁横ナデ。胴部外面横ヘラ削り。胴部内 面ナデ。9世紀後葉
29	259/224	土師器 罍	口(215) 高 (6.3) 口 縁～胴部上 位1/6	雲母、白粒、 赤粒、角閃石 /還元/橙	南東隅 /+70 -235	口縁下半が直立し、上半で屈曲して外反するコ字状口縁。肩部内 側でナデによる凹みをもつ。口縁と胴部の境は明確。口縁横ナデ。 胴部外面横強いヘラ削り。内面斜め横ナデ。9世紀中葉～後葉
30	259/224	須恵器 埴	破片	黒粒、白粒 /還元/灰	埋没土	内面縦割。細い工具による細な割み。外面黒書か?
31	259/224	須恵器 坏	高(1.5) 底 (6.0) 底部 1/2	白粒、赤粒、 角閃石/還元/ 灰白黄緑	埋没土	底部回転糸切り後、無調整。底部外面黒書。「人」か。内面全面黒色。
32	259/224	須恵器 坏	破片	軽石、角閃石 /還元/灰	埋没土	底部回転糸切り。内面黒書。
33	259/224	須恵器 坏	破片	白粒、角閃石 /還元/灰白	埋没土	外面黒書。「巫」か。
34	259/224	須恵器 坏	破片	白粒、赤粒、 角閃石/還元/ 灰白	埋没土	外面黒書。
35	259/224	須恵器 坏	破片	白粒、角閃石 /還元/灰白	埋没土	外面黒書か?

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
36	259/224 /89	鉄製品 鎌				住居北西部の土坑近くで床面直上から出土。ほぼ完了。湾曲し、弦から刃部の頂点まで4cmほどある。基部きつくり折り返して着柄部を作る。基部幅4cm、湾曲部頂点での幅3.3cm、先端近くでの幅2.35cm。厚さ0.3から0.4cm。刃部、先端は研ぎ減る。
37	259/224 /89	鉄製品 刀子				住居北西部の土坑近くで床面直上から出土。36とは土境を挟んで反対側の位置。基部先端を欠くがほぼ完了。長さ12.5cm、刃部長7cm、幅1.5cm。棟の厚さは0.4cmから0.5cm。茎は幅1.1cmから折損部で0.5cmとなる。
38	259/224 /89	鉄製品 刀子				住居中央部西よりで、床面からやや浮いた状態で出土。刀子基部で、先端は欠損。刃部も棟、ともに失われている。図で区別に見えるのは折損部。存長11cm、最大幅1cm、厚さ0.5cm。
39	259/224 /89	鉄製品 刀子				庵左手の住居中央東側で、床面からやや浮いた状態で出土。刃部、茎ともに先端部をわずかに欠く。存長8.7cm、刃部の存長4.5cm、身幅1cm、棟の厚さ0.5cm。切先に向かって徐々に幅を狭める。茎は角棒状で先端は尖る。
40	259/224 /89	鉄製品 釘				37とともに住居北西部の土坑近くで床面直上から出土。先端部の破片。存長4.9cmで、上端は幅1cm、厚さ0.75cmの方形の断面形。木質が付着している。
41	259/224 /89	鉄製品 刀子				37・40とともに住居北西部の土坑近くで床面直上から出土。刀子区部の破片。存長5cm。刃部の存長1.5cm、身幅1cm、厚さ0.3cm。茎も板状で、幅0.8cm、厚さ0.3cm。
42	259/224 /89	鉄製品 釘				西壁際中央よりやや南よりで、床面からやや浮いた状態で出土。釘の頭部近くの破片で、両端が欠損。ゆがむ。存長5.2cm、胴部0.7cm×0.9cmの方形断面で、頭部近くは叩き延ばされてやや薄くなり、幅1.1cm、厚さ0.5cmほど。

40号住居

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	269/231 /90	土師器 環	口(124) 高 40 底(64) 3/4	石英、粗粒、 黒粒、白粒、 角閃石/酸化 /明赤褐色	東甕南輪 /床直	平底。体部斜め上方に開き、器内最も薄い。口縁やや外反し、体部との境に弱い沈線が一条走る。粗製。底部・体部へつ削り。口縁外面から内面横ナデ。ヘラケズリ調整は粗雑。9世紀中葉
2	269/231	土師器 環	口71 高 (39) 破片	石英、粗粒、 黒粒/酸化 /赤褐色	中央北寄り /+25.5	体部緩く斜め上方に開き、口縁器内に厚みを持たせて端部で外反。底部・体部へつ削り。口縁横ナデ。内面へつ削り工具で横ナデ。8世紀
3	269/231 /90	土師器 環	口(123) 高 37 底(74) 1/2	礫砂、黒粒、 白粒、角閃石 /酸化/褐色	中央～南寄り /床直	平底。口縁斜め上方に開き、強い横ナデで弱い縁が形成される。底部・体部へつ削り。口縁横ナデ。9世紀中葉
4	269/231 /90	須恵器 環	口(147) 高 (40) 口縁 1/3	石英、軽石、 角閃石/酸化 /にぶい黄褐色	中央北東寄り /+30～40	口縁内彎気味に大きく開き、端部で肥厚して外反。ロクロ口が外面で顕著。口唇部ナデ。内面磨き等の痕跡が見られるが、故意に描いたものではない。胎土に塵を含む。9世紀後葉
5	269/231 /91	須恵器 高台付埴	口(150) 高 58 底78 口 縁・体部1/3、 底部完	石英、粗粒、 黒粒、白粒、 角閃石/還元 /灰青	東隅/床直	高台しっかりとしたつくりだが粗雑。体部から口縁斜め上方に開き、丸部あり。ロクロ右回転。底部回転軸切り後、高台を付す。高台接合部と口縁に横ナデ。体部内外面調整後は認められず、ロクロ目が明確に残る。9世紀後葉
6	269/231 /91	須恵器 高台付埴	口(154) 高 525 底(78) 1/4	粗粒、黒粒、 白粒/還元/灰	掘り方埋没 土	高台部断面三角形で直線的に下降する。粗製で、焼成も精緻。体部緩く斜め上方に開き、口縁端部で僅かに外反。ロクロ成形。底部回転軸切り後、高台を付す。高台接合部と口縁横ナデ。9世紀後葉
7	270/232 /91	須恵器 高台付埴	口(158) 高 75 底(86) 破片	石英、粗粒、 黒粒、白粒、 角閃石/還元 /灰白	中央 /埋没土	器高より体部深い。高台断面三角形でハ字状に外傾。つくりは粗雑。体部器内厚く、斜め上方に開く。口縁端部で僅かに外反。ロクロ成形。底部回転軸切り後、高台を付す。高台接合部と口縁横ナデ。9世紀後葉
8	270/232 /91	須恵器 環	高(34) 底5.4 口縁下位～2/3、 底部完	軽石、粗粒 /還元/灰	中央 /+31.5	底部厚い。口縁内彎気味に開き、先端へ行くほど薄くなる。底部回転軸切り後、無調整。口縁ロクロ成形後、外面下位をナデ。
9	270/232 /91	須恵器 環	高(21) 底6.3 口縁下位～底部 2/3	軽石、粗粒、 赤粒、角閃石 /酸化/褐色	西壁際際 /+16.0	底部厚い。底部内面ロクロ口による凹凸顕著。口縁直線的に外方へ立ち上がる。ロクロ右回転か？底部回転軸切り後、無調整。
10	270/232	灰輪陶器 高台付埴	高(20) 底 (8.1) 底部 2/3、高台1/3	精製/還元/灰	北西隅 /+38	高台部断面三日月形で長い。底縁く凹む。ロクロ右回転。高台を付け後、高台を含む底部外面全体を回転ヘラナデ。内面のみ磨き。造輪方法は不明。
11	270/232 /91	須恵器 高台付埴	高(27) 底 (6.6) 口縁 下位～高台部 のみほぼ完	石英、軽石、 赤粒、角閃石 /還元/にぶい黄褐色	中央南西寄り /+20 ～190	高台部断面台形。口縁内彎して開く。器内やや厚み。ロクロ右回転か？底部回転軸切り後、高台を付け、周辺部をナデ。焼きムラ。9世紀後葉

第6章 遺物観察表

No.	図/写真	器種	流量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
12	270/232 /91	須恵器 高台付埴	高(21) 底 6.3 口径下 位~高台部の み完	石英、白粒、 角閃石 /還元/灰	北西隅 /床直	高台部断面三角形。底部内面ロクロ裏により器面の凹凸顯著。ロクロ右回転か? 底部回転糸切り後、高台を付け、周辺部をナデ。9世紀後葉
13	270/232 /91	須恵器 高台付埴	高(16) 底 6.2 高台部 ほぼ完	雲母、白粒、 赤粒、角閃石 /酸化/橙	中央南寄り /+400	高台部断面台形。底部内面ロクロ裏により器面の凹凸顯著。底部回転糸切り後、高台を付け、周辺部をナデ。胎土に礫を含む。9世紀後葉
14	270/232	須恵器 高台付埴	高(20) 底 (7.0) 口径 下位~高台部 1/3	雲母、細砂、 赤粒、角閃石 /酸化/橙	中央南寄り /+25	高台部断面台形で短い。羅なつくり。底部回転糸切り後、高台を付け、周辺部をナデ。9世紀後葉
15	270/232 /91	土師器 壺	口(110) 高 (7.9) 口径 ~胴部1/3	細砂、黒粒、 白粒、角閃石 /酸化/橙	西電燃焼部 /床直	最大幅上半部で、台部に向かってややすばまる。口径短く、外傾しながら開き、肩部丸い。胴部横から斜めへ張り。口径内外面横ナデ。胴部内面へラナデ。9世紀後葉
16	271/233 /91	須恵器 坏	口125 高42 底60 141#完形	石英、黒粒、 赤粒、白粒、 角閃石/還元 /灰白	中央北東寄り /+25~30	底が口径の1/2と小さい。体部横く開き口径端部で外反。体部内外面に墨書「主」。底部回転糸切り後、高台をナデ。口径短く、外傾ナデ。体部外面1箇所、底部内面中央に「主」の墨書。9世紀後葉
17	271/233 /91	須恵器 高台付皿	口137 高32 底64 底・体 部完、口径1/2	粗粒、黒粒、 白粒、角閃石 /還元/浅黄	東電突口前 /床直	底部には切り離し後に粗粒な高台を付す。高台磨耗顯著。口径短く外反しながら開く。肩部丸い。ロクロ左回転。底部回転糸切り後、高台接合部、口径横ナデ。内面中央に1箇所、体部外面2箇所「主」の墨書。9世紀後葉
18	271/233 /91	須恵器 高台付埴	口(144) 高 60 底70 底部完、体部 2/3、口径1/3	石英、黒粒、 白粒、角閃石 /還元/灰白	東電突口前 ・南袖前 /西電隅 /床直 ~+90	高台ハ字状に外傾。粗粒。体部から口径横く開き、端部で強く外反。ロクロ右回転。底部回転糸切り後、高台を付す。体部内外面とも無調整。口径内外面横ナデ。墨書は内面中央に1箇所。体部外面1箇所。9世紀後葉
19	271/233 /91	須恵器 高台付埴	口144 高59 底70 底・体 部完、口径4/5	石英、黒粒、 白粒、角閃石 /還元/灰	中央北東寄り /+70~85	高台ハ字状に外傾し、接地面平ら。体部から口径斜め上方に直線的に開く。口径端部丸い。ロクロ右回転。底部回転糸切り後、高台を付す。底部中央に「石」の墨書。9世紀後葉
20	271/233	須恵器 坏	高(17) 底 (6.0) 底部 破片	粗砂、輝石、 角閃石/酸化 /にぶい黄緑	埋没土	底厚い。ロクロ成形。底部回転糸切り。体部外面墨書「主」もしくは「王」
21	271/233	土師器 坏	口(139) 高 (2.4) 口径 破片	粗砂、雲母 /還元/灰黄	中央北東寄り /+290	肩部で外反。ロクロ成形。口径横ナデ。体部外面墨書「主」もしくは「王」
22	270/232	須恵器 壺	口(320) 高 (3.6) 破片	石英、白粒 /還元/灰	北西陸際 /+325	口径・傾きは不定。口径大きく外反し、先端は外面段を有する。内面ロクロ裏が明瞭に残る。
23	271/233 /92	土師器 壺	口(204) 高 (5.25) 口径 1/2	粗粒、黒粒、 白粒、角閃石 /酸化 /にぶい黄緑	中央西寄り /+110 ~180	口径コ字状。胴部上半横へラナデ。胴部内面へラウ状工具によるナデでカキ目状にへラ痕残る。口径内外面横ナデ。粘土紐。9世紀後葉
24	271/233 /92	土師器 壺	口(198) 高 (5.8) 口径 1/2	雲母、粗粒、 黒粒、白粒 /酸化	中央西寄り /+130 ~240	口径一直直立した後、肩部で曲出しコ字状。胴部上半横へラ張り。内面横へラナデ。口径内外面横ナデ。9世紀後葉
25	271/233	土師器 壺	口(220) 高 (6.5) 口径 1/4	石英、粗粒、 黒粒、白粒、 角閃石/酸化 /明赤褐	中央西寄り /+130 ~245	コ字状の口径。口径は器内胴部よりも厚みがあり、肩部丸い。胴部上半横へラ張り。内面横へラナデ。口径内外面横ナデ。9世紀後葉
26	271/233 /92	土師器 壺	口(202) 高 (17.8) 口径 1/4、胴部破片	石英、粗粒、 黒粒、白粒 /酸化 /にぶい赤褐	中央 ~西電際 /+130 ~385	最大径は胴部上半。胴部から直立した頂部の高さが短くなり、口径外反しながら斜め上方に開く。肩部丸い。コ字状の口径形勢が崩れたものか。胴部下半縦、中位斜め、上半斜めから横へラ張り。胴部内面横へラナデ。口径内外面横ナデ。9世紀後葉
27	271/233 /92	土師器 壺	口(194) 高 (9.6) 口径 2/3、胴部破片	粗粒、黒粒、 白粒/酸化/橙	西電際~ 中央南寄り /西電燃焼部 /床直~ +125	口径断面コ字状。口径端部外面浅い沈線が一条走る。胴部上半横へラ張り。口径内外面横ナデ。胴部内面横へラナデ。9世紀後葉

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
28	270/232	須恵器 壺	底(13.8) 胴部下位~底部 1/4	石灰/還元/灰	東隅/+80	平底。胴部内彎気味に大きく開く。底部回転糸切りか。不明瞭。胴部内外面とも不定の内面。内面粘土凝結痕。9世紀後葉
29	271/233 /92	土師器 壺	口(22.0) 高(15.5) 1/4	石灰、粗粒、黒粒、白粒、角四石/酸化/外面焼内面略焼	西電燃焼部/西隅一南西隅/床直	最大径は胴部上半。底部にいくに従って小さくなる。口縁コ字状に歪い形。一旦は直立し、強く屈曲して外反。口縁部内胴部よりも厚い。胴部上半斜めから横へう割り。中位から下半斜めから縦へう割り。口縁内外面横ナデが、胴部内面横ナデ。口縁内面、胴部上半外面の一部にススが付着。9世紀後葉
30	271/233 /92	鉄製品 板状品				住居南西隅の礎集積部において、床面からやや浮いた位置で出土。西電の左手にあたる。長さ66cm、幅39cm、厚さ0.3cmの長方形の板状品で、一端は欠損するが一端は面取り状に角を落としている。幅広い鍔金具の一部か。
31	271/233 /92	鉄製品 釘				住居南西隅の礎集積部において、床面からやや浮いた位置で出土。存長5.8cm。1辺0.6cmから0.7cmの方形の断面形で、頭部が幅1.3cm、厚さ0.5cmほどの扁平な円形につぶれる。
32	271/233 /92	鉄製品 釘				住居中央部北西よりの床面から出土。西電の右手前で、遺物が多い部分にあたる。使用によりゆがんで、全体がねじれた状態であるが、ほぼ完損している。長さ7.7cm。断面形は一辺0.4cmから0.5cmの方形。折り曲げた頭部幅0.8cmほどで中央部が浅く窪む。
33	271/233 /92	鉄製品 釘				住居南西部の礎土下位から出土。先端部を欠くが、大きなゆがみは見られない。存長9cm。断面形は幅0.7cmから0.95cm、厚さ0.8cmほどの方形で、下位のほうがやや細くなっている。頭部折り曲げられる。
34	271/233 /92	鉄製品 釘				住居北東部の礎土中から出土。他の遺物は少ない部分に当たる。先端部近くの破片。存長4.8cm。断面形は一辺0.6cmから0.7cmの方形であるが、腐食または摩耗により鋭が消え、丸い。
35	271/233 /92	鉄製品 釘				住居北東部の礎土中から出土。東電の左手に当たるがやや細く、刀子の基などかもしれない。
36	271/233 /92	鉄製品 棒状品				住居南西隅の礎集積部近くにおいて、床面からやや浮いた位置で出土。長さ14.8cmで、0.7×0.6cmから0.5×0.5cmの棒状品。一端が大きく、他端に向かって徐々に細くなる。断面形はほぼ方形。三分の一ほどの位置でくの字状に曲がる。

41号住居

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	271/233 /92	須恵器 環	高(27) 底5.8 口縁下半1/4、底部完	石灰、角四石/還元/灰	掘り方埋没土	口縁底部から直線的に立ち上がり外傾。底部回転糸切り後、無調整。口縁最下位は手持ちによるナデ。ロクロ右回転。

42号住居

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	277/238 /93	須恵器 環	口(12.2) 高3.9 底5.6 口縁1/2、底部完	雲母、石灰、白粒、角四石/還元/黒	中央/埋没土	底は厚く、内面ロクロナデによる凹凸顕著。口縁底部から直線的に立ち上がり外傾。端部丸くおさめる。ロクロ右回転。底部回転糸切り。9世紀中葉
2	277/238 /93	須恵器 環	口(11.0) 高3.7 底5.4 口縁1/3、底部3/4	石灰、白粒/還元/黒褐	住居外	ややあげ底。口縁内彎気味に開き、端部が僅かに外反。底部回転糸切り後、無調整。口縁に顕著なロクロ痕を残す。焼きムラあり。9世紀中葉
3	277/238 /93	須恵器 環	口(13.8) 高3.5 底(6.6) 口縁~底部 1/6	石灰/還元/暗青灰	埋没土	あげ底。口縁内彎気味に開き、端部が僅かに外反。底部回転糸切り後、無調整。やや粗雑なつくりでロクロ成形痕があまり残らない。9世紀中葉
4	277/238 /93	土師器 環	口11.9 高3.4 底8.7 口縁1/2、底部ほぼ完	雲母、白粒/酸化/橙	北西隅/床直	平底気味。口縁縦くS字状に外方へ開く。口縁横ナデ。底大筋把なへう割りで明瞭に削り出す。口縁との間は無調整。内面、口縁と底部の境付近歪いナデ。この部分は器内も非常に薄い。9世紀中葉
5	277/238 /93	土師器 環	口(14.2) 高(3.7) 底(9.1) 破片	白粒、角四石/酸化/橙	埋没土	平底。器内薄く、体部縦やかなS字状を描いて大きく外方へ開く。内面放射状の曜文。口縁横ナデ。体部から底部外面へう割り。特に底部の削り出しは明瞭。口縁との境は無調整範囲。内面丁寧なナデ。
6	277/238 /93	土師器 環	口12.1 高3.5 底8.5 4/5	雲母/酸化/橙	埋没土	平底気味。口縁歪む。S字状に屈曲し外方へ開く。器内底部で薄い。口縁横ナデ後、体部との境の屈曲部分に細い木口工具によりナデ。底部端なへう割りで体部との間は明瞭に区分けされている。体部ナデ成形後、無調整。内面のナデは丁寧。9世紀中葉

第6章 遺物観察表

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
7	277/238 /93	須恵器 高台付埴	高(23) 底 7.3 口縁下位 1/2、底部定、 高台部1/2	雲母、石英、 赤粒/酸化 /にぶい黄褐色	甕焚口前 /埋没土	高台部断面三角形。口縁内彎して立ち上がるもの。底部回転余切り後、高台を付け、周辺部をナデ。底部口ロ口目顯著。高台の取り付けは縁で重む。軟質で焼きムラ。9世紀中葉
8	277/238	須恵器 壺	破片	石英、赤粒 /還元/外周灰 内面灰黄褐色	北東隅～中 央西寄り /+325 ～410	胴部破片外面タタキ成形後、ナデ。内面顯著な当て目残る。器面凹凸顯著。軟質気味。石英粒φ5～8mmのものが多量に混入。
9	277/238	土師器 壺	口(198) 高 (5.4) 口縁 1/6	細砂、白粒、 角閃石/酸化 /橙	埋没土	大型品。口縁下半が直立気味に開き、上半で緩く屈曲して外反。胴部と口縁明確に区分されている。口縁上半横ナデで強い稜を残す。胴部横強いヘラ削りで工具痕顯著。内面ナデ。9世紀中葉

43号住居

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	277/238 /93	土師器 坏	口(142) 高 3.7 口縁～底 部1/3	石英、軽石、 角閃石/酸化 /橙	北壁/掘り 方埋没土	器高低く、上製。丸底の底部から内彎して開き、口縁が直立気味に屈曲。口縁短い。底部外面不定ヘラ削り。口縁横ナデ。外面の口縁と底部の間は無調整。内面丁家ナデ。8世紀後葉

44号住居

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	282/242 /94	須恵器 高台付埴	口15.4 高5.5 ～5.7 底7.0 口縁上半3/4、 口縁下半～高 台部完	雲母、片岩、 軽石、赤粒、 角閃石/酸化 /にぶい黄褐色	掘り方埋没 土	高台部断面台形。口縁内彎して外方へ開き、端部で肥厚気味に外反。口縁外側の痕跡は明確で、器面の凹凸顯著。口縁口右回転。底部回転余切り後、高台を付け、周辺部をナデ。底部内面口ロ口目によるカキ目状の痕跡が顯著で、中心部凸状。9世紀後葉
2	282/242 /94	須恵器 高台付埴	口(142) 高 4.8 底6.1 口縁1/12、底 部完	雲母、軽石、 赤粒、角閃石 /酸化/明赤褐色	南東隅 /+40	口縁下半で内彎気味に開き、上半で直線的に外反。高台部断面台形。底部回転余切り後、高台を付け、周辺部強いナデ。底部外面のナデ部分は凹む。9世紀後葉
3	282/242 /94	須恵器 高台付埴	口(159) 高 (4.5) 口縁 1/4、底部 3/4	白粒、赤粒、 角閃石/還元 /暗灰黄	北東隅 /+100	口縁内彎して外方へ開き、端部で肥厚して外反。底部回転余切り後、高台取り付け、周辺部をナデ。但し、底部のナデは確認できない。高台欠損。口ロ口右回転。外面顯著な口ロ口目を残す。底部に黒炭。9世紀後葉
4	282/242 /94	須恵器 高台付埴	口(168) 高 7.3 底(7.6) 口縁～高台部 1/3	石英、白粒、 角閃石/酸化 /にぶい黄褐色	北東隅 ～南隅 /+425 ～485	口縁内彎して外方へ開き、端部で強く外反。高台部断面三角形。厚手。底部切り離し後、高台を付け、周辺部をナデ。切り離し痕は不明。口縁外面で口ロ口復顯著。9世紀後葉
5	282/242	灰釉陶器 高台付埴	高(19) 底 (8.6) 口縁 下半～底部 1/4	黒粒、白粒 /還元/灰白	中央西寄 り /+280	高台部断面台形状を呈す。口縁内彎気味に大きく開く。底部切り離し後外周を回転ナデ、その後高台を付けて周辺部をナデ。軸は内面のみ施す。9世紀後葉
6	282/242	須恵器 高台付埴	高(51) 底 (9.4) 口縁下 半～高台部 1/4	黒粒、白粒 /還元/灰	埋没土	大型で高台が高い。高台の断面三角形。口縁直線的に外方へ開く。焼成良好で上製。底部回転余切り後、高台を付け、周囲を丁家になる。外面比べ内面の口ロ口の痕跡顯著。9世紀後葉
7	282/242 /94	須恵器 坏	口(130) 高 3.7 底6.4 口 縁1/4、底部完	雲母、石英、 赤粒、角閃石 /酸化 /にぶい黄褐色	中央南寄 り /+40	口縁内彎して外方へ開き、端部で強く外反。底部回転余切り後、無調整。縁なつくり。胎土に赤色粒子を多量に含む。9世紀後葉
8	282/242 /94	須恵器 坏	口(140) 高 3.7 底(7.6) 1/4	雲母、赤粒、 角閃石/還元 /灰	中央西寄 り /+190	口縁内彎して開き、端部で肥厚して強く外反。口縁中位で器内や薄い。口ロ口右回転。底部回転余切り後、無調整。やや縁なつくり。口縁外面、最下位部分はナデ。9世紀後葉
9	282/242	須恵器 坏	高(13) 底 5.7 口縁下位 2/3、底部は ぼや	雲母、軽石、 白粒、角閃石 /酸化/灰黄	南隅/+40	口縁内彎して立ち上がる。底部回転余切りで、無調整。外面半成している。胎土に塵を含む。内面の一部と外面全体は黒色味を帯びる。
10	283/243 /95	須恵器 坏	高(30) 底 6.4 口縁下半 1/3、底部 1/3	雲母、白粒、 赤粒、角閃石 /還元 /にぶい黄褐色	中央 /+285	口縁内彎して開く。口縁器内や薄い。底部回転余切り後、無調整。口縁外面磨きか。胎土に塵を含む。

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
11	283/243	須恵器 環	高(14) 底5.2 口縁下位～底部 1/2は完	雲母、石英、 軽石/還元/黒	中央南寄り /+130	あげ底気味。底部回転糸切り。但し、摩滅により不明瞭。雑なつくり。軟質気味で内外面とも黒色味を帯びる。
12	283/243 /95	須恵器 環	口(138) 高 3.1 底(6.3) 口縁1/3、底 部破片	石英、軽石、 礫/還元 /暗青灰	埋没土	器高は低い。口縁内彎して外方へ大きく開く。口縁部やや肥厚し、外反。ロクロナテ弱い。底部回転糸切り後、無調整。胎土に礫を含む。9世紀後葉
13	283/243 /95	須恵器 須恵壺	高(12.2) 胴 部上半1/3、胴 部下半破片	黒粒、白粒、 赤粒/還元/灰	中央/11号 住東掘削 /+200 ～58.5掘り 方埋没土	肩の張り顕著。口縁・底欠損しているが、おそらく高台付の短頸壺と考えられる。ロク口痕顕著。8世紀
14	283/243	土師器 台付壺	高(2.6) 底 9.3 台部3/4	雲母、白粒 /酸化/橙	北東隅 /+130	台部強く外反して大きく開く。厚手。台部内外面ともナデ。台部外面粘土粒の痕跡が沈着状に残る。9世紀後葉
15	283/243	須恵器 環	破片	雲母、石英 /還元/灰	掘り方埋没 土	口縁部外反し、肩部でやや肥厚しておさめる。
16	283/243	土師器 小型壺	口(120) 高 (5.0) 口縁～ 胴部上位1/4	雲母、白粒、 角閃石/酸化 /白・よい赤褐	中央南東寄 り /+28.0	器内薄手。口縁外反して開き、肩部で強く外反。口縁と胴部量により明確に区分されている。最大径を胴部上半もつと考えられる。口縁強い横ナデ。胴部外面横へつ削り、上製。口縁下半から胴部最上位に炭化物が付着している。9世紀後葉
17	283/243	土師器 壺	口(20.0) 高 (7.0) 口縁 1.8、胴部上位 1/4	雲母、白粒、 角閃石/酸化 /褐	中央 /+12.0	胴部最大径を上位にもつ。薄手。口縁下半直立し、上半で強く外反して大きく開く。口縁横ナデ。胴部外面横後、縦へつ削り。胴部内面ナデ。内面、焼きムラあり。9世紀後葉
18	283/243	土師器 壺	口(22.0) 高 (3.0) 口縁 1.8	軽石、赤粒 /酸化 /白・よい赤褐	埋没土	口縁下半直線的に外傾気味に開き、上半で非常に強く外方へ屈曲。肩部外面で面をもつ。胴部最大径を上半もつと考えられる。口縁横ナデ。口縁端部外側で工具ナデにより面取り。9世紀後葉
19	283/243 /95	鉄製品 斧	住居北東部の床面近くから出土。袋状のやや窪みの鉄斧。長さ39cmほどの深さ。厚さ2mmほどの板状素材を折り曲げて成形している。			
20	283/243 /95	鉄製品 刀子	住居中央やや南よりの位置で、床面からやや浮いた状態で出土。刀子の茎から刃部基部の断片。存長13.25cm。茎は完し、長さ8.2cm。区幅1.5cm。棟厚0.4cm。			

45号住居

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	288/246 /95	須恵器 高台付埴	口14.9 高5.7 底6.2 口縁上 半2/3、口縁下 半～高台部完	軽石、赤粒、 角閃石/酸化 /橙	南東隅 /貯蔵穴内	口縁直線的に外傾し、肩部でやや肥厚。高台部断面台形。底部回転糸切り後、高台を付け、周辺部をなでる。やや雑。ロクロナテ弱く、外面強いロク口痕を残す。胎土に礫を含む。部分的に酸化焙焼成で焼きムラ。9世紀後葉
2	288/246 /95	須恵器 環	口13.0 高4.2 底5.7 口縁～ 底部2/3	雲母、白粒 /還元/灰黄	中央北東寄 り～中央 /+4.0 ～14.0	底部から内彎して外方へ開き、口縁端部で肥厚して強く外反。ロク口右回転。外面のロク口痕明瞭。底部回転糸切り後無調整。底部外面ソミ互重残る。環部外面最下位に刷毛ナデと工具底。口縁外面墨書。不明瞭。焼成は還元焙焼成だがやや軟質。黒斑あり。9世紀後葉
3	288/246	須恵器 高台付埴	高(3.7) 底6.3 口縁下半1/3、 底～高台部完	石英、軽石、 石英、白粒、 赤粒/還元 /白・よい黄橙	南東隅 /床直	口縁ロク口痕顕著。内彎気味に開く。底部厚い。ロク口右回転。底部回転糸切り後、高台を付け、周辺部をナデ。高台のつくりは丁家だがやや歪む。断面三角形。内面底部ロク口痕成形手持ちナデ。
4	288/246 /95	須恵器 高台付埴	高(1.8) 底5.5 口縁下位～高 台部3/4	雲母、片岩、 石英、白粒、 赤粒/酸化 /淡黄	埋没土	底部厚い。高台部断面三角形。底部回転糸切り後、高台を貼付し周辺部をナデ。高台丁家に付けている。
5	288/246	土師器 壺	高(2.0) 底 (10.5) 台部 下半1/3	石英、軽石、 角閃石/酸化 /橙	南東隅 /貯蔵穴内	台部肩部が外反気味に大きく開く。台部丁家横ナデ。
6	288/246	須恵器 環	破片	角閃石/還元 /灰白	埋没土	外面墨書。

第6章 遺物観察表

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
7	288/246	土師器 壺	口(182) 高 (39) 口縁 1/4	雲母、細砂 /酸化/橙	埋没土	口縁と胴部の境は明瞭でない。口縁下半で直立気味に開き、上半で外傾。口縁横ナデ。胴部外面傾強めのヘラ削り。9世紀後葉
8	288/246 /95	須恵器 坏	口149 高47 ~5.2 底63 口縁2/3、底 部完	石英、軽石、 赤粒、角閃石 /酸化/橙 /にぶい黄褐色	南東隅 /貯蔵穴内	口縁内彎気味に外方へ開き、端部で外反。外面のロクロ痕は明瞭に残る。ロクロ右回転。底部回転糸切り後、無調整。内外面墨書あり。軟質で焼きムラあり。9世紀後葉
9	288/246	土師器 壺	口(220) 高 (108) 口縁 1/4、胴部上位 1/8	石英、軽石、 赤粒、角閃石 /酸化/橙	南東隅 /貯蔵穴内 /掘り方埋 没土	口縁下半直立し、上半で強く外反。コ字状口縁。端部面取り。胴部大きく膨らみ肩が強く張る。最大径は胴部上半。口縁と胴部の境は明瞭に区分され、強い境。口縁横ナデ。胴部外面傾強いヘラ削り。胴部内面工具ナデ。9世紀後葉

46号住居

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	294/249 /97	須恵器 坏	口(130) 高 3.8 底7.0 底・体部は12 完口縁1/2	粗粒、黒粒、 白粒/還元 /灰白	中央北西寄 り~南壁際 /+3.0 ~25.0	体部から口縁斜め上方に横く開く。口縁端部丸みを持ち、僅かに外反。底部回転糸切り。体部内外面調整は見られない。口縁内外面横ナデ。口縁一部にスガが付着。9世紀中葉
2	294/249	土師器 坏	口(127) 高 (3.1) 口縁 ~底部上位 1/4	雲母、白粒、 赤粒/酸化 /橙	電燈埋没土	底薄手。口縁底部から局曲して外反気味に外方へ開く。口縁横ナデ。底部外面大雑把なヘラ削り。内面不規則で雑な磨文。9世紀中葉
3	294/249 /97	土師器 壺	口(200) 高 (26.0) 底 (5.7) 口縁 1/6、胴部1/2、 底部破片	石英、粗粒、 赤粒/酸化 /明赤褐色	電燈埋没部 /中央/床直 /掘り方埋 没土	胴部に最大径。下半急にすぼまる。口縁は下半で直立して開き、上半で強く外反。口縁横ナデ。胴部外面上位傾、中位から下位傾ヘラ削り。胴部内面幅広い工具によるナデ。9世紀前葉
4	294/249 /97	土師器 瓶	口25.8 高23.5 底10.6 は12完	雲母、粗粒、 黒粒、白粒、 角閃石/酸化 /明赤褐色	電燈埋没部 /床直	胴部最大径は上半、中位から下半すぼまる。厚い平底。口縁胴部上半から強く屈曲し、ほぼ横に外傾。胴部外面縦ヘラ削り。内面横ヘラナデ。底部孔の端部内側に縦指ナデ、内面粘土粗粒残る。口縁横ナデ。胎土に煤を多く含む。底部から口縁幅 15~20cmの範囲で黒色化。9世紀前葉

47号住居

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	297/251 /97	須恵器 高台付壺	口135 高30 底7.2 底・体 部はほぼ完、口 縁1/2	粗粒、黒粒、 白粒/還元/灰	南壁際 /+3.0	高台部ハ字状に開き、断面三角形でやや外反。口縁外反し、端部丸みをもつ。ロクロ右回転。底部回転糸切り後、高台を付す。高台接合部と口縁端部横ナデ。9世紀中葉~後葉
2	297/251	土師器 坏	口(119) 高 (29) 底(6.9) 口縁1/4	白粒、角閃石 /酸化/橙	南西隅 /床直	薄手。平底。口縁S字気味に屈曲しながら大きく外傾。底部ヘラ削り。体部無調整。口縁横ナデ。内面横ナデ。9世紀中葉
3	297/251 /97	土師器 壺	口(210) 高 (19.6) 口縁 2/3、胴部1/4	石英、軽石、 赤粒、角閃石 /酸化/橙	南壁際 /+2.0~6.0	胴部上位に最大径。薄手。口縁下半で直立して開き、上半で強く外反。端部短く内傾。胴部外面から斜めヘラ削り。内面幅広いヘラナデ。口縁横ナデ。胴部下位、部分的に粘土が付着している。カマド装着時のものか。9世紀中葉
4	297/251 /97	土師器 坏	口(136) 高 3.3 底部は12 完・口縁 2/3	雲母、粗粒、 黒粒、白粒 /酸化/赤褐色	南西隅 /掘り方埋 没土	唇高低く、平底。口縁強く外反。底部平らにヘラ削り。口縁内外面横ナデ。底部内面中央に墨書「乙」。9世紀中葉

48号住居

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	300/252	須恵器 壺	破片	黒粒、白粒 /還元/橙	中央北寄 り/+33.0	外面叩きの後、丁寧にナデ。叩きの痕跡は見られない。内面同心円状の当て目残る。

50号住居

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	304/254 /98	須恵器 高台付碗	高(1.9) 底 (5.4) 口縁 下位～高台部 1/2	軽石、赤粒、 角閃石/酸化 /ふい貴澄	埋没土	高台部断面台形。底部内面ロクロ成形による器面の凹凸顕著。底部回転糸切り。高台取り付け後、周辺部をナデ。

51号住居

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	311/259 /99	土師器 坏	口11.8 高3.6 ～3.8 底7.7 ほぼ完	軽石、粗粒、 角閃石/酸化 /橙	中央/+6	ほぼ平底。体部直線的に外傾し、口縁でやや外反気味に開く。やや歪底部幅広のヘラ削り。体部外面ナデ。口縁横ナデ。内面底部指ナデ。
2	311/259 /99	土師器 坏	口(13.6) 高 (2.5) 1/4	軽石、角閃石/ 酸化/橙	埋没土	器高低く偏平。口縁内彎しながら開き、端部で強く内傾。底部外面器面が摩滅して不明瞭だが、ヘラ削り調整。口縁横ナデ。
3	311/259 /99	土師器 坏	口(12.5) 高 4.1 底5.6 口縁1/4、底 部完	白粒、赤粒、 角閃石/酸化 /ふい貴澄	竜廻り方埋 没土	底部厚い。口縁内彎気味に開き、端部で外反。ロクロ成形。内面細かい丁寧なヘラミガキ。底部回転糸切り。
4	311/259	須恵器 蓋	口(14.0) 高 (1.7) 天井 1.6	白粒/還元/灰	埋没土	偏平な天井で積みが付く。先端は折し、かえりは消失する。外面自然釉が付着して調整は不明瞭だが、天井外面の上半部回転ヘラ削り。積み取り付け後、周辺部ナデナデ。
5	311/259 /99	須恵器 坏	口12.8 高4.3 底5.1 口縁 上半3/4、口縁 下半～底部完	軽石、赤粒/酸 化/灰黄	中央北寄り /埋没土	厚い上げ底。口縁内彎して外方へ開き、端部で肥厚して外反。底部回転糸切り後、外縁から口縁最下位に細かい工具による不規則なナデ。
6	311/259 /99	須恵器 高台付碗	高(3.0) 底 6.7 口縁下 半2/3、底部 完、高台部 破片	軽石/酸化 /ふい貴澄	中央/床直	高台が割断。割断面摩滅しているので高台なしで使用したのか？ロクロ右回転。ロクロ裏内外面とも顕著。底部回転糸切り後、高台接着面カキ目調整し、高台を付し、周辺部にナデ。底部内外面とも黒炭あり。
7	311/259 /99	須恵器 坏	口(12.3) 高 3.5 底(5.0) 1/3	石英、白粒/ 還元/灰	埋没土	底やや上げ底。口縁内彎気味に開き、端部で肥厚。底部回転糸切り後、無調整。口縁外面ロクロ板が明瞭に残る。
8	311/259 /99	須恵器 高台付碗	口(10.0) 高 4.4 底5.6 口縁下半～ 高台部ほぼ完	石英、軽石、 白粒、角閃石/ 酸化/ふい貴澄	中央東寄り	いびつな小型品。高台長く、断面三角形で縁なつくり。ロクロ右回転。底部の切り離し痕は不明。高台取り付け後、周辺部に強いナデ。高台部接着面カキ目調整が部分的に残る。ロクロ成形による器面の凹凸が内外面とも顕著。11世紀以降か。
9	311/259 /100	須恵器 高台付碗	口14.0 高5.1 底7.1 ほぼ完	黄砂、軽石、 粗粒、黒粒、 白粒/還元/灰	南東隅 /床直	高台低く、外傾し、接地面平につくられる。体部斜め上方に開き、最も薄手。ロクロ成形。底部回転糸切り後、高台を付す。口縁横ナデ。
10	311/259 /99	須恵器 高台付碗	高(4.6) 底 (6.8) 口縁 1/4、底部 4/5、高台部 1/3	雲母、白粒、 角閃石/還元 /灰	竜笑口/+4	高台部断面台形。器高は深く、薄手。口縁内彎して開く。底部回転糸切り後、高台を付け、周辺部にナデ。
11	311/259 /100	須恵器 高台付碗	口(14.5) 高 (5.6) 底(6.2) 1/2	粗粒、黒粒、 白粒/還元 /暗灰黄	竜南袖 /+245 ～34	高台断面台形。薄手。口縁内彎して開き、端部で強く外反。底部内面の中心部ロクロ成形により凸状。口縁外面上半部ロクロ板顕著。底部回転糸切り後、高台を付け、周辺部にナデ。胎土に塵を含む。還元焼成だが軟質気味。
12	311/259	須恵器 蓋	高(7.0) 破片	黒粒/還元 /灰白	北西隅 ～西壁際 /+9	頸部破片外面口縁を横ナデ。肩部平行叩き目部分が部分的に残る。内面口縁を横ナデ。肩部同心円状の面が目明瞭に残る。外面自然釉が付着。内面口縁に自然釉が付着。外面肩部に大量の釉が層になって付着している部分あり。内外面とも焼成時に付着したと粘土の塊が付いている。
13	312/260	須恵器 蓋	破片	石英/還元/灰	中央東寄り /+23.5 ～25	外面平行叩き目。内面同心円状当て目。胎土に塵を含む。
14	312/260	須恵器 蓋	破片	還元/灰	中央 /+10.5	外面平行叩き目。内面叩き目成形後、ナデ。一部当て目残る。胎土に塵を含む。

第6章 遺物観察表

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
15	312/260 /100	土師器 甕	□19.2 高 26.7 底4.6 口縁~胴部上 半定、胴部下 半~底部1/2	白粒、赤粒、 角閃石/酸化 /橙	中央~南壁 際 /甕地底部 、美口・青袖 ・青袖蓋 /+2~19.5	薄手。コ字状口縁で、強く張る肩から底部に向けて急激に細くす ばむ形。口縁横ナデ。胴部外面上位が横強いへろ削り。中位から 下位が縦へろ削り。底部へろ削り。胴部内面幅広の工具によるナ デ。胴部外面及び胴部内面粘土粒接合痕が明瞭に残る。胴部外面 の下半スガが付着。
16	312/260 /100	須恵器 坏	□(129) 高 3.9~4.4 底 5.8 口縁 1/3、底部完	白粒/還元 /灰	西壁際 /+1.5	甕器内に厚み。口縁内彎気味に開き、端部で僅かに外反。直口縁 外面口ロ口痕顯著。底部回転糸切り後、無調整。底部内外面とも に墨書「子」または「寺」。還元焼成だがやや軟質。
17	312/260 /100	須恵器 高台付甕	□(130) 高 2.8 底6.4 口 縁上半少々、 下半1/2、高台 部3/4	石英、軽石、 赤粒、角閃石 /酸化/橙	中央/+15	高台部断面三角形。器高は浅い。口縁内彎気味に大きく開き、端 部で外反。底部回転糸切り後、高台を付け、周辺部にナデ。上製。 底部外面墨書「中」か?
18	312/260 /100	須恵器 高台付甕	高(4.4) 底 7.8 口縁下半 ~高台部完	軽石、角閃石 /還元/浅黄	中央北西寄 り /+9	高台部断面三角形。上製。口縁直線的に外傾。内面の口ロ口痕は 顯著で、底凹凸が明瞭に残る。口ロ口右回転。底部回転糸切り後、 高台を付け、周辺部にナデ。底部外面墨書「矢」。焼きムラ。内 面中央と体部内面スガが付着。

52号住居

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	316/262 /101	土師器 坏	□130 高3.5 口縁3/4、底 部はほぼ完	石英、軽石、 角閃石/酸化 /にふい褐	北東隅 /+15	丸底で、器高は低い。口縁短く、やや外傾して開く。底部外面は ほぼへろ削り。内面ナデ。口縁横ナデ。底部内面粘土による凹凸 顯著。8世紀中葉
2	316/262 /101	土師器 坏	□122 高3.3 2/3	雲母、白粒、 角閃石/酸化 /橙	北東隅 /+16.5	器高低く偏平。口縁短く直立して開く。底部外面強い不定のへろ 削り。口縁と底部の間は無調整。底部外面縦割。内外面とも器面 の粗磨顯著。8世紀後葉
3	316/262 /101	土師器 坏	□(120) 高 3.7 1/2	白粒、角閃石 /酸化/橙	中央東寄り /+26	丸底で、器高はやや浅い。口縁直立気味に開く。底部外面へろ削 り。口縁と底部の間は無調整。口縁横ナデ。底部内面ナデ。8世 紀後葉
4	316/262 /101	土師器 坏	□135 高3.0 3/4	軽粒、白粒、 角閃石/酸化 /橙	甕埋没土	器高低く偏平。口縁短く端部で内傾。底部大縁把なへろ削り。口 縁と底部の間は無調整。口縁横ナデ。底部内面粘土による器面 の凹凸顯著。8世紀後葉
5	317/263 /101	土師器 坏	□(132) 高 (2.6) 口縁 ~一部1/4	石英、軽石、 角閃石/酸化 /橙	西壁際 /+24	口縁短く直立し、端部内傾。器高は浅く偏平。底部へろ削り。口 縁と底部の間は無調整。口縁横ナデ。8世紀後葉
6	317/263 /101	土師器 坏	□(126) 高 (2.7) 口縁 ~底部上半 1/2	石英、軽石、 角閃石/酸化 /橙	西壁際 /+24	器高低く偏平。口縁内彎して外方へ開く。底部との境は明確では ない。底部外面縁なへろ削り。口縁と底部の間はナデ。口縁横ナ デ。底部内面ナデ。8世紀後葉
7	317/263 /101	土師器 坏	□(126) 高 (3.3) 1/4	石英、白粒、 角閃石/酸化 /明赤褐	埋没土	丸底で器高は低い。底部から口縁へ内彎して外方へ開き、端部で 内傾。底部幅広の縁なへろ削り。口縁と底部の間は無調整。口縁 横ナデ。内面底部ナデ。
8	317/263 /101	土師器 坏	□120 高2.8 ~3.1 底8.1 底1/2	雲母、白粒、 角閃石/酸化 /黒褐	南東隅 /床直 /貯蔵穴内	平底。体部直線的に開き、口縁で強く外方へ屈曲。底部幅広のへ ろ削り。体部指ナデ。口縁丁寧な横ナデ。口縁外面横ナデの下に 工具による強いナデ。底部内面ナデ。
9	317/263 /101	土師器 坏	□(138) 高 (2.9) 口縁 1/3、底部 少々	雲母、軽粒、 赤粒/酸化 /明赤褐	埋没土	器高は低い。口縁底部から強く屈曲し、外傾して開く。底部へろ 削り。口縁横ナデ。口縁と底部の間は無調整部分あり。

53号住居

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	322/296 /102	土師器 坏	□12.6 高3.5 ほぼ定形	雲母、軽粒、 黒粒/酸化/橙	南東隅 /貯蔵穴内	器高低くやや偏平。口縁内彎するよう開く。底部へろ削り。体 部に対する調整は粗磨。口縁から内面丁寧な横ナデ。8世紀中葉

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
2	322/266 /102	土師器 杯	□128 高33 完形	石英、黒粒、 白粒、角閃石 /酸化/橙	南東隅 /貯蔵穴内	器高低く偏平。薄手。口縁上方に直線的に開く。底部には丁寧な へう削り。体部の調整は粗雑。口縁から内面全体横ナデ。8世紀 中葉
3	322/266 /102	土師器 杯	□134 高31 完形	粗粒、黒粒、 白粒、角閃石 /酸化/明褐		器高低く偏平。口縁上方に開く。底部へう削り。体部調整は粗雑。 口縁外面から内面横ナデ。8世紀中葉
4	322/266 /102	土師器 杯	□130 高37 3/4	石英、黒粒、 白粒、角閃石 /酸化/赤褐	中央東寄り /+16	丸底で偏平。口縁部との境で屈曲し、直線的に開く。底部へう 削り。口縁から内面横ナデが施されるが、体部外周粗雑なナデな どしか見られない。底部内面中央付近に縦割が見られるが、文字 かどうかは判然としない。9世紀前葉
5	322/266 /102	土師器 杯	□128 高35 完形	軽石、角閃石 /酸化/橙	南壁 /+185	丸底で器高はやや浅い。口縁直立して開き、端部で内傾。底部丁 家なへう削り。口縁と底部の間は無調整。口縁横ナデ。内面底部 に不規則な暗文。9世紀前葉
6	322/266 /102	土師器 杯	□120 高54 ほぼ完形	石英、軽石、 角閃石/酸化/ 橙	竈北袖脇 /南壁際 /+15-31	丸底気味で、底部から内脣して開き、口縁直立気味で端部が尖る。 底部不定雑なへう削り。口縁と底部の間は無調整。口縁横ナデ。 底部内面粘土紐の凹凸顯著。底部外面「寺」の墨書。
7	322/266 /102	土師器 杯	□135 高 (29) 底部 1/3、体・口縁 1/2	雲母、粗粒、 黒粒、白粒、 /酸化/明褐	北西壁際 /床直	器高低く偏平。口縁斜め上方に内脣しながら開き、端部僅かに内 側に屈曲。体部へう削り。体部の調整は粗雑。口縁から内面横ナ デ。8世紀中葉
8	322/266 /102	土師器 杯	□128 高32 1/2	白粒、角閃石 /酸化/橙	埋没土	器高は浅く偏平。口縁短く直立。底部へう削り。口縁と底部の間 は無調整。口縁横ナデ。底部内面粘土紐凹凸顯著。8世紀中葉
9	322/267 /102	土師器 杯	□128 高36 ほぼ完形	石英、黒粒、 白粒、角閃石 /酸化/明赤褐	南壁際 /+15-16	丸底で器高低く偏平。歪み。口縁斜め上方に緩く開き、端部で僅 かに内脣。底部へう削り。口縁から内面横ナデ。体部粗雑なへう 削りと横ナデ。8世紀中葉
10	323/267 /102	須恵器 杯	□137 高33 底67 口縁 3/4、底部完	粗粒、白粒、 /酸化/ /にふい黄	埋没土	あけ底で器高は低い。口縁直線的に大きく開く。底部回転糸切り 後、周辺部を回転へう削り調整。底部外面「寺」の墨書。9世紀 前葉
11	323/267 /103	須恵器 高台付盤	□21.2 高36 -39 底144 ほぼ完形	軽石、白粒 /還元/暗青灰	北西壁際 /+17	大型品。底部から体部丸みをもって開き、口縁で屈曲して外傾。 高台部長く、ハ字状に開き、断面三角形。ロクロ右回転。底部の 切り離し痕は不明。底部外面回転へう削り。高台を付けた後に周 辺部をナデ。高台接着部分にはヒ割れしているところ。底部外面 「寺」の墨書。内面不規則な墨書による痕跡。9世紀
12	323/267 /102	須恵器 杯	□139 高42 底85 底・体 部ほぼ完、口 縁1/2	石英、粗粒、 黒粒/還元 /灰白自然輪 縁灰	埋没土	平底で厚みを持ち、体部から口縁斜め上方に開く。歪む。ロクロ 右回転。底部回転糸切り後、底部周辺に右回転へう削り。薄く自 然輪がかかる。8世紀中葉
13	324/268 /102	須恵器 杯	□144 高42 底95 ほぼ完形	白粒、角閃石 /還元/灰白	埋没土	平底で厚手。体部から口縁にかけ僅かに内脣しながら斜め上方に 開く。底部回転糸切り。後周辺を左へう削りで調整し、体部も左 回転へう削り。8世紀後葉
14	324/268 /102	須恵器 高台付端	□(17.8) 高 (7.4) 1/3	白粒/還元/灰	中央東寄り /埋没土	大型品。器内口縁下手で厚く、先端部で薄く直。口縁は直線的 に外方へ開く。高台部長く。底部の切り離し痕は不明。高台を 付けた後、周辺部をナデ。ロクロ左回転か? 9世紀前葉
15	324/268	須恵器 高台付盤	高(2.0) 底 (15.6) 底部 -高台部1/3	白粒/還元/ /にふい黄	中央-南壁 際/床直 ~+23	高台長脚で細くハ字状に大きく開く。大型品。底部切り離して回 転へう削り調整後、高台取り付け周辺部をナデ。8世紀中葉

54号住居

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	327/269 /104	須恵器 蓋	□148 高24 灰色	黒粒、白粒 /還元/灰	埋没土	偏平なで上製。天井蓋部には中央がほんだ職状の溝みが付く。 天井偏平で端部緩く下降し、鈍角な筒状に屈曲。ロクロ右回転。 天井端部に横ナデ。内面を研磨。天井外面自然輪の痕跡。8世紀 後葉

6号掘立柱建物

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	262/281	土師器 杯	□(16.2) 高 (3.0) 口縁- 底部1/8	雲母、白粒 /還元/橙		大型品。器高低く偏平。口縁底部から緩く内脣して開く。底部雑 なへう削り。口縁から内面横ナデ。内面の横ナデは強くて丁寧。

第6章 遺物観察表

12号掘立柱建物

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	282/293 /109	鉄製品 刀子	柱穴覆土から出土。蓋は完するが、刃部過半を欠く。存長9.75cm。基部長6.8cm。最大幅1cm。厚さ0.45cm。先端に向けて徐々に細く、薄くなる。両区で、幅1.6cmから先端部幅1cmへと狭まる。棟の厚さは0.4cmある。			

21号掘立柱建物 ビット3

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	310/312	土師器 坏	口(156) 高 (29) 破片	雑粒、黒粒 /酸化/明赤褐	埋没土	体部僅かに残存。口縁縁く外反しなら開く。端部僅かに内側に屈曲。体部へう割り。口縁横ナデ。体部内面放射線状の磨き痕残る。8世紀中葉

2号井戸

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	328/324 /116	須恵器 高台付埴	口(158) 高 8.4 底(9.2) 1/3	軽石、黒粒 /還元/灰		口縁内彎して開き、端部で外反。高台部断面台形で厚く、長い。ロクロ右回転。ロクロ目は内外面とも明瞭に残る。底部回転糸切り後、高台を付け、周辺部をナデ。9世紀中葉
2	328/324 /116	須恵器 坏	口(124) 高 3.4 底(7.8) 1/4	白粒、角閃石 /還元/灰		口縁直線的に外方へ開く。底部回転ヘラ切り。ロクロ目は顕著。上敷。8世紀後葉
3	328/324 /116	須恵器 坏	口(128) 高 3.9 底(6.8)	石英、軽石、 角閃石/還元 1/6		底部厚手。口縁直線的に外方へ開き、端部で僅かに外反。ロクロ右回転。底部回転糸切り後、周辺部に手持ちによる不定ナデ。口縁下縁は不定な凹凸がある。9世紀中葉
4	328/324 /116	土師器 坏	口(136) 高 3.5~3.6 口縁 部1/2、体底部 2/3	白粒、赤粒、 角閃石/酸化 /灰		器高低く偏平。口縁底部から丸みをもって開き、やや内彎。底部不定ヘラ割り。口縁と底部の間に無調整部分あり。口縁横ナデ。底部内面ナデ。8世紀中葉
5	328/324 /116	土師器 坏	口(123) 高 3.4 1/2	白粒、角閃石 /酸化/褐		器高低く丸底。底やや厚底。口縁屈曲し、直立して開く。底部外面幅広の雑なヘラ割り。口縁と底部の間に無調整部分あり。底部内面ナデ。8世紀中葉
6	328/324	土師器 坏	口(140) 高 3.0 1/4	雑粒、白粒、 角閃石/酸化 /橙		器高低く偏平。底部の形はいびつ。底部から口縁へ緩く屈曲し、内彎してやや外方へ開く。底部幅広の雑なヘラ割り。口縁と底部の間に無調整。口縁横ナデ。底部内面ナデ。8世紀中葉
7	329/325	土師器 坏	口(142) 高 3.2 口縁部 1/1、底部1/3	雲母、軽石、 角閃石/酸化 /橙		器高低く偏平。底部厚い。底部から口縁へ緩く屈曲し、内彎してやや外方へ開く。底部幅広の雑なヘラ割り。口縁と底部の間に無調整。口縁横ナデ。底部内面ナデ。底部磨減して調整不明瞭。8世紀中葉
8	329/325	土師器 坏	口(134) 高 (2.2) 口縁 ~底部上半 1/4	雲母、角閃石 /酸化/橙		器高低く偏平。底部から口縁へ緩く内彎してやや外方へ開く。器内やや厚手。底部へう割り。口縁と底部の間に無調整部分あり。口縁横ナデ。8世紀中葉
9	329/325	須恵器 蓋	高(1.6) 底 (1.7) 天井 部1/5	黒粒、白粒 /還元/灰		つまみの形状は不明。天井上半回転ヘラ割り。天井内面ロクロ目を顕著に残す。ロクロ右回転。8世紀中葉~後葉か
10	329/325 /116	土師器 甕	口(121) 高 (20.8) 胴部 1/4、口縁部は ぼ完存	雑粒、黒粒、 白粒/酸化 /赤褐		最大径は胴部上半。器内厚く口縁で厚みを増す。口縁縁やかなくの字状。端部僅かに内彎。胴部下半縦、中位には斜め、上半は斜めから横へう割り。口縁内外面横ナデ、胴部内面横ヘラナデ。8世紀中葉~後葉か
11	329/325	須恵器 甕	口(25.8) 高 (6.8) 破片	石英、軽石、 黒粒/還元/灰		口縁大きく外反し、端部外面段を有する。内面ロクロ目が明瞭に残る。内面縁縁から自然軸が付着している部分あり。

3号井戸

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	331/326 /117	須恵器 高台付埴	口(134) 高 5.9 底(5.9) 口縁~高台部 1/4	軽石/還元/灰		高台部断面三角形。口縁内彎して開き、端部で肥厚気味に外反。ロクロ右回転。底部ナデ。高台を付け後、周辺部をナデ。口縁外面のロクロ目は明瞭に残る。つくりが丁寧。酸化焙焼気味の部分もあり。灰褐色。9世紀後葉
2	331/326	須恵器 長頸瓶	高(3.2) 底 (9.6) 底~ 高台部1/4	石英、黒粒 /還元/灰		高台部断面台形。底部回転ヘラナデ。付け高台で周辺部ナデ。内面のロクロ目は顕著。底部内面と高台外面の下半自然軸が付着している。

No.	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
3	331/326 /117	灰輪陶器 埴	高(3.3) 底 8.7 口縁下半 1/2、底～高台 部2/3	白粒/還元/灰		底部から内脣して大きく外方へ開く。三日月高台。ロクロ左回転か？底部回転へ切り後、回転へラナデ。高台取り付け後、周脣をナデ。口縁下位は回転へラ開り。胎土部分は確認できなかった。9世紀後半
4	331/326 /117	須恵器 高台付埴	高(1.4) 底 6.5 底～高台 部完存	雲母、石英 /還元/灰		高台部断面台形。底部回転赤切り後、高台を付け、周脣部をナデ。やや雑。胎土に雲母を多く含む。
5	331/326 /117	須恵器 坏	口12.3 高3.6 ～3.9 底5.3 口縁部3/4、底 部完存	雲母、片着、 赤粒、角閃石 /還元 /ふい塵		口縁直線的に外方へ開き、端部でやや肥厚して丸くおさめる。外面で口縁下半から底部に部分的に厚み4mm程の胎土の塊が付着している。焼成時に付着した粘土か。底部回転赤切り後、無調整。ロクロ成形直は内外面とも明瞭に残る。内外面とも黒直により器面の大部分が黒色。胎土に塵を含む。外面墨書。9世紀後半
6	331/326 /117	須恵器 坏	口12.9 高3.1 ～4.1 底7.2 口縁部上半 4/5、口縁部下 半～底部完存	雲母、石英、 赤粒/還元 /灰		いびつ口縁直線的に外傾して開き、端部で肥厚している。底部内面中心部がロクロナデにより凸状。底部回転赤切り後、無調整。胎土は粗く、口縁にヒビ割れ部分あり。9世紀後半
7	331/326	須恵器 壺	破片	石英/還元/灰		外面平行叩き目。内面同心円状の当て目。内面接合痕。
8	331/326	須恵器 壺	破片	白粒/還元/灰		外面平行叩き目後、ナデ。いぶされて黒色。内面同心円状の当て目残る。焼成は堅緻。
9	332/327	須恵器 壺	破片	石英、白粒 /還元/灰		胴部上位破片。外面平行叩き目。内面同心円状の当て目。内面接合痕。
10	332/327	須恵器 壺	破片	白粒/還元 /灰黄		外面椅子目状叩き後、粗いナデ。内面同心円状当て目。焼成はやや軟質。
11	332/327	須恵器 壺	破片	黒粒、白粒 /還元/灰		外面叩き目後、ナデ。内面同心円状の当て目が明瞭に残る。外面のほぼ全面自然釉が付着。
12	332/327	須恵器 壺	破片	白粒/還元 /灰		胴部上位破片。外面平行叩き目後、粗いナデ。内面同心円状当て目。内外面とも脣部付近はナデ。

4号井戸

No.	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	334/327	土師器 壺	口(23.6) 高 (5.9) 口縁部 1/8	石英、軽石、 角閃石/還元 /橙	埋没土	口縁外反して大きく開く。胴部外面横へラ開り。胴部内面ナデ。口縁横ナデ。8世紀中葉

39号土坑

No.	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	338/333 /119	石製品 紡錘車	長40 幅4.0 厚1.7 重31.3 ほぼ完存	石材蛇紋岩	埋没土	扁平な円錐状。全面細かな加工痕。上製。

9号土坑

No.	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	340/337	土師器 壺	口(14.0) 高 (18.8) 胴部・ 口縁部1/2	黒粒、白粒、 角閃石/還元 /黄	土坑埋没土	胴部最大幅が上半位置する。下半向かうに従って、幅は小さくなる。口縁短く、胴部からはほぼ直線的に立ち上がるが、端部で外反。胴部外面へラ開り。下半から中位は縦、上半は横か斜めのケズリ。胴部内面へラナデ。口縁内外面横ナデ。9世紀後半

94号土坑

No.	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	342/341 /120	須恵器 高台付埴	口(15.6) 高 5.5 底(8.0) 1/3	粗粒、黒粒 /還元/灰	埋没土上位	体部から口縁斜め上方にはほぼ直に開く。口縁内脣し、端部丸みをもつ。高台部やや外傾し、八字状を呈す。ロクロ成形。坯底部回転赤切り後、高台を付す。調整は、高台と底部の接合部、口縁外面および端部の横ナデ以外は認められない。9世紀中葉

第6章 遺物観察表

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
2	342/341 /120	須恵器 坏	口11.8 高3.7 底5.2 底部 完存、体・口縁 部1/4	粗粒/還元/灰	埋没土上位	口径に比して底部が小さい。体部から口縁直線的に開く。体部に歪み。ロクロ右回転。口縁内外面の横ナデ以外の調整は認められない。体部未調整のためロクロ痕が明瞭に残る。底部回転糸切り。糸切り痕も無調整。9世紀中葉
3	342/341	須恵器 坏	口(15.6) 高 (3.9) 破片	粗粒、黒粒、 白粒/還元 /に白黄	埋没土上位	体部から体部、口縁縁く開き、肩部で外反。口縁端部丸みをもつ。ロクロ成形。体部、口縁ロクロ痕がはっきりと残る。
4	342/341 /120	土師器 坏	口11.4 高 (3.6) 底7.8 体・口縁部2/3	石英、粗粒、 黒粒、赤粒、 角閃石/酸化 /明赤	埋没土上位	底全て欠損するが偏平なつくり。体部から口縁斜め上方に直線的に開く。底部と体部へう割り。口縁外面から内面横ナデ。9世紀中葉
5	342/341 /120	土師器 坏	口(12.4) 高 (3.7) 底8.0 体・口縁部1/2	軽石、粗粒、 白粒/還元 /黄化/明赤	埋没土上位	底偏平。口縁端部で外反。体部へう割り。口縁外面から内面横ナデ。残存する体部中ほどに墨書「一」。9世紀中葉
6	342/341 /120	土師器 坏	口(12.0) 高 (3.3) 破片	石英、粗粒、 黒粒、白粒 /酸化/橙	埋没土上位	底平らにつくられ、体部、口縁斜め上方に開く。口縁端部で外反。底部・体部へう割り。口縁と内面横ナデ。体部、口縁一部が黄赤で赤色化。周辺にスガが付着。9世紀中葉
7	342/341 /120	土師器 坏	口(12.6) 高 (3.2) 底(8.4) 破片	粗粒、黒粒、 白粒、角閃石 /酸化/明赤	埋没土上位	底偏平なつくりで、体部から口縁外反しながら開く。底部丁寧な、体部粗雑なへう割り。口縁から内面横ナデ。9世紀中葉

45号土坑

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	344/345 /121	土師器 台付罌	高(4.3) 底 (10.2)脚上部 のみ1/3	石英、軽石、 赤粒/酸化/橙	埋没土	厚手で、肩部縁く外反しながら下降する。脚台部の上位には細かなへう割り、中位には細かな横ナデ。9世紀後葉

10号ピット

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	346/349	土師器 罌	口(19.6) 高 (6.6) 口縁 部1.6、胴部上 位1/4	黒粒、白粒、 角閃石/酸化 /橙	埋没土	胴部と口縁縁は不明瞭で、口縁内傾気味に直立し、上位で強く屈曲して外傾。胴部強めのへう割り。口縁横ナデは強く、肩部外面が凹む。口縁横ナデ後、口縁と胴部の境に工具による強いナデ。8世紀後葉

1号溝

No	図/写真	器種	法量/残存	胎土/焼成/色	位置	所見
1	369/371	灰輪陶器 瓶	高(2.5) 肩 部破片	黒粒/還元 /灰白	埋没土	残存する肩部傾角に屈曲。ロクロ成形。外面輪索。
2	369/371	土師器 坏	口(13.8) 高 (3.0) 口縁 部破片	雲母、白粒、 角閃石/酸化 /明赤	埋没土	底大部分を欠損するが、やや偏平な丸底。口縁短く、上方に開く。底部外面へう割り。口縁外面から内面横ナデ。9世紀前葉
3	369/371	須恵器 高台付罌	高(1.4) 底 8.4 底部破 片	石英、白粒、 赤粒/還元/灰	埋没土	高台ハ字状に外傾し、肩部でやや肥厚。ロクロ右回転。底部に回転糸切り。9世紀中葉
4	369/371	須恵器 罌	胴部破片	白粒、角閃石 /還元/灰	埋没土	外面叩きが残る。内面同心円状の当て目が明瞭に残る。外面自然輪。
5	369/371	土師器 坏	口(11.8) 高 (2.8) 破片	角閃石、軽石 /酸化/黄黄	埋没土	丸底で口縁との境に弱い稜を持つ。口縁短く、斜め上方に直線的に開く。底部へう割り、口縁周辺に横ナデ。底部内面放射状の増文。8世紀前葉

第7章 自然科学分析報告

I. 江木下大日遺跡の土層とテフラ

株式会社 古環境研究所

1. はじめに

群馬県中央部とその周辺に分布する後期更新世以降に形成された地層の中には、赤城、榛名、浅間など北関東地方とその周辺の火山、中部地方や中国地方さらには九州地方などの火山に由来するテフラ（火山砕屑物、いわゆる火山灰）が多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっていく。

そこで、年代が不明な土層や水田跡が検出された江木下大日遺跡においても、地質調査を行い土層層序を記載するとともに、テフラ検出分析と屈折率測定を行って指標テフラの層位を把握し、土層の年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象となった地点は、B地点、C地点、D地点の3地点である。

2. 土層の層序

(1) B地点

B地点では、下位より灰色砂質土（層厚4cm以上）、暗灰色砂質土（層厚8cm）、灰白色軽石に富む暗灰色土（層厚4cm）、砂混じり黒灰色泥層（層厚6cm）、灰色砂層（層厚3cm）、白色軽石混じり黒泥層（層厚2cm）、軽石の最大径98mm、石質岩片の最大径49mm）、灰色砂層（層厚6cm）、黒灰色泥層（層厚5cm）、黄灰色シルト層（層厚0.8cm）、黒泥層（層厚3cm）、成層したテフラ層（層厚12.7cm）、桃色細粒火山灰層と青灰色砂質細粒火山灰層のブロックを含む暗灰色土（層厚16cm）、砂混じり暗灰色土（層厚11cm）、黄灰色砂層（層厚0.8cm）、暗灰褐色土（層厚7cm）、灰褐色砂質土（層厚19cm）が認められる。

これらのうち成層したテフラ層は、下位より灰褐色粗粒火山灰層（層厚2cm）、橙褐色粗粒火山灰層（層厚2cm）、暗灰色粗粒火山灰層（層厚1cm）、黄灰色粗粒火山灰層（層厚2cm）、暗灰色粗粒火山灰層（層厚0.8cm）、褐色粗粒火山灰層（層厚1.5cm）、桃色細粒火山灰層（層厚3cm）、黄白色粗粒火山灰層（層厚0.4cm）からなる。このテフラ層は、層相から1108（天仁元）年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ（As-B、荒牧、1968、新井、1979）に同定される。ここでは、As-Bの直下から水田遺構が検出されている。

(2) C地点

C地点では、下位より白色軽石混じり黒灰色泥層（層厚5cm以上）、軽石の最大径23mm）、葉理が発達した灰色砂層（層厚9cm）、黒灰色泥層（層厚8cm）、黄灰色シルト層（層厚0.3cm）、黒泥層（層厚2cm）、成層したテフラ層（層厚11.4cm）、暗褐色泥層（層厚0.2cm）、青灰色砂質細粒火山灰層（層厚1.2cm）、桃色細粒火山灰層と青灰色砂質細粒火山灰層のブロックを含む暗灰色土（層厚15cm）、砂混じり暗灰色土（層厚12cm）、黄灰色砂層（層厚2cm）、暗灰褐色土（層厚12cm）、灰褐色砂質土（層厚11cm）が認められる。

これらのうち成層したテフラ層は、下位より褐色粗粒火山灰層（層厚2cm）、橙褐色粗粒火山灰層（層厚1.3cm）、暗灰色粗粒火山灰層（層厚1cm）、黄灰色粗粒火山灰層（層厚2cm）、暗灰色粗粒火山灰層（層厚0.8cm）、褐色粗粒火山灰層（層厚2cm）、桃色細粒火山灰層（層厚2cm）からなる。このテフラ層は、層相からAs-Bに同定される。ここでは、As-Bの直下から水田遺構が検出されている。またAs-Bの上位に、

暗褐色泥層を挟んで堆積する青灰色砂質細粒火山灰層については、層位や層相などから1128（大治3）年に浅間火山から噴出したと考えられる浅間柏川テフラ（As-Kk, 早田, 1991, 1995）に同定される。

(3) D地点

D地点では、下位より白色軽石混じり暗灰色泥層（層厚3cm以上、軽石の最大径39mm）、灰色砂層（層厚2cm）、黒灰褐色泥層（層厚5cm）、灰色砂層（層厚12cm）、砂混じり暗灰褐色泥層（層厚15cm）、黒泥層（層厚4cm）、成層したテフラ層（層厚8cm）、暗灰色土（層厚3cm）、砂混じり暗灰色土（層厚12cm）、黄灰色砂層（層厚0.8cm）、暗灰褐色土（層厚12cm）、色調がとくに暗い暗灰褐色砂質土（層厚14cm）、灰褐色砂質土（層厚13cm）が認められる。

これらのうち成層したテフラ層は、下位より灰褐色粗粒火山灰層（層厚2cm）、橙褐色粗粒火山灰層（層厚2cm）、黄灰色粗粒火山灰層（層厚1.5cm）、褐色粗粒火山灰層（層厚0.5cm）、桃色細粒火山灰層（層厚2cm）からなる。このテフラ層は、層相からAs-Bに同定される。ここでも、As-Bの直下から水田遺構が検出されている。

3. テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

テフラの特徴とその降灰層準を把握するため、B地点、C地点、D地点の3地点において基本的に厚さ5cmごとに設定採取された試料のうち、26点を対象にテフラ検出分析を行った。分析の手順は次の通りである。

- 1) 試料10gを秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80°Cで恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下で観察し、テフラ粒子の量や特徴を把握。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表1に示す。B地点では、試料8より上位で軽石が認められた。ここでは、いずれの試料からも比較的良く発泡した灰白色軽石（最大径9.4mm）が認められ、とくに試料8に多い。この軽石の班晶としては、斜方輝石や単斜輝石が認められる。また試料7から試料4にかけては、発泡がさほど良くない白色軽石（最大径7.0mm）が少量ずつ認められる。軽石の班晶には、角閃石や斜方輝石が認められる。

C地点では、試料17から試料11にかけて、比較的良く発泡した灰白色軽石（最大径8.1mm）が認められる。軽石は、試料17や試料15に多く含まれている。この軽石の班晶としては、斜方輝石や単斜輝石が認められる。また試料17から試料13にかけては、発泡がさほど良くない白色軽石（最大径3.8mm）が認められる。この軽石についても、やはり試料17や試料15に多く認められる傾向にある。軽石の班晶には、角閃石や斜方輝石が認められる。さらに試料9から上位で、比較的良く発泡した淡褐色軽石（最大径5.0mm）が認められる。軽石の班晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。この軽石は、試料9や試料7に多く含まれており、その産状などから試料9のすぐ下位の成層したテフラ層に由来すると考えられる。

D地点では、いずれの試料からも軽石が検出された。いずれの試料にも、比較的良く発泡した灰白色軽石（最大径5.1mm）が認められ、とくに試料9から試料3にかけて多く認められる。この軽石の班晶としては、斜方輝石や単斜輝石が認められる。また試料9から試料3にかけて、発泡がさほど良くない白色軽石（最大径5.0mm）が少量ずつ認められる。この軽石の班晶には、角閃石や斜方輝石が認められる。

4. 屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法

灰白色軽石が多く認められたB地点の試料8および1783(天明3)年に浅間火山から噴出した浅間A軽石(As-A, 荒牧, 1968, 新井, 1979)が含まれる可能性が考えられたC地点の試料9および試料5の3点について、温度一定型屈折率測定法(新井, 1972, 1993)により屈折率の測定を行った。

(2) 測定結果

屈折率測定の結果を表2に示す。B地点の試料8に含まれる火山ガラスの屈折率(n)は、1.515-1.520である。重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石が含まれている。斜方輝石の屈折率(γ)は、1.707-1.711である。C地点の試料9に含まれる火山ガラスの屈折率(n)は、1.525-1.530である。重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石が含まれている。斜方輝石の屈折率(γ)は、1.707-1.711である。試料5に含まれる火山ガラスの屈折率(n)は、1.526-1.532である。重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石が含まれている。斜方輝石の屈折率(γ)は、1.707-1.711である。

5. 考察

屈折率測定の対象となった試料のうち、B地点の試料8に多く含まれるテフラ(灰白色軽石など)については、軽石の岩相、重鉱物の組合せ、さらに火山ガラスや斜方輝石の屈折率などから、4世紀中葉^{*1}に浅間火山から噴出した浅間C軽石(As-C, 荒牧, 1968, 新井, 1979)に由来すると考えられる。軽石の産状から、C地点では試料17以下、またD地点では試料9以下の層位に降灰層準があるとお考えられる。

また、C地点の試料9や試料5に含まれるテフラ(淡褐色軽石など)については、軽石の岩相、重鉱物の組合せ、さらに火山ガラスや斜方輝石の屈折率などから、As-Bに由来すると考えられる。As-Aに由来するテフラ粒子については、検出されなかった。

またこれらの間に層位がある白色軽石については、軽石の岩相や層位などから、6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳洪川テフラ(Hr-FA, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992)、または6世紀中葉に榛名火山から噴出した榛名伊香保二ツ岳軽石(Hr-FP, 新井, 1962, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992)に由来すると考えられる。本遺跡とテフラの分布の関係からは、前者の可能性がより高いと思われる。軽石の産状から、B地点では試料7付近、C地点では試料17以下、またD地点では試料9以下の層位に降灰層準があると考えられる。

6. 小結

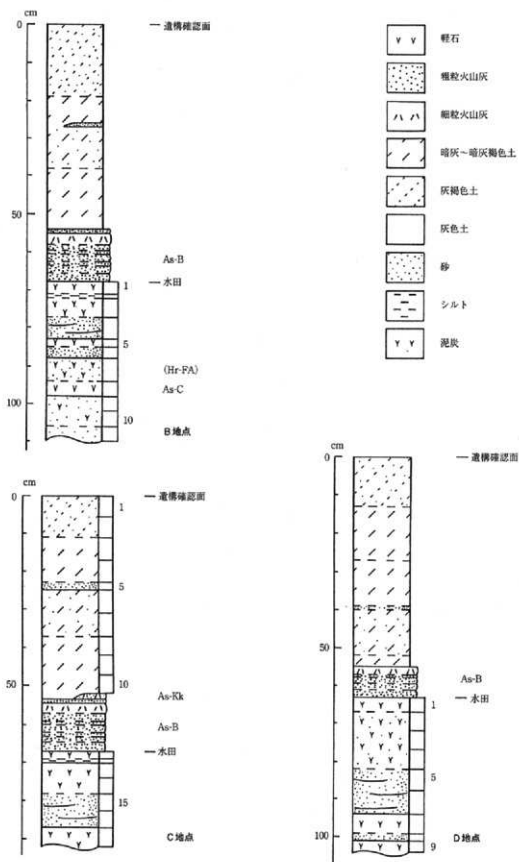
江木下大日下遺跡において、地質調査、テフラ検出分析、屈折率測定を行った。その結果、下位より浅間浅間C軽石(As-C, 4世紀中葉^{*1})、榛名二ツ岳洪川テフラ(Hr-FA, 6世紀初頭)、浅間Bテフラ(As-B, 1108年)、浅間柏川テフラ(As-Kk, 1128年)などを検出することができた。発掘調査で検出された水田遺構は、As-Bの直下に層位がある。

*1 現在では4世紀を遡るとする説が有力になっているようである(たとえば、若狭, 2000)。しかし、具体的な年代観が示された研究報告例はまだない。現段階においては「3世紀後半」あるいは「3世紀終末」と考えておくのが妥当なのかも知れないが、土器をもとにした考古学的な年代観の変更については、考古学研究者による明確な記載を待ちたい。

文献

- 新井房夫 (1962) 関東盆地北西部地域の第四紀編年. 群馬大学紀要自然科学編, 10, p.1-79.
- 新井房夫 (1972) 斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定—テフロクロロジーの基礎的研究. 第四紀研究, 11, p.254-269.
- 新井房夫 (1993) 温度一定型屈折率測定法. 日本第四紀学会編「第四紀試料分析法—研究対象別分析法」, p.138-148.
- 荒牧重雄 (1968) 浅間火山の地質. 地団研専報, 14, 45p.
- 町田 洋・新井房夫 (1992) 火山灰アトラス. 東京大学出版会, 276p.
- 坂口 一 (1986) 榛名二ツ岳起源 FA・FP 層下の土師器と須恵器. 群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」, p.103-119.
- 早田 勉 (1989) 6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害. 第四紀研究, 27, p.297-312.
- 早田 勉 (1991) 浅間火山の生い立ち. 佐久考古通信, no.53, p.2-7.
- 早田 勉 (1995) テフラからさぐる浅間山の活動史. 御代田町誌自然編, p.22-43.
- 若狭 徹 (2000) 群馬の弥生土器が終わるとき. かみつけの里博物館編「人が動く・土器も動く—古墳が成立する頃の土器の交流」, p.41-43.

I. 江木下大日遺跡の土層とテフラ



試料採取地点の土層柱状図 (数字はテフラ分析の試料番号)

表1 テフラ検出分析結果

地点	試料	軽石の量	軽石の色調	軽石の最大径
B地点	1	+	灰白	3.6
	2	+	灰白	1.2
	3	+	灰白	2.6
	4	+++	灰白>白	5.3, 7.0
	5	+++	灰白>白	4.3, 5.9
	6	+++	灰白>白	4.5, 3.2
	7	+++	灰白>白	7.8, 3.1
	8	+++	灰白	9.4
	9	-		
	11	-		
	C地点	1	++	淡褐
3		+++	淡褐	4.1
5		+++	淡褐	3.1
7		+++	淡褐	3.8
9		+++	淡褐	5.0
11		+	灰白	3.2
12		+	灰白	1.3
13		+	灰白>白	1.5, 0.6
15		+++	灰白>白	8.1, 3.8
17		+++	灰白>白	5.9, 3.1
D地点	1	+	灰白	2.7
	3	+++	灰白>白	5.1, 3.6
	5	+++	灰白>白	5.1, 5.0
	7	+++	灰白>白	6.0, 2.8
	8	+++	灰白>白	3.3, 3.9
	9	+++	灰白>白	4.4, 4.2

++++: とくに多い, +++: 多い, ++: 中程度, +: 少ない,
 -: 認められない, 最大径の単位は, mm.

表2 屈折率測定結果

地点	試料	火山ガラス (n)	重鉱物	斜方輝石 (γ)	角閃石 (n ₂)
B	8	1.515-1.520	opx>cpx	1.707-1.711	-
C	5	1.526-1.532	opx>cpx	1.707-1.711	-
C	9	1.525-1.530	opx>cpx	1.707-1.711	-

屈折率は温度一定型屈折率測定法 (新井, 1972, 1993) による。

opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石。

II. 江木下大日遺跡におけるプラント・オパール分析

株式会社 古環境研究所

1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸 (SiO_2) が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石 (プラント・オパール) となって土壌中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査が可能である (杉山, 2000)。

2. 試料

試料は、B地点、C地点、D地点の3地点から採取された計18点である。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

3. 分析法

プラント・オパール分析は、ガラスビーズ法 (藤原, 1976) を用いて、次の手順で行った。

- 1) 試料を105℃で24時間乾燥 (絶乾)
- 2) 試料約1gに対し直径約40 μm のガラスビーズを約0.02g添加 (電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量)
- 3) 電気炉灰化法 (550℃・6時間) による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射 (300W・42KHz・10分間) による分散
- 5) 沈底法による20 μm 以下の微粒子除去
- 6) 封入剤 (オイキット) 中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールを対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中のプラント・オパール個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数 (機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位:10-5g) をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。イネ (赤米) の換算係数は2.94 (種実重は1.03)、ヒエ属 (ヒエ) は8.40、ヨシ属 (ヨシ) は6.31、ススキ属 (ススキ) は1.24、タケ亜科 (ネザサ節) は0.48である。

4. 分析結果

水田跡 (稲作跡) の検討が主目的であることから、同定および定量はイネ、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型、タケ亜科の主要な5分類群に限定した。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1および図1に示した。写真図版に主要な分類群の顕微鏡写真を示す。

5. 考察

(1) 水田跡の検討

水田跡（稲作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが試料1gあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している（杉山，2000）。ただし、密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。

1) B地点

As-B 直下層（試料1）から As-C の下層（試料7）までの層準について分析を行った。その結果、水田遺構が検出された As-B 直下層（試料1）からイネが検出された。密度は800個/gと低い値であるが、同層は直上をテフラ層で覆われていることから、上層から後代のものが混入した可能性は考えにくい。したがって、同層の時期に調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が考えられる。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、洪水などによって耕作土が流出したこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、および上層や他所からの混入などが考えられる。

2) C地点

遺構確認面（試料1）から As-B の下層（試料7）までの層準について分析を行った。その結果、遺構確認面（試料1）、その下位層（試料3）、As-Kk 直上層（試料4）、As-B 直下層（試料5）、As-B の下層（試料6）からイネが検出された。このうち、As-B の下層（試料6）では密度が3,000個/gと比較的高い値である。したがって、同層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

水田遺構が検出された As-B 直下層（試料5）では、密度が1,500個/gと比較的低い値である。ただし、同層は直上をテフラ層で覆われていることから、上層から後代のものが混入した可能性は考えにくい。したがって、同層の時期に調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が考えられる。その他の層では、密度が700～2,200個/gと比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、前述のようなことが考えられる。

3) D地点

As-B 直下層（試料1）から砂層直下層（試料4）までの層準について分析を行った。その結果、As-B 直下層（試料1）とその下層（試料2）、砂層直下層（試料3）からイネが検出された。このうち、水田遺構が検出された As-B 直下層（試料1）では、密度が800個/gと比較的低い値である。ただし、同層は直上をテフラ層で覆われていることから、上層から後代のものが混入した可能性は考えにくい。したがって、同層の時期に調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が考えられる。その他の層では密度が800～1,500個/gと比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、前述のようなことが考えられる。

(2) ヒエ属型について

B地点の As-B 直下層（試料1）と Hr-FA 混層（試料4）、C地点の As-B 直下層（試料5）、D地点の As-B 直下層（試料1）とその下層（試料2）、砂層の下層（試料4）からは、ヒエ属型が検出された。ヒエ

属型には栽培種のアヒエの他にイヌビエなどの野生種が含まれるが、現時点ではこれらを識別することは困難である(杉山ほか, 1988)。また、密度もほとんどの試料で1,000個/g未満と低い値であることから、各層準の時期にアヒエが栽培されていた可能性は考えられるものの、イヌビエなどの野・雑草である可能性も否定できない。

(3) 堆積環境の推定

ヨシ属は湿地的なところに生育し、ススキ属やタケ亜科は比較的乾いたところに生育している。このことから、これらの植物の出現状況を検討することによって、堆積当時の環境(乾燥・湿潤)を推定することができる。

イネ以外の分類群では、As-B直下層より下位のすべての層準でヨシ属が比較的多く検出され、タケ亜科も比較的多く検出された。おもな分類群の推定生産量によると、As-B直下層およびその下位層ではヨシ属が圧倒的に卓越していることが分かる。

以上のことから、稲作が開始される以前の遺跡周辺は、ヨシ属などが繁茂する湿地の状況であったと考えられ、そこを利用してAs-Bの下位層の時期に水田稲作が開始されたと推定される。また、調査区周辺にはタケ亜科やススキ属などが生育する比較的乾燥したところも分布していたと推定される。

6. まとめ

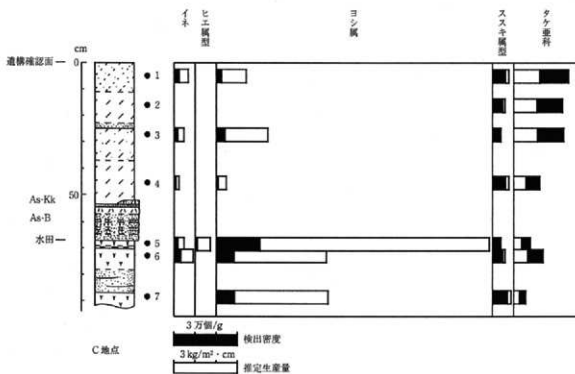
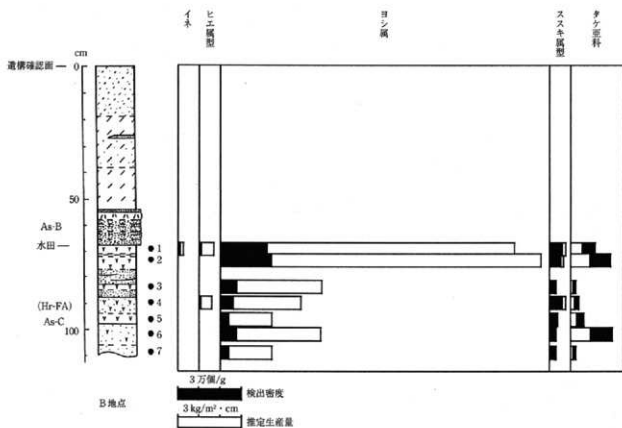
プラント・オパール分析の結果、水田遺構が検出された浅間Bテフラ(As-B, 1108年)直下層からは、やや少量ながらイネが検出され、同層で稲作が行われていたことが分析的に検証された。また、As-Bの下層や砂層直下層などでも、稲作が行われていた可能性が認められた。

本遺跡周辺は、稲作が開始される以前は、ヨシ属などが繁茂する湿地の状況であったと考えられ、そこを利用してAs-Bの下位層の時期に水田稲作が開始されたと推定される。また、調査区周辺にはタケ亜科やススキ属などが生育する比較的乾燥したところも分布していたと推定される。

文献

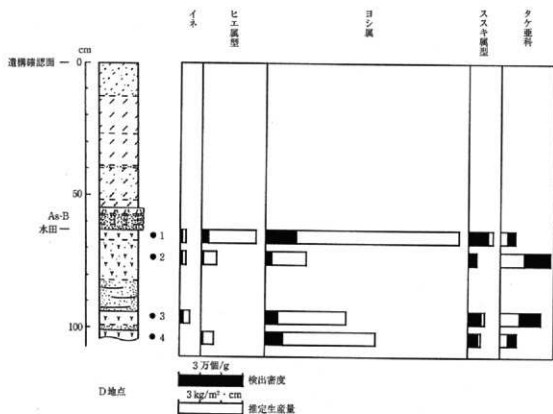
- 杉山真二(2000)植物珪酸体(プラント・オパール)。考古学と植物学。同成社, p.189-213。
 杉山真二・松田隆二・藤原宏志(1988)機動細胞珪酸体の形態によるキビ族植物の同定とその応用—古代農耕追究のための基礎資料として—。考古学と自然科学, 20, p.81-92。
 藤原宏志(1976)プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)—数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—。考古学と自然科学, 9, p.15-29。
 藤原宏志・杉山真二(1984)プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)—プラント・オパール分析による水田址の探査—。考古学と自然科学, 17, p.73-85。

第7章 自然科学分析報告



江木下大日遺跡におけるプラントオパール分析結果 1

II. 江木下大日遺跡におけるプラント・オパール分析



江木下大日遺跡におけるプラントオパール分析結果 2

採出密度 (単位: ×100個/g)

分類群	学名	地点・試料							C地点							
		1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	
イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	8							22		15	7	15	30		
ヒエ属型	<i>Echinochloa</i> type	8			7								8			
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	219	239	76	60	38	75	38	22	38	7	203	82	83		
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> (type)	60	52	23	60	30	23	23	60	45	30	60	30	45	68	
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	113	187	23	37	60	195	23	255	227	233	120	75	135	53	
播定生産量 (単位: kg/m ² ・cm)																
イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	0.22							0.66		0.44	0.22	0.44	0.88		
ヒエ属型	<i>Echinochloa</i> type	0.63			0.63								0.63			
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	13.82	15.09	4.79	3.78	2.37	4.74	2.38	1.42	2.37	0.47	12.84	5.19	5.23		
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> (type)	0.75	0.65	0.28	0.74	0.37	0.28	0.28	0.74	0.56	0.37	0.74	0.37	0.56	0.84	
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	0.54	0.90	0.11	0.18	0.29	0.94	0.11	1.22	1.09	1.12	0.57	0.36	0.65	0.25	

※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。

分類群	学名	地点・試料			
		1	2	3	4
イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	8	8	15	
ヒエ属型	<i>Echinochloa</i> type	30	8		7
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	143	30	60	82
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> (type)	90	30	60	45
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	68	233	188	75
播定生産量 (単位: kg/m ² ・cm)					
イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	0.22	0.22	0.44	
ヒエ属型	<i>Echinochloa</i> type	2.53	0.63		0.63
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	9.02	1.90	3.79	5.18
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> (type)	1.12	0.37	0.74	0.56
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	0.32	1.12	0.90	0.36

※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。

表 群馬県 江木下大日遺跡におけるプラントオパール分析結果

Ⅲ 江木下大日遺跡から出土した大型植物化石

新山雅広 (パレオ・ラボ)

1. 試料と方法

大型植物化石の検討は、40号住居、113号土坑、4号井戸の3遺構から出土したものについて行った。40号住居、113号土坑の試料は、抽出済みの炭化物試料である。4号井戸の試料は、抽出済みの1試料（3タップ）と堆積物1試料について行った。堆積物試料は、黄灰色～暗灰黄色砂質粘土であり、約6リットルを最小0.25mm目の篩を用いて水洗洗浄し、残渣を回収した。大型植物化石の採集・同定・計数は、実体顕微鏡下で行った。なお、試料の時代は、113号土坑が縄文時代、4号井戸が平安時代、40号住居は平安時代である。

2. 結果

出土した大型植物化石の一覧を表1に示した。全試料で同定されたのは、木本がオニグルミ、クリ、モモ、サンショウの4分類群、草本がイネ、スゲ属、カヤツリグサ属、ホタルイ属、アサ、クワクサ、タデ属、シロザ近似種、ヒユ属、ナデシコ科、カタバミ属、ナス、ナス科、ヒョウタン仲間、メナモミの15分類群であり、他に菌核も得られた。以下に、各試料の大型植物化石を記載する。

40号住居：モモ炭化核の破片が10点であった。1/4個程度の大きさが3点と残りは小片である。全体では完形約1個分に相当する。

113号土坑：オニグルミ炭化核破片が16点とクリ炭化子葉破片が2点であった。オニグルミは完形に換算して2～3個分に相当すると推定され、クリは1個分別である。

4号井戸：木本はモモ核（未炭化）とサンショウが得られ、モモが多産した。草本は、ナデシコ科、カタバミ属、ヒョウタン仲間（果実、種子）が比較的多産し、シロザ近似種もやや目立った。他に、イネ炭化顆果・炭化胚乳、スゲ属、カヤツリグサ属、ホタルイ属、アサ、クワクサ、タデ属、ヒユ属、ナス、ナス科、ヒョウタン仲間、メナモミ、菌核が得られた。

3. 考察

同定された分類群のうち、栽培植物と考えられるのは、モモ、イネ、アサ、ナス、ヒョウタン仲間であり、主な有用植物はオニグルミ、クリである。栽培植物は、平安時代の40号住居のモモ炭化核のほか、いずれも平安時代の4号井戸から得られた。また、オニグルミ、クリは縄文時代の113号土坑で得られた。栽培植物は、井戸周辺にこれらの栽培地が存在していた可能性もあるが、生活の場で廃棄されたものが流入したか、井戸に直接投棄された可能性も考えられる。中でもイネは、炭化しており、栽培地からの流入というよりは、後者の可能性が高いように思われる。また、ヒョウタン仲間は、果実（果皮）と種子が揃って出土しており、容器のような類の加工品ではなかったことが予想される。ヒョウタン仲間の堆積が人による意図的なものであったとすれば、水に関連する祭祀的な意味合いなどで、内容物（種子）の詰まった果実ごとが井戸に沈められた可能性も考えられるのではないだろうか。井戸周辺には、ホタルイ属が生育するような湿地的環境も見られたが、路傍ないし畑地のような乾き気味の環境が優勢であり、ナデシコ科、カタバミ属をはじめ、クワクサ、シロザ近似種、ヒユ属、メナモミなどが生育していたと予想される。

4. 主な大型植物化石の形態記載

オニグルミ *Juglans ailanthifolia* Carr. 炭化核

核壁は緻密で堅く、表面には筋が入り、割れ口の断面には、空隙(穴)が見られることがある。炭化状態が良いと、割れ口にはしばしば光沢が見られる。

クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. 炭化子葉

長径20mm位の破片である。表面の状態はやや悪いが、縦方向の皺がある。子葉の幅は広く、断面は平凸レンズ状であり、周縁部の曲率からしてもクリと考えられる。

モモ *Prunus persica* Batsch 核、炭化核

側面観は楕円形、上面観は両凸レンズ形。下端に臍があり、一方の側面には縫合線が発達する。表面には不規則に流れるような溝と穴があり、浅い小孔が散在する。4号井戸の出土核の長さは、大半が30mm以上であり、35~36mm前後の現在のモモ核の大きさと遜色がないほどの核が含まれており、果実の大型なモモが存在していたのであろう。40号住居の炭化核破片は、全体で完形に換算して約2個分程度である。

ナス *Solanum melongena* Linn. 種子

扁平な円形で臍がややへこみ、表面には網目紋がある。径3.3mm程度。

ヒョウタン仲間 *Lagenaria siceraria* Standl. 果実、種子

果実は、いずれも破片(果皮片)であり、非常に小さく砕けてしまったものと大きな破片を含む。大きな破片には、長径×短径(壁の厚さ)が14×4~9cm(4~7mm)、11.5×5~8cm(1~5mm)、6×6cm(2~5mm)などが含まれていた。種子は、淡褐色ないし黄褐色で側面観がへら型の2面体。基部はすばみ、もう一端は波打つ切形。両面には、左右両端に基部から頂部にかけて2本の筋が走る。

分類群・部位/ 遺構名・試料名・ 時代・試料数		40号住居	113号土坑	4号井戸
		覆土の炭	覆土4層	植物遺体
		平安	縄文	平安
オニグルミ	炭化核		(16)	
クリ	炭化子葉		(2)	
モモ	核			24(10)
	炭化核	(約20)		
サンショウ	種子			1
イネ	炭化穎果			1
	炭化胚乳			2
スゲ属	果実			3
カヤツリグサ属	果実			3
ホタルイ属	果実			2
アサ	種子			(2)
クワクサ	種子			1
タデ属	果実			2
シロザ近似種	種子			7(4)
ヒユ属	種子			5
ナデシコ科	種子			19(5)
カタバミ属	種子			20(7)
ナス	種子			1
ナス科	種子			1
ヒョウタン仲間	果実			(約80)
	種子			55(6)
メナモミ	果実			2
薔薇				1

※数字は個数、()内は
半分ないし破片の数を
示す。

大型植物化石
出土一覧表

IV 江木下大日遺跡出土炭化材の樹種同定

植田弥生 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

ここでは、住居 (34・51・55号) から出土した炭化材 5 試料と、土坑 (40・113・114・117) 4 試料の、樹種同定結果を報告する。34号・55号住居は平安時代、51号住居は平安時代、40号土坑は古代以後、113・114・117土坑は縄文時代である。

2. 試料と方法

取上げられていた試料から、形状や大きさの異なる炭化材を選び、樹種同定試料とした。

同定は、炭化材の横断面 (木口) を手で割り実体顕微鏡で予察し、次に材の3方向 (横断面・接線断面・放射断面) の断面を作成し、走査電子顕微鏡で拡大された材組織を観察した。走査電子顕微鏡用の試料は、3断面を5mm角以下の大きさに整え、直径1cmの真鍮製試料台に両面テープで固定し、試料を充分乾燥させた後、金蒸着を施し、走査電子顕微鏡 (日本電子㈱製 JSM-T100型) で観察と写真撮影を行った。

同定した炭化材の残り破片は、群馬県埋蔵文化財調査事業団に保管されている。

3. 結果

住居3軒すべてから、クヌギ節が検出された。51号住居の炭化材はカマドから出土し、34号住居の炭化材は貯蔵穴の炭であるが、これらもクヌギ節であった。

縄文時代の114号と117号土坑からはクリが、113号の直径6mmのカヤ材と思われる炭化材はタク亜科で笹類と思われる。

樹種記載

コナラ属コナラ亜属クヌギ節 *Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Cerris* ブナ科 図版2 4a-4c (55号住居覆土炭) 図版3 8a (34号住居貯蔵穴)

年輪の始めに大型の管孔が1~3層配列し、その後は孔口が円形で厚壁の小型の管孔が単独で放射方向に配列し広放射組織をもる環孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単穿孔、チロースがある。放射組織はほぼ同性、単列のものとも集合状のものがあ、道管との壁孔は櫛状である。

クヌギ節は落葉性のドングリの仲間でのうちのクヌギとアベマキが属する。いずれの種も暖帯の山林に普通の高木でクヌギ節は二次林に多く、関東ではクヌギ、瀬戸内海沿岸地方にはアベマキが多い。材は重厚で割裂性が良い。関東地方の発掘された住居材にはよく使用されている。現在は薪炭材として重要であるが建築材としては一般的ではない。

クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科 図版2 5a-5c (114号土坑)

年輪の始めに中型~大型の管孔が配列し徐々に径を減じてゆき、晩材では非常に小型の管孔が火炎状に配列する環孔材。道管の壁孔は小型で交互状、穿孔は単穿孔、内腔にはチロースがある。放射組織は単列同性、道管との壁孔は孔口が大きく交互状である。

クリは北海道西南部以南の暖帯から温帯下部の山野に普通の落葉高木である。果実は食用になり、材は加

工はやや困難であるが狂いは少なく粘りがあり耐朽性にすぐれている。縄文時代の遺跡からは全国的に必ずと言っていいほどクリ材が出土する。

タケ亜科 Gramineae subfam. Bambusoideae イネ科 図版3 9a (113土坑覆土)

直径約6mmのやや硬質の稈の破片。稈の中心部は中空のようである。維管束は不整中心柱で多数が同心円状に均質に配置している。維管束周囲の維管束鞘はタケ類より発達が悪い。

いわゆるタケ・ササの仲間では12属が含まれ、中国や東南アジアから移入され栽培により広まったものが多く。ササ類は多くの野生種があり、タケ類ではハナク・マダケは日本に野生していた可能性があるといわれる。稈の破片や組織のみからは属や種を識別することは難しい。

江木下大日遺跡出土炭化材樹種同定結果一覧

遺構名	試料名	樹種	主な破片の横断面サイズ(cm)★	およそその年輪幅(mm)	備考	時代
34号住居	貯蔵穴 炭	クヌギ節	1.4×1.5cm	0.5mm	破片、ぬか目、25年輪あり	古墳
		クヌギ節	1.0×0.5cm	2mm	破片	
	掘り方 炭化物	クヌギ節			破片	
51号住居	カマドNo1 炭	クヌギ節	推定直径3cm		芯もち丸木、5年輪あり	平安
55号住居	炭No1	クヌギ節	2.0×1.0cm	2mm	破片	古墳
	覆土 炭	クヌギ節	3.0×2.0cm		16年輪あり	
40号土坑	覆土 炭	クヌギ節		3～5mm	破片	古代以後
113号土坑	覆土 炭(カヤ材)?	タケ亜科			直径6mm、径類か?	縄文
114号土坑	覆土 炭	クリ			小柱または樹芯部破片	縄文
117号土坑	覆土 炭	クリ		2mm	破片	縄文

★放射方向の長さ×接線方向の長さ



PL 1 江木下大日遺跡の遺構集中部分

PL.2 江木下大日遺跡



赤城山と上武道路関連遺跡調査 画面最下部中央の富田漆田・富田下大日遺跡から左手中中部の江木下大日遺跡に調査区が延びる。



南から見た江木下大日遺跡全景
画面左側はローズタウン遺跡群富田下大日遺跡の調査地

縄文時代の
遺構と遺物

32号住居



32号住居遺物出土状況 北西



32号住居全景 北西



32号住居土層断面



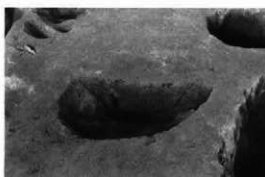
32号住居土層断面



32号住居 1号炉土層断面



32号住居 1号炉全景



32号住居 2号炉土層断面



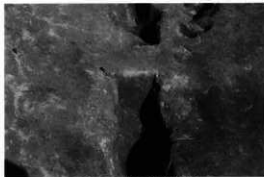
32号住居 2号跡全景



32号住居遺物出土状況



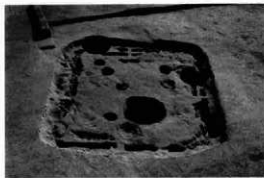
32号住居遺物出土状況



32号住居西側周溝土層断面



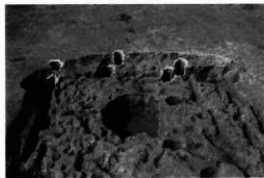
32号住居東側周溝土層断面



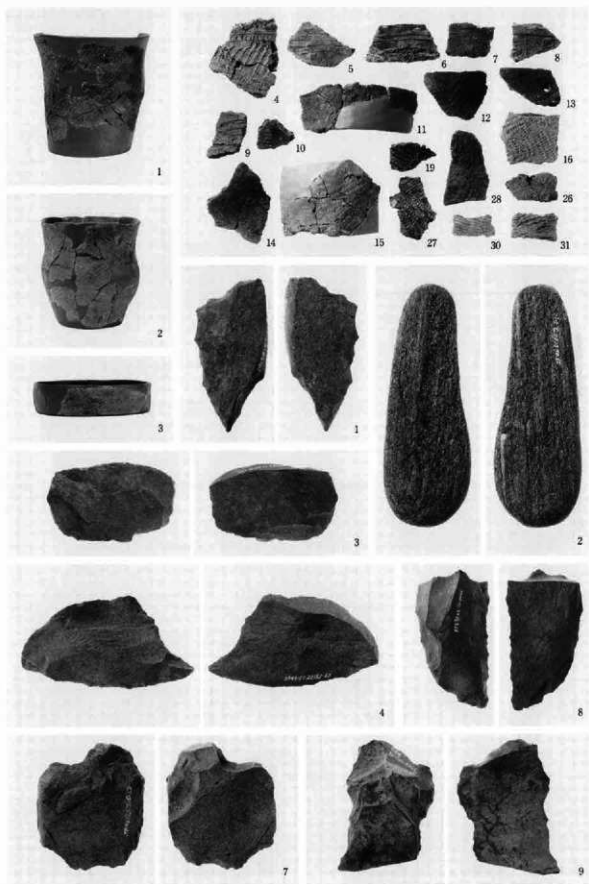
32号住居周溝掘削後の全景

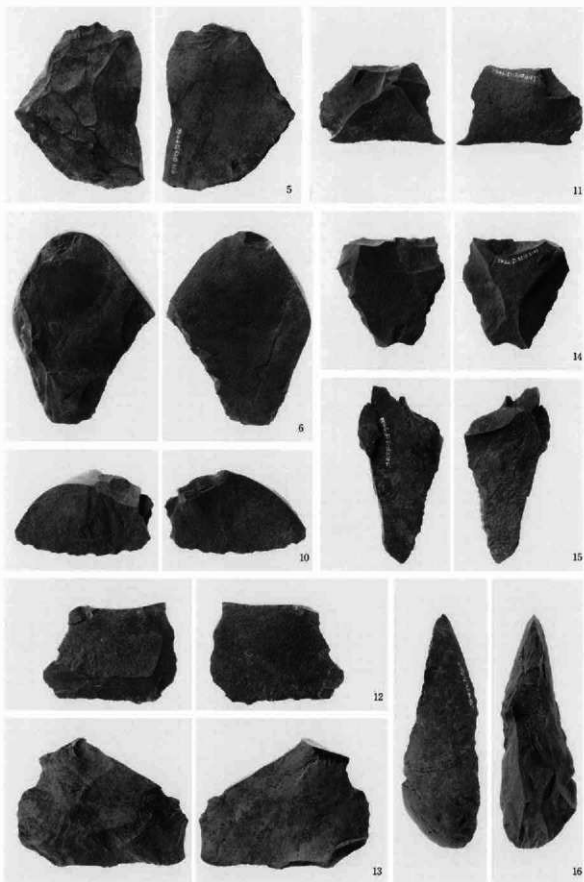


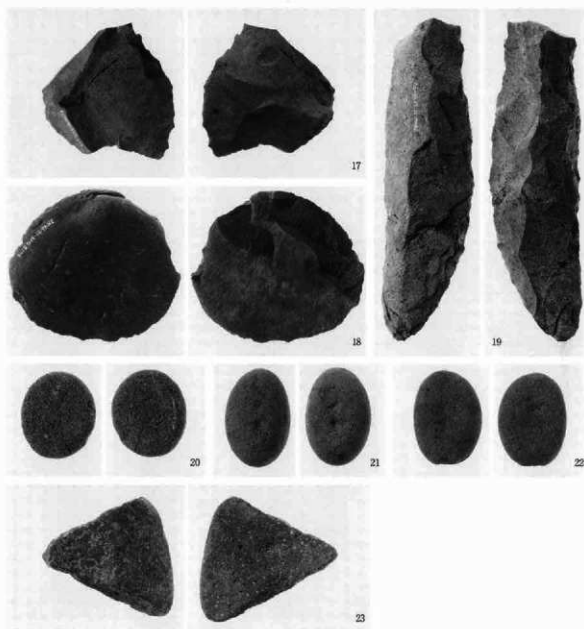
32号住居掘方全景



32号住居西側際の柱穴







57号住居



57号住居遺物出土状況



57号住居全景



57号住居土層断面



58号住居



58号住居遺物出土状況



58号住居土層断面



58号住居埋設土器土層断面



58号住居埋設土器出土状況



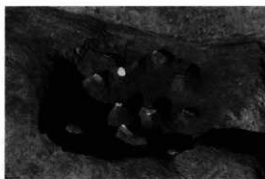
58号住居埋設土器出土状況



58号住居磨製石斧出土状況



58号住居全景



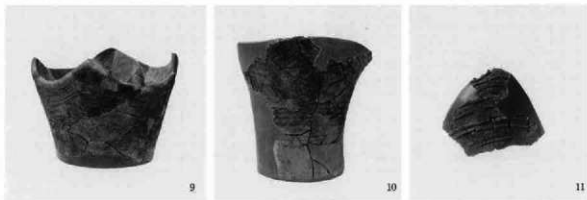
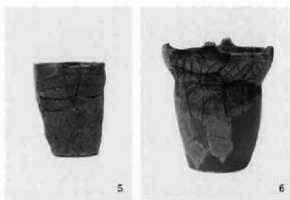
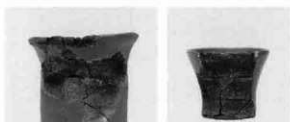
58号住居土坑遺物出土状況

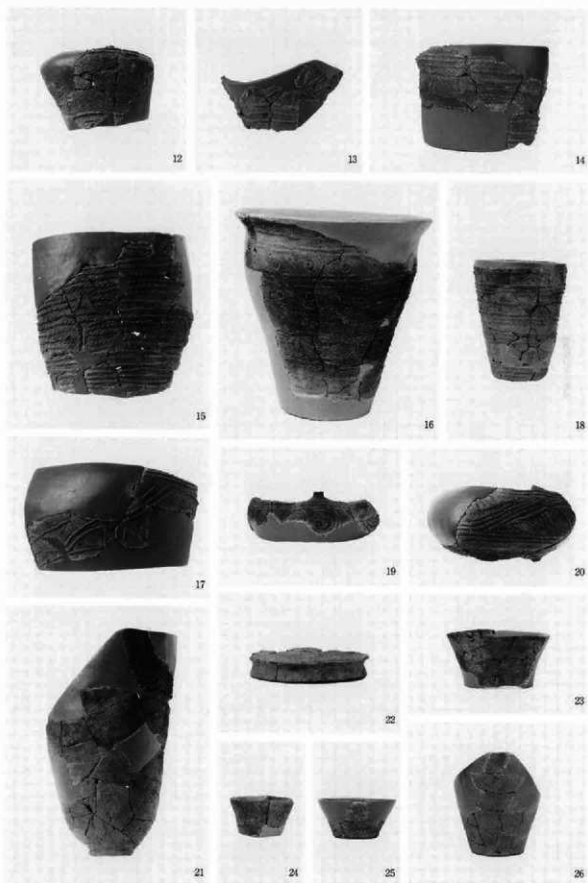


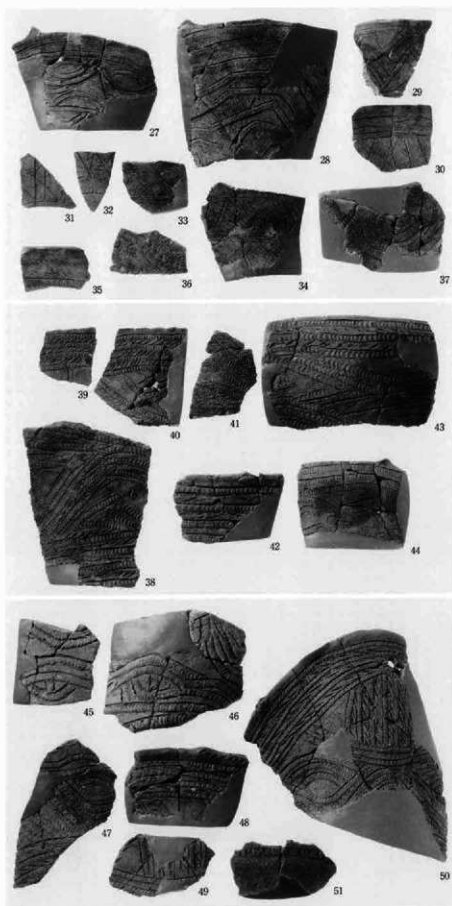
58号住居土坑全景

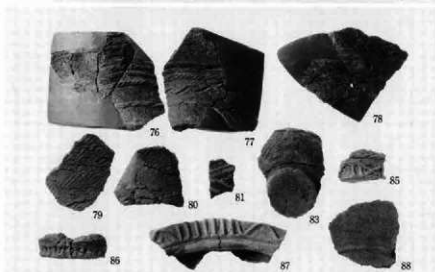
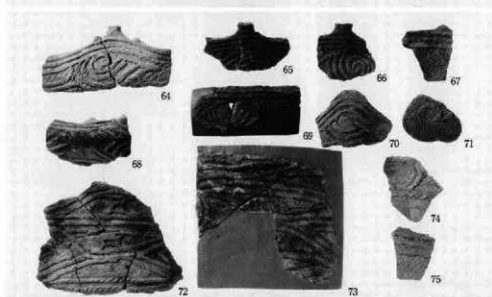
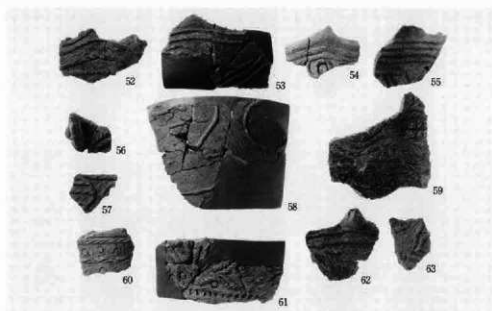


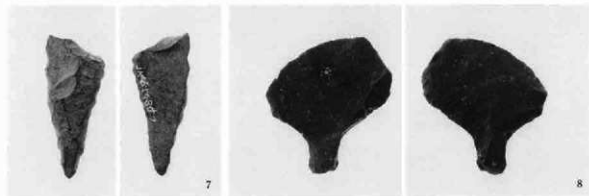
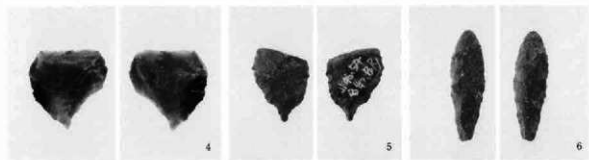
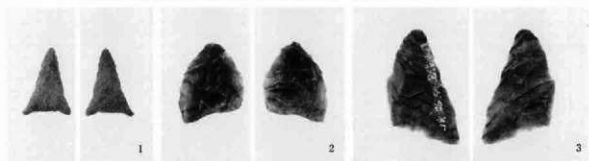
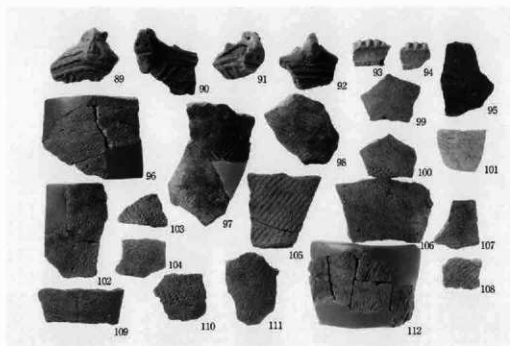
58号住居掘方全景

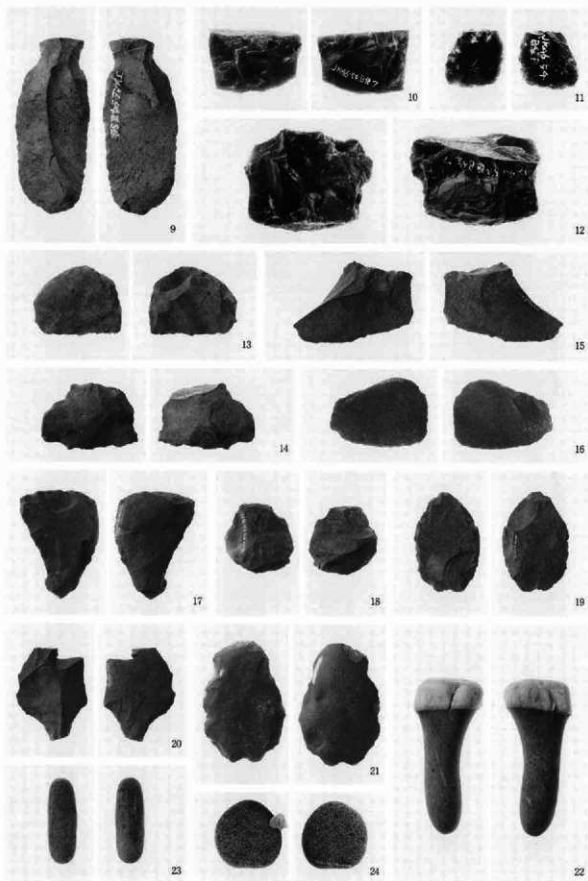


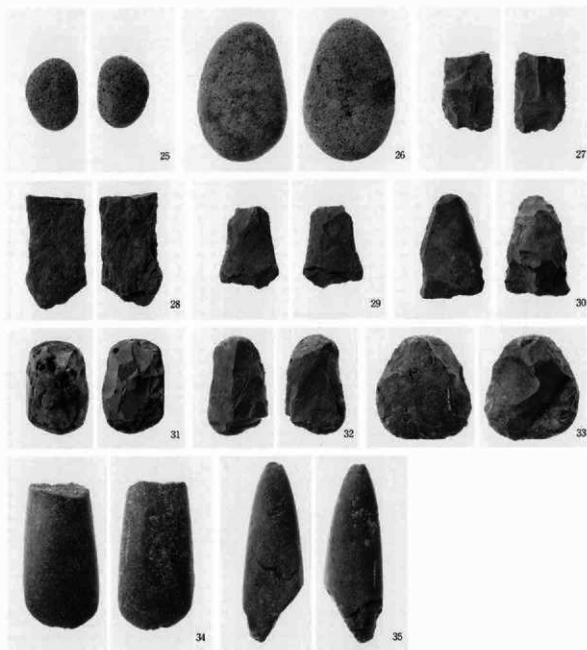












土坑・ピット



11号土坑